

DB2® ウェアハウス・マネージャー



情報カタログ・マネージャー 管理の手引き

バージョン 7

DB2® ウェアハウス・マネージャー



情報カタログ・マネージャー 管理の手引き

バージョン 7

ご注意!

本書、および本書がサポートする製品をご使用になる前に、221ページの『特記事項』にある一般的な情報を必ずお読みください。

本書において、日本では発表されていない IBM 製品 (機械およびプログラム)、プログラミング、またはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのような IBM 製品、プログラミング、またはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

原典：	SC26-9995-00 IBM® DB2® Warehouse Manager Information Catalog Manager Administration Guide Version 7
発行：	日本アイ・ビー・エム株式会社
担当：	ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2000.6

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1994, 2000. All rights reserved.

Translation: © Copyright IBM Japan 2000

目次

本書について	vii	情報カタログ・マネージャー情報区分とオブジェクト・タイプ	29
本書の対象読者	vii	独自のオブジェクトを作成する	32
本書の使用法	vii	情報カタログ・マネージャー (Web 版) のオブジェクト・タイプの作成に関する注意事項	32
管理者の作業情報	viii	情報カタログ・マネージャー・ウィンドウを使って、オブジェクトを作成する方法	33
ユーザー・インターフェースまたはタグ言語による情報カタログ・マネージャーの実行	ix	情報カタログ・マネージャー・タグ言語を使用してオブジェクト・タイプを作成する	40
第1章 情報カタログの設定	1	オブジェクト・タイプの更新	43
情報カタログ・マネージャーへのユーザーの許可	2	情報カタログ・マネージャー・ウィンドウを使用したオブジェクト・タイプの更新	43
情報カタログの作成	3	情報カタログ・マネージャー・タグ言語を使用してオブジェクト・タイプを更新する	45
DB2 ユニバーサル・データベース (OS/2 版) での情報カタログの定義	4	オブジェクト・タイプの削除	47
DB2 ユニバーサル・データベース (OS/390 版) での情報カタログの定義	6	情報カタログ・マネージャー・ウィンドウを使用したオブジェクト・タイプの削除	47
DB2 ユニバーサル・データベース (AS/400 版) での情報カタログの定義	9	情報カタログ・マネージャー・タグ言語を使用してオブジェクト・タイプを削除する	48
UNIX® システムでの情報カタログの定義	11	第3章 カタログへの情報の移植	49
DB2 ユニバーサル・データベース (Windows NT 版) または DB2 ユニバーサル・データベース (Windows 2000 版) での情報カタログの定義	13	オブジェクトの作成	49
DataGuide バージョン 5.2 の情報カタログの移行	16	情報カタログ・マネージャー・ウィンドウを使用してオブジェクトを作成する	49
サーバー・ノードと情報カタログの登録	17	情報カタログ・マネージャー・タグ言語を使用してオブジェクトを作成する	51
DB2 コントロール・センターを使用したサーバー・ノードの登録	17	オブジェクトのコピー	52
サーバー・ノードと情報カタログ・マネージャーの登録	17	オブジェクトの更新	52
リモートの情報カタログの登録	19	情報カタログ・マネージャー・ウィンドウを使用してオブジェクトを更新する	52
情報カタログのオープン	21	情報カタログ・マネージャー・タグ言語を使用してオブジェクトを更新する	53
ユーザーが情報カタログ・マネージャーからプログラムを開始できることを確認する	22	オブジェクトの削除	54
情報カタログ・マネージャー (Web 版) ユーザーのための追加要件	22	情報カタログ・マネージャー・ウィンドウを使用してオブジェクトを削除する	54
情報カタログ・マネージャー・ユーザーへのオブジェクト管理の許可	24	情報カタログ・マネージャー・タグ言語ウィンドウを使用してオブジェクトを削除する	55
コメントの状況値の設定と変更	26		
第2章 情報資源の編成	29		

第4章 情報カタログをユーザーにとって便利なものにする	57
主題によるオブジェクトのグループ化	57
情報カタログ・マネージャー・ウィンドウを使用して主題ごとにグループ化する	58
タグ言語を使用して主題ごとにオブジェクトをグループ化する	59
オブジェクト間のリンク関係を作成する	61
情報カタログ・マネージャー・ウィンドウを使用してオブジェクトをリンクする	61
タグ言語を使用したオブジェクトのリンク	62
連絡先とオブジェクトを関連させる	63
情報カタログ・マネージャー・ウィンドウを使用してオブジェクトと連絡先を関連させる	63
タグ言語を使用してオブジェクトと連絡先を関連させる	64
オブジェクトとコメントを関連づける	65
コメントの作成	66
コメントのコピー	66
コメントの更新	67
コメントの削除	68
コメントとオブジェクトの接続と切り離し	69
オブジェクト・タイプとプログラムとの関連づけ	70
プログラム・オブジェクトの作成	70
オブジェクト・タイプに対応したプログラムのコピー	74
オブジェクト・タイプに対するプログラムの関連の更新	75
オブジェクト・タイプからのプログラムの切り離し	76
辞書機能の作成	77
サポート機能の作成	78
第5章 情報カタログの拡張と自動化	79
他のソースからの記述データの抽出	80
情報カタログ抽出プログラムで記述データを抽出する	80
カスタマイズした記述データ抽出プログラムを書く	80
情報カタログの削除処理のログ	86
タグ言語ファイルのインポートとエクスポート	87
タグ言語ファイルのインポート	88
メタデータのエクスポート	89

インポートとエクスポートの際の問題の解決	92
----------------------	----

第6章 他の製品とメタデータを交換する	97
メタデータの公表および同期化	97
メタデータが同期化される方法	98
開始の前に: メタデータの公表用の環境の確立	98
OLAP サーバーのメタデータを公表する準備	99
データウェアハウスセンターでメタデータを公表する準備	105
他のプロダクトと MDIS 準拠メタデータを交換する	111
MDIS 変換ユーティリティを使用したメタデータの交換	111
MDIS 対応のタグ言語ファイルをインポートする	113
MDIS 対応のタグ言語ファイルをエクスポートする	115
第7章 情報カタログ・マネージャーの保守	119
問題の予防	119
使用可能ディスク・スペースのモニター	119
複数ユーザーによる情報カタログの並行アクセス	120
情報カタログ・データベースと構成情報のバックアップ	121
問題の解決	123
オンライン情報とメッセージの使用	123
管理者ログオン問題の解決	123
情報カタログ・マネージャー構成要素とデータの回復	124
問題を診断するためのトレース・ファイルの使用	125

付録A. 情報カタログ・マネージャー抽出プログラム	129
情報カタログ・マネージャーが提供する抽出プログラム	129
抽出プログラムの実行計画	129

付録B. 事前定義された情報カタログ・マネージャー・オブジェクト・タイプ	131
情報カタログ・マネージャー・サンプル・データのアクセス	131
サンプル情報カタログの作成	131

事前定義されたオブジェクト・タイプでユーザーの情報カタログを初期化する . . .	133	キーワード	182
事前定義されたオブジェクト・タイプ・モデル	134	規則	183
事前定義されたオブジェクト・タイプの説明	138	DISKCNTRL	183
Grouping 区分	138	コンテキスト	183
Elemental 区分	143	構文	183
Contact 区分	145	キーワード	183
Dictionary 区分	146	規則	184
Support 区分	146	INSTANCE	184
Program 区分	147	コンテキスト	184
Attachment 区分	147	構文	184
事前定義されたプログラム・オブジェクト	147	NL	190
		構文	190
		規則	190
付録C. メタデータのマッピング	151	OBJECT	190
情報カタログ・マネージャーとデータウェア		コンテキスト	190
ハウスセンターとの間でのメタデータのマッ		構文	191
ピング	151	PROPERTY	197
情報カタログ・マネージャーと OLAP サー		構文	197
バーとの間でのメタデータのマッピング . . .	162	コンテキスト	197
		キーワード	198
		規則	200
付録D. タグ言語	165	RELTYPE	200
タグ言語ファイルの作成に関する規則 . . .	166	構文	201
情報カタログ・マネージャーがタグ言語ファ		コンテキスト	201
イルを読み取る方法	167	キーワード	201
情報カタログ・マネージャーの記述データに		TAB	202
ついて有効なデータ・タイプ	168	構文	203
タグ言語の構文図の読み方	169	規則	203
ACTION.OBJINST	169		
コンテキスト	169	付録E. タグ言語ファイルの使い方	205
構文	169	タグ言語ファイルの DISKCNTRL からの開始	205
オプション	169	追加、変更、および削除の定義	205
ACTION.OBJTYPE	175	行うことの定義	205
コンテキスト	175	情報の定義	206
構文	175	タグの組み立て	206
オプション	175	データベースへの変更のコミット	207
ACTION.RELATION	179	タグ言語ファイルへのコメントの書き込み	208
コンテキスト	179		
構文	179	付録F. コマンド行から情報カタログ・マネ	
オプション	179	ージャー機能を実行する	209
COMMENT	181	コマンド行から情報カタログ・マネージャー	
構文	181	を呼び出す	209
規則	181	タグ言語ファイルをコマンド行からインポ	
COMMIT	181	ートする	209
コンテキスト	182	メタデータを情報カタログからエクスポー	
構文	182	トする	213

コマンド行から情報カタログを作成する	215	用語集	227
共通オブジェクト・タイプを情報カタログ		参考文献	235
にインポートする	219	索引	237
特記事項	221	IBM と連絡をとる	251
商標	224	製品情報	251

本書について

本書の目的は、情報カタログ管理者が組織の必要性に合わせて情報カタログ・マネージャーを適合および調整できるようにすることです。

本書の対象読者

本書は、情報カタログの設定、編成、移植、カスタマイズ、または保守に責任のあるユーザーを対象としています。

本書の対象読者は、情報カタログ・マネージャーを使って行う情報の検索や表示などの作業について、すでに精通しているものとします。これらの作業については、情報カタログ・マネージャー 使用者の手引き で説明されており、インフォメーション・センターでは HTML 資料として、また資料 CD-ROM 上では PDF ファイルとしてご利用いただけます。情報カタログ・マネージャー 使用者の手引き は、架空の会社を説明しているサンプル・シナリオを用いて情報カタログ・マネージャーの使用方法を学習するように構成されています。サンプル・シナリオでは、この会社のユーザーが情報カタログを使って必要な情報を見つける方法を示しています。

本書の使用法

情報カタログ管理者は、以下のことを確認する必要があります。

- ユーザーが必要とする記述データが利用できること。
- データが簡単に検索して使えること。
- データが十分に新しくなっていること。
- データが許可のないアクセスから保護されていること。

特定の DB2 ユニバーサル・データベース™ 製品の名前が指定されていない場合、本書では「DB2 ユニバーサル・データベース」または「DB2 UDB」という一般名を使って、選択したプラットフォーム上の情報カタログを保管する DB2 ユニバーサル・データベースを示すことにします。DB2 ユニバーサル・データベース エンタープライズ拡張エディションは、DB2 パラレル・エディションに続く製品であり、AIX® 上、Windows NT® 上、および Solaris 実行環境内でサポートされています。

管理者の作業情報

管理者の作業は次の区分に分類できます。

情報カタログの設定

ユーザーに許可を与え、情報カタログを作成し、ユーザーのためにサンプル情報をいくつか設定し、ユーザーが必要とするソフトウェアと資源へのアクセス権を提供します。これらの作業については、1ページから記載します。

ユーザーの情報資源の編成

組織のために情報カタログに記述する資源の種類を判断します。オブジェクト・タイプを作成していろいろな種類の情報の特性を記述し、必要に応じてこれらのオブジェクト・タイプを更新、削除します。これらの作業については、29ページから記載します。

情報カタログへのデータ移植

さまざまなタイプのオブジェクトを作成して、情報カタログに入れます。このとき、情報をユーザーが使いやすい用語に変換します。これらの作業については、49ページから記載します。

情報カタログをユーザーにとって便利なものにする

オブジェクトをまとめて走査しやすくしたり、連絡先の名前を加えてその情報についてはだれに聞けばいいのかが分かるようにしたり、プログラムを設定してユーザーがそれを開始し必要な情報を取り出せるようにしたりします。機能サポートを保守して、情報カタログの変更があったときユーザーに知らせたり、辞書機能を保守して情報カタログで使用する用語を素早く参照できます。これらの作業については、57ページから記載します。

ユーザーの情報カタログの拡張と自動化

情報カタログ・マネージャーのタグ言語を使えば、大量の記述データを一度に簡単に処理できます。こうするには、タグ言語ファイルをインポート およびエクスポート します。組織にある既存のデータベース・カタログ、モデル化ツール、およびユーザー・ファイルから記述データを取り出すことができます。アプリケーション・プログラマーは、独自にカスタマイズした抽出プログラムを書くことができます。複数の情報カタログを結合して、記述データを新しい状態に保ち、元の情報と適切に同期をとります。

情報カタログから削除されるオブジェクトのログ、オブジェクト・タイプ、または関係を保持することができます。ログをタグ言語ファイルに転送し、それを使用して、分散環境の「シャドー」の情報カタログのような他の情報カタログでの削除処理をコピーできます。これらの作業については、79ページから記載します。

情報カタログ・マネージャーの保守

情報カタログのバックアップなど、データベース管理者が行うルーチン作業を扱うこともありますが、これらの作業は、実際の情報カタログ・マネージャー管理の一部ではありません。ユーザーが遭遇する情報カタログ・マネージャーの問題の一部を未然に防いだり、解決したりします。これらの作業については、119ページから記載します。

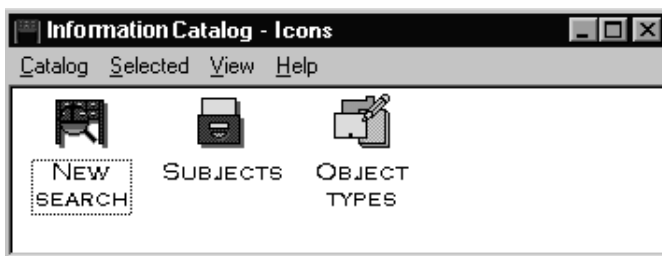
ユーザー・インターフェースまたはタグ言語による情報カタログ・マネージャーの実行

情報カタログ・マネージャーは、グラフィカル・インターフェースを提供しています。情報カタログ・マネージャーはタグ言語も提供しています。ユーザーはこれを使用して同じ作業の多くを実行することができます。タグ言語を使用するのは多少難しい点があります。すなわち構文規則を覚え、その規則を使用してタグ言語ファイルをコード化する必要があります。しかし、作業を大量に実行する際に特に強力です。

本書では、グラフィカル・インターフェースを使用して情報カタログ・マネージャー作業を実行するので、情報カタログ・マネージャー作業について最初に説明します。情報カタログ・マネージャー作業を実行するための同等のタグ言語がある場合は、「<作業> タグ言語の使用」という見出しのユーザー・インターフェースの説明の次に示されています。

ユーザー・インターフェース

ユーザー・インターフェースを使う場合、ここに示す管理者の「情報カタログ (Information Catalog)」ウィンドウから始めます。



タグ言語

タグ言語を使用する最も容易な方法は、オンラインで提供されるタグ言語テンプレートをユーザーのタグ言語ファイルに直接切り貼りすることです。オンライン・タグ言語テンプレートを使用する手順は次のとおりです。

1. 任意の製品ウィンドウから F1 を押す (情報カタログをオープンした後で)。ヘルプ・ウィンドウがオープンします。
2. ヘルプ・ウィンドウの最上部で「目次 (Contents)」をクリックする。
3. 実行したい作業に関するトピックをクリックし、実行したい作業が後に続く「コピーおよび変更用のタグ言語テンプレート (Tag language template you can copy and modify)」リンクをダブルクリックする。
その作業について、タグ言語ウィンドウをオープンします。
4. 「オプション (Options)」をクリックし、メニュー・バーから「コピー (Copy)」を選択し、クリップボードにウィンドウ全体をコピーする。
5. テンプレートをクリップボードから目的のタグ・ファイルに貼り付ける。クリップボードから貼り付けた情報の一部を再形式設定する必要がある場合があります。
6. テンプレートの変数を編集する。これらの変数の単形式の説明は、オンラインで提供されています。詳細な説明は、本書内の実行したい作業についてのセクションを参照するか、完全なタグ言語参照について 165ページの『付録 D. タグ言語』を参照してください。

第1章 情報カタログの設定

この章では、情報カタログを設定するのに必要なすべての作業の概要を提供します。この章で説明されているいくつかの作業には、以下の情報が含まれています。

- LAN 環境内での、またはスタンドアロン・プロダクトとしての情報カタログの設定。
- 情報カタログへのユーザーの許可。
- いろいろな DB2 ユニバーサル・データベース プラットフォーム上での情報カタログの定義。
- リモート・サーバーに常駐している情報カタログを登録して、ユーザーがアクセスできるようにすること。
- 情報カタログ・オブジェクトからプログラムを立ち上げられるようにすること。

LAN 環境で情報カタログ・マネージャーを使用する場合: 情報カタログ・マネージャー (DB2 ウェアハウス・マネージャー インストールの手引き を参照) のインストール後に、7 つのメインタスクを実行します。

1. 管理者自身とユーザーに情報カタログを使う許可を与える。
2. DB2 ウェアハウス・マネージャーまたは DB2 OLAP Server™ のいずれかをインストールする際、DB2 ユニバーサル・データベース (Windows NT 版) にデフォルトの情報カタログを作成する。デフォルトの情報カタログを使用しない場合は、ユーザーの構成に従って情報カタログを作成し、識別することができます。これについては 2 ページの表 1 で説明しています。データウェアハウスセンターのメタデータを情報カタログに公表し、同期化する場合には、ウェアハウス・コントロール・データベースを情報カタログ・データベースとして使用しなければなりません。メタデータの公表および同期化に関する詳細については、97 ページの『第 6 章 他の製品とメタデータを交換する』を参照してください。
3. 情報カタログ・マネージャーを管理者としてオープンする。
4. ユーザーがアプリケーションを開始し、情報カタログに記述されている情報にアクセスできるようにする。
5. 必要であれば、特定のユーザーにオブジェクト管理作業を実行する許可を与える。

6. ユーザーが情報カタログにコメントを作成する際に、状況の選択項目を使用できるように設定する。
7. まだ作成していない場合は、サンプル情報カタログを作成して、ユーザーが情報カタログ・マネージャーの使い方を学べるようにする。(この作業は DB2 ウェアハウス・マネージャー インストールの手引き および 131ページの『情報カタログ・マネージャー・サンプル・データのアクセス』でインストール処理の一部として説明されています。)

表 1. 構成ごとの情報カタログの作成と識別

DB2 UDB (Windows NT 版) サーバーの情報カタログ・ マネージャー	クライアントの情報カタログ・マネージャー ¹
1. サーバー上に情報カタログを作成する。	1. サーバー・ノードとリモート情報カタログを登録する。
2. クライアント・ワークステーション上にサーバー・ノードとリモート情報カタログを登録する。	2. 情報カタログを作成する (新規または既存の情報カタログを初期化する)。 3. サーバー・ノードとリモート情報カタログ・データベースを登録する。

注:

1. リモート情報カタログは、DB2 ユニバーサル・データベース (AIX 版)、DB2 ユニバーサル・データベース (Solaris 実行環境版)、DB2 ユニバーサル・データベース エンタープライズ拡張エディション、DB2 ユニバーサル・データベース (OS/2 版)、DB2 ユニバーサル・データベース (OS/390 版)、または DB2 ユニバーサル・データベース (Windows NT 版) 上に存在することができます。

スタンドアロン・プロダクトとして情報カタログ・マネージャーを使用する場合: 情報カタログ・マネージャーをインストール後 (DB2 ウェアハウス・マネージャー インストールの手引き を参照) に、以下の作業を行います。

1. 情報カタログで使用するデータベースを作成する。
2. 情報カタログを作成する (他のワークステーション上のユーザーはこの情報カタログにアクセスできません)。
3. 前述の作業リストのステップの 3、6、7 を完了する。

情報カタログ・マネージャーへのユーザーの許可

ユーザーが情報カタログ・マネージャー (Windows 版) と情報カタログ・マネージャー (Web 版) の両方を使用できるように許可を与える必要があります。

まず、情報カタログの管理者として主に活動する人と、その代わりになる人を決めます。

表2 は、それぞれの情報カタログ・マネージャー構成用のユーザー ID とパスワードを作成するのに必要な権限のレベルを示します。

表2. 情報カタログ用のデータベース記憶場所と、管理に必要な権限

情報カタログ用のデータベース位置	必要な権限
DB2 ユニバーサル・データベース (OS/2 版) サーバー、ファイル・サーバー	LAN ドメイン管理者
DB2 ユニバーサル・データベース (OS/2 版) サーバー、非ファイル・サーバー	サーバーのシステム管理者
DB2 ユニバーサル・データベース (OS/390 版)	RACF [®] 管理者
DB2 ユニバーサル・データベース (AIX 版) または DB2 ユニバーサル・データベース エンタープライズ拡張エディション (DB2 UDB EEE) ¹	AIX 管理者
DB2 ユニバーサル・データベース (AS/400 版)	AS/400 [®] セキュリティー担当者
DB2 ユニバーサル・データベース (Windows NT 版) または DB2 ユニバーサル・データベース (Windows 2000 版)	サーバーの管理者

注:

1. ユーザーの情報カタログを DB2 ユニバーサル・データベース エンタープライズ拡張エディション (DB2 UDB EEE) に保管する場合は、情報カタログ・データベースが常駐するプラットフォームについての指示に従ってください。

Web ユーザーへの情報カタログ・マネージャーの注意事項: DB2 ウェアハウス・マネージャー インストールの手引き に記載されている、情報カタログ・マネージャー (Web 版) へのユーザーの許可についての情報を参照してください。

情報カタログの作成

情報カタログは、次のデータベース管理システムのいずれかに作ることができます。

情報カタログの作成

DB2 ユニバーサル・データベース (OS/2 版)

DB2 UDB (OS/2 版) の管理ツールをインストールする必要があります。

DB2 ユニバーサル・データベース (OS/390 版)

DB2 UDB (OS/390 版) を使用するためには、DB2 コネクト製品をユーザーのワークステーションにインストールする必要があります。

DB2 ユニバーサル・データベース (AS/400 版)

DB2 UDB (AS/400 版) を使用するためには、DB2 コネクト製品をユーザーのワークステーションにインストールする必要があります。

DB2 ユニバーサル・データベース (AIX 版)

DB2 UDB (AIX 版) を使用する場合は、ユーザーのワークステーションに TCP/IP をインストールしている必要があります。

DB2 ユニバーサル・データベース エンタープライズ拡張エディション

ユーザーの情報カタログを DB2 UDB EEE に保管する場合は、情報カタログ・データベースが常駐するプラットフォームについての指示に従ってください。

DB2 ユニバーサル・データベース (Solaris 実行環境版)

ユーザーのワークステーションに TCP/IP をインストールしている必要があります。

DB2 ユニバーサル・データベース (Windows NT 版) および DB2 ユニバーサル・データベース (Windows 2000 版)

ユーザーのワークステーションに TCP/IP または NetBIOS をインストールする必要があります。

ユーザーの情報カタログは情報カタログ・マネージャー・ユーザー・インターフェースを使用して、または MS-DOS™ コマンド・プロンプトから定義することができます。ユーザー・インターフェースから情報カタログを定義する場合には、この章の情報を参照してください。MS-DOS コマンド・プロンプトから情報カタログを定義する場合には、215ページの『コマンド行から情報カタログを作成する』を参照してください。

DB2 ユニバーサル・データベース (OS/2 版) での情報カタログの定義

5ページの表3 では、DB2 UDB (OS/2 版) に情報カタログ・マネージャーを定義する前に、管理者が完了している必要のある作業を説明します。

表 3. DB2 ユニバーサル・データベース (OS/2 版) での情報カタログの定義の準備

作業	担当者	
	リモート・データベース 管理者	読者
情報カタログを保管するデータベースを作成する。	○	
新規情報カタログを定義するための SYSADM 権限があることを確認する。	○	

情報カタログを定義するための手順:

1. 「スタート → プログラム → IBM DB2 → 情報カタログ・マネージャー → 情報カタログの初期化 (**Initialize Information Catalog**)」の順にクリックする。
「情報カタログの初期化 (Initialize Information Catalog)」ウィンドウがオープンされます。
2. 「情報カタログ・タイプの選択 (**Select type of information catalog**)」リストから、「**DB2 UDB (OS/2 版)**」を選択する。
3. 「**OK**」をクリックする。
「DB2 UDB (OS/2 版) でのカタログ定義 (Define Catalog on for OS/2)」ウィンドウがオープンします。
4. 「**情報カタログ名 (Information catalog name)**」フィールドで、ユーザーのローカル・ワークステーションにカタログされているリモート・データベースの別名を入力する。
5. 「**非適用記号 (Not-applicable symbol)**」リストから文字を 1 つ選択する。
 - a. 下矢印をクリックして、有効な記号のリストを表示する。
 - b. このリストから使用したい記号を選択する。
6. 「**主管理者のユーザー ID (Primary administrator's user ID)**」フィールドに、情報カタログの主管理者となる人のユーザー ID を入力する。このユーザー ID には、SYSADM 権限が必要です。
7. 「**副管理者のユーザー ID (Backup administrator's user ID)**」フィールドに、主管理者をバックアップする人のユーザー ID を入力する。

情報カタログの作成

8. 「共通オブジェクト・タイプのインポート (**Import common object types**)」チェック・ボックスを選択して、他の規格合致製品とメタデータを交換するために使用できるオブジェクト・タイプを使用して、ユーザーの情報カタログにデータを移植する。
9. 「定義 (**Define**)」をクリックする。
「情報カタログへの接続 (Connect to Information Catalog)」ウィンドウがオープンします。
10. 「ユーザー ID (**User ID**)」フィールドで、LAN ユーザー ID (リモート・ワークステーションの UPM で指定したもの) を入力する。
11. 「パスワード (**Password**)」フィールドで、「ユーザー ID (**User ID**)」フィールドに入力したユーザー ID 用のパスワードを入力する。
12. 「接続 (**Connect**)」をクリックする。

ユーザーの新規カタログが定義され、2 つの情報カタログ・マネージャー・プログラム・アイコンが「スタート」メニューの情報カタログ・マネージャー項目に作成されます。1 つのアイコンは管理者機能を示し、情報カタログ管理者の構成要素をユーザーのワークステーションにインストールした場合にのみ使用できます。他方のアイコンは、ユーザー機能を示します。

情報カタログ・マネージャーが共通オブジェクト・タイプをインポートできないことを示すエラー・メッセージを受け取った場合は、ユーザーの情報カタログを、事前定義されたオブジェクト・タイプを使用して初期化する必要があります (133ページを参照)。その後、ユーザーの新規情報カタログにオブジェクト・タイプを追加することができます。

DB2 ユニバーサル・データベース (OS/390 版) での情報カタログの定義

7ページの表4 では、DB2 (OS/390 版) に情報カタログを定義する前に、管理者またはリモート・データベース管理者が完了している必要のある作業を説明します。

表 4. DB2 (OS/390 版) での情報カタログの定義の準備

作業	担当者	
	リモート・データベース 管理者	読者
<p>情報カタログを保管するデータベースを作成する。</p> <p>情報カタログ・マネージャーにより、サンプル JCL ファイルが提供されます。データベース管理者はこのファイルを修正して、データベース、記憶グループ、および表スペースを作成することができます。サンプル・ファイルは、DGCRTDB.JCL と呼ばれ、DB2 ユニバーサル・データベースがインストールされたパスの ¥SQLLIB¥BIN ディレクトリにあります。</p>	○	
<p>新規情報カタログを定義するための SYSADM 権限があることを確認する。</p>	○	
<p>次の名前をデータベース管理者に問い合わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • データベース名 • テーブルの記憶域グループ名 • 索引の記憶域グループ名 	○	○

情報カタログを定義するための手順:

1. 「スタート → プログラム → IBM DB2 → 情報カタログ・マネージャー → 情報カタログの初期化 (Initialize Information Catalog)」の順にクリックする。
「情報カタログの初期化 (Initialize Information Catalog)」ウィンドウがオープンされます。
2. 「情報カタログ・タイプの選択 (Select type of information catalog)」リストから、「DB2 UDB (OS/390 版)」を選択する。

情報カタログの作成

3. 「**OK**」をクリックする。
「DB2 UDB (OS/390 版) でのカタログ定義 (Define Catalog on for OS/390)」ウィンドウがオープンします。
4. 「**情報カタログ名 (Information catalog name)**」フィールドで、ユーザーのローカル・ワークステーションにカタログされているリモート・データベースの別名を入力する。
5. DB2 データベースの名前を「**DB2 データベース名 (DB2 database name)**」フィールドに入力する。
6. テーブルに使用する記憶域グループを「**テーブルの記憶域グループの名前 (Name of storage group for tables)**」入力フィールドに入力する。
7. 索引に使用する記憶域グループの名前を「**索引の記憶域グループの名前 (Name of storage group for indexes)**」フィールドに入力する。
8. 「**非適用記号 (Not-applicable symbol)**」リストから文字を 1 つ選択する。
 - a. 下矢印をクリックして、有効な記号のリストを表示する。
 - b. 使用したい記号を選択する。
9. 「**管理者のユーザー ID (Primary administrator's user ID)**」フィールドに、情報カタログ・マネージャーの管理者となる人のユーザー ID を入力する。このユーザー ID には、DB2 UDB (OS/390 版) の SYSADM 権限が必要です。
10. 「**副管理者のユーザー ID (Backup administrator's user ID)**」フィールドに、管理者をバックアップする人のユーザー ID を入力する。
11. 任意選択: 各オブジェクトの特性値を大文字で保管したい場合、「**大文字でオブジェクト値を保管 (Save object values in uppercase)**」チェック・ボックスを選択する。特性値が DB2 UDB (OS/390 版) のデータベースに大文字で保管されますが、その値を検索するときは小文字も使えます。
12. 「**共通オブジェクト・タイプのインポート (Import common object types)**」チェック・ボックスを選択して、他の規格合致製品とメタデータを交換するために使用できるオブジェクト・タイプを使用して、ユーザーの情報カタログにデータを移植する。
13. 「**定義 (Define)**」をクリックする。
「情報カタログへの接続 (Connect to Information Catalog)」ウィンドウがオープンします。
14. 「**ユーザー ID (User ID)**」フィールドに RACF ユーザー ID を入力する。

15. 「パスワード (Password)」フィールドで、「ユーザー ID (User ID)」フィールドに入力したユーザー ID 用のパスワードを入力する。
16. 「接続 (Connect)」をクリックする。

ユーザーの新規カタログが定義され、2つの情報カタログ・マネージャー・プログラム・アイコンが「スタート」メニューの情報カタログ・マネージャー項目に作成されます。1つのアイコンは管理者機能を示し、情報カタログ管理者機能をユーザーのワークステーションにインストールした場合にのみ使用できます。他方のアイコンは、ユーザー機能を示します。

情報カタログ・マネージャーが共通オブジェクト・タイプをインポートできないことを示すエラー・メッセージを受け取った場合は、ユーザーの情報カタログを、事前定義されたオブジェクト・タイプを使用して初期化する必要があります (133ページを参照)。その後、ユーザーの新規情報カタログにオブジェクト・タイプを追加することができます。

DB2 ユニバーサル・データベース (AS/400 版) での情報カタログの定義

表5 では、DB2 UDB (AS/400 版) に情報カタログを定義する前に、管理者またはリモート・データベース管理者が完了している必要のある作業を説明します。

表5. DB2 ユニバーサル・データベース (AS/400 版) での情報カタログの定義の準備

作業	担当者	
	リモート・データベース 管理者	読者
情報カタログを保管するデータベースを作成する。	○	
新規情報カタログを定義するための ALLOBJ 権限があることを確認する。	○	

情報カタログを定義するための手順:

1. 「スタート → プログラム → IBM DB2 → 情報カタログ・マネージャー → 情報カタログの初期化 (Initialize Information Catalog)」の順にクリックする。
「情報カタログの初期化 (Initialize Information Catalog)」ウィンドウがオープンされます。
2. 「情報カタログ・タイプの選択 (Select type of information catalog)」リストから、「DB2 UDB (AS/400 版)」を選択する。

情報カタログの作成

3. 「**OK**」をクリックする。
「DB2 UDB (AS/400 版) でのカタログ定義 (Define Catalog on DB2 UDB for AS/400)」ウィンドウがオープンします。
4. 「**情報カタログ名 (Information catalog name)**」フィールドで、ユーザーのローカル・ワークステーションにカタログされたリモート・データベースの別名を入力する。
5. 「**非適用記号 (Not-applicable symbol)**」リストから文字を 1 つ選択する。
 - a. 下矢印をクリックして、有効な記号のリストを表示する。
 - b. 使用したい記号を選択する。
6. 「**管理者のユーザー ID (Primary administrator's user ID)**」フィールドに、情報カタログ・マネージャーの管理者となる人のユーザー ID を入力する。
このユーザー ID には、DB2 UDB (AS/400 版) の ALLOBJ 権限が必要です。
7. 「**副管理者のユーザー ID (Backup administrator's user ID)**」フィールドに、管理者をバックアップする人のユーザー ID を入力する。
8. 「**共通オブジェクト・タイプのインポート (Import common object types)**」チェック・ボックスを選択して、他の規格合致製品とメタデータを交換するために使用できるオブジェクト・タイプを使用して、ユーザーの情報カタログにデータを移植する。
9. 「**定義 (Define)**」をクリックする。
「情報カタログへの接続 (Connect to Information Catalog)」ウィンドウがオープンします。
10. 「**ユーザー ID (User ID)**」フィールドに AS/400 ユーザー ID を入力する。
11. 「**パスワード (Password)**」フィールドで、「**ユーザー ID (User ID)**」フィールドに入力したユーザー ID 用のパスワードを入力する。
12. 「**接続 (Connect)**」をクリックする。

ユーザーの新規カタログが定義され、2 つの情報カタログ・マネージャー・プログラム・アイコンが「**スタート**」メニューの情報カタログ・マネージャー項目に作成されます。1 つのアイコンは管理者機能を示し、情報カタログ管理者機能をユーザーのワークステーションにインストールした場合にのみ使用できます。他方のアイコンは、ユーザー機能を示します。

情報カタログ・マネージャーが共通オブジェクト・タイプをインポートできないことを示すエラー・メッセージを受け取った場合は、ユーザーの情報カタログを、事前定義されたオブジェクト・タイプを使用して初期化する必要があります (133ページを参照)。その後、ユーザーの新規情報カタログにオブジェクト・タイプを追加することができます。

UNIX® システムでの情報カタログの定義

表6 では、DB2 UDB (AIX 版) および DB2 UDB (Solaris 実行環境版) に情報カタログを定義する前に、管理者またはリモート・データベース管理者が完了している必要のある作業を説明します。これらのステップは、DB2 UDB EEE (AIX 版) および DB2 UDB EEE (Solaris 実行環境版) にも適用されます。

表6. UNIX システムでの情報カタログの定義の準備

作業	担当者	
	リモート・データベース 管理者	読者
情報カタログを保管するデータベースを作成または識別する。データベースをリモート・ホストに作成する場合、データベース管理者は、データベースのセキュリティのため、認証レベルを指定したい場合があるかもしれません。	○	
新規情報カタログを定義するための SYSADM 権限があることを確認する。	○	
データベースの名前をデータベース管理者に問い合わせる。	○	○

情報カタログの作成

表 6. UNIX システムでの情報カタログの定義の準備 (続き)

作業	担当者	
	リモート・データベース 管理者	読者
DB2 UDB EEE 情報カタログを定義する場合は、次の SQL コマンドを DB2 コマンド行プロセッサから入力する。 <pre>CREATE NODEGROUP FLG32K ON NODE number CREATE REGULAR TABLESPACE FLG32K IN NODEGROUP FLG32K MANAGED BY SYSTEM USING ('FLG32K')</pre> ここで、number はノードの識別番号です。	○	

情報カタログを定義するための手順:

1. 「スタート → プログラム → IBM DB2 → 情報カタログ・マネージャー → 情報カタログの初期化 (Initialize Information Catalog)」の順にクリックする。
「情報カタログの初期化 (Initialize Information Catalog)」ウィンドウがオープンされます。
2. 「情報カタログ・タイプの選択 (Select type of information catalog)」リストから、「DB2 ファミリー (DB2 family)」を選択する。
3. 「OK」をクリックする。
「DB2 ファミリー・データベースでのカタログ定義 (Define Catalog on DB2 Family Database)」ウィンドウがオープンします。
4. 「情報カタログ名 (Information catalog name)」フィールドで、ユーザーのローカル・ワークステーションにカタログされたリモート・データベースの別名を入力する。
5. 「非適用記号 (Not-applicable symbol)」リストから文字を 1 つ選択する。
 - a. 下矢印をクリックして、有効な記号のリストを表示する。
 - b. 使用したい記号を選択する。

6. 「**管理者のユーザー ID (Primary administrator's user ID)**」フィールドに、情報カタログ・マネージャーの管理者となる人のユーザー ID を入力する。
このユーザー ID には、SYSADM 権限が必要です。
7. 「**副管理者のユーザー ID (Backup administrator's user ID)**」フィールドに、管理者をバックアップする人のユーザー ID を入力する。
8. 「**共通オブジェクト・タイプのインポート (Import common object types)**」チェック・ボックスを選択して、他の規格合致製品とメタデータを交換するために使用できるオブジェクト・タイプを使用して、ユーザーの情報カタログにデータを移植する。
9. 「**定義 (Define)**」をクリックする。
「情報カタログへの接続 (Connect to Information Catalog)」ウィンドウがオープンします。
10. 「**ユーザー ID (User ID)**」フィールドに AIX ユーザー ID を入力する。
11. 「**パスワード (Password)**」フィールドで、「**ユーザー ID (User ID)**」フィールドに入力したユーザー ID 用のパスワードを入力する。
UNIX オペレーティング・システムのパスワードは大文字小文字の区別があります。このため、指定されたとおりに正確に入力する必要があります。
12. 「**接続 (Connect)**」をクリックする。

ユーザーの新規カタログが定義され、2 つの情報カタログ・マネージャー・プログラム・アイコンが「**スタート**」メニューの情報カタログ・マネージャー項目に作成されます。1 つのアイコンは管理者機能を示し、情報カタログ管理者機能をユーザーのワークステーションにインストールした場合にのみ使用できます。他方のアイコンは、ユーザー機能を示します。

情報カタログ・マネージャーが共通オブジェクト・タイプをインポートできないことを示すエラー・メッセージを受け取った場合は、ユーザーの情報カタログを、事前定義されたオブジェクト・タイプを使用して初期化する必要があります (133ページを参照)。その後、ユーザーの新規情報カタログにオブジェクト・タイプを追加することができます。

DB2 ユニバーサル・データベース (Windows NT 版) または DB2 ユニバーサル・データベース (Windows 2000 版) での情報カタログの定義

14ページの表7 では、DB2 UDB (Windows NT 版) または DB2 UDB (Windows 2000 版) に情報カタログを定義する前に、管理者またはリモート・データベース管理者が完了している必要のある作業を説明します。これらのス

情報カタログの作成

トップは、DB2 UDB EEE (Windows NT 版) にも適用されます。

表7. DB2 ユニバーサル・データベース (Windows NT 版) または DB2 ユニバーサル・データベース (Windows 2000 版) での情報カタログの定義の準備

作業	担当者	
	リモート・データベース 管理者	読者
<p>DB2 UDB EEE 情報カタログを定義する場合は、次の SQL コマンドを DB2 コマンド行プロセッサから入力する。</p> <pre>CREATE NODEGROUP FLG32K ON NODE number CREATE REGULAR TABLESPACE FLG32K IN NODEGROUP FLG32K MANAGED BY SYSTEM USING ('FLG32K')</pre> <p>ここで、number はノードの識別番号です。</p>	○	
<p>情報カタログを保管するデータベースを作成または識別する。データベースをリモート・ホストに作成する場合、データベース管理者は、データベースのセキュリティのため、認証レベルを指定したい場合があるかもしれません。</p>	○	
<p>新規情報カタログを定義するための管理者権限があることを確認する。</p>	○	
<p>データベースの名前をデータベース管理者に問い合わせる。</p>	○	○

情報カタログを定義するための手順:

1. 「スタート → プログラム → IBM DB2 → 情報カタログ・マネージャー → 情報カタログの初期化 (Initialize Information Catalog)」の順にクリックする。

「情報カタログの初期化 (Initialize Information Catalog)」ウィンドウがオープンされます。

2. 「情報カタログ・タイプの選択 (Select type of information catalog)」リストから、「DB2 UDB (Windows NT 版)」を選択する。
3. 「OK」をクリックする。
「DB2 UDB (Windows NT 版) でのカタログ定義 (Define Catalog on DB2 UDB for Windows NT)」ウィンドウがオープンします。
4. 「情報カタログ名 (Information catalog name)」フィールドに、ローカル情報カタログに割り当てたい名前か、またはユーザーのローカル・ワークステーションにカタログされているリモート・データベースの別名を入力する。
5. 「非適用記号 (Not-applicable symbol)」リストから文字を 1 つ選択する。
 - a. 下矢印をクリックして、有効な記号のリストを表示する。
 - b. 使用したい記号を選択する。
6. 「主管理者のユーザー ID (Primary administrator's user ID)」フィールドに、情報カタログ・マネージャーの主管理者となる人のユーザー ID を入力する。
このユーザー ID には、SYSADM 権限が必要です。
7. 「副管理者のユーザー ID (Backup administrator's user ID)」フィールドに、主管理者をバックアップする人のユーザー ID を入力する。
8. 「共通オブジェクト・タイプのインポート (Import common object types)」チェック・ボックスを選択して、他の規格合致製品とメタデータを交換するために使用できるオブジェクト・タイプを使用して、ユーザーの情報カタログにデータを移植する。
9. 「定義 (Define)」をクリックする。
「情報カタログへの接続 (Connect to Information Catalog)」ウィンドウがオープンします。
10. 「ユーザー ID (User ID)」フィールドに、ユーザーの情報カタログを保管するデータベースが必要とするユーザー ID を入力する。

DB2 UDB (Windows NT 版) (ローカル)

Windows NT® のユーザー ID

DB2 UDB (Windows NT 版) または DB2 UDB (Windows 2000 版) (リモート)

LAN ユーザー ID (リモート・ワークステーションのユーザー・マネージャーで指定したもの)

DB2 UDB (Windows 2000 版) (ローカル)

Windows 2000 のユーザー ID

11. 「パスワード (Password)」フィールドで、「ユーザー ID (User ID)」フィールドに入力したユーザー ID 用のパスワードを入力する。
Windows システムのパスワードは、大文字小文字の区別があります。このため、指定されたとおりに正確に入力する必要があります。
12. 「接続 (Connect)」をクリックする。

ユーザーの新規カタログが定義され、2 つの情報カタログ・マネージャー・プログラム・アイコンが「スタート」メニューの情報カタログ・マネージャー項目に作成されます。1 つのアイコンは管理者機能を示し、情報カタログ管理者機能をユーザーのワークステーションにインストールした場合にのみ使用できます。他方のアイコンは、ユーザー機能を示します。

情報カタログ・マネージャーが共通オブジェクト・タイプをインポートできないことを示すエラー・メッセージを受け取った場合は、ユーザーの情報カタログを、事前定義されたオブジェクト・タイプを使用して初期化する必要があります (133ページを参照)。その後、ユーザーの新規情報カタログにオブジェクト・タイプを追加することができます。

DataGuide バージョン 5.2 の情報カタログの移行

情報カタログが以下のデータベース・システム上に常駐する場合、DataGuide® 5.2 情報カタログを DB2 ユニバーサル・データベース バージョン 7.1 情報カタログへ移行することができます。

- DB2 UDB (OS/2 版)
- DB2 UDB (AIX 版)
- DB2 UDB EEE
- DB2 UDB (OS/390 版)
- DB2 UDB (AS/400 版)
- DB2 UDB (Windows NT 版)

DB2 UDB (Windows 95 版) または DB2 UDB (Windows 98 版) 上にある情報カタログを移行することはできません。ただし、それらの情報カタログにリモートに接続することができます。

情報カタログ・マネージャーの構成要素を持つ DB2 ウェアハウス・マネージャーまたは DB2 OLAP Server のいずれかをインストールした後、「情報カタログの初期化 (Initialize Information Catalog)」ウィンドウを使って、情報カタログを定義してください。情報カタログを定義するためのステップは、4ペー

ジから始まります。ユーザーの情報カタログ・データベースが常駐するデータベース・システムに適当な作業を選択してください。

サーバー・ノードと情報カタログの登録

情報カタログは、ローカル (ユーザーのワークステーションに保管する) またはリモートのいずれにも置くことができます。情報カタログがリモートにある場合は、その情報カタログとそれが常駐しているサーバーを登録する必要があります。

DB2 コントロール・センターを使用したサーバー・ノードの登録

リモート情報カタログのあるサーバー上のデータベースに前もって接続されている場合には、このセクションをスキップし、19ページの『リモートの情報カタログの登録』に進むことができます。

DB2 コントロール・センターを使用して、サーバー・ノードを登録することができます。情報カタログ管理者またはリモート・データベース管理者は、DB2 コントロール・センターを使用して以下の作業を完了することができます。詳細については、DB2 コントロール・センターのオンライン・ヘルプを参照してください。

- システムを追加する
- インスタンスを追加する
- データベースを追加する

上記のタスクが DB2 コントロール・センターで完了された後、「情報カタログ・マネージャー - 新規情報カタログの登録 (Information Catalog Manager Register New Information Catalog)」ウィンドウを使用して、登録プロセスを完了することができます。以下の情報を持っていることを確認してください。

- リモート・サーバーのノード名。
- ユーザーの情報カタログがリモート・サーバーでカタログされているデータベース名。

次のセクションをスキップし、19ページの『リモートの情報カタログの登録』に進むことができます。

サーバー・ノードと情報カタログ・マネージャーの登録

リモート情報カタログのあるサーバー上のデータベースに前もって接続されている場合には、このセクションをスキップし、19ページの『リモートの情報カタログの登録』に進むことができます。

サーバー・ノードと情報カタログの登録

表8 では、サーバー・ノードと情報カタログを登録する前に、管理者またはリモート・データベース管理者が完了している必要のある作業を説明します。

表8. サーバー・ノードと情報カタログの登録の準備

作業	担当者	
	リモート・データベース 管理者	読者
<p>情報カタログ・ユーザー環境に適したプロトコル・コマンド・ファイルを編集する。使用可能なプロトコル・コマンド・ファイルは4つあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DGNTBIOS は NetBIOS プロトコルを使用する • DGTCPIP は TCP/IP プロトコルを使用する • DGCPIC は CPIC プロトコルを使用する • DGIPXSPX は IPX/SPX プロトコルを使用する <p>このリスト内のコマンド・ファイルは例として提供され、これらに限定されているわけではありません。コマンド・ファイルを変更するか、新規に作成する場合、BAT というファイル拡張子を付け</p> <p>¥SQLLIB¥PROTOCOL ディレクトリーに常駐させてください。</p> <p>リモートの情報カタログが存在するノード名を追加する場合は、それぞれのファイルを変更する必要があります。</p>		○
<p>リモート・サーバーのノード名は、データベース管理者に尋ねてください。</p>	○	○

表 8. サーバー・ノードと情報カタログの登録の準備 (続き)

作業	担当者	
	リモート・データベース 管理者	読者
ユーザーの情報カタログが リモート・サーバーでカタ ログされているデータベー ス名は、データベース管理 者に尋ねてください。	○	○

サーバー・ノードの登録手順:

1. 「スタート → プログラム → IBM DB2 → 情報カタログ・マネージャー → サーバー・ノードと情報カタログの登録 (**Register Server Node and Information Catalog**)」をクリックする。
「サーバー・ノードと情報カタログの登録 (Register Server Node and Information Catalog)」ウィンドウがオープンします。
2. 「新規サーバー・ノードの登録 (**Register new server node**)」ラジオ・ボタンを選択して、「OK」をクリックする。
「新規サーバー・ノードの登録 (Register new server node)」ウィンドウがオープンします。
3. 環境に適合するコマンド・ファイルを選択する。「コマンド・ファイルの内容 (**Contents of command file**)」フィールドでは、情報カタログ・マネージャーとユーザーの情報カタログを保管したリモート・データベース間の接続を確立するプロトコルとデータベース・コマンドを表示します。
4. 「登録 (**Register**)」をクリックする。
5. 「サーバー・ノードと情報カタログの登録 (Register Server Node and Information Catalog)」ウィンドウはオープンしたままです。他のサーバー・ノードまたは情報カタログを登録することもでき、ウィンドウをクローズするために「キャンセル (**Cancel**)」をクリックすることもできます。

リモートの情報カタログの登録

リモートの情報カタログを登録する手順:

1. 「スタート → プログラム → IBM DB2 → 情報カタログ・マネージャー → サーバー・ノードと情報カタログの登録 (**Register Server Node and Information Catalog**)」をクリックする。
「サーバー・ノードと情報カタログの登録 (Register Server Node and Information Catalog)」ウィンドウがオープンします。

サーバー・ノードと情報カタログの登録

2. 「新規情報カタログの登録 (Register new Information catalog)」ボタンを選択して、「OK」をクリックする。
「新規情報カタログの登録 (Register New Information Catalog)」ウィンドウがオープンします。
3. 「情報カタログ名 (Information catalog name)」フィールドで、ユーザーのローカル・ワークステーションで使用するリモート・データベース名を入力する。
4. 「サーバー情報カタログ名 (Server Information catalog name)」フィールドで、リモート・サーバーで使用する情報カタログ名を入力する。
5. 「サーバー・ノード ID (Server node ID)」リストから、サーバー・ノードまたはリモートの情報カタログが置かれている「DB2 接続 (DB2 Connect)」ゲートウェイ・ワークステーションを選択する。
6. 「登録 (Register)」をクリックする。
「情報カタログへの接続 (Connect to Information Catalog)」ウィンドウがオープンします。
7. 「ユーザー ID (User ID)」フィールドに、ユーザーの情報カタログを保管するデータベースが必要とするユーザー ID を入力する。

DB2 ユニバーサル・データベース (OS/2 版) (リモート)

LAN ユーザー ID (リモート・ワークステーションの UPM で指定したもの)

DB2 ユニバーサル・データベース (OS/390 版)

RACF ユーザー ID

DB2 ユニバーサル・データベース (AS/400 版)

AS/400 ユーザー ID

DB2 ユニバーサル・データベース (AIX 版)

AIX ユーザー ID

DB2 ユニバーサル・データベース エンタープライズ拡張エディション

AIX、Solaris 実行環境版、または LAN ユーザー ID (オペレーティング・システムによる)

DB2 ユニバーサル・データベース (Solaris 実行環境版)

Solaris 実行環境版 ユーザー ID

DB2 UDB (Windows NT 版) または DB2 UDB (Windows 2000 版) (リモート)

LAN ユーザー ID (リモート・ワークステーションのユーザー・マネージャーで指定したもの)

8. 「パスワード (Password)」フィールドで、「ユーザー ID (User ID)」フィールドに入力したユーザー ID 用のパスワードを入力する。
 以下のオペレーティング・システム上のデータベースにアクセスするためのパスワードは大文字小文字の区別があります。このため、指定されたとおりに入力する必要があります。
 - AIX
 - Windows NT および Windows 2000
 - Solaris 実行環境版
9. 「接続 (Connect)」をクリックする。
 ユーザーの新規カタログが定義され、2 つの情報カタログ・マネージャー・プログラム・アイコンが「スタート」メニューの情報カタログ・マネージャー項目に作成されます。1 つのアイコンは管理者機能を示し、情報カタログ管理者機能をユーザーのワークステーションにインストールした場合にのみ使用できます。他方のアイコンは、ユーザー機能を示します。
10. 「サーバー・ノードと情報カタログの登録 (Register Server Node and Information Catalog)」ウィンドウはオープンしたままです。他のサーバー・ノードまたは情報カタログを登録することもでき、ウィンドウをクローズするために「キャンセル (Cancel)」をクリックすることもできます。

情報カタログのオープン

情報カタログ・マネージャーを使った作業を開始するには、まず情報カタログをオープンします。

1. 「スタート → プログラム → IBM DB2 → 情報カタログ・マネージャー → 情報カタログの初期化 (Initialize Information Catalog)」の順にクリックする。
2. オープンする情報カタログを表すアイコンをクリックする。
 「情報カタログのオープン (Open Information Catalog)」ウィンドウがオープンされます。
3. 「ユーザー ID (User ID)」フィールドに、情報カタログが常駐するオペレーティング・システムに必要なユーザー ID を入力する。
4. 「パスワード (Password)」フィールドで、「ユーザー ID (User ID)」フィールドに入力したユーザー ID 用のパスワードを入力する。

以下のオペレーティング・システム上のデータベースにアクセスするためのパスワードは大文字小文字の区別があります。このため、指定されたとおりに入力する必要があります。

- AIX

情報カタログのオープン

- Windows[®] 32 ビット・オペレーティング・システム
- Solaris 実行環境版

5. 「**オープン (Open)**」をクリックする。「情報カタログ (Information Catalog)」ウィンドウがオープンされます。

MS-DOS コマンド・プロンプトからユーザーの情報カタログをオープンすることもできます。詳細については、209ページの『タグ言語ファイルをコマンド行からインポートする』を参照してください。

ユーザーが情報カタログ・マネージャーからプログラムを開始できることを確認する

情報カタログ内にオブジェクトを設定して、ユーザーがアプリケーション・プログラムを実行してオブジェクトに記述された実際の情報を処理できるようにします。ユーザーは使い慣れたアプリケーション・プログラムを実行することができます。それには、情報を作成するときに最初に使用したプログラムも含まれます。

以下の要件に適合していることを確認してください。

- ユーザーには、ワークステーションまたは LAN 上にインストールされた適切なアプリケーション・ソフトウェアが必要です。
- ユーザーは、プログラムのインストール場所に関係なく、コマンド行からパスを指定しないコマンド `start program_name` によって開始できる、任意のプログラムを立ち上げることができます。

プログラムの多くは、インストール時にパスをプログラム・レジストリーに書き込みます。 `start` コマンドによって、そのパスが検索されます。プログラムがパスをプログラム・レジストリーに記述しない場合、ユーザーのワークステーションの `path` 環境変数にそのプログラムへのディレクトリー・パスを追加する必要がある場合があります。

- ユーザーは、使用したい情報が保管されているデータベースまたはファイル・システムに対する必要な権限を持っていないければなりません。
- 情報カタログ内のプログラム・オブジェクトには、ユーザーがプログラムを実行するオペレーティング・システムのための適切な呼び出し構文が含まれていないければなりません。

情報カタログ・マネージャー (Web 版) ユーザーのための追加要件

情報カタログ・マネージャー (Web 版) ユーザーのための Web 環境を設定するとき、以下の要件に適合していることを確認してください。

ユーザーが情報カタログ・マネージャーからプログラムを開始できることを確認する

- ユーザーがアプリケーション・プログラムで使用したいデータは、Web サーバーからアクセス可能でなければなりません。たとえば、情報カタログ・マネージャーのサンプル・データ・ファイルは Web サーバー上のディレクトリにあります。
- ユーザーが開始したいプログラムは、Web クライアント上にインストールされていなければなりません。

たとえば、ユーザーが Lotus® 1-2-3 ファイル® にアクセスする場合、Lotus 1-2-3 は Web クライアント上にインストールされていなければなりません。

アプリケーション・プログラムが Java™ アプレットである場合、そのアプリケーションはインストールされている必要はありません。そのアプリケーションに Web ブラウザーから直接アクセスできるからです。

クライアントには、必要なブラウザー・プラグイン・プログラムもなければなりません。情報カタログ・マネージャー (Web 版) サーバーは、プラグイン・プログラムによって使用される関連ファイルを見つけることが可能でなければなりません。たとえば、ユーザーが Adobe Acrobat ファイルを表示したい場合、Acrobat Reader 用のブラウザー・プラグイン・ファイルを情報カタログ・マネージャー (Web 版) クライアントにインストールしておく必要があります。情報カタログ・マネージャー (Web 版) サーバーは、ユーザーが表示したいファイルを見つけてクライアントにダウンロードすることが可能でなければなりません。

- ユーザーが開始するアプリケーション・プログラムに必要な MIME タイプは、Web サーバーの構成ファイルで識別されていなければなりません。ユーザーが開始したいプログラムのファイル拡張子を指定した AddType 指示を、構成ファイルに含めなければなりません。たとえば、ユーザーが Lotus 1-2-3 スプレッドシートをファイル・タイプ WK4 で使用したい場合、Lotus Domino™ Go Webserver の AddType 指示を以下のように定義します。

```
AddType .WK4 application/x-lotus1-2-3 binary
```

ユーザーが Lotus Domino Go Webserver 以外の Web サーバーを使用している場合、MIME タイプの定義はこれとは異なります。詳細については、ご使用の Web サーバーのマニュアルを参照してください。

- Websphere IBM HTTP WebServer を使用している場合、MIME タイプは `¥conf¥mime.types` ファイル内で以下の例のように定義されます。

```
application/vnd.lotus-1-2-3 wks 123 wk1 wk2 wk3 wk4
```
- Netscape Navigator の一部のバージョンでは、支援プログラムがファイル・タイプを識別して対応するアプリケーション・プログラムを開始します。

ユーザーが情報カタログ・マネージャーからプログラムを開始できることを確認する

Microsoft Internet Explorer は、支援プログラムを使用しません。その代わりに、Internet Explorer は Windows Explorer によって使用されるファイル・タイプとプログラムとの関連を使用します。ファイル・タイプを識別するように Internet Explorer を設定する必要はありません。

- ユーザーがプログラムを開始したいオブジェクトについて、「**データにアクセスするための URL (URL to access data)**」プロパティを定義しなければなりません。プロパティの値は、プログラムを直接立ち上げるためのリンクです。

情報カタログ・マネージャー (Web 版) オブジェクトからプログラムを開始するには、以下のように行います。

1. リスト・ペインで、プログラムを開始したいオブジェクトをクリックします。
記述ペイン内にオブジェクト記述ページがオープンします。
2. 「**データにアクセスするための URL (URL to access data)**」プロパティを見つけます。
3. プロパティ値をクリックします。

Web ブラウザーは、プロパティ値によって指定された Web アドレスを使用して立ち上げられます。

情報カタログ・マネージャー・ユーザーへのオブジェクト管理の許可

組織内の特定の情報カタログ・マネージャー・ユーザーに情報カタログのオブジェクトを管理し、更新する権限を与えることができます。許可された情報カタログ・マネージャー・ユーザーは、オブジェクトの作成、更新、またはエクスポートのような作業ができます。

情報カタログ・マネージャー・ユーザーの許可手順:

1. 「情報カタログ (Information Catalog)」ウィンドウのメニュー・バーから、「**カタログ (Catalog) → ユーザーの管理 (Manage users)**」を選択する。
「情報カタログ・ユーザーの管理 (Manage Information Catalog Users)」ウィンドウがオープンされます。
2. 「**新規ユーザー ID (New user ID)**」フィールドに、オブジェクトの管理を許可する情報カタログ・マネージャー・ユーザーのユーザー ID を入力する。
3. 「**追加 (Add)**」をクリックする。新規ユーザー ID が、「**ユーザー (Users)**」リストに追加されます。

情報カタログ・マネージャー・ユーザーへのオブジェクト管理の許可

4. 「OK」をクリックして、許可を完了し、情報カタログへの変更をコミットする。

許可されたユーザー ID のリストから情報カタログ・マネージャーのユーザー ID を除去する手順:

1. 「ユーザー (Users)」リストからユーザー ID を選択する。
2. 「除去 (Remove)」をクリックする。
3. 「OK」をクリックして、許可を完了し、情報カタログへの変更をコミットする。

情報カタログ管理者の設定と変更: 「情報カタログ・ユーザーの管理 (Manage Information Catalog Users)」ウィンドウを使用して、ユーザーの情報カタログ管理者のユーザー ID を変更することができます。主管理者および副管理者のユーザー ID を「主管理者のユーザー ID (Primary user ID)」フィールドと「副管理者のユーザー ID (Backup user ID)」フィールドにそれぞれ入力できます。

情報カタログが DB2 UDB (Windows NT 版)、DB2 UDB (AIX 版)、DB2 UDB (Solaris 実行環境版)、DB2 UDB EEE、DB2 UDB (OS/390 版)、または DB2 UDB (OS/2 版) データベース内に保管されている場合、主管理者を変更する前に、新規の主管理者が SYSADM 権限を持っていることを確認してください。ユーザーの情報カタログが DB2 UDB (AS/400 版) データベースに保管されている場合は、新規の主管理者に ALLOBJ 権限があることを確認してください。

主管理者と副管理者のユーザー ID を両方とも間違えて入力してしまい、情報カタログにアクセスできない場合、情報カタログ・マネージャーの ALTERKA コマンドを使って、正しいユーザー ID を設定することができます。情報カタログの管理者を変更するには、MS-DOS コマンド・プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
X:\Program Files\SQLLIB\BIN\ALTERKA
```

ここで、X は、DB2 ユニバーサル・データベースがインストールされているドライブです。

プロンプトが表示されたら、情報カタログ名、ユーザー ID、およびパスワードを空白で区切って入力します。

```
ICMSAMP longods secret
```

情報カタログ・マネージャー・ユーザーへのオブジェクト管理の許可

再びプロンプト表示されたら、(ブランクで区切って) 変更したい管理者のユーザー ID、そのユーザー ID についての処置 (追加 A、削除 D、または更新 U)、およびユーザー ID タイプ (主 P または副 B) を入力します。

valdezma D B

この例では、管理者のユーザー ID valdezma を削除します。

コメントの状況値の設定と変更

ユーザーが情報カタログのコメントへの割り当てを行うために、使用できる状況選択項目のリストを設定できます。状況選択項目には、たとえば、「オープン (Open)」、「保留 (Pending)」、必須の「アクション (Action)」、「クローズ (Closed)」があります。

識別の対象となる状況選択項目が、「コメントの作成 (Create Comment)」(図1で示す)、「コメントのコピー (Copy Comment)」、「コメントの更新 (Update Comment)」のウィンドウの「状況 (Status)」リストに表示されます。

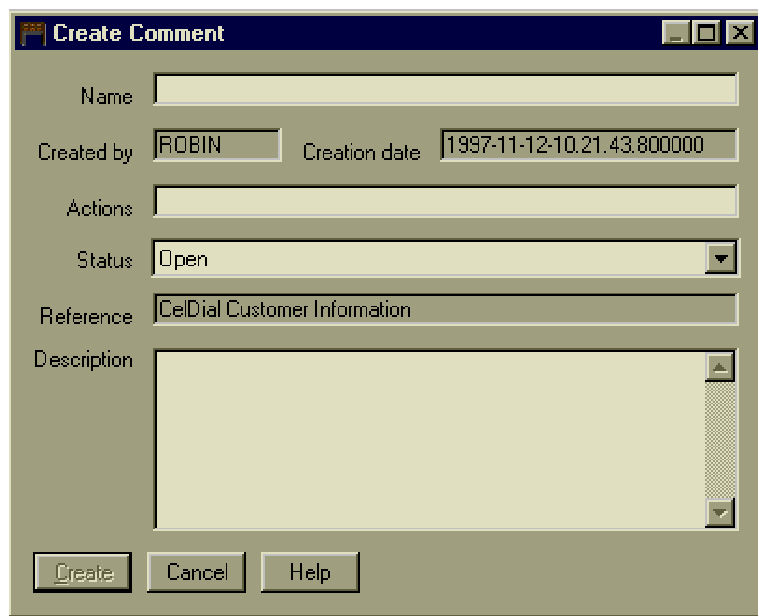


図1. 状況選択項目を表示する「コメントの作成 (Create Comment)」ウィンドウ

コメント状況選択項目を設定または変更する手順:

1. 「情報カタログ (Information Catalog)」ウィンドウから、「**カタログ (Catalog) → コメント状況の更新リスト (Update comment status list)**」を選択する。
「コメント状況リストの更新 (Update Comment Status List)」ウィンドウがオープンされます。
2. 各「**コメント状況フィールド選択項目 (Comment status field choice)**」フィールドに状況を 1 つずつ入力して、10 項目までの状況選択項目のリストを設定する。入力した選択項目の順序が、さまざまなコメント・ウィンドウにおける「**状況 (Status)**」リストの順序になります。
3. 状況値の設定が終わったら、「**更新 (Update)**」をクリックする。
状況リストを更新しないでウィンドウをクローズするには、「**キャンセル (Cancel)**」をクリックします。

コメントの状況値の設定と変更

第2章 情報資源の編成

ここまでで、情報カタログを作成し、管理者とユーザーがそれをオープンできることを確認しました。次に、ユーザー組織の情報についての記述データをユーザーの情報カタログに移植できるように、行う必要のある準備作業があります。

まず、入力したい情報を編成することから始めます。たとえば、組織が持っている人事情報、財務のスプレッドシート、建設計画、広告キャンペーンのデジタル・イメージについて、記述データを入力することができます。それぞれの項目は、異なるタイプの情報資源です。

ユーザーの情報カタログに含めたい情報のタイプを分類するときに、情報カタログ内の情報のタイプを識別します。

情報カタログ・マネージャー情報区分とオブジェクト・タイプ

情報カタログ内の情報資源を編成するためにオブジェクト・タイプを作成します。オブジェクト・タイプは、業務情報の型を反映するために使用される、表、レポート、またはイメージなどの、オブジェクトの種別です。たとえば、イメージ (30ページの図2) というオブジェクト・タイプを作成するとします。これで一組のオブジェクトをデジタル・ビットマップ・イメージとして記述します。それぞれのオブジェクト・タイプについて、一組の特性を定義して、そのオブジェクト・タイプの特徴を記述します。イメージというオブジェクト・タイプの場合、解像度、サイズ、およびカラーなどの特性を定義できません。

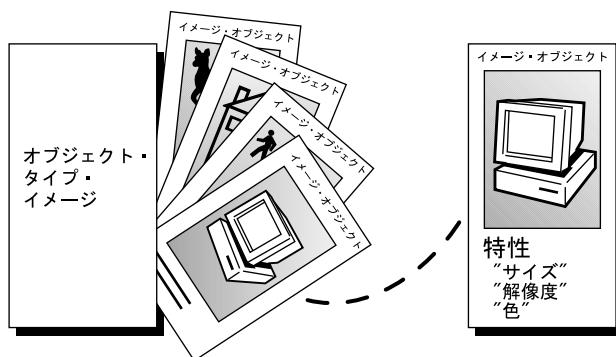


図2. 情報資源の特性が情報カタログ・マネージャーのオブジェクト・タイプの特性となる

すべてのオブジェクト・タイプは、情報カタログ・マネージャー区分のいずれかに属さなければなりません。オブジェクト・タイプの区分によって、情報カタログ・マネージャーの処理方法が決まります。Program と Attachment 区分の他は、次の情報カタログ・マネージャー区分のいずれかにオブジェクト・タイプを作成することができます。

区分	定義
Grouping	他のオブジェクト・タイプを含むことのできるオブジェクト・タイプ。
Elemental	他の情報カタログ・マネージャー・タイプの基本要素である Grouping 以外のオブジェクト・タイプ。
Contact	1 つのオブジェクトについての詳細な情報への参照を識別するオブジェクト・タイプ。詳しい情報の中には、オブジェクトが示す情報を作成した人物や、情報保守の責任を持つ部門が記述されている可能性があります。
Program	情報カタログ・マネージャー・オブジェクト・タイプが表す実際の情報を処理できるアプリケーションについて、識別したり説明したりするプログラム・オブジェクト・タイプ。Program 区分に属する唯一のオブジェクト・タイプは、情報カタログ作成時に定義されるプログラム・オブジェクト・タイプです。
Dictionary	業務に固有の用語を定義するオブジェクト・タイプ。

情報カタログ・マネージャー情報区分とオブジェクト・タイプ

Support

ユーザーの情報カタログまたは企業についての追加情報を提供するオブジェクト・タイプ。

Attachment

他の情報カタログ・マネージャー・オブジェクトに接続される追加情報を識別するコメント・オブジェクト・タイプ。 Attachment 区分に属する唯一のオブジェクト・タイプは、情報カタログ作成時に定義されるコメント・オブジェクト・タイプです。

表9 では、情報カタログ・マネージャーのオブジェクト・タイプの区分間の関係を要約しています。

表9. 情報カタログ・マネージャー区分の関係

区分	包含関係	関係	関連コンタクト	コメントの付加	プログラムの立ち上げ
Grouping	ほかの Grouping または Elemental オブジェクトを含む	他の Grouping または Elemental オブジェクト	可	可	可
Elemental	任意の Grouping オブジェクトに含まれる	他の Grouping または Elemental オブジェクト	可	可	可
Contact	なし	なし	不可	可	可
Program	なし	なし	不可	可	不可
Dictionary	なし	なし	不可	可	可
Support	なし	なし	不可	可	可
Attachment	なし	なし	不可	不可	可

次の 3 つの方法でユーザーの情報カタログのオブジェクト・タイプを確立することができます。

- 情報カタログ・マネージャーとともに提供されるサンプル情報カタログのオブジェクト・タイプを使用する (サンプル情報カタログの作成方法と、含まれるオブジェクト・タイプについての説明に関する情報は、131ページの『付録B. 事前定義された情報カタログ・マネージャー・オブジェクト・タイプ』を参照してください。)

情報カタログ・マネージャー情報区分とオブジェクト・タイプ

- ・ 情報カタログ・マネージャーが提供するオブジェクト・タイプを変更して、ユーザーの組織の必要に合わせる (オブジェクト・タイプを変更する方法に関する情報は、43ページの『オブジェクト・タイプの更新』を参照してください。)
- ・ 独自のオブジェクト・タイプを作成する。

独自のオブジェクトを作成する

オブジェクト・タイプを作成するとき、まず、必要なオブジェクト・タイプごとにプロトタイプを作成してください。それから、1つか2つサンプル・オブジェクトを作成します (オブジェクトについての情報は49ページの『第3章 カタログへの情報の移植』を参照してください)。オブジェクトが記述ビューに表示される状態、特に特性がリストされる順序をチェックしてください。それぞれの特性に異なるデータを入力して、正しいデータ・タイプとサイズになっていることを確認してください。指定した特性が作業グループのニーズに合っていることを確認するために、データベース管理者や一部のユーザーに相談するのもよいでしょう。

プロトタイプに満足しなければ、プロトタイプとサンプル・オブジェクトを削除して、簡単にやり直すことができます。オブジェクト・タイプを作成してから、その特性を変更したり削除するには、このオブジェクト・タイプとこれに属するすべてのオブジェクトを削除してから、異なる特性を持つ新しいオブジェクト・タイプを作成するしかありません。

さらに、オブジェクト・タイプがいくつ必要になるかを考慮しなければなりません。情報カタログ・マネージャーでは、情報カタログ内に作成できるオブジェクト・タイプのは数は999,999までで、各タイプごとに作成できるオブジェクトの数は99,999,999までです。この制限には、すでに削除したものも含め、いままでに作成したすべてのオブジェクト・タイプが含まれます。

情報カタログ・マネージャー・ウィンドウまたはタグ言語を使って、オブジェクト・タイプを作成できます。

情報カタログ・マネージャー (Web 版) のオブジェクト・タイプの作成に関する注意事項

情報カタログ・マネージャー内に新しいオブジェクト・タイプを作成する際には、オブジェクト・タイプに固有のアイコンを関連付けることができます。情報カタログ・マネージャー (Web 版) の場合、以下の要件を使用して、それぞれの新規オブジェクト・タイプ・アイコンを作成してください。

- 2 つの .gif ファイルを作成します。1 つ目のファイルの大きさは 20 x 20 ピクセルでなければならず、2 つ目のファイルの大きさは最善の表示を得るために 32 x 32 ピクセルでなければなりません。
- 各 .gif ファイルごとに以下のファイル名を使用します。ファイル名は小文字であることを確認してください。
 - 32 x 32 である .gif ファイルの場合、`dg_lobj_short_name.gif` を使用します。
ここで、`obj_short_name` は、オブジェクト・タイプの短縮名 (PTNAME) です。
 - 20 x 20 である .gif ファイルの場合、`dg_smobj_short_name.gif` を使用します。
ここで、`obj_short_name` は、オブジェクト・タイプの短縮名 (PTNAME) です。

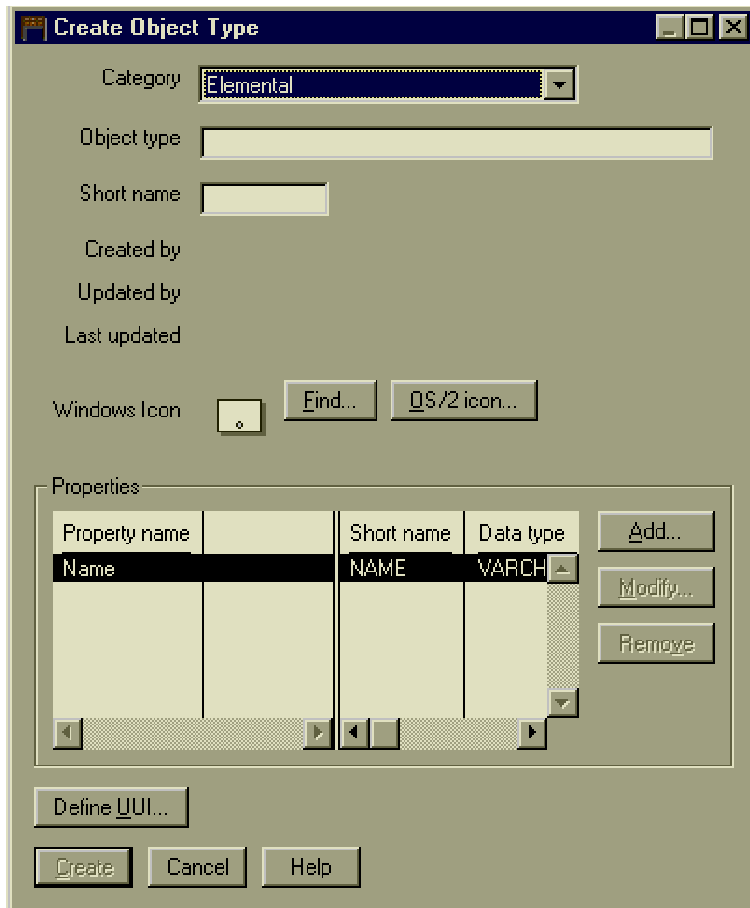
Web サーバー上の `¥ICONS` ディレクトリーに、新しい .gif ファイルを入れるようにしてください。

情報カタログ・マネージャー・ウィンドウを使って、オブジェクトを作成する方法

「情報カタログ (Information Catalog)」ウィンドウから開始します。

1. 「オブジェクト・タイプ (Object types)」アイコンで、右マウス・ボタンをクリックする。
2. 「オープン形式 (Open as) → アイコン・リスト (Icon list)」をクリックする。
3. 「新規オブジェクト・タイプ (New Object Type)」アイコンでマウスの右ボタンをクリックする。
4. 「オープン (Open)」をクリックする。
「オブジェクト・タイプの作成 (Create Object Type)」ウィンドウがオープンします。

独自のオブジェクトを作成する



5. 下矢印をクリックして、情報カタログ・マネージャー区分のリストを表示し、その中から 1 つ選択する。
6. 「**オブジェクト・タイプ名 (Object type name)**」フィールドに新規オブジェクト・タイプ用の固有な外部名を入力する。
オブジェクト・タイプ名の規則は次のとおりです。
 - 最大 80 文字。
 - ヌル文字を含んではならない。
 - すべてをブランク文字にすることはできない。
7. 「**短縮名 (Short name)**」フィールドに、新規オブジェクト・タイプ用の固有の短縮名を入力する。
短縮名の規則は次のとおりです。
 - 最大 8 文字 (単一バイト文字セット)。

- 最初の文字は大文字または小文字の英字、@、#、または \$ でなければならない。
 - 続く文字は大文字または小文字の英数字、@、#、\$、または _ でなければならない。
8. (任意選択) オブジェクト・タイプ・アイコンを識別する。選択済み区分用のデフォルトの Windows アイコンが「**Windows アイコン (Windows icon)**」フィールドに表示されます。オブジェクト・タイプを示す異なるアイコンを識別する方法は次のとおりです。
- 「**検索 (Find)**」をクリックして、Windows の別のアイコンを探し出し、そのウィンドウに表示する。
9. オブジェクト・タイプの特性をすべて定義する (詳細情報については『オブジェクト・タイプの特性の定義』を参照)。
- | | |
|--------------|--------------------------|
| クリック: | 対象: |
| 追加 | 追加特性の定義 |
| 変更 | オブジェクト・タイプ作成前に特性を変更する |
| 除去 | オブジェクト・タイプを作成する前に特性を除去する |
- 特性を選択し、「**除去 (Remove)**」を選択する。
10. 「**UI の定義 (Define UI)**」をクリックして、オブジェクト・タイプの汎用固有 ID (UII) を構成する最高 5 つの特性を選択する (詳細情報については 38 ページの『オブジェクト・タイプへの汎用固有 ID の定義』を参照)。
11. 「**作成 (Create)**」をクリックして、データベースに変更内容を保管する。変更した内容は、「オブジェクト・タイプ (Object Types)」ウィンドウには表示されますが、他のウィンドウには、一度クローズして、再びオープンするまで表示されません。
- オブジェクト・タイプを作成しないで、ウィンドウをクローズするには、「**キャンセル (Cancel)**」をクリックします。

オブジェクト・タイプの特性の定義

各オブジェクト・タイプには、最高 255 の特性を持つことができます。特性を定義する順番で、特性を見ることとなります。オブジェクト・タイプを作成してから特性の変更や再編成をすることはできません。

情報カタログ・マネージャーは、すべての情報カタログ・マネージャー・オブジェクト・タイプに共通の 5 つの特性を定義しています。これら 5 つの特性は 36 ページの表 10 にまとめられています。

独自のオブジェクトを作成する

表 10. 情報カタログ・マネージャー・オブジェクト・タイプ共通特性

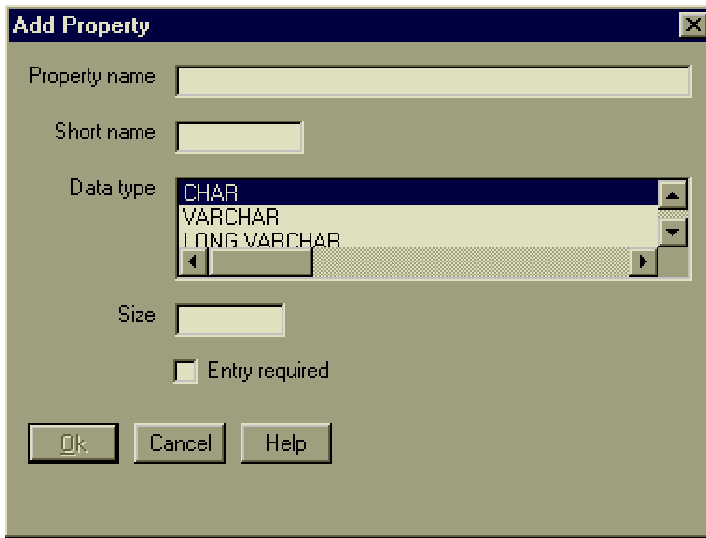
特性の外部名	プロパティ短縮名	定義
オブジェクト・タイプ識別子	OBJTYPID ¹	情報カタログ・マネージャーは、ローカル情報カタログの有効範囲内のオブジェクトのオブジェクト・タイプを固有に識別するこの値を生成します。
インスタンス識別子	INSTIDNT ¹	情報カタログ・マネージャーは、ローカル情報カタログの有効範囲内のオブジェクトを固有に識別するこの値を生成します。
名前	NAME	オブジェクトの名前を指定します。ユーザーが容易に認識でき、理解できる名前を選びます。
最終変更日付および時刻	UPDATIME ¹	情報カタログ・マネージャーは、オブジェクトが最後に変更された日付と時刻を示すこの値を生成します。
最終変更者	UPDATEBY ¹	情報カタログ・マネージャーは、最終変更日付および時刻特性を最後に更新した情報カタログ・マネージャー・セッションのユーザー ID を示すこの値を生成します。

注:

1. 情報カタログ・マネージャーのノートブックの設定の「**システム生成特性を隠す (Hide system generated properties)**」チェック・ボックスを選択すると、オブジェクトの記述にこの特性は現れなくなります。

追加特性の定義手順:

1. 「**特性 (Properties)**」リストの隣の「**追加 (Add)**」ボタンを選択する。
「特性の追加 (Add Property)」ウィンドウがオープンされます。



このウィンドウを使って特性を定義します。

2. 「特性名 (**Property name**)」フィールドで、特性の名前を入力する。
特性名の規則は次のとおりです。
 - 最大 80 文字。
 - ヌル文字を含んではならない。
 - すべてをブランク文字にすることはできない。
3. 「短縮名 (**Short name**)」フィールドで、固有のプロパティ短縮名を入力する。
短縮名の規則は次のとおりです。
 - 最大 8 文字 (SBCS)。
 - 最初の文字は大文字または小文字の英字、@、#、または\$ でなければならない。
 - 続く文字は大文字または小文字の英数字、@、#、\$、または_ でなければならない。
 - SQL 予約語は使用できない。
 - 固有でなければならない。入力した名前がこのオブジェクト・タイプにすでにあると、情報カタログ・マネージャーは別の名前を要求します。
4. 「データ・タイプ (**Data type**)」リストから、その特性のデータ・タイプを 1 つ選択する。

CHAR 最大 254 文字

VARCHAR

最大 4 000 文字

独自のオブジェクトを作成する

LONG VARCHAR

最大 32 700 文字

TIMESTAMP

次の形式で、正確に 26 文字

yyyy-mm-dd-hh.mm.ss.nnnnnn:

オブジェクト・タイプあたり 14 個までの LONG VARCHAR 特性を持てます。

5. 「**サイズ (Size)**」フィールドに特性のサイズを入力する。サイズは、選択したデータ・タイプの範囲内になければなりません。
6. このタイプのオブジェクトを作るたびにこの特性の入力が必要ななら、「**必須入力 (Entry required)**」を選択する。
7. 「**OK**」をクリックして、「オブジェクト・タイプ (Object Types)」ウィンドウに戻る。

オブジェクト・タイプへの汎用固有 ID の定義

すべてのオブジェクト・タイプは、その少なくとも 1 つの特性が汎用固有 ID つまり UUI の一部でなければなりません。UUI は一連のストリングで、これにより情報カタログ・マネージャーはオブジェクトを区別することができます。この要件があるために、ある情報カタログの内容を別の情報カタログへインポートすることができます。

たとえば、製造部門の情報カタログに製品リストという名前のオブジェクトを作成し、その部門が製造するすべての製品を示すことができます。販売部門の情報カタログにも製品リストという名前のオブジェクトがあり、販売部門が売るすべての製品を示していることがあります。

これらのオブジェクトを固有に識別する方法がないと、情報カタログを結合するときに記述データを上書きする危険があります。

情報カタログ・マネージャーでは、UUI を定義することで上書きを防ぎます。固有の名前を考え出す必要もなく、別の情報カタログでオブジェクトがどう呼ばれているかを知る必要もありません。

あるオブジェクト・タイプについて 5 つまで特性を選び、任意の順番に指定します。それぞれの特性の値が、与えられた順にそのタイプのオブジェクトの UUI になります。

オブジェクトを情報カタログにインポートするとき、情報カタログ・マネージャーは UUI 特性の値を比較して、既存のオブジェクトと一致するかどうかを

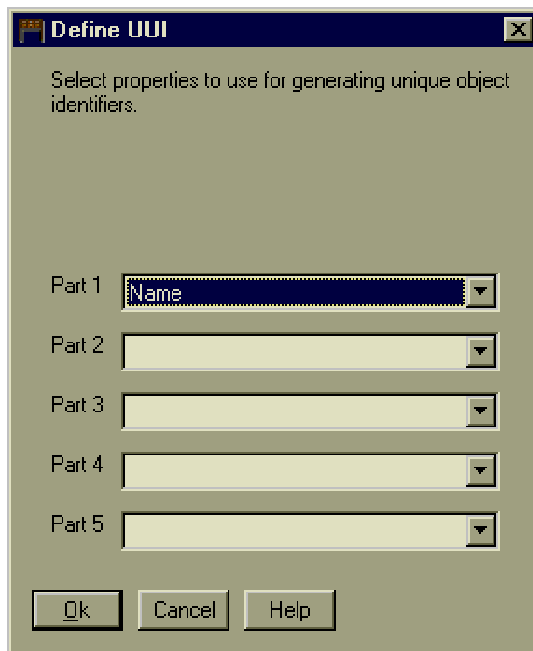
独自のオブジェクトを作成する

確認します。両方のオブジェクトですべての UUI 特性が同じであれば、情報カタログ・マネージャーは 2 つを同じオブジェクトとみなします。そして、すでにあるオブジェクトの非 UUI 特性を更新します。UUI 特性の値が異なっていれば、情報カタログ・マネージャーは入力オブジェクトを情報カタログに追加します。

購入要求票番号や国際標準書番号 (ISBN) など、指定したい特性がそれだけで間違いなく固有になるのであれば、5 つすべての特性を指定する必要はありません。必要のない UUI 特性のフィールドには非適用記号を入力できます。あるいは、オブジェクト・タイプを作成するときに、UUI 特性を減らすことができます。(情報カタログを作成したときに別のシンボルを識別していない場合は、非適用記号はハイフンです。)

パフォーマンス上の理由から、UUI 特性の選択の際には、結合した値の合計文字数が 254 より少なくなるように注意してください。

「UUI の定義 (Define UUI)」ウィンドウから開始する UUI の定義手順:



1. UUI のパーツとして、特性を 5 つまで選択する。パーツ番号によって、その特性の UUI 順序での位置が決まります。

情報カタログ・マネージャーは特性について選択に制限を与えます。

独自のオブジェクトを作成する

- 必須特性だけしか選択できない。
- データ・タイプが `LONG VARCHAR` の特性は選択できない。
- データ・タイプが `VARCHAR` で、最大長が 254 バイトを超える特性は選択できない。
- 2 つ以上のパーツに対し同じ特性を使用できない。
- パーツを飛ばすことはできない。(たとえば、パーツ 1、3、5 だけを選択することはできない。)

それぞれのパーツについて、特性を選択してください。

- a. 「**パーツ (Part)**」フィールドの横にある下矢印キーを使って、使用可能な特性のリストを見る。
 - b. 特性をクリックする。
2. パーツの入力を終了したら、「**OK**」をクリックして、`UII` 定義を有効にし、「オブジェクト・タイプ (Object Types)」ウィンドウに戻る。

情報カタログ・マネージャー・タグ言語を使用してオブジェクト・タイプを作成する

1. ユーザーのタグ言語ファイルに次の行を入力します。

```
ACTION.OBJTYPE(ADD)
OBJECT.TYPE(short_name_of_object_type)
    PHYNAME (name_of_table)
    CATEGORY(category_of_object_type)
    EXTNAME(external_name_of_object_type)
    ICWFILE(name_of_Windows_icon_file)
```

各キーワードの後の括弧内に適切な値を入力します。

キーワード

値

TYPE オブジェクト・タイプの短縮名。短縮名の規則は次のとおりです。

- 最大 8 文字 (SBCS)。
- 最初の文字は大文字または小文字の英字、`@`、`#`、または `$` でなければならない。
- 続く文字は大文字または小文字の英数字、`@`、`#`、`$`、または `_` でなければならない。
- 情報カタログについて固有でなければならない。

PHYNAME

`DB2` 表の名前。情報カタログ・マネージャーはこのタイプのオブジェクトをここに保管します。

DB2 表に対し命名規則がある場合は、PHYNAME を使い、部門の情報カタログでは別の名前、つまりオブジェクト・タイプ名とは異なる名前を与えることができます。

この特性を指定しないと、情報カタログ・マネージャーは TYPE で与えた短縮名を使います。

タグ言語ファイルを使ってオブジェクト・タイプを作成するときだけ PHYNAME を追加できます。ユーザー・インターフェースを介して PHYNAME を追加することはできません。

CATEGORY

区分 (GROUPING、ELEMENTAL、CONTACT、DICTIONARY、または SUPPORT)

EXTNAME

オブジェクト・タイプの外部名。外部名の規則は、次のとおりです。

- 最大 80 文字。
- ヌル文字を含んではならない。
- すべてをブランク文字にすることはできない。

ICWFILE

Windows アイコン・ファイルの名前。拡張子を含みます。タグ言語ファイルをインポートするとき、IMPORT コマンドの一部として、アイコン・ファイルがある場所をドライブとパスに指定します。

2. オブジェクト・タイプに与える特性ごとに、次のように入力します。

```
:PROPERTY.SHRTNAME(short_name) DT(data_type) DL(size)  
    UUISEQ(position_in_UUI) NULLS(y_or_n) EXTNAME(property_name)
```

キーワード

値

SHRTNAME

プロパティ短縮名。特性短縮名の規則は次のとおりです。

- 最大 8 文字 (SBCS)。
- 最初の文字は大文字または小文字の英字、@、#、または \$ でなければならない。
- 続く文字は大文字または小文字の英数字、@、#、\$、または _ でなければならない。
- SQL 予約語は使用できない。

独自のオブジェクトを作成する

- 固有でなければならない。入力した名前がこのオブジェクト・タイプにすでにあると、情報カタログ・マネージャーは別の名前を要求します。

DT データ・タイプ **C**、**V**、**L**、または **T**

C (CHAR) 最大 254 文字

V (VARCHAR) 最大 4 000 文字

L (LONG VARCHAR) 最大 32 700 文字

T (TIMESTAMP) 次の形式で 26 文字

yyyy-mm-dd-hh.mm.ss.nnnnnn

DL 特性のサイズ

UISEQ

UII でのこの特性の位置。1、2、3、4、または 5。特性を UII の一部にしたい場合にのみ指定します。

NULLS

必須の項目かどうか。

N 必須の項目です。

Y 必須の項目ではありません。

EXTNAME

特性名。特性名の規則は次のとおりです。

- 最大 80 文字。
- ヌル文字を含んではならない。
- すべてをブランク文字にすることはできない。

「名前」特性をこのオブジェクト・タイプの UII の一部にしたい場合には、この特性で持てるキーワードは SHRTNAME と UISEQ だけです。情報カタログ・マネージャーは他のキーワードのための値を定義するので、他のキーワードまたはその値は指定しません。

オブジェクト・タイプの特性をすべて追加すると、タグ言語ファイルは 43 ページの図3 のようになります。43 ページの図3 では、短縮版の「リレーショナル表および視点 (Relational tables and views)」オブジェクト・タイプを示します。このオブジェクト・タイプは情報カタログ・マネージャーが提供する事前定義オブジェクト・タイプの 1 つです。完全なオブジェクト・タイプの定義は、DB2 ユニバーサル・データベースがインストールされているドライブ上にある ¥SQLLIB¥DWIN¥TYPES ディレクトリー内にあります。

```

COMMENT.-----
COMMENT.Generating the report object definitions.
COMMENT.-----
ACTION.OBJTYPE(MERGE)
OBJECT.TYPE(REPORT) CATEGORY(ELEMENTAL) PHYNAME(REPORTS)
      EXTNAME(Text based reports) ICWFILE(flgnyprep.ico)
PROPERTY. SHRTNAME(NAME)                UUISEQ(0)
PROPERTY. SHRTNAME(SHRTDESC)  DT(V)  DL(250)  UUISEQ(0)  NULLS(Y)
      EXTNAME(Short description)
PROPERTY. SHRTNAME(LONGDESC)  DT(L)  DL(32700) UUISEQ(0)  NULLS(Y)
      EXTNAME(Long description)
PROPERTY. SHRTNAME(ACTIONS)   DT(V)  DL(254)  UUISEQ(0)  NULLS(Y)
      EXTNAME(Actions)
PROPERTY. SHRTNAME(TITLE)     DT(V)  DL(254)  UUISEQ(0)  NULLS(N)
      EXTNAME(Report title)
PROPERTY. SHRTNAME(RPRTDATE)  DT(C)  DL(26)   UUISEQ(0)  NULLS(Y)
      EXTNAME(Report publication date)
PROPERTY. SHRTNAME(RPRTFRMT)  DT(V)  DL(80)   UUISEQ(0)  NULLS(Y)
      EXTNAME(Report presentation format)
PROPERTY. SHRTNAME(DBPRESNT)  DT(V)  DL(254)  UUISEQ(0)  NULLS(Y)
      EXTNAME(Report presentation requirements)
PROPERTY. SHRTNAME(OWNER)     DT(V)  DL(80)   UUISEQ(0)  NULLS(Y)
      EXTNAME(Report owner)
PROPERTY. SHRTNAME(FILENAME)  DT(V)  DL(254)  UUISEQ(1)  NULLS(N)
      EXTNAME(Report filename)
PROPERTY. SHRTNAME(TYPE)      DT(V)  DL(80)   UUISEQ(2)  NULLS(N)
      EXTNAME(Report class or type)
PROPERTY. SHRTNAME(URL)       DT(V)  DL(254)  UUISEQ(0)  NULLS(Y)
      EXTNAME(URL to access data)

```

図3. オブジェクト・タイプのサンプル・タグ言語ファイル

オブジェクト・タイプの更新

既存のオブジェクト・タイプに対しては、次の変更のみ可能です。

- 外部名の変更
- そのアイコンの変更
- 特性の追加

情報カタログ・マネージャー・ウィンドウまたはタグ言語を使って、オブジェクト・タイプを更新できます。

情報カタログ・マネージャー・ウィンドウを使用したオブジェクト・タイプの更新

「情報カタログ (Information Catalog)」ウィンドウから開始します。

1. 「オブジェクト・タイプ (Object types)」アイコンで、右マウス・ボタンをクリックする。

オブジェクト・タイプの更新

2. 「オープン形式 (**Open as**) → アイコン・リスト (**Icon list**)」をクリックする。
3. 変更したいオブジェクト・タイプのアイコンで右マウス・ボタンをクリックする。
4. 「オープン (**Open**)」をクリックする。
「オブジェクト・タイプの更新 (Update Object Type)」ウィンドウがオープンされます。
5. 外部名を変更するには、「オブジェクト・タイプ名 (**Object type name**)」フィールドに新しい名前を入力する。オブジェクト・タイプ名の規則は次のとおりです。
 - 最大 80 文字。
 - ヌル文字を含んではならない。
 - すべてをブランク文字にすることはできない。
6. 選択済み区分用のデフォルトの Windows アイコンは「**Windows アイコン (Windows icon)**」フィールドに表示される。オブジェクト・タイプを示す特定のアイコンを識別する方法は次のとおりです。
 - 「**検索 (Find)**」をクリックして、Windows の別のアイコンを探し出し、そのウィンドウに表示する。
7. オブジェクト・タイプに特性を追加するには (タイプがコメントでなければ拡張できない)、「**追加 (Add)**」をクリックする。
「特性の追加 (Add Property)」ウィンドウがオープンされます。
 - a. 「**特性名 (Property name)**」フィールドで、特性の名前を入力する。特性名の規則は次のとおりです。
 - 最大 80 文字。
 - ヌル文字を含んではならない。
 - すべてをブランク文字にすることはできない。
 - b. 「**短縮名 (Short name)**」フィールドで、固有のプロパティ短縮名を入力する。短縮名の規則は次のとおりです。
 - 最大 8 文字 (SBCS)。
 - 最初の文字は大文字または小文字の英字、@ (アットマーク)、# (番号記号)、または \$ (ドル記号) でなければならない。
 - 続く文字は大文字または小文字の英数字、@ (アットマーク)、# (番号記号)、\$ (ドル記号)、または _ (下線) でなければならない。
 - SQL 予約語は使用できない。
 - 固有でなければならない。入力した名前がこのオブジェクト・タイプにすでにあると、情報カタログ・マネージャーは別の名前を要求します。

- c. リストからデータ・タイプをクリックする。
- d. 「サイズ (Size)」フィールドにサイズを入力する。
- e. 「OK」をクリックして、特性を追加する。

特性を追加しないで、ウィンドウをクローズするには、「キャンセル (Cancel)」をクリックします。

このステップは AS/400 情報カタログでは使用できません。

8. この変更アクションの際に追加した特性を変更するには、「特性 (Properties)」リストの該当特性を選択した後、状況に合わせて、「修正 (Modify)」または「除去 (Remove)」をクリックする。

このステップは AS/400 情報カタログでは使用できません。

9. 「更新 (Update)」をクリックして、データベースに変更内容を保管する。
変更した内容は、「オブジェクト・タイプ (Object Types)」ウィンドウには表示されますが、他のウィンドウには、一度クローズして、再びオープンするまで表示されません。

オブジェクト・タイプを更新しないで、ウィンドウをクローズするには、「キャンセル (Cancel)」をクリックします。

情報カタログ・マネージャー・タグ言語を使用してオブジェクト・タイプを更新する

1. ユーザーのタグ言語ファイルに次の行を入力する。

```
:ACTION.OBJTYPE(UPDATE)
:OBJECT.TYPE(short_name_of_object_type)
```

2. 外部名を変更するには、次の行を追加する。

```
EXTNAME(new_external_name_of_object_type)
```

3. オブジェクト・タイプのアイコンを変更するには、次の行を追加する。

```
ICOFILE(new_OS/2_icon_filename)
ICWFILE(new_Windows_icon_filename)
```

各キーワードの後の括弧内に適切な値を入力します。

キーワード	値
TYPE	更新するオブジェクト・タイプの短縮名。
EXTNAME	オブジェクト・タイプの新規外部名。外部名の規則は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 最大 80 文字。 • ヌル文字を含んではならない。

- すべてをブランク文字にすることはできない。

ICOFILE

OS/2 の新しいアイコン・ファイルの名前。拡張子も含まれます。タグ言語ファイルをインポートするとき、**IMPORT** コマンドの一部として、アイコン・ファイルがある場所をドライブとパスに指定します。

ICWFILE

Windows の新しいアイコン・ファイルの名前。拡張子も含まれます。タグ言語ファイルをインポートするとき、**IMPORT** コマンドの一部として、アイコン・ファイルがある場所をドライブとパスに指定します。

4. 任意指定特性を追加するには、ユーザーのタグ言語ファイルに次の行を入力する。

```
:ACTION.OBJTYPE(APPEND)
:OBJECT.TYPE(short_name_of_object_type)
:PROPERTY.SHRTNAME(short_name_of_new_property) DT(data_type) DL(size)
    UISEQ(0) NULLS(y) EXTNAME(external_name_of_new_property)
```

各キーワードの後の括弧内に適切な値を入力します。

オブジェクト・タイプを作成したあとで追加するすべての特性は、任意指定特性でなければならないので、UISEQ は 0 で NULLS は Y でなければなりません。

キーワード 値

TYPE 更新するオブジェクト・タイプの短縮名。

SHRTNAME プロパティ短縮名。特性短縮名の規則は次のとおりです。

- 最大 8 文字 (SBCS)。
- 最初の文字は大文字または小文字の英字、@ (アットマーク)、# (番号記号)、または \$ (ドル記号) でなければならない。
- 続く文字は大文字または小文字の英数字、@ (アットマーク)、# (番号記号)、\$ (ドル記号)、または _ (下線) でなければならない。
- SQL 予約語は使用できない。
- 固有でなければならない。入力した名前がこのオブジェクト・タイプにすでにあると、情報カタログ・マネージャーは別の名前を要求します。

DT	データ・タイプ C 、 V 、 L 、または T								
	<table> <tr> <td>C (CHAR)</td> <td>最大 254 文字</td> </tr> <tr> <td>V (VARCHAR)</td> <td>最大 4 000 文字</td> </tr> <tr> <td>L (LONG VARCHAR)</td> <td>最大 32 700 文字</td> </tr> <tr> <td>T (TIMESTAMP)</td> <td>次の形式で、正確に 26 文字 (行の切れ目に意味はありません)</td> </tr> </table> <p>yyyy-mm-dd-hh.mm. ss.nnnnnn</p>	C (CHAR)	最大 254 文字	V (VARCHAR)	最大 4 000 文字	L (LONG VARCHAR)	最大 32 700 文字	T (TIMESTAMP)	次の形式で、正確に 26 文字 (行の切れ目に意味はありません)
C (CHAR)	最大 254 文字								
V (VARCHAR)	最大 4 000 文字								
L (LONG VARCHAR)	最大 32 700 文字								
T (TIMESTAMP)	次の形式で、正確に 26 文字 (行の切れ目に意味はありません)								
DL	特性のサイズ								
EXTNAME	<p>特性の外部名。特性名の規則は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 最大 80 文字。 • ヌル文字を含んではならない。 • すべてをブランク文字にすることはできない。 								

オブジェクト・タイプの削除

オブジェクト・タイプを削除すると、同じタイプのオブジェクトもすべて削除されます (ただし、別のオブジェクト・タイプのオブジェクトを含む Grouping オブジェクトではない場合です)。情報カタログ・マネージャー・ウィンドウまたはタグ言語を使って、情報カタログからオブジェクト・タイプを削除できます。

情報カタログ・マネージャー・ウィンドウを使用したオブジェクト・タイプの削除

1. (任意選択) 削除したいオブジェクト・タイプのオブジェクトを検索して、それらを保存する必要がないことを確認する。
2. 「情報カタログ (Information Catalog)」ウィンドウの「オブジェクト・タイプ (Object types)」アイコンで右マウス・ボタンをクリックする。
3. 「オープン形式 (Open as) → アイコン・リスト (Icon list)」をクリックする。
4. 削除したいオブジェクト・タイプのアイコンで右マウス・ボタンをクリックする。
5. 「削除 (Delete)」をクリックする。
「削除 (Delete)」ウィンドウがオープンされます。

オブジェクト・タイプの削除

6. 「削除 (**Delete**)」をクリックして、オブジェクト・タイプを削除する。
7. 削除の確認として 「はい (**Yes**)」をクリックする。

オブジェクト・タイプを削除すると、情報カタログ・マネージャーにより、そのオブジェクト・タイプに直接関係のあるすべてのウィンドウがクローズされます。

情報カタログ・マネージャー・タグ言語を使用してオブジェクト・タイプを削除する

ユーザーのタグ言語ファイルに次の行を入力する。

```
:ACTION.OBJTYPE(DELETE_EXT)  
:OBJECT.TYPE(short_name_of_object_type)
```

各キーワードの後の括弧内に適切な値を入力します。

キーワード	値
TYPE	削除するオブジェクト・タイプの短縮名。

第3章 カタログへの情報の移植

必要なオブジェクト・タイプを定義したら、情報カタログにオブジェクトを移植または充てんします。オブジェクトは情報の単位または別個のグループを表す単位です。各オブジェクトは、1つのオブジェクト・タイプに対応しています。たとえば、イメージというオブジェクト・タイプがあったとします。このオブジェクト・タイプで My_DBA と呼ばれるオブジェクトは、データベース管理者のビットマップ写真を記述します。

この章では、次の処理について説明します。

- オブジェクトの作成
- 既存オブジェクトのコピー
- 既存オブジェクトの更新
- オブジェクトの削除

オブジェクトの作成

さまざまなタイプのオブジェクトを作成して、組織で利用できる実際の情報を表します。情報カタログ・マネージャー・ウィンドウまたはタグ言語を使って、オブジェクトを作成できます。

情報カタログ・マネージャー・ウィンドウを使用してオブジェクトを作成する

「情報カタログ (Information Catalog)」ウィンドウから開始します。

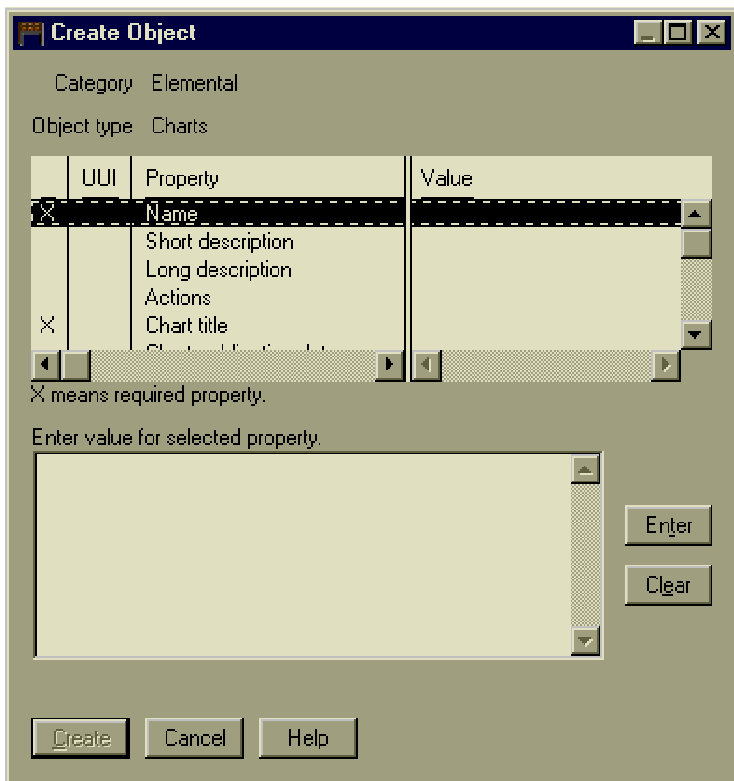
1. 「情報カタログ・マネージャー・カタログ (Information Catalog Manager Catalog)」ウィンドウの「オブジェクト・タイプ (Object types)」アイコンで右マウス・ボタンをクリックする。
2. 「オープン形式 (Open as) → アイコン・リスト (Icon list)」をクリックする。
3. オブジェクトを作成したいオブジェクト・タイプのアイコンで右マウス・ボタンをクリックする。

「プログラム (Programs)」アイコンまたは「コメント (Comments)」アイコンを使ってオブジェクトを作成することはできません。プログラムと既存のオブジェクト・タイプを関連付ける際、プログラム・オブジェクトを作成します (70ページの『オブジェクト・タイプとプログラムとの関連づけ』

オブジェクトの作成

を参照)。ほかのオブジェクト・タイプの既存オブジェクトからコメント・オブジェクトを作成します (65ページの『オブジェクトとコメントを関連づける』を参照)。

4. 「オブジェクトの作成 (Create object)」をクリックする。
「オブジェクトの作成 (Create object)」ウィンドウがオープンされます。



5. 「特性 / 値 (Properties/Values)」リスト・ボックスから特性を選択する。
6. 「選択済み特性の値を入力 (Enter value for selected property)」フィールドに特性の値を入力する。
7. 「特性 / 値 (Properties/Values)」リスト・ボックスの「値 (Values)」の列に値を移動させるには、「入力 (Enter)」をクリックする。
「選択済み特性の値を入力 (Enter value for selected property)」フィールドに入れたものを消したいときは、「消去 (Clear)」を選択します。
8. 値の入力が終わったら、「作成 (Create)」をクリックする。
オブジェクトを作成しないでウィンドウをクローズするには、「キャンセル (Cancel)」をクリックします。

情報カタログ・マネージャー・タグ言語を使用してオブジェクトを作成する

情報カタログ・マネージャーのタグ言語を使って、多くのオブジェクトを同時に作成することができます。オブジェクト・タイプを定義したあとで、そのオブジェクト・タイプを定義した同じタグ言語ファイルに、オブジェクトを作成するためのタグ言語を含めることができます。特性の順番は決まっていません。また、値がない場合にはその特性は省略できます。

すべてオブジェクト・タイプ特性を識別するために、必要な数の `short_name(value_for_property)` 行を使用して、ユーザーのタグ言語ファイルに次の行を入力します。

```
ACTION.OBJINST(ADD)
OBJECT.TYPE(short_name_of_object_type)
INSTANCE.short_name(value_for_property)
        short_name(value_for_property)
        short_name(value_for_property)
```

各キーワードの後の括弧内に適切な値を入力します。

キーワード	値
TYPE	オブジェクトを作成しているオブジェクト・タイプの短縮名。
short_name	オブジェクト・タイプ特性の短縮名。

オブジェクトごとに、オブジェクト・タイプ特性の短縮名を入力し、特性の値を括弧に入れて続けます。図4は、タグ言語を使ってオブジェクトを作成する例です。この例は、43ページの図3の定義を使用して作成されたオブジェクト・タイプに基づいています。

```
COMMENT.-----
COMMENT. Creating objects of object type
COMMENT. "Relational tables and views"
COMMENT.-----
ACTION.OBJINST(ADD)
OBJECT.TYPE(TABLES)
INSTANCE.NAME(Customer)
        SHRTDESC(Customer information table)
        LONGDESC(Customer number, name, Ce1Dial rep, customer contact information.)
        ACTIONS(Click on 'Start Program...' to invoke Visualizer TableViewer.)
        REMARKS(DB2 table) DBNAME(DGWDATA) OWNER(USERID) TABLE(CUSTOMER)
        URL(http://$$$$@/info_cat/db2www/dg_tableviewer.mac/Table_Login?DATABASE=
DGWDATA&TABLE=CUSTOMER&OWNER=USERID)
        SOURCE(DB2 SYSTEM CATALOGS)
```

図4. タグ言語を使ったオブジェクトの作成

オブジェクトのコピー

既存のオブジェクトの値を使用した、新しいオブジェクトを作成することができます。(コメントのコピーについての詳細情報は、66ページの『コメントのコピー』を参照してください。) 次のウィンドウのいずれかから開始してください。

探索結果 (Search Results)

集合 (Collection)

被検索値 (Found In)

連絡先 (Contacts)

主題 (Subjects)

ツリー・ビュー (Tree View)

リンク (Linked With)

1. コピーしたいオブジェクトで右マウス・ボタンをクリックする。
2. 「コピー (Copy)」をクリックする。
「オブジェクトのコピー (Copy Object)」ウィンドウがオープンされます。
3. 「特性 / 値 (Properties/Values)」リスト・ボックスから特性を選択する。
4. 「選択済み特性の値を入力 (Enter value for selected property)」フィールドの特性の値を編集する。

UI 値の少なくとも 1 つは変更して、新しいオブジェクトが固有のものとなるようにください。

「選択済み特性の値を入力 (Enter value for selected property)」フィールドの既存の値を消去したいときは、「消去 (Clear)」をクリックします。

5. 「特性 / 値 (Properties/Values)」リスト・ボックスの「値 (Values)」の列に、変更された値を移動させるには、「入力 (Enter)」をクリックする。
6. 値の変更が終わったら、「コピー (Copy)」をクリックする。
オブジェクトをコピーしないでウィンドウをクローズするには、「キャンセル (Cancel)」をクリックします。

オブジェクトの更新

情報カタログ・マネージャー・ウィンドウまたはタグ言語を使って、既存のオブジェクトの値を変更できます。(コメントの更新についての詳細情報は、67ページの『コメントの更新』を参照してください。)

情報カタログ・マネージャー・ウィンドウを使用してオブジェクトを更新する

次のウィンドウのいずれかから開始してください。

探索結果 (Search Results)

集合 (Collection)
 被検索値 (Found In)
 連絡先 (Contacts)
 主題 (Subjects)
 ツリー・ビュー (Tree View)
 リンク (Linked With)

1. 更新したいオブジェクトで右マウス・ボタンをクリックする。
2. 「更新 (Update)」をクリックする。
「オブジェクトの更新 (Update Object)」ウィンドウがオープンされます。
3. 「特性 / 値 (Properties/Values)」リスト・ボックスから特性をクリックする。
4. 「選択済み特性の値を入力 (Enter value for selected property)」フィールドの特性の値を編集する。
「選択済み特性の値を入力 (Enter value for selected property)」フィールドの既存の値を消去したいときは、「消去 (Clear)」をクリックします。
5. 「特性 / 値 (Properties/Values)」リスト・ボックスの「値 (Values)」の列に、変更された値を移動させるには、「入力 (Enter)」をクリックする。
6. 値の変更が終わったら、「更新 (Update)」をクリックする。
オブジェクトを更新しないでウィンドウをクローズするには、「キャンセル (Cancel)」をクリックします。

情報カタログ・マネージャー・タグ言語を使用してオブジェクトを更新する

1. ユーザーのタグ言語ファイルに次の行を入力します。

```

ACTION.OBJINST(UPDATE)
OBJECT.TYPE(short_name_of_object_type)
  
```

2. 次の行を入力する。このとき、変更したいオブジェクトの UUI 特性と特性値を入力します。

```

:INSTANCE.SOURCEKEY(UUI_short_name(value_for_property)
  UUI_short_name(value_for_property)
  UUI_short_name(value_for_property))
  
```

各キーワードの後の括弧内に適切な値を入力します。

キーワード	値
UUI_short_name	オブジェクト・タイプの UUI 特性の短縮名。

SOURCEKEY キーワードの後に指定した特性と値が、UUI です。そのオブジェクト・タイプを作成したとき、5 つまでの特性をある順序で定義して

オブジェクトの更新

UII を作りました。これらの特性や値を入力するとき、情報カタログ・マネージャーは、オブジェクト・タイプに定義されている順に値を検査して、特定のオブジェクトを見つけます。

SOURCEKEY キーワードの後にくるすべての特性と値は、全体を括弧で囲みます。

- オブジェクトの特性のうち更新したい特性の短縮名を入力し、その後に特性の新しい値を括弧で指定する。

```
short_name(new_value_for_property)
```

オブジェクトのすべての特性を含める必要はありません。指定しなければ、その特性は更新されません。

図5 は、タグ言語を使ってオブジェクトを更新する例です。例は、51ページの図4 で作成されたものと同じ UII 特性と値を持つオブジェクトに基づいています。

この例では、SHRTDESC の値が更新されます。

```
ACTION.OBJINST(UPDATE)
OBJECT.TYPE(TABLES)
INSTANCE.SOURCEKEY(DBNAME(DGWDATA) OWNER(USERID)
          TABLE(CUSTOMER))
          SHRTDESC(Mobile phone customer information table)
```

図5. タグ言語を使ったオブジェクトの更新

オブジェクトの削除

情報カタログ・マネージャー・ウィンドウまたはタグ言語を使って、情報カタログからオブジェクトを削除できます。(コメントの削除についての情報は、68ページの『コメントの削除』を参照してください。)

情報カタログ・マネージャー・ウィンドウを使用してオブジェクトを削除する

次のウィンドウのいずれかから開始してください。

探索結果 (Search Results)

集合 (Collection)

被検索値 (Found In)

連絡先 (Contacts)

主題 (Subjects)

ツリー・ビュー (Tree View)

リンク (Linked With)

1. 削除したいオブジェクトで右マウス・ボタンをクリックする。
2. 「削除 (Delete)」をクリックする。
 - 削除しようとするオブジェクトが Grouping オブジェクトであれば、「ツリーの削除 (Delete Tree)」ウィンドウがオープンされます。
 - 削除しようとするオブジェクトが Grouping オブジェクトでなければ、「削除 (Delete)」ウィンドウがオープンされます。
3. (任意選択) 削除したくないオブジェクトは「オブジェクト (Object)」リスト・ボックスから選択解除する。
4. Grouping オブジェクトを削除する場合、Grouping オブジェクトに含まれるオブジェクトを使って情報カタログ・マネージャーに実行させたい内容を決める。
 - 「すべての下位オブジェクトの削除 (Delete all underlying objects)」チェック・ボックスを選択して、含まれるオブジェクトをすべて削除する。
 - 「すべての下位オブジェクトの削除 (Delete all underlying objects)」チェック・ボックスを選択解除して、含まれるオブジェクトを保持し、Grouping オブジェクトとの関連を削除する。
5. 「削除 (Delete)」をクリックして、オブジェクトを削除する。

このオブジェクトは情報カタログから削除されます。

情報カタログ・マネージャー・タグ言語ウィンドウを使用してオブジェクトを削除する

1. Grouping オブジェクトおよびそれに含まれるすべてのオブジェクトを削除するには、タグ言語ファイルに次のように入力する。

```
ACTION.OBJINST(DELETE_TREE_ALL)
```

下位のツリー構造を含め、Grouping オブジェクトと、それがかわるすべての関係を削除するには、タグ言語ファイルに次のように入力する。

```
ACTION.OBJINST(DELETE_TREE_REL)
```

Grouping オブジェクト以外を削除するには、タグ言語ファイルに次のように入力します。

```
ACTION.OBJINST(DELETE)
```
2. 次の行を入力する。このとき、削除したいオブジェクトのオブジェクト・タイプを入力します。

```
OBJECT.TYPE(short_name_of_object_type)
```

オブジェクトの削除

3. 次の行を入力する。このとき、削除したいオブジェクトの UII 特性と特性値を入力します。

```
INSTANCE.SOURCEKEY(UII_short_name(value_for_property)
    UII_short_name(value_for_property)
    UII_short_name(value_for_property))
```

各キーワードの後の括弧内に適切な値を入力します。

キーワード	値
TYPE	オブジェクトを削除しているオブジェクト・タイプの短縮名。
UII_short_name	オブジェクトを削除する対象のオブジェクト・タイプの UII 特性の短縮名。

SOURCEKEY キーワードの後に指定した特性と値が、UII です。そのオブジェクト・タイプを作成したとき、5 つまでの特性をある順序で定義し UII を作りました。これらの特性や値を入力するとき、情報カタログ・マネージャーは、オブジェクト・タイプに定義されている順に値を検査して、特定のオブジェクトを見つけます。

SOURCEKEY キーワードの後にくるすべての特性と値は、全体を括弧で囲みます。

図6 では、**Grouping** オブジェクトとそれが含むすべてのオブジェクトを削除するためのタグ言語の例を示します。この例は、51ページの図4 で作成されたオブジェクトに基づいています。

```
ACTION.OBJINST(DELETE_TREE_ALL)
OBJECT.TYPE(TABLES)
INSTANCE.SOURCEKEY(DBNAME(DGWDATA) OWNER(USERID)
    TABLE(CUSTOMER))
```

図6. タグ言語を使ったオブジェクトの削除

この例では、**DBNAME(DGWDATA) OWNER(USERID) TABLE(CUSTOMER)** で識別される表オブジェクトが削除されます。

第4章 情報カタログをユーザーにとって便利なものにする

情報カタログをユーザーにとってさらに便利なものにすることができます。情報カタログ・マネージャーを使って、次のことができます。

- 走査が簡単にできるように主題分野ごとにオブジェクトをグループ化する。
- 関連のあるオブジェクトとリンクする。
- オブジェクトに連絡先の名前を加える。
- オブジェクトとコメントを関連付ける。
- プログラムを開始するオブジェクト・タイプを設定する。
- ユーザーのために標準用語の用語集を設定する。
- ユーザーのためにサポート情報やヘルプ情報を提供する。

オブジェクトのグループ化、オブジェクトのリンク、オブジェクトに連絡先を追加する、コメントとオブジェクトを関連付ける等の作業は、すべてオブジェクト間の関係を確立する方法です。関係を作成し始めたら、パフォーマンスを拡張するためにも、エラーを避けるためにも、トップダウン・アプローチを使用するようにしてください。たとえば、CelDial 販売情報 (CelDial Marketing Information) オブジェクトが広告情報 (Advertising Information) オブジェクトを含んでいて、それがさらに WWW での広告 (Advertisements on the WWW) を含むことが分かっている場合は、広告情報 (Advertising Information) を CelDial 販売情報 (CelDial Marketing Information) に置き、その後 WWW での広告 (Advertisements on the WWW) を広告情報 (Advertising Information) に置きます。

いくつかの層に及ぶ関係をすでに持つオブジェクトと、あるオブジェクトを関連させることは避けるようにしてください。

主題によるオブジェクトのグループ化

情報カタログ・マネージャー・オブジェクトと一緒にグループ化して編成することができます。グループ化をネストすると、情報カタログを階層的に編成することができます。情報カタログ・マネージャーにより、「主題 (Subjects)」ウィンドウの一番高いレベルのグループ化が表示されます。これは、「情報カタログ (Information Catalog)」ウィンドウの「**主題 (Subjects)**」アイコンにより表されます。

情報カタログ・マネージャー・ウィンドウまたはタグ言語を使って、オブジェクトをグループ化できます。

主題によるオブジェクトのグループ化

情報カタログ・マネージャー・ウィンドウを使用して主題ごとにグループ化する

1. Grouping 区分オブジェクトを作成するか (詳細は 49ページの『オブジェクトの作成』を参照)、以下のウィンドウの 1 つの既存 Grouping オブジェクトを位置指定する。

探索結果 (Search Results)

集合 (Collection)

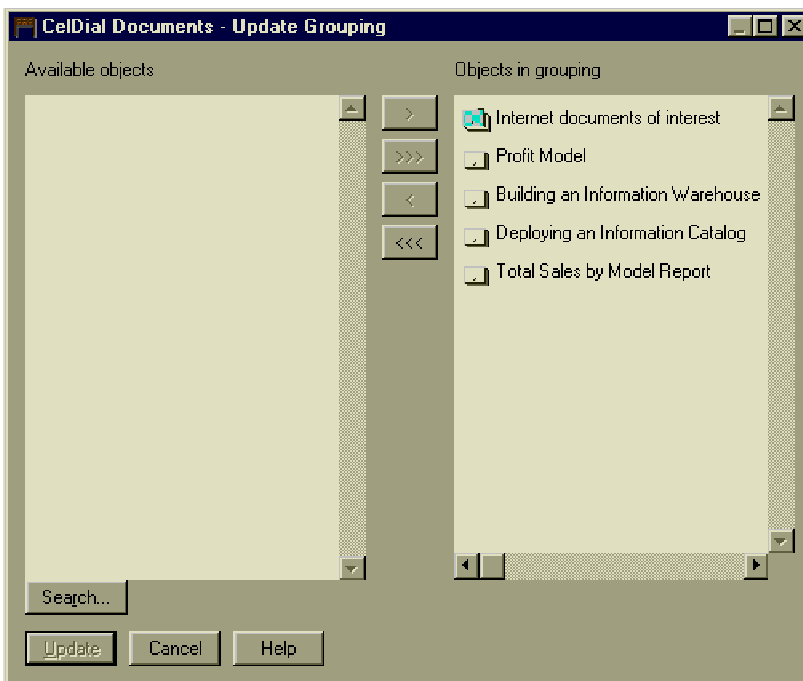
被検索値 (Found In)

主題 (Subjects)

リンク (Linked With)

ツリー・ビュー (Tree View)

2. そのオブジェクトで右マウス・ボタンをクリックする。
3. 「グループ化の更新 (Update grouping)」をクリックする。
「グループ化の更新 (Update grouping)」ウィンドウがオープンされます。



4. オブジェクトをグループ化に追加する手順:
 - a. 「探索 (Search)」をクリックする。

「探索の定義 - グループ (Define Search - Grouping)」ウィンドウがオープンされます。このウィンドウを使って、取り込みたいウィンドウを探索してください。探索基準に合致するオブジェクトが、「使用可能なオブジェクト (Available objects)」リストの「グループ化の更新 (Update Grouping)」ウィンドウに返されます。

- b. 「使用可能なオブジェクト (Available objects)」リストで 1 つまたは複数のオブジェクトを選択する。
 - c. 「>」をクリックして、選択したオブジェクトを「グループ化のオブジェクト (Objects in grouping)」リストに移動する。
5. グループ化からオブジェクトを削除する手順:
- a. 「グループ化のオブジェクト (Objects in grouping)」リストから 1 つまたは複数のオブジェクトを選択する。
 - b. 「<」をクリックして、選択したオブジェクトを「グループ化のオブジェクト (Objects in grouping)」リストに移動する。
6. 「更新 (Update)」をクリックする。

ツリー・ビューから実施すると、その変更結果がすぐに表示されますが、他のウィンドウで更新結果を表示するには、それをクローズして再オープンしなければなりません。

グループ化を変更しないでウィンドウをクローズするには、「キャンセル (Cancel)」をクリックします。

タグ言語を使用して主題ごとにオブジェクトをグループ化する

タグ言語を使って情報カタログ・マネージャー・オブジェクトのグループ化を作成するには、Grouping として区分されたオブジェクトと Grouping または Elemental として区分されたオブジェクトの間で包含関係を指定します。

1. 1 つのグループ化にオブジェクトを追加するには、ユーザーのタグ言語ファイルに次の行を入力する。

```
:ACTION.RELATION(ADD)
```

2. 1 つのグループ化からオブジェクトを削除するには、ユーザーのタグ言語ファイルに次の行を入力する。

```
:ACTION.RELATION(DELETE)
```

3. 次の行を入力して、包含関係を指定する。SOURCETYPE に Grouping オブジェクトのタイプを、TARGETTYPE にそのグループに含めたいオブジェクト・タイプを、それぞれ入力します。

```
:RELTYPE.TYPE(CONTAIN) SOURCETYPE(short_name_of_object_type)  
TARGETTYPE(short_name_of_object_type)
```

主題によるオブジェクトのグループ化

4. 次の行を入力する。このとき、Grouping オブジェクトの UUI 特性と特性値を入力します。

```
:INSTANCE.SOURCEKEY(UUI_short_name(value_for_property)
    UUI_short_name(value_for_property)
    UUI_short_name(value_for_property))
```

5. 次の行を入力する。このとき、グループ化に含めたいオブジェクトの UUI 特性と特性値を入力します。

```
TARGETKEY(UUI_short_name(value_for_property)
    UUI_short_name(value_for_property)
    UUI_short_name(value_for_property))
```

各キーワードの後の括弧内に適切な値を入力します。

キーワード	値
SOURCETYPE	ソース・オブジェクト・タイプの短縮名。
TARGETTYPE	ターゲット・オブジェクト・タイプの短縮名。
UUI_short_name	オブジェクト・タイプの UUI 特性の短縮名。

SOURCEKEY と TARGETKEY キーワードの後にあるすべての特性と値は、括弧で全体を囲みます。

図7 は、タグ言語を使って Grouping オブジェクトにオブジェクトを追加する例です。この例では、ソースとターゲットのオブジェクトがすでに作成されているものとしします。

```
ACTION.RELATION(ADD)
RELTYPE.TYPE(CONTAIN) SOURCETYPE(TABLES) TARGETTYPE(COLUMN)
INSTANCE.SOURCEKEY(DBNAME(DGWDATA) OWNER(USERID)
    TABLE(AR_HISTORY))
    TARGETKEY(DBNAME(DGWDATA) OWNER(USERID) TABLE(AR_HISTORY)
    COLUMN(BAL30))
```

図7. タグ言語を使ってオブジェクトをグループ化へ追加する

この例では、DBNAME(DGWDATA) OWNER(USERID) TABLE(AR_HISTORY) COLUMN(BAL30) で識別されるオブジェクトが、DBNAME(DGWDATA) OWNER(USERID) TABLE(AR_HISTORY) で識別される Grouping オブジェクトに置き換えられます。

オブジェクト間のリンク関係を作成する

1 つのオブジェクトで表されるデータが、ほかのオブジェクトで表されるオブジェクトと関連していることをユーザーに示すために、オブジェクトを関連させることにより、リンクされた関係を作成します。情報カタログ・マネージャー・ウィンドウまたはタグ言語を使用してオブジェクトをリンクできます。

情報カタログ・マネージャー・ウィンドウを使用してオブジェクトをリンクする

リンク関係を作成するには、次のウィンドウのいずれかから開始してください。

探索結果 (Search Results)

集合 (Collection)

被検索値 (Found In)

主題 (Subjects)

ツリー・ビュー (Tree View)

リンク (Linked With)

1. リンク関係にある、他のオブジェクトと関連付けたいオブジェクトで右マウス・ボタンをクリックする。オブジェクトのポップアップ・メニューがオープンされます。
2. 「**リンクの更新 (Update links)**」をクリックする。
「リンクの更新 (Update links)」ウィンドウがオープンされます。
3. 他のオブジェクトを選択したオブジェクトにリンクする手順:
 - a. 「**探索 (Search)**」をクリックする。
「探索の定義 - リンク (Define Search - Links)」がオープンされます。このウィンドウを使用して、選択したオブジェクトとのリンク関係に取り込みたいオブジェクトを検索します。探索基準に合致するオブジェクトが、「**使用可能なオブジェクト (Available objects)**」リストの「**リンクの更新 (Update Links)**」ウィンドウに返されます。
 - b. 「**使用可能なオブジェクト (Available objects)**」リストで 1 つまたは複数のオブジェクトを選択する。
 - c. 「>」をクリックして、選択したオブジェクトを「**リンク・オブジェクト (Linked objects)**」リストに追加する。
4. リンク関係からオブジェクトを削除する手順:
 - a. 「**リンク・オブジェクト (Linked objects)**」リストで 1 つまたは複数のオブジェクトを選択する。

オブジェクト間のリンク関係を作成する

- b. 「<」をクリックして、選択したオブジェクトを「リンク・オブジェクト (Linked objects)」リストから削除する。
5. オブジェクトの追加および削除が終わったら、「更新 (Update)」をクリックする。リンク関係がすべて更新されます。
オブジェクトを変更しないで、ウィンドウをクローズするには、「キャンセル (Cancel)」をクリックします。

タグ言語を使用したオブジェクトのリンク

タグ言語を使用して関連したオブジェクトをリンクする場合は、Grouping または Elemental として区分化された 2 つのオブジェクト間にリンク関係を指定します。

1. 2 つのオブジェクト間にリンクを作成するには、ユーザーのタグ言語ファイルに次の行を入力する。

```
:ACTION.RELATION(ADD)
```

2. 2 つのオブジェクト間のリンクを除去するには、ユーザーのタグ言語ファイルに次の行を入力する。

```
:ACTION.RELATION(DELETE)
```

3. 次の行を入力してリンク関係を指定する。このとき SOURCETYPE と TARGETTYPE にリンクしたい 2 つのオブジェクトのタイプを入力します。

```
:RELTYPE.TYPE(LINK) SOURCETYPE(short_name_of_object_type)  
TARGETTYPE(short_name_of_object_type)
```

4. このとき、リンクしようとしているオブジェクトの UUI 特性と特性値を入力する。

```
:INSTANCE.SOURCEKEY(UUI_short_name(value_for_property)  
UUI_short_name(value_for_property)  
UUI_short_name(value_for_property))
```

5. このとき、リンクしようとしているオブジェクトの UUI 特性と特性値を入力する。

```
TARGETKEY(UUI_short_name(value_for_property)  
UUI_short_name(value_for_property)  
UUI_short_name(value_for_property))
```

各キーワードの後の括弧内に適切な値を入力します。

キーワード	値
SOURCETYPE	ソース・オブジェクト・タイプの短縮名。
TARGETTYPE	ターゲット・オブジェクト・タイプの短縮名。
UUI_short_name	オブジェクト・タイプの UUI 特性の短縮名。

オブジェクト間のリンク関係を作成する

SOURCEKEY と TARGETKEY キーワードの後にあるすべての特性と値は、括弧で全体を囲みます。

図8 は、タグ言語を使って 2 つの Grouping オブジェクト間のリンク関係を作成する例を示します。この例では、ソースとターゲットのオブジェクトがすでに作成されているものとします。

```
ACTION.RELATION(ADD)
RELTYPE.TYPE(LINK) SOURCETYPE(TABLES) TARGETTYPE(TABLES)
INSTANCE.SOURCEKEY(DBNAME(DGWDATA) OWNER(USERID)
    TABLE(COMPONENTS))
    TARGETKEY(DBNAME(DGWDATA) OWNER(USERID) TABLE(CUSTSHIP))
```

図8. タグ言語を使用して 2 つのオブジェクトをリンクする

この例では、2 つのリレーショナル表がリンクされます。

連絡先とオブジェクトを関連させる

組織の中で、情報カタログのユーザーが、オブジェクトにより記述された実際のデータに関係している担当者を見つけるのをサポートできます。情報カタログ・マネージャー・ウィンドウまたはタグ言語を使って、オブジェクトの連絡先を識別できます。

情報カタログ・マネージャー・ウィンドウを使用してオブジェクトと連絡先を関連させる

1. Contact 区分オブジェクトを作成する。
2. Grouping または Elemental 区分オブジェクトを作成するか (詳細は 49ページの『オブジェクトの作成』を参照)、または次のウィンドウの 1 つの既存 Grouping または Elemental オブジェクトを位置指定する。
 - 探索結果 (Search Results)
 - 集合 (Collection)
 - 被検索値 (Found In)
 - 主題 (Subjects)
 - ツリー・ビュー (Tree View)
 - リンク (Linked With)
3. Grouping または Elemental オブジェクトで右マウス・ボタンをクリックする。
4. 「連絡先 (Contacts) → 関連づけ (Associate)」を選択する。
「連絡先の関連づけ (Associate Contacts)」ウィンドウがオープンされます。

連絡先とオブジェクトを関連させる

5. オブジェクトに連絡先を追加する手順:
 - a. 「探索 (Search)」をクリックする。

「探索の定義 - 連絡先 (Define Search - Contacts)」ウィンドウがオープンされます。このウィンドウを使って、取り込みたい連絡先オブジェクトを探索してください。探索基準に合致するオブジェクトが、「使用可能な連絡先 (Available contacts)」リスト・ボックスの「連絡先の関連づけ (Associate Contacts)」ウィンドウに返されます。
 - b. 「使用可能な連絡先 (Available contacts)」リストで 1 つまたは複数のオブジェクトを選択する。
 - c. 「>」をクリックして、選択したオブジェクトを「連絡先 (Contacts)」リストに移動する。
6. 連絡先をオブジェクトから削除する手順:
 - a. 「連絡先 (Contacts)」リストで 1 つまたは複数のオブジェクトを選択する。
 - b. 「<」をクリックして、選択したオブジェクトを「連絡先 (Contacts)」リストから移動する。
7. 「関連づけ (Associate)」をクリックする。更新結果を表示するには、ウィンドウをクローズして再びオープンしなければなりません。

連絡先を追加または削除しないでウィンドウをクローズするには、「キャンセル (Cancel)」をクリックします。

タグ言語を使用してオブジェクトと連絡先を関連させる

タグ言語を使って別の情報カタログ・マネージャー・オブジェクトに連絡先オブジェクトを追加するには、それらの間に Contact 関係を指定します。

1. 連絡先を追加するには、タグ言語ファイルに次の行を入力する。

```
:ACTION.RELATION(ADD)
```
2. 連絡先を削除するには、タグ言語ファイルに次の行を入力する。

```
:ACTION.RELATION(DELETE)
```
3. 次の行を入力する。このとき、SOURCETYPE の連絡先に対応するオブジェクトのタイプを入力します。

```
:RELTYPE.TYPE(CONTACT) SOURCETYPE(short_name_of_object_type)  
TARGETTYPE(short_name_of_contact_object)
```
4. 次の行を入力する。このとき、連絡先に対応するオブジェクトの UUI 特性と特性値を入力します。

```
:INSTANCE.SOURCEKEY(UUI_short_name(value_for_property)  
UUI_short_name(value_for_property)  
UUI_short_name(value_for_property))
```

5. 次の行を入力する。このとき、Contact オブジェクトの UUI 特性と特性値を入力します。

```
TARGETKEY(UUI_short_name(value_for_property))
UUI_short_name(value_for_property)
UUI_short_name(value_for_property))
```

各キーワードの後の括弧内に適切な値を入力します。

キーワード	値
SOURCETYPE	ソース・オブジェクト・タイプの短縮名。
UUI_short_name	オブジェクト・タイプの UUI 特性の短縮名。

SOURCEKEY と TARGETKEY キーワードの後にあるすべての特性と値は、括弧で全体を囲みます。

図9 は、タグ言語を使ってデータベース・オブジェクトに連絡先を追加する例です。この例では、ソースとターゲットのオブジェクトがすでに作成されているものとします。

```
ACTION.RELATION(ADD)
RELTYPE.TYPE(CONTACT) SOURCETYPE(DATABASE) TARGETTYPE(CONTACT)
INSTANCE.SOURCEKEY(SERVER(STL11W71) DBNAME(DGWDATA)
DBTYPE(RELATIONAL))
TARGETKEY(NAME(Robin Noble-Thomas) RESPONSE(EUI team lead))
```

図9. タグ言語を使って表オブジェクトに連絡先を追加する

この例では、NAME(Robin Noble-Thomas) RESPONSE(EUI team lead) で識別される Contact オブジェクトを SERVER(STL11W71) DBNAME(DGWDATA) DBTYPE(RELATIONAL) で識別されるオブジェクトに追加します。

オブジェクトとコメントを関連づける

情報カタログ・マネージャーを使用して、本のページに『付せん』を付けるかのように、オブジェクトにコメントを追加することができます。ノートには自分用の、および本を読む他のユーザーのための、追加情報を含めることができ、あとでそれを取り除き廃棄することができます。

コメント は他のオブジェクトに注釈を付けるオブジェクトです。たとえば、図表データについてのノートを含む図表オブジェクトに、コメントを付加することができます。

オブジェクトとコメントを関連づける

コメントの作成

特定の情報カタログ・マネージャー・オブジェクトに関するコメントが作成できます。自分の覚え書き、あるいは組織内の情報カタログの他のユーザーとの通信の手段として、コメントを使用することができます。

次のウィンドウのいずれかから開始してください。

探索結果 (Search Results)

集合 (Collection)

被検索値 (Found In)

連絡先 (Contacts)

主題 (Subjects)

ツリー・ビュー (Tree View)

リンク (Linked With)

アタッチメント (Attachments)

1. コメントを付加したいオブジェクトで右マウス・ボタンをクリックする。
「アタッチメント (Attachments)」ウィンドウから開始する場合は、このステップは不要です。
2. 「アタッチメント (Attachments) → コメントの作成 (Create comment)」をクリックする。
「アタッチメント (Attachments)」ウィンドウから開始する場合は、「アタッチメント (Attachments) → コメントの作成 (Create comment)」をクリックします。
「コメントの作成 (Create Comment)」ウィンドウがオープンされます。
3. 「名前 (Name)」フィールドにコメント名を入力する。
4. 状況をコメントに割り当てる。
5. (任意選択)「アクション (Actions)」フィールドに、コメントのテキストに基づいて取らせたい特定のアクションを入力する。
6. 「記述 (Description)」フィールドにコメントの完全なテキストを入力する。
7. 「作成 (Create)」をクリックして、コメントを作成し、それを特定のオブジェクトに付加する。
コメントを作成しないでウィンドウをクローズするには、「キャンセル (Cancel)」をクリックします。

コメントのコピー

既存のコメントをコピーして、後にオブジェクトに付加できる独立したコメントを作成することができます。

次のウィンドウのいずれかから開始してください。

探索結果 (Search Results)

集合 (Collection)

アタッチメント (Attachments)

1. コピーしたいコメントで右マウス・ボタンをクリックする。
2. 「**コピー (Copy)**」をクリックする。
「コメントのコピー (Copy Comment)」ウィンドウがオープンされます。
3. (任意選択) 次の値のいずれかを変更する。
 - 名前 (Name)
 - アクション (Actions)
 - 状況 (Status)
 - 記述 (Description)
4. 「**コピー (Copy)**」をクリックして、コピーされたコメントを作成する。
コメントをコピーしないでウィンドウをクローズするには、「**キャンセル (Cancel)**」をクリックします。

コメントの更新

テキストを含め、既存のコメントのさまざまな値を変更できます。

次のウィンドウのいずれかから開始してください。

探索結果 (Search Results)

集合 (Collection)

アタッチメント (Attachments)

1. 更新したいコメントでマウスの右ボタンをクリックする。
2. 「**更新 (Update)**」をクリックする。
「コメントの更新 (Update Comment)」ウィンドウがオープンされます。

オブジェクトとコメントを関連づける

The screenshot shows a dialog box titled "Update Comment". It contains the following fields and controls:

- Name:** Comment on sales information--1st quarter
- Created by:** MICHELLE
- Creation date:** 2000-01-23-21.41.50.462000
- Actions:** (Empty text field)
- Status:** Open (dropdown menu)
- Reference:** SALES
- Description:** Comment description goes in this field. (text area)
- Buttons:** Update, Cancel, Help

3. 次の値のうち最低 1 つを変更する。
 - 名前 (Name)
 - アクション (Actions)
 - 状況 (Status)
 - 記述 (Description)
4. 「更新 (Update)」をクリックする。

コメントを更新しないでウィンドウをクローズするには、「キャンセル (Cancel)」をクリックします。

コメントの削除

既存のコメントは、それがオブジェクトに付加されているかどうかにかかわらず削除できます。

次のウィンドウのいずれかから開始してください。

- 探索結果 (Search Results)
- 集合 (Collection)
- アタッチメント (Attachments)

1. 削除したいコメントで右マウス・ボタンをクリックする。
2. 「削除 (Delete)」をクリックする。

「削除 (Delete)」ウィンドウがオープンされます。

3. (任意選択) 削除したくないコメントは「オブジェクト (Object)」リスト・ボックスから選択解除する。
4. 「削除 (Delete)」をクリックして、コメントを削除する。

このコメントは情報カタログから削除されます。

コメントとオブジェクトの接続と切り離し

特定のオブジェクトに既存の非接続コメントを接続することができます。また、特定のオブジェクトからコメントを切り離すこともできます。既存のコメントを接続したり、切り離したりするには、次のウィンドウのいずれかから開始します。

探索結果 (Search Results)

集合 (Collection)

被検索値 (Found In)

連絡先 (Contacts)

主題 (Subjects)

ツリー・ビュー (Tree View)

リンク (Linked With)

1. Attachment 関係を変更したいオブジェクトで右マウス・ボタンをクリックする。
2. 「アタッチメント (Attachments) → コメントの関連づけ (Associate comments)」をクリックする。

「コメントの関連づけ (Associate Comments)」ウィンドウがオープンされません。
3. オブジェクトに追加のコメントを接続する手順:
 - a. 「使用可能なコメント (Available comments)」リストで、選択したオブジェクトに接続したい 1 つまたは複数のコメントを選択する。
 - b. 「>」をクリックして、選択したコメントを「現在のコメント (Current comments)」リストに移動する。
4. オブジェクトからコメントを切り離す手順:
 - a. 「現在のコメント (Current comments)」リストで、選択したオブジェクトから切り離したい 1 つまたは複数のコメントを選択する。
 - b. 「<」をクリックして、選択したコメントを「使用可能なコメント (Available comments)」リストに移動する。
5. 特定の Attachment 関係を保存するには、「関連づけ (Associate)」をクリックする。

オブジェクトとコメントを関連づける

Attachment 関係を変更しないでウィンドウをクローズするには、「キャンセル (Cancel)」をクリックします。

オブジェクト・タイプとプログラムとの関連づけ

情報カタログ・マネージャーを使用すると、オブジェクトが記述する実データを取り出すプログラムを簡単に開始できます。たとえば、図形を記述するオブジェクトがある場合は、CorelDRAW! などの図形プログラムをセットアップし、編集、コピー、または印刷用を実際の図を検索できるようにします。

情報カタログ・マネージャー (Windows 版) は使用している Windows のシステムで実行するすべてのプログラム、または MS-DOS コマンド・プロンプトから開始できるすべてのプログラムを開始できます。

単一のオブジェクト・タイプが複数のプログラムを開始することができます (たとえば、スプレッドシートのオブジェクト・タイプはそれに関連する Lotus 1-2-3 と Microsoft Excel を持つことができます)。

オブジェクトからプログラムを開始できるようにするには、プログラム・オブジェクトと Program として区分されない任意のオブジェクト・タイプの間に関連をもたせます。

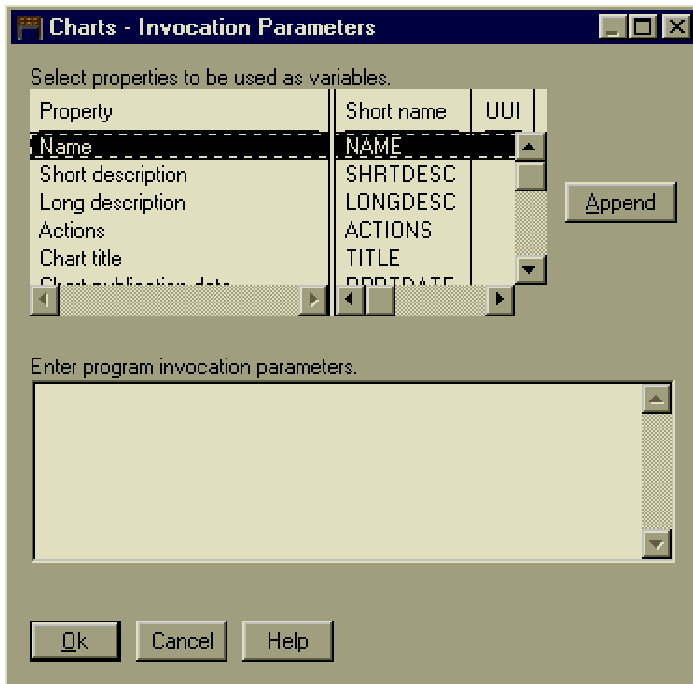
プログラム・オブジェクトの作成

情報カタログ・マネージャー・ウィンドウまたはタグ言語を使って、プログラム・オブジェクトを作成できます。

情報カタログ・マネージャー・ウィンドウを使用してプログラム・オブジェクトを作成する

1. 「情報カタログ (Information Catalog)」ウィンドウ内の「オブジェクト・タイプ (Object types)」アイコンで、右マウス・ボタンをクリックする。
2. 「オープン形式 (Open as) → アイコン・リスト (Icon list)」をクリックする。
3. そのプログラムを開始させたいオブジェクト・タイプのアイコンで、右マウス・ボタンをクリックする。
4. 「プログラムの関連づけ (Associate programs)」をクリックする。
「プログラム (Programs)」ウィンドウに、選択したオブジェクト・タイプに関連するプログラムのリストが表示されます。
5. 「追加 (Add)」をクリックする。
「プログラムの追加 (Add Program)」ウィンドウがオープンされます。

6. 「特性 / 値 (Properties/Values)」 リスト・ボックスから特性を選択する。
7. 「選択済み特性の値を入力 (Enter value for selected property)」フィールドに特性の値を入力する。
これらの値を入力するための具体的な情報は、72ページの『必須のプログラム・オブジェクト特性に値を提供する』を参照してください。
8. 「特性 / 値 (Properties/Values)」 リスト・ボックスの「値 (Values)」の列に値を移動させるには、「入力 (Enter)」をクリックする。
「選択済み特性の値を入力 (Enter value for selected property)」フィールドに入れたものを消したいときは、「消去 (Clear)」をクリックします。
9. 「パラメーター (Parameters)」をクリックして、プログラム・パラメーターとして使用したい値を持つ特性を指定する。「呼び出しパラメーター (Invocation Parameters)」ウィンドウがオープンされます。



10. 「追加 (Add)」をクリックする。
プログラムを追加しないでウィンドウをクローズするには、「キャンセル (Cancel)」をクリックします。

オブジェクト・タイプとプログラムとの関連づけ

必須のプログラム・オブジェクト特性に値を提供する: プログラム・オブジェクトには、いくつかの必須特性があります。それによって、同じプログラムで 2 つ以上の種類のオブジェクトを処理したいときに、プログラム・オブジェクトを区別することができます。これらの特性は表11 に説明されています。

表 11. プログラムにオブジェクト・タイプを関連させるときに必須特性の値を入力する

特性	例	説明
名前 (Name)	Netscape Navigator でホーム・ページを表示する	この値は、ユーザーがオブジェクトからプログラムを開始することを選択すると、「開始する 1 つまたは複数プログラムの選択 (Select one or more programs to start)」リスト・ボックスに表示されます。1 つのプログラムをいくつかのオブジェクト・タイプに関連させている場合は、それぞれの名前特性に同じ値を入力することができます。
クラス	Browser	これらの特性に対し、プログラム・オブジェクトを区分し、識別するのに役立つ任意の値を入力できます。ある特性に値がなければ、非適用記号を入力できます。(情報カタログを作成したときに別のシンボルを識別していない場合は、非適用記号はハイフンです。)
修飾子1	Navigator	
修飾子2	Windows NT	
修飾子3	3.0	
識別子	start netscape.exe	
注: 1. クラス、修飾子 1、修飾子 2、修飾子 3 および識別特性の組み合わせは、情報カタログのすべてのプログラム・オブジェクトの中で固有でなければなりません。オブジェクト・タイプの各インスタンスは異なるものでなければなりません。		

「呼び出しによる開始」という特性に、プログラムのファイル名と推奨される開始パラメーターを入力します。Windows NT、Windows 95、および Windows 98 に推奨される開始パラメーターは START filename.exe です。PATH ステートメントには、プログラムのあるディレクトリーが含まれていなければなりません。

プログラムのファイル名が高性能ファイル・システム (HPFS) 形式で空白が含まれている場合には、プログラムのパス名とファイル名を 2 セットの引用符で囲みます。次はその例です。

```
"D:¥PROGPATH¥My Program.EXE"
```

プログラム名に空白があると、「呼び出しによる開始」特性に対しそれ以外の開始オプションは指定できません。そのかわり、「パラメーター」特性にオプションを入力します。HANDLES 特性の値は変更しないでください。

情報カタログ・マネージャー・タグ言語を使用してプログラム・オブジェクトを作成する

ユーザーのタグ言語ファイルに次の行を入力します。

```
ACTION.OBJINST(ADD)
OBJECT.TYPE(PROGRAMS)
INSTANCE.NAME(name_of_program)
    UIICLASS(class_of_program)
    UIQUAL1(identifier)
    UIQUAL2(identifier)
    UIQUAL3(identifier)
    UIIDENT(identifier)
    HANDLES(short_name_of_object_type)
    STARTCMD(command_to_start_program)
    PARMLIST(list_of_program_parameters)
    SHRTDESC(description_of_program)
```

各キーワードの後の括弧内に適切な値を入力します。

キーワード	値
NAME	プログラムの外部名 (最大 80 文字)。
UIICLASS	スプレッドシートなどの分類特性。
UIQUAL1, 2, 3	追加の識別特性。
UIIDENT	追加の識別特性。
HANDLES	このプログラム・オブジェクトが処理するオブジェクト・タイプの短縮名。この特性は必須です。
STARTCMD	プログラムを開始するのに必要なコマンド。この特性は必須です。STARTCMD キーワードの値の部分として、コマンド・プロセッサ (command.exe) を開始させる必要はありません。
PARMLIST	プログラムを開始するときを使うパラメーター。
SHRTDESC	プログラムの短い記述。

オブジェクト・タイプとプログラムとの関連づけ

図10は、タグ言語を使って、スプレッドシート・オブジェクトを処理するプログラムを設定する例です。この例では、情報カタログにオブジェクト・タイプ **SPRDSHET** がすでにあるものとします。

```
ACTION.OBJINST(ADD)
OBJECT.TYPE(PROGRAMS)
INSTANCE.NAME(Lotus 1-2-3 for Windows)
  UUICLASS(SPRDSHET)
  UUIQUAL1(Lotus 1-2-3)
  UUIQUAL2(Windows)
  UUIIDENT(123w.exe)
  HANDLES(SPRDSHET)
  STARTCMD(start /f /win 123w.exe)
  PARMLIST(%LISTSRCE%)
  SHRTDESC(Lotus 1-2-3 for Windows)
```

図10. スプレッドシート・オブジェクトを処理するプログラムの設定

オブジェクト・タイプに対応したプログラムのコピー

既存の関連の値を基に、プログラムの関連を作ることができます。

1. 「情報カタログ (Information Catalog)」ウィンドウ内の「**オブジェクト・タイプ (Object types)**」アイコンで、右マウス・ボタンをクリックする。
2. 「**オープン形式 (Open as) → アイコン・リスト (Icon list)**」をクリックする。
3. そのプログラムの関連のコピー元にするオブジェクト・タイプのアイコンをクリックする。
4. 「**プログラムの関連づけ (Associate programs)**」をクリックする。
「プログラム (Programs)」ウィンドウに、選択したオブジェクト・タイプに関連するプログラムのリストが表示されます。
5. コピーしたいプログラムを選択する。
6. 「**コピー (Copy)**」をクリックする。
「プログラムのコピー (Copy Program)」ウィンドウがオープンされます。
7. 「**特性 / 値 (Properties/Values)**」リスト・ボックスから特性をクリックする。
8. 「**選択済み特性の値を入力 (Enter value for selected property)**」フィールドで、特性の値を編集する。

「選択済み特性の値を入力 (Enter value for selected property)」フィールドの既存の値を消去したいときは、「消去 (Clear)」をクリックします。

9. 「特性 / 値 (Properties/Values)」リスト・ボックスの「値 (Values)」の列に、変更された値を移動させるには、「入力 (Enter)」をクリックする。
10. 「パラメーター (Parameters)」をクリックして、プログラム・パラメーターとして使用したい値を持つ特性のリストを更新する。
11. 「コピー (Copy)」をクリックする。

プログラム・オブジェクトをコピーしないでウィンドウをクローズするには、「キャンセル (Cancel)」をクリックします。

オブジェクト・タイプに対するプログラムの関連の更新

情報カタログ・マネージャー・ウィンドウまたはタグ言語を使って、指定されたオブジェクト・タイプのプログラムとオブジェクトの間の既存の関連づけの値を変更できます。

情報カタログ・マネージャー・ウィンドウを使用してオブジェクト・タイプに対するプログラム関連を更新する

1. 「情報カタログ (Information Catalog)」ウィンドウ内の「オブジェクト・タイプ (Object types)」アイコンで、右マウス・ボタンをクリックする。
2. 「オープン形式 (Open as) → アイコン・リスト (Icon list)」をクリックする。
3. そのプログラムの関連を更新したいオブジェクト・タイプのアイコンで、右マウス・ボタンをクリックする。
4. 「プログラムの関連づけ (Associate programs)」をクリックする。
「プログラム (Programs)」ウィンドウに、選択したオブジェクト・タイプに関連するプログラムのリストが表示されます。
5. 更新したいプログラムをクリックする。
6. 「更新 (Update)」をクリックする。
「プログラムの更新 (Update Program)」ウィンドウがオープンされます。
7. 「特性 / 値 (Properties/Values)」リスト・ボックスから特性をクリックする。
8. 「選択済み特性の値を入力 (Enter value for selected property)」フィールドで、特性の値を編集する。

オブジェクト・タイプとプログラムとの関連づけ

「選択済み特性の値を入力 (**Enter value for selected property**)」フィールドの既存の値を消去したいときは、「消去 (**Clear**)」をクリックします。

9. 「特性 / 値 (**Properties/Values**)」リスト・ボックスの「値 (**Values**)」の列に、変更された値を移動させるには、「入力 (**Enter**)」をクリックする。
10. 「パラメーター (**Parameters**)」をクリックして、プログラム・パラメーターとして使用したい値を持つ特性のリストを更新する。
11. 値の変更が終わったら、「更新 (**Update**)」をクリックする。
プログラム・オブジェクトを更新しないでウィンドウをクローズするには、「キャンセル (**Cancel**)」をクリックします。

タグ言語を使用してプログラム関連を更新する

情報カタログ・マネージャーのタグ言語を使って、オブジェクトを処理するプログラムを更新できます。タグ言語を使って他のオブジェクトを更新するのと同じようにしてください。これについては、52ページの『オブジェクトの更新』を参照してください。

オブジェクト・タイプからのプログラムの切り離し

情報カタログ・マネージャー・ウィンドウまたはタグ言語を使って、プログラムと指定されたオブジェクト・タイプのオブジェクトの間の関連を削除できます。

情報カタログ・マネージャー・ウィンドウを使ってオブジェクト・タイプからプログラムを切り離す

1. 「情報カタログ (**Information Catalog**)」ウィンドウ内の「オブジェクト・タイプ (**Object types**)」アイコンで、右マウス・ボタンをクリックする。
2. 「オープン形式 (**Open as**) → アイコン・リスト (**Icon list**)」をクリックする。
3. そのプログラムの関連を削除したいオブジェクト・タイプのアイコンで、右マウス・ボタンをクリックする。
4. 「プログラムの関連づけ (**Associate programs**)」をクリックする。
「プログラム (**Programs**)」ウィンドウに、選択したオブジェクト・タイプに関連するプログラムのリストが表示されます。
5. リストから、削除したいプログラムを選択する。
6. 「削除 (**Delete**)」をクリックする。

タグ言語を使ってオブジェクト・タイプからプログラムを切り離す

タグ言語を使ってプログラム・オブジェクトとオブジェクト・タイプとの関連を削除するには、その特定のオブジェクト・タイプを処理するプログラム・オブジェクトを削除します。

1. ユーザーのタグ言語ファイルに次の行を入力する。

```
ACTION.OBJINST(DELETE)
OBJECT.TYPE(PROGRAMS)
```

2. 次の行を入力する。このとき、削除したいオブジェクトの UUI 特性と特性値を入力します。

```
INSTANCE.SOURCEKEY(UUICLASS(class_of_program)
    UUIQUAL1(identifier)
    UUIQUAL2(identifier)
    UUIQUAL3(identifier))
```

情報カタログにすでに値がある UUI 特性だけを入力します。 SOURCEKEY キーワードの後にくるすべての特性と値は、全体を括弧で囲みます。

辞書機能の作成

アイコンを設定すれば、辞書、用語集、類語、または同義語などの情報カタログで使われているビジネス用語の定義や同義語を管理者がすばやく検索できます。

最初にこのアイコンを設定すると、ユーザーの「情報カタログ (Information Catalog)」ウィンドウには、そのアイコンが「保管済み探索 (saved search)」として表示されます。情報カタログのある項目にどんな用語が使われているかを知りたいければ、ユーザーはいつでも「保管済み探索 (saved search)」アイコンをクリックして、用語集にある項目のリストを表示することができます。

情報カタログ・マネージャーには、用語オブジェクト・タイプが添付されています。

辞書機能を作成する手順:

1. Dictionary 区分オブジェクト・タイプを作成する。オブジェクト・タイプの作成については、32ページの『独自のオブジェクトを作成する』を参照してください。
2. このオブジェクト・タイプで新しいオブジェクトを作成する。
3. 情報カタログをクローズする。

情報カタログ・マネージャーに再びログオンすると、新しい辞書機能がユーザーの「情報カタログ (Information Catalog)」ウィンドウに「保管済み探索

辞書機能の作成

(saved search)」として表示されます。新しい辞書機能は、各ユーザーの「情報カタログ (Information Catalog)」ウィンドウにも表示されます。

サポート機能の作成

アイコンを設定して、情報カタログのいろいろなサポートやヘルプ情報をユーザーに提供できます。

このアイコンを使えば、情報カタログの新しい項目や、情報カタログをいつ更新する予定なのかをユーザーに知らせることができます。

最初にこのアイコンを設定すると、ユーザーの「情報カタログ (Information Catalog)」ウィンドウには、そのアイコンが「保管済み探索 (saved search)」として表示されます。サポート機能が現在持っている項目を見たければ、ユーザーはいつでも「保管済み探索 (saved search)」アイコンをクリックして、項目のリストを表示することができます。

情報カタログ・マネージャーには、ニュース・オブジェクト・タイプが添付されています。

サポート機能を作成する手順:

1. Support 区分オブジェクト・タイプを作成する。オブジェクト・タイプの作成については、32ページの『独自のオブジェクトを作成する』を参照してください。
2. このオブジェクト・タイプで新しいオブジェクトを作成する。
3. 情報カタログをクローズする。

情報カタログ・マネージャーに再びログオンすると、新しいサポート機能がユーザーの「情報カタログ (Information Catalog)」ウィンドウに「保管済み探索 (saved search)」として表示されます。新しいサポート機能は、各ユーザーの「情報カタログ (Information Catalog)」ウィンドウにも表示されます。

第5章 情報カタログの拡張と自動化

情報カタログを構築するにつれ、それを拡張したり、維持するためにプロセスを自動化したりする方法が必要になってきます。他の情報カタログとオブジェクトを交換したり、ある情報カタログの内容を別のものと結合させる必要が生じることがあります。たとえば、メタデータの一部を中央に集めるとか、情報カタログの内容を別の組織にも使えるようにするといった場合です。情報カタログ・マネージャーのメタデータを他のプロダクトのメタデータと交換したい場合があります。

情報カタログ・マネージャーは一度に多量の記述データを処理し、複数の情報カタログの調整を図るために、情報カタログ間でオブジェクトの交換をするためのタグ言語を提供します。

- タグ言語ファイルには、次の機能を持つ記述データを含めることができます。
 - 情報カタログからエクスポートしたもの (89ページの『メタデータのエクスポート』を参照。)
 - ほかのソースから抽出したもの (80ページの『他のソースからの記述データの抽出』を参照。)
 - 任意のワード・プロセッシング・プログラムで書かれたもの (ixページの『ユーザー・インターフェースまたはタグ言語による情報カタログ・マネージャーの実行』を参照。)
 - 情報カタログ・マネージャー・タグ言語を生成するプロダクトと交換するもの (97ページの『メタデータの公表および同期化』を参照。)
 - メタデータ交換仕様 (MDIS) に準拠するメタデータを生成する、ほかのプロダクトと交換するもの (111ページの『他のプロダクトと MDIS 準拠メタデータを交換する』を参照。)
- タグ言語ファイルは、1つの情報カタログに記録し、ほかの情報カタログに含めたい削除を構成することができます (86ページの『情報カタログの削除処理のログ』を参照)。

情報カタログに含めたい記述データを含むタグ言語ファイルを、インポートすることができます。詳しくは 88ページの『タグ言語ファイルのインポート』を参照してください。

他のソースからの記述データの抽出

情報カタログに記述データを入力する最も簡単な方法は、すでにある組織の情報の記述を使うことです。多くのデータベースやデスクトップのアプリケーションには、役に立つ記述データがすでに入っており、それらを情報カタログに転送することができます。

情報カタログ・マネージャー・タグ言語を使用して、次のことができます。

- 記述データを抽出する。
- 記述データを変更する。
- (必要であれば) 記述データに追加して、作業グループのニーズに合わせる。
- 記述データを情報カタログにインポートする。

さらに、記述データを抽出すれば、情報カタログの更新や作り直しが簡単になります。ASCII テキスト・ファイルのインポートとエクスポートが可能なワード処理プログラムを使用することで、タグ言語ファイルを編集できます。

情報カタログ抽出プログラムで記述データを抽出する

情報カタログ・マネージャーには、さまざまなソースから記述データを抽出できる一組のプログラムが付いています。情報カタログ・マネージャーを最初にインストールするとき、または任意の時点でこれらの抽出プログラムをインストールできます。情報カタログ・マネージャー (Windows 版) は、`¥SQLLIB¥SAMPLES¥DGEXTxxx` サブディレクトリーにそれらを置きます。

抽出プログラムを使うには、それらが実行される特定の操作環境についてよく知っていなければなりません。必要とする特定の抽出プログラムの実行については、129ページの『付録A. 情報カタログ・マネージャー抽出プログラム』を参照してください。

カスタマイズした記述データ抽出プログラムを書く

既存のデータ・カタログに対し情報カタログ・マネージャーが抽出プログラムを提供していない場合、そこからデータをコピーしたければ、抽出プログラムを作成する必要があります。この抽出プログラムでは、記述データを情報カタログ・マネージャー・タグ言語に変換しなければなりません。そうすることで、その記述データをオブジェクト・タイプおよびオブジェクトとして情報カタログ・マネージャーに直接インポートすることができます。

抽出プログラムの入力と出力

すでにあるデータの形式がデフォルトの入力形式です。抽出プログラムは、出力としてタグ言語ファイルを生成しなければなりません。ただし、抽出プログラムが生成しなければならないタグ言語の出力は、情報源のどの特性を含めるかによって決まります。

この出力タグ言語ファイルには、次のタグの一部または全部を入れることができます。

:DISKCNTL.	現在のディスクットの順次番号を識別し、このファイルがさらに他のディスクットに続いているかどうかを指定する。
:ACTION.	オブジェクト・タイプ、オブジェクト、または関係においてアクションが起こることを指定する。このアクションには追加、更新、削除、付加、マージなどがあります。
:OBJECT.	オブジェクト・タイプとその特性を識別する。
:PROPERTY.	定義するオブジェクト・タイプの特性を識別する。
:INSTANCE.	オブジェクトまたは関係を識別する。
:RELTYPE.	追加または削除する関係のタイプを識別する。
:COMMIT.	情報カタログ・データベースのコミット点を識別する。
:COMMENT.	タグ言語ファイルにコメントが追加できる。
:NL.	(非 UUI 特性に対し)、複数行の特性値を持つことができる。
:TAB.	非 UUI 特性値にタブを挿入できる。

情報カタログ・マネージャー・タグ言語の詳細については、165ページの『付録D. タグ言語』と205ページの『付録E. タグ言語ファイルの使い方』を参照してください。

ユーザーの出力タグ言語ファイルのフォーマット

1 つまたは複数のディスクットにタグ言語ファイルを保管する場合は、ユーザーの抽出プログラムは `:DISKCNTL.` タグを、タグ言語ファイルの先頭に置いて、情報カタログ・マネージャーが何枚のディスクットがユーザーのファイルを含んでいるかを知ることができるようにします。

他のソースからの記述データの抽出

たとえば、最初のディスクセットに次のように指定します。

```
:DISKCNTRL.SEQUENCE(1, +)
```

:DISKCNTRL. タグが、各ディスクセットのファイルの最初のタグでなければなりません。

抽出プログラムを使ったオブジェクト・タイプとオブジェクトの作成

情報カタログ・マネージャーでは、記述データはオブジェクトの特性として保管されます。オブジェクト・タイプは、それぞれのオブジェクトが持つ一組の特性を記述します。一組の未定義の特性を含む記述データを抽出する場合、抽出プログラムはオブジェクト・タイプを作成するタグ言語を生成しなければなりません。

たとえば、あるデータベース・カタログに、そのデータベースにある表がいくつか記述されており、次の特性を情報カタログに保管したいとします。

- 8 文字からなるソースの識別子
- 10 文字からなる表の名前
- 80 文字からなる表の可変長の説明
- 8 文字からなる表の所有者

これらの特性を持つオブジェクト・タイプを作り出すには、抽出プログラムが作成するタグ言語に、図11 に示すようなタグが含まれていなければなりません。

```
:ACTION.OBJTYPE(ADD)
:OBJECT.TYPE(MYTABLE)
    CATEGORY(GROUPING)
    EXTNAME(The tables on my data source)
:PROPERTY.EXTNAME(Data source name)
    DT(C) DL(8) SHRTNAME(DSNAME) UISEQ(2) NULLS(N)
:PROPERTY.EXTNAME(Name of the table)
    DT(C) DL(10) SHRTNAME(TABNAME) UISEQ(1) NULLS(N)
:PROPERTY.EXTNAME(Description of table)
    DT(V) DL(80) SHRTNAME(TABDESC) NULLS(Y)
:PROPERTY.EXTNAME(Owner of table)
    DT(V) DL(8) SHRTNAME(TABOWNER) NULLS(Y)
```

図 11. オブジェクト・タイプを作成するために抽出プログラムから出力されたタグ言語

新しいオブジェクト・タイプを生成する場合、UISEQ オプションを持つ特性のうち、少なくとも 1 つは 1 の値を指定しなければなりません。UISEQ オプションが 2、3、4、または 5 の値である追加特性を 4 つまで指定できます。UISEQ は、UII における特性の位置を指定します。これにより、オブジェクトは情報カタログに対して固有に識別されます。

データベース・カタログに、情報カタログに保管したい 3 つの表の記述データがあるとします。抽出プログラムは、データベース・カタログからこれら 3 つの記述データを読み取ることができます。また、タグ言語ファイルを書いて、オブジェクト・タイプ MYTABLE を持つ 3 つのオブジェクトを生成することもできます。

表に次の特性があるものとします。

ソース名	表名	表の説明	所有者
MYDATA	EMPLOYEE	従業員の個人情報	LONGO
MYDATA	SALES	2000 年の売上高のデータ	VALDEZ
MYDATA	CUSTOMER	顧客の情報通知	MARSH

抽出プログラムは、図12 に示すように、タグを作り出さなければなりません。これらのタグは、タグ言語の中で、オブジェクト・タイプを定義するタグの後に挿入しなければなりません。

```

:ACTION.OBJINST(ADD)
:OBJECT.TYPE(MYTABLE)
:INSTANCE.NAME(Personnel information)
    DSNAME(MYDATA)
    TABNAME(EMPLOYEE)
    TABDESC(Personnel information about company employees)
    TABOWNER(LONGO)
:INSTANCE.NAME(Annual sales information)
    DSNAME(MYDATA)
    TABNAME(SALES)
    TABDESC(Data about 1997 sales-to-date)
    TABOWNER(VALDEZ)
:INSTANCE.NAME(Customer shipping information)
    DSNAME(MYDATA)
    TABNAME(CUSTOMER)
    TABDESC(Shipping information about customers)
    TABOWNER(MARSH)
    
```

図 12. オブジェクト・タイプ MYTABLE のためのタグ言語出力

既存のオブジェクト・タイプ定義の再利用: 情報カタログ・マネージャーに付属のオブジェクト・タイプ定義を生成するために使用されるタグ言語を、独自の抽出プログラムにコピーまたは組み込むことができます。タグ言語は DB2 ユニバーサル・データベースをインストールしたドライブの `SQLLIB¥DGWIN¥TYPES` ディレクトリーにあります。データウェアハウスセン

他のソースからの記述データの抽出

ターに組み込まれているその他のメタデータ・テンプレートについては、データウェアハウスセンター アプリケーション統合の手引き を参照してください。

オブジェクト・タイプとオブジェクトの組み合わせ

情報カタログをリフレッシュするために記述データを抽出する際に、抽出プログラムを何度も使用することがあります。この場合、オブジェクト・タイプやオブジェクトを組み合わせることにより、タグ言語ファイルをインポートするたびに新しいオブジェクトを追加しなくても済むようにすることが大切です。

2つの情報カタログに同じオブジェクト・タイプがある場合、まず、そのオブジェクト・タイプを組み合わせなければ、オブジェクトを組み合わせることはできません。それらの情報カタログに同じオブジェクト・タイプがあるかどうかは確かでない場合でも、オブジェクト・タイプを組み合わせるべきです。

たとえば、「表」オブジェクト・タイプを持つある情報カタログの内容（ソース）を、やはり「表」オブジェクト・タイプを持つ別の情報カタログ（ターゲット）へインポートしたいとします。それらのオブジェクト・タイプが同じ特性を持っているかどうかは確かではないとします。オブジェクトを組み合わせるには、それらのオブジェクト・タイプの定義が同じでなければなりません。オブジェクト・タイプが同じ特性であれば、問題なく組み合わせることができます。そうでない場合には、UII 特性が同じでなければなりません。さらに、ソースの情報カタログにあるオブジェクト・タイプのすべての特性は、ターゲットの情報カタログにあるオブジェクト・タイプの特性と一致しなければなりません。

ソースの情報カタログにあるオブジェクト・タイプの方がターゲットの情報カタログにあるオブジェクト・タイプよりも多くの特性を持っている場合には、2つを組み合わせる前にターゲットの情報カタログにあるオブジェクト・タイプを更新することができます。

オブジェクト・タイプおよびオブジェクトを組み合わせるには、抽出プログラムでタグを作成しなければなりません。85ページの図13は、これを示しています。組み合わせの処理において、情報カタログ・マネージャーは、オブジェクト・タイプの外部名またはそのアイコンは更新しません。


```

:ACTION.OBJTYPE(MERGE)
:OBJECT.TYPE(short_name_of_object_type)
    CATEGORY(category_of_object_type)
    EXTNAME(extended_name_of_object_type)
    ICOFILE(OS/2_icon_file_name)
    ICWFILE(Windows_icon_file_name)
:PROPERTY.SHRTNAME(short_name) DT(data_type) DL(size)
    UISEQ(position_in_UII) NULLS(y_or_n) EXTNAME(extended_name)

```

図 13. オブジェクト・タイプを組み合わせるためのタグ言語出力

制限:

プログラム・オブジェクト・タイプまたはコメント・オブジェクト・タイプを組み合わせることはできません。

オブジェクトを組み合わせるには、図14 に示すタグをユーザーの抽出プログラムで作成しなければなりません。

```

:ACTION.OBJINST(MERGE)
:OBJECT.TYPE(short_name_of_object_type)
:INSTANCE.NAME(extended_name_of_object)
    UII_short_name(value_for_property)
    .
    .
    short_name(value_for_property)
    .
    .

```

図 14. オブジェクトを組み合わせるためのタグ言語出力

情報カタログ・データベースへの変更のコミット

情報カタログ・マネージャーはタグ言語ファイルをインポートするとき、タグ言語ファイルに定義した記述データを情報カタログ・データベースに保管します。しかし、情報カタログ・マネージャーは、タグ言語ファイルの終わりに達するまで、データベースに対しこれらの追加を自動的にコミットしません。情報カタログ・マネージャーは、チェックポイント・タグ (:COMMIT.) を探します。このタグは、データベースへコミット・コールを出すように指示します。タグ言語ファイルが長い場合には、抽出プログラムで、:COMMIT. タグをタグ言語ファイルの中に一定の間隔で入れてください。それぞれのチェックポイント・タグには、タグ言語ファイル中で固有な識別子が必要です。

たとえば、抽出プログラムに :COMMIT. タグを、:ACTION. タグを完全に指定した後に (アクションに対し指定が必要なすべての情報の後に)、含めたい場

他のソースからの記述データの抽出

合があります。プログラムは、オブジェクト・タイプやオブジェクトを作成するタグをすべて作成したあとで、:COMMIT. タグをタグ言語ファイルに入れることができます。

情報カタログ・マネージャーがタグ言語ファイルの一部をインポートできなかった場合には、ファイルの残りを正常なチェックポイントからインポートする必要があります。情報カタログ・マネージャーへ、データベースに対し最後のチェックポイントの時点までロールバックします。このファイルを再びインポートしようとする、情報カタログ・マネージャーは、最後にコミットしたチェックポイントの ID に一致するチェックポイントから開始します。たとえば、タグ言語ファイルで、オブジェクト・タイプを作成するタグの後ろに、プログラムで次のチェックポイントを入れることができます。

```
:COMMIT.CHKPID(objtype1)
```

抽出プログラムの制限

抽出プログラムが特性の値を生成するとき、情報カタログ・マネージャーは前のブランクを取り除きません。たとえば、8 バイト以下に定義された特性に対し、プログラムが TABNAME (EMPLOYEE) ではなく TABNAME (EMPLOYEE) を生成すると、情報カタログ・マネージャーは、エラー・メッセージを戻します。これは、値の長さが 10 バイトで、オブジェクト・タイプ定義で TABNAME 特性に定義した 8 バイトではないからです。

抽出プログラムが、括弧を含む値を持つタグ言語を生成しなければならない場合には、これらの括弧を単一引用符で囲みます。そうしないと、括弧は区切り文字と見なされます。たとえば、値が電話番号 (03) 5555-1234 だとすると、抽出プログラムは、この値を PHONENUM('03')' 5555-1234 と表さなければなりません。

情報カタログ・マネージャーはタグ言語ファイルをインポートするとき、16 進値で X'20' より小さい文字はすべて無視します。記述データに含めることができるのは、英数字かタイム・スタンプだけです。

情報カタログの削除処理のログ

情報カタログから削除されるオブジェクト、オブジェクト・タイプ、または関係のログを保持することができます。ログをタグ言語ファイルに転送し、それを使用して、分散環境の「シャドー」の情報カタログのような他の情報カタログでの削除処理をコピーできます。

他の情報カタログの内容を間違えて削除しないようにするために、削除履歴のタグ言語ファイルを他の情報カタログにインポートする前に、その内容を確認する必要があります。特に、Grouping オブジェクトを削除する場合は、必ず確認してください。

削除記録を活用するには、「情報カタログ (Information Catalog)」ウィンドウから始めてください。

1. 「**カタログ (Catalog) → 削除履歴の管理 (Manage delete history)**」を選択する。
「削除履歴の管理 (Manage Delete History)」ウィンドウがオープンされます。
2. 「**削除履歴の記録 (Record delete history)**」チェック・ボックスを選択して、削除処理の記録を開始または継続する。
削除処理の記録を停止するには、「**削除履歴の記録 (Record delete history)**」チェック・ボックスを選択解除する。
3. (任意選択) 既存の削除内容のログ記録をタグ言語ファイルにコピーするには:
 - a. 「**タグ言語ファイルへ転送 (Transfer to a tag language file)**」チェック・ボックスを選択する。
 - b. ログをコピーしたい新規または既存ファイルのディレクトリー・パスと名前を指定する。既存ファイルの情報はすべて上書きされます。
4. (任意選択) 現在の削除内容のログを消去するには、「**削除履歴のリセット (Reset the delete history)**」チェック・ボックスを選択する。
5. 「**OK**」をクリックして、選択内容を保管する。
削除記録の選択を変更しないでウィンドウをクローズするには、「**キャンセル (Cancel)**」をクリックします。

タグ言語ファイルのインポートとエクスポート

情報カタログに情報カタログ・マネージャー・タグ言語ファイルをインポートすることができます。

タグ言語ファイル形式の情報カタログ・マネージャー・オブジェクトとオブジェクト・タイプを、情報カタログからエクスポートすることもできます。

メタデータ交換仕様 (MDIS) に準拠するタグ言語ファイルをインポートとエクスポートする際の情報は、111ページの『他のプロダクトと MDIS 準拠メタデータを交換する』を参照してください。

タグ言語ファイルのインポート

インポートについての重要な情報:

- 削除履歴タグ言語ファイルの形式で、情報カタログから削除などの重要な処置をインポートすることができます。他の情報カタログの内容を間違えて削除しないようにするために、削除履歴のタグ言語ファイルを他の情報カタログにインポートする前に、その内容を確認する必要があります。特に、**Grouping** オブジェクトまたはオブジェクト・タイプを削除する場合は、必ず確認してください。削除記録のタグ言語ファイルをインポートするつもりならば、削除のログ記録は行っていないことを確認してください。削除内容は、インポート処理中に記録され、インポートのパフォーマンスに影響します。削除記録については、86ページの『情報カタログの削除処理のログ』を参照してください。
- OS/2[®] エディターを使用して作成され、アクセント付き文字を含んでいるタグ・ファイルをインポートすると、情報カタログ内に読み取りできないデータが生じます。

タグ言語ファイルを情報カタログにインポートするには、「情報カタログ (Information Catalog)」ウィンドウで始めてください。

1. 「**カタログ (Catalog) → インポート (Import)**」を選択する。
「インポート (Import)」ウィンドウがオープンされます。
2. 「**インポート・パスとファイル名 (Import path and filename)**」フィールドに、インポートしたいタグ言語ファイルのディレクトリー・パスとファイル名を入力する。
ファイル名のみを入力すると、情報カタログ・マネージャーはタグ言語ファイルが **DGWPATH** 環境変数によって示されるドライブとパス上にあると想定します。
3. 「**アイコン・パス (Icon path)**」フィールドに、そこからアイコン・ファイルをインポートしたいディレクトリー・パスを入力する。
4. インポート処理中に生成されるメッセージのファイル先を変更するには、新しいディレクトリー・パスとファイル名を「**ログ・パスとファイル名 (Log path and filename)**」フィールドに入力する。ファイル名だけを入れると、情報カタログ・マネージャーはログ・ファイルを **DGWPATH** 環境変数によって示されるドライブとパス上に置きます。
5. タグ言語ファイルのインポートを開始したい場所を指示する。
 - 初めからインポート処理を行う場合には、「**最初から開始 (Start at beginning)**」ラジオ・ボタンを選択する。

タグ言語ファイルのインポートとエクスポート

- 情報カタログ・マネージャーによる情報カタログに対する変更のコミットが正常に終わった最後のところから開始する場合には、「**チェックポイントから開始 (Start at checkpoint)**」 ラジオ・ボタンを選択する。
6. 「**インポート (Import)**」をクリックして、指定されたタグ言語ファイルのインポートを開始する。「インポート (Import)」ウィンドウは、進行標識に従いオープンしたままにしておいてください。インポートが完了すると、メッセージが表示されます。
タグ言語ファイルをインポートしないでウィンドウをクローズするには、「**キャンセル (Cancel)**」をクリックします。

メタデータのエクスポート

情報カタログ・マネージャー・オブジェクトを情報カタログからタグ言語ファイルにエクスポートするには、次のウィンドウのいずれかから始めてください。

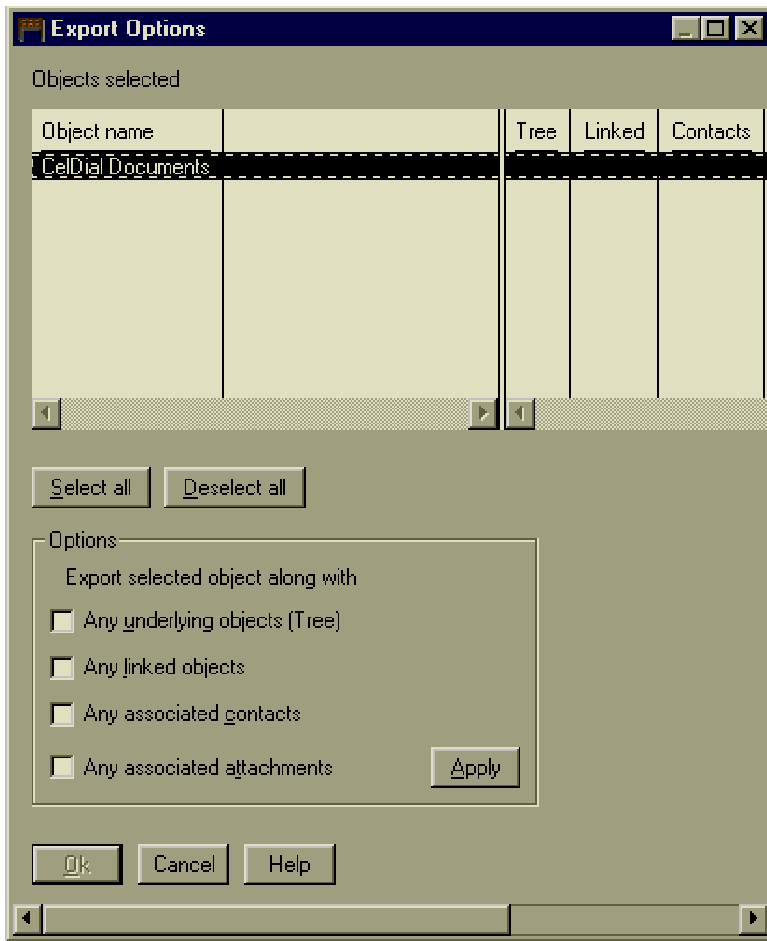
探索結果 (Search Results)
集合 (Collection)
被検索値 (Found In)
連絡先 (Contacts)
主題 (Subjects)
ツリー・ビュー (Tree View)
アタッチメント (Attachments)
リンク (Linked With)

1. エクスポートしたいオブジェクトで右マウス・ボタンをクリックする。
Windows システムでは、シフト・キーを押したまま複数のオブジェクトを選択することができます。
2. 選択したオブジェクトのいずれか 1 つで右マウス・ボタンをクリックする。
3. 「**エクスポート (Export)**」をクリックする。
「エクスポート (Export)」ウィンドウがオープンされます。
4. 「**エクスポート・パスとファイル名 (Export path and filename)**」フィールドに、エクスポートしたいタグ言語ファイルのディレクトリー・パスおよびファイル名を入力する。
ファイル名だけを入れると、情報カタログ・マネージャーはタグ言語ファイルが DGWPATH 環境変数によって示されるドライブとパス上にあると想定します。

タグ言語ファイルのインポートとエクスポート

情報カタログ・マネージャー・オブジェクトをエクスポートするごとに、エクスポート・タグ言語ファイルに新しい名前を指定してください。情報カタログ・マネージャーへ、エクスポート・タグ言語ファイルに追加したり、上書きしたりしません。

5. 「**アイコン・パス (Icon path)**」フィールドに、アイコン・ファイルのエクスポート先にしたいディレクトリー・パスを入力する。
アイコン・ファイルがすでにそのパスにあると、情報カタログ・マネージャーはそれらを新しいアイコンで置き換えます。
6. エクスポート処理中に生成されるメッセージのファイル先を変更するには、新しいディレクトリー・パスとファイル名を「**ログ・パスとファイル名 (Log path and filename)**」フィールドに入力する。ファイル名だけを入れると、情報カタログ・マネージャーはログ・ファイルを DGWPATH 環境変数によって示されるドライブとパス上に置きます。
7. (任意選択) すべてのオブジェクトに対するデフォルトのエクスポート・オプションは、情報カタログ・マネージャー設定ノートブックの「**エクスポート (Export)**」ページに指定する。選択オブジェクト別のエクスポート・オプションを指定するには、「**オプション (Options)**」をクリックして、「エクスポート・オプション (Export Options)」ウィンドウをオープンします。



このウィンドウを使用して、エクスポートする追加の関連オブジェクトを識別します。

- a. 「**選択オブジェクト (Objects selected)**」リスト・ボックスで 1 つまたは複数のオブジェクトを選択する。
- b. 「**オプション (Options)**」リスト・ボックスで、選択オブジェクトのセットに 1 つまたは複数のオプションを選択する。

すべての下位オブジェクト (ツリー)

Grouping オブジェクトとそれが含むすべてのオブジェクトをエクスポートします。

タグ言語ファイルのインポートとエクスポート

- | | |
|---------------|--|
| 任意のリンク・オブジェクト | オブジェクトとそれにリンクされるすべてのオブジェクトをエクスポートします。 |
| 任意の関連連絡先 | オブジェクトとそれに関連するすべての Contact オブジェクトをエクスポートします。 |
| 任意の関連アタッチメント | オブジェクトとそれに接続されるすべてのコメントをエクスポートします。 |
- c. 選択オブジェクト別のエクスポート・オプションを指定するために、「適用 (Apply)」をクリックする。
 - d. (任意選択) 91ページの7a から 7c を別のオブジェクトで繰り返す。
 - e. 「OK」をクリックする。
8. 「エクスポート (Export)」をクリックして、指定されたオブジェクトのエクスポート処理を開始する。

「エクスポート (Export)」ウィンドウは、進行標識に従いオープンしたままにしておいてください。エクスポート処理が完了すると、メッセージが表示されます。

オブジェクトをエクスポートしないでウィンドウをクローズするには、「キャンセル (Cancel)」をクリックします。

インポートとエクスポートの際の問題の解決

タグ言語ファイルのエラーにより、インポート処理が停止することもあります。処理が停止してしまったら、情報カタログ・マネージャーが処理中に作る 2 つのファイル (エコーおよびログ・ファイル) を見て、問題の原因を調べることができます。

エコー・ファイルは情報カタログ・マネージャーが処理したタグ言語行が記録されます。ログ・ファイルには、インポートまたはエクスポート処理の間に起こったことが記録されます。

エコー・ファイルの読み取り

情報カタログ・マネージャーは、エコー・ファイルに対して、タグ言語ファイルの名前に拡張子 ECH を付けた名前を指定します。たとえば、TABLEOBJ.TAG (タグ言語ファイル) をインポートすれば、エコー・ファイルの名前は TABLEOBJ.ECH となります。情報カタログ・マネージャーへエコー・ファイルを自動的に DGWPATH 環境変数によって示されるドライブとパス上に置きます。

タグ言語ファイルのインポートとエクスポート

エコー・ファイルには、情報カタログに対する未確約の変更内容が含まれるため、エコー・ファイルの数タグを見れば、タグ言語ファイルのどの行が原因でインポート処理が停止したかが分かります。図15は、エコー・ファイルの例を示しています。

```
:COMMENT. -----  
:COMMENT. Create Lotus Notes™ Object  
:COMMENT. -----  
:ACTION.OBJTYPE(MERGE)  
:OBJECT.TYPE(LOTNOTE)  
    CATEGORY(GROUPING)  
    EXTNAME(Lotus Notes Database)  
    PHYNAME(LOTUSDB)  
    ICOFILE(lotusico)  
:PROPERTY.SHRTNAME(LNSERVER)  
    DT(C) DL(30) UUISEQ(1) NULLS(N) EXTNAME(Lotus Notes Server Name)  
:PROPERTY.SHRTNAME(DBNAME)  
    DT(C) DL(15) UUISEQ(2) NULLS(N) EXTNAME(Database filename)  
:PROPERTY.SHRTNAME(MANAGERS)  
    DT(T) DL(50) UUISEQ(0) NULLS(Y) EXTNAME(Managers)  
:PROPERTY.SHRTNAME(POLICY)  
    DT(Y) DL(4100) UUISEQ(0) NULLS(Y) EXTNAME(Policy Information)  
:PROPERTY.SHRTNAME(NAME)  
    UUISEQ(3)  
:COMMIT.CHKPID(Add Instances)
```

図 15. 情報カタログ・マネージャーが処理したタグ言語行を示すエコー・ファイル

図15 では、オブジェクト・タイプ LOTNOTE が作成され、5 つの特性が指定されています。インポート処理がチェックポイントの後で終わっています。ここからログ・ファイルを見れば、原因についてのエラー・メッセージを見つけることができます。

ログ・ファイルの読み取り

ログ・ファイルには、処理の始めと終わりの日付と時刻が含まれます。さらに、処理中に起こった問題に対しエラー・メッセージがあれば記録されます。

ログ・ファイルの名前を指定したり、タグ言語ファイルに拡張子 LOG を付けた名前を情報カタログ・マネージャーに指定させたりすることもできます。たとえば、TABLEOBJ.TAG (タグ言語ファイル) をインポートすれば、ログ・ファイルの名前は TABLEOBJ.LOG となります。

情報カタログ・マネージャーがログ・ファイルを置くドライブとパスを指定できます。ファイル名だけを入れると、情報カタログ・マネージャーはログ・ファイルを DGWPATH 環境変数によって示されるドライブとパス上に置きます。

タグ言語ファイルのインポートとエクスポート

図16 は、ログ・ファイルの例を示しています。

```
*****
Import started: Tag Language file -- h:\%rx\notes\dg2lot.tag
1996/9/28 16:10:30
*****
FLG0505: Unable to create object type LOTNOTE. Reason code is 34508.
Extended code is 8.
Import terminated with error(s). The database has been rolled back to
either the last COMMIT tag executed or the beginning of the Tag Language file
*****
Import ended: Tag Language file -- h:\%rx\notes\dg2lot.tag
1996/9/28 16:10:39
*****
```

図16. インポートの間に情報カタログ・マネージャーが見つけた問題の原因と拡張コードを示すログ・ファイル

この例では、情報カタログ・マネージャーは、理由コード 34508 で示されたオブジェクト・タイプ LOTNOTE を作成できませんでした。(DB2 ユニバーサル・データベース メッセージ解説書 で) 理由コードを調べると、説明は次のとおりです。

The length value is invalid for the indicated property in the definition area because of the defined data type.

マニュアルでは、この拡張コードが、エラーを引き起こした特性の順序番号を示すことを教えています。

拡張コードが示す特性 (特性 8) の長さが、そのデータ・タイプには正しくありません。すべてのオブジェクト・タイプで、最初の 5 つの特性 (OBJTYPID、INSTIDNT、NAME、UPDATIME、および UPDATEBY) は、情報カタログ・マネージャーが生成するので、8 つ目の特性は MANAGERS 特性です。

エコー・ファイルでは、この特性の長さが 50 に定義されているのに、タイプは T(TIMESTAMP) として定義されているのが分かります。MANAGERS 特性のデータ・タイプは TIMESTAMP にすることはできないので、正しいデータ・タイプは C (CHAR の意味) です。タグ言語ファイルを編集して、データ・タイプを訂正し、最後のチェックポイントからインポートを再始動します。

ファイルには、コミット・チェックポイントを頻繁に置くようにしてください。そうすれば、情報カタログ・マネージャーは最後のチェックポイントへロ

タグ言語ファイルのインポートとエクスポート

ールバックするだけですみます。コミット・チェックポイントについては、85ページの『情報カタログ・データベースへの変更のコミット』を参照してください。

タグ言語ファイルのインポートとエクスポート

第6章 他の製品とメタデータを交換する

メタデータを公表して、他の IBM 製品および IBM 以外の製品と交換することができます。この章では、以下の製品の公表プロセスを説明します。

- データウェアハウスセンター
- DB2 OLAP Server
- DB2 OLAP Integration Server
- Hyperion Essbase Server

この章では、3 つのサーバー間で区別する必要がない限り、DB2 OLAP Server からのメタデータ、Hyperion Essbase Server、および DB2 OLAP Integration Server メタデータを OLAP サーバー・メタデータと言います。

また、メタデータ交換仕様 (MDIS) に準拠する任意の製品とメタデータを交換する方法も説明します。

メタデータの公表および同期化

このセクションでは、情報カタログへのメタデータの公表プロセスと、メタデータがデータウェアハウスセンター、DB2 OLAP Server、または Hyperion Essbase Server 内で変更されるとき、情報カタログ・メタデータの更新プロセスを説明します。データウェアハウスセンター ユーザー・インターフェースを使用して、データウェアハウスセンター、DB2 OLAP Server、または Hyperion Essbase Server メタデータを公表します。データウェアハウスセンター ユーザー・インターフェースを使用したメタデータの公表方法に関する段階的な情報については、「メタデータの公表 (Publish Metadata)」ウィンドウのオンライン・ヘルプを参照してください。コマンド・インターフェースを使用して、DB2 OLAP Integration Server のメタデータを公表します。詳細については、99ページの『OLAP サーバーのメタデータを公表する準備』を参照してください。

情報カタログ内のメタデータを公表し、同期化するには、この章で後述されている以下のタスクを完了しなければなりません。

1. 情報カタログにメタデータを公表したいオブジェクトを識別する。
2. メタデータを公表する。
3. 定期的に公表を実行するためのスケジュールを作成する。

メタデータが同期化される方法

メタデータが情報カタログに公表された後、メタデータの更新を自動化することができます。このプロセスは、メタデータの同期化と呼ばれます。最初にデータウェアハウスセンター ユーザー・インターフェースを使用してメタデータを公表するときに、公表オブジェクトが作成されます。

コマンド・インターフェースを使用して、DB2 OLAP Integration Server メタデータを公表します。ただし、メタデータへの更新を同期化することはできません。情報カタログ内でメタデータを変更したい場合に再びメタデータを公表するには、コマンド・インターフェースを使用しなければなりません。

メタデータを同期化する際、情報カタログ内に登録されているオブジェクト用のメタデータは、公表を実行するとき、または公表のために作成するスケジュールに基づいて更新されます。次の状況の場合、メタデータは、情報カタログ内では更新されません。

- オブジェクトをデータウェアハウスセンターで新規に作成した場合。
- オブジェクトを Essbase アウトラインで新規に作成した場合。
- 以前に情報カタログに公表したオブジェクト名を変更した場合。

メタデータを同期化する場合には、データウェアハウスセンターのウェアハウス・コントロール・データベースを情報カタログ・データベースとして使用しなければなりません。

開始の前に: メタデータの公表用の環境の確立

メタデータを公表および同期化するためのステップを開始する前に、適切な環境を確立したかどうかを確認する必要があります。

1. 正しいワークステーションで、必要なウェアハウスの構成要素をインストールし、構成してあるかどうかを確認します。

情報カタログ・マネージャーにデータウェアハウスセンター メタデータを公表するには:

- ウェアハウス・サーバー・サイトとデータウェアハウスセンター管理インターフェース構成要素が別々のワークステーションに存在するのであれば、情報カタログ・マネージャー管理者機能が両方のワークステーションにローカルにインストールされている必要があります。
- データウェアハウスセンター管理インターフェースは、情報カタログ API への DB2 接続性が必要です。

情報カタログ・マネージャーに OLAP サーバー・メタデータを公表するには:

- 情報カタログ・マネージャー管理者機能と Essbase クライアントの両方が、ウェアハウス・エージェント・サイトにローカルにインストールされている必要があります。
 - Windows NT ウェアハウス・エージェント・サイトは、Essbase API および情報カタログ API にアクセスできなければなりません。
 - OLAP サーバーの環境変数項目は、ユーザー変数ではなくシステム変数として指定する必要があります。Windows NT コントロール・パネルからアクセス可能な「システム」ノートブックの「環境」ページにあるシステムの値およびユーザー変数を検査することができます。
2. 情報カタログ・マネージャーとデータウェアハウスセンター管理者のユーザー ID の両方に Windows NT 管理者特権があることを確認してください。

OLAP サーバーのメタデータを公表する準備

データウェアハウスセンター ユーザー・インターフェースまたはコマンド・インターフェースのいずれかを使用して、DB2 OLAP Server または Hyperion Essbase Server のメタデータを公表することができます。データウェアハウスセンターを使用するには、「OLAP サーバーのメタデータの公表 (Publish OLAP Server Metadata)」ノートブックのオンライン・ヘルプを参照してください。

DB2 OLAP Integration Server では、コマンド・インターフェースを使用して、メタデータを公表します。メタデータへの更新を同期化することはできません。情報カタログ内でメタデータを変更するには、再びメタデータを公表しなければなりません。

公表する OLAP オブジェクトの識別

メタデータを公表するには、まず公表するメタデータを識別し、その後同期化した更新の設定を行います。このセクションにあるプロシージャーを使用してメタデータ・オブジェクトを識別し、それらを同期化するように登録してください。

100ページの表12 では、オブジェクトが情報カタログに公表されるときに OLAP サーバーと情報カタログ・オブジェクトとの間のマッピングを提供します。オブジェクト・タイプとオブジェクト・タイプ・プロパティのマッピングの詳細については、151ページの『付録C. メタデータのマッピング』を参照してください。DB2 OLAP Integration Server のメタデータを公表するとき、情報カタログ内の「多次元データベース内の次元」オブジェクト・タイプと DB2 OLAP Integration Server 内の表オブジェクトとの間でリンク関係が作成されます。

メタデータの公表および同期化

表 12. オブジェクト・タイプ間でのマッピング

OLAP サーバー・オブジェクト・タイプ	情報カタログ・オブジェクト・タイプ
アウトライン	多次元データベース
アウトライン内の次元	多次元データベース内の次元
次元内のメンバー	多次元データベース内のメンバー

情報カタログ・マネージャー管理者機能がインストールされているワークステーションから、以下のステップを完了してください。

1. 情報カタログにメタデータを公表したい OLAP オブジェクトを識別するために、`X:\%Program Files%\SQLLIB\EXCHANGE\DG2OLAP.CTL` 内の制御ファイルを編集する (`X` は DB2 ユニバーサル・データベースがインストールされているドライブ)。次のようにしてそれぞれのオブジェクトを別々に識別します。

`servername.applicationname.databasename.outlinename`

`servername`

OLAP サーバーの名前。

`applicationname`

`databasename` によって識別されるデータベースを含む OLAP サーバー・アプリケーションの名前。

`databasename`

`outlinename` によって識別されるアウトラインを含む OLAP サーバー・データベースの名前。

`outlinename`

メタデータを公表したい OLAP サーバー・アウトラインの名前。

例:

```
stl11w71.sample.basic.basic  
stl11w71.sample.interntl.interntl  
stl11w71.demo.basic.basic
```

2. MS-DOS コマンド・プロンプトから、`flngxoln` プログラムを実行します。DB2 OLAP Integration Server パラメーターは、DB2 OLAP Integration Server から情報カタログ・マネージャーにメタデータを公表するために必要です。DB2 OLAP Integration Server に公表したい場合、すべての DB2 OLAP Integration Server パラメーターを指定しなければなりません。必須パラメーターを同じ行に、スペースで区切って入力してください。


```
flgnxoln ouuserid opassword oc_filename ic_userid ic_password ic_name
generate_names
delete max_levels max_dim -ff
fb_filename -hi OIS_name -hu OIS_userid -hp
OIS_password-hm OIS_model
```

ouuserid

DB2 OLAP Server/Essbase スーパーバイザーのユーザー ID。

opassword

DB2 OLAP Server/Essbase スーパーバイザーのユーザー ID のパスワード。

filename

DB2 OLAP サーバー/Essbase メタデータを交換することを識別した制御ファイルの全パスとファイル名。

ic_userid

メタデータの公表に使用される情報カタログの情報カタログ・マネージャー・ユーザー ID。ユーザー ID は、情報カタログ管理者の ID またはある特定の管理特権を持つ情報カタログ・ユーザーの ID。

ic_password

情報カタログ・ユーザー ID のパスワード。

ic_name

メタデータの交換に使用される情報カタログの名前。

generate_names

次のように入力します。

Y オブジェクトが更新されるときに、情報カタログ内の OLAP アウトラインからオブジェクト名と記述を生成したいことを示します。「名前 (Name)」プロパティおよび「簡単な記述 (Short Description)」プロパティが、情報カタログ内のオブジェクトに対して更新されます。

N 存在する場合は、メタデータが更新されるときに、情報カタログにオブジェクト名と記述を保存したいことを示します。

情報カタログにオブジェクトを追加し、追加の業務情報を指定しましたが、更新値によって情報を上書きしたくない場合に N を指定することができます。

delete

値:

Y オブジェクトが情報カタログ内にすでに存在する場合は、それらは

メタデータの公表および同期化

削除され、その後オブジェクトが更新されるときに追加されます。情報カタログ・マネージャーは、関連したデータベースおよび表オブジェクトなど、削除されたオブジェクトに関連のあるすべてのオブジェクトを削除します。ツリー・ビューは、その他のオブジェクトに関連のないオブジェクトがないように更新されます。

- N** オブジェクトが情報カタログ内にすでに存在する場合は、それらは情報カタログ内に保持され、更新されます。

max_levels

ツリー・ビュー内に公表され表示される Essbase オブジェクトのレベルの最大数を指定する値。この値を指定しないと、識別するすべてのオブジェクトおよび基礎オブジェクトが公表されます。レベルの数を制限する場合、ツリー・ビュー内に表示されるツリー構造は、より簡略化されます。

DB2 OLAP Server メタデータを公表している場合、このパラメーターは任意選択です。DB2 OLAP Integration Server メタデータを公表している場合には、このパラメーターは必須です。

max_dimen

ツリー・ビュー内に公表され表示されるそれぞれのレベルごとの次元およびメンバーの最大数を指定する値。値を指定しない場合、ツリー・ビューのそれぞれのレベルごとに、次元を表すすべてのオブジェクトと、Essbase アウトライン内のそれらの次元内のメンバーを表すすべてのオブジェクトが公表されます。次元およびメンバーの数を制限する場合、ツリー・ビュー内に表示される構造は、より簡略化されます。

DB2 OLAP Server メタデータを公表している場合、このパラメーターは任意選択です。DB2 OLAP Integration Server メタデータを公表している場合には、このパラメーターは必須です。

feedback file name

フィードバック・ファイルの名前。このパラメーターは無視されますが、DB2 OLAP Integration Server パラメーターを指定する場合には指定しなければなりません。

OIS_name

公表したいメタデータを含む DB2 OLAP Integration Server カタログの名前。

OIS_userid

DB2 OLAP Integration Server スーパーバイザーのユーザー ID。

OIS_password

DB2 OLAP Integration Server スーパーバイザーのユーザー ID のパスワード。

OIS_model

メタデータを公表したい OLAP モデルの名前。

たとえば、次のようになります (この例の行の切れ目に意味はありません)。

```
flgnxoln olapadm olapass x:%Program Files%sqllib%logging%dg2olap.ctl  
icadmin icpass ICMSAMP Y Y 20 20 -ff x:%Program Files%sqllib%logging%db2olap.ff  
oiscat -hu oisadm -hp oispass -hm oismod
```

flgnxoln プログラムが正しく実行されたかどうかを確認するために、ログ・ファイルを表示してください。ログ・ファイルは、VWS_LOGGING 環境変数によって指定されているディレクトリー内にあります。Windows NT 用の VWS_LOGGING 変数のデフォルト値は %sqllib%logging です。ファイル %SQLLIB%LOGGING%ICMOLAP.LOG (DB2 ユニバーサル・データベースをインストールしたドライブにある) を表示して、結果を調べてください。

104ページの図17 は、OLAP サーバー・メタデータが情報カタログ・マネージャー・ツリー・ビューに表示される様子を示しています。

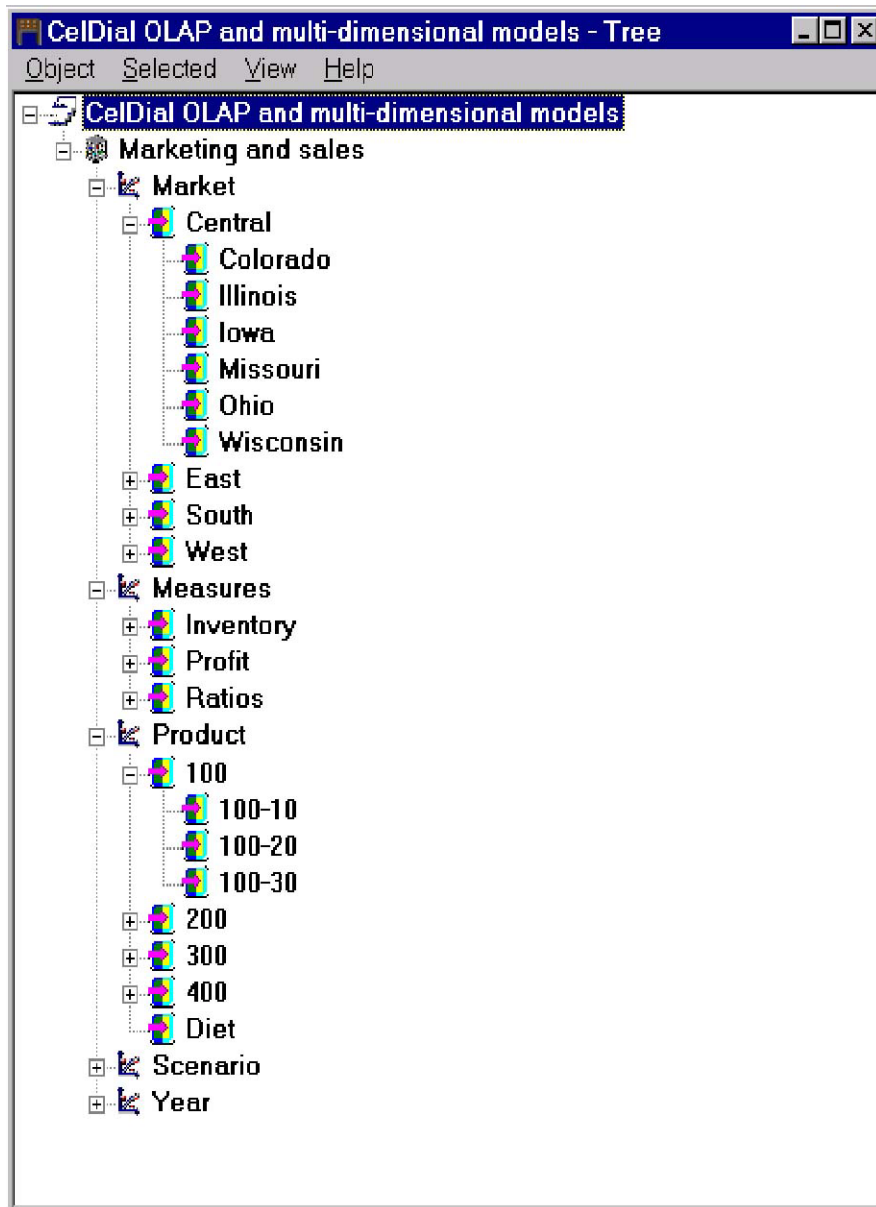


図 17. 情報カタログ・マネージャー・ツリー・ビュー内の OLAP メタデータ

DB2 OLAP Server または Hyperion Essbase Server メタデータの定期的な更新の設定とスケジューリング

DB2 OLAP Server または Hyperion Essbase Server メタデータと、前もって情報カタログに公表したメタデータを同期化するには、データウェアハウスセン

ター ユーザー・インターフェース (スケジュール機能を含む) を使用してください。定期的に行うために公表のスケジュールを作成することができます。ユーザー・インターフェースの使用法に関する段階的な情報については、「メタデータの公表 (Publish Metadata)」ウィンドウのオンライン・ヘルプのタスク 『Updating published metadata』を参照してください。

公表が更新されると、登録されたメタデータは、最後にメタデータが情報カタログに公表されたとき以降の更新の有無について調べられます。

公表の実行後、99ページの『公表する OLAP オブジェクトの識別』に従って識別したオブジェクトは、最後にメタデータが情報カタログと交換されたとき以降の更新の有無について調べられます。更新されていたら、更新されたメタデータは情報カタログにコピーされます。

メタデータの同期化の結果を示す処理中のログ・ファイルは、VWS_LOGGING 環境変数によって指定されるディレクトリ内にあります。Windows NT 用の VWS_LOGGING 変数のデフォルト値は、¥SQLLIB¥LOGGING です。ファイル ¥SQLLIB¥LOGGING¥ICMOLAP.OUT (DB2 ユニバーサル・データベースをインストールしたドライブにある) を表示して、結果を調べてください。新規の処理状況がある場合、その処理状況は既存のログ・ファイルに追加されます。

データウェアハウスセンターでメタデータを公表する準備

データウェアハウスセンターでメタデータを公表するには、まず公表するメタデータを識別し、その後同期化した交換の設定を行います。

交換するデータウェアハウスセンター メタデータの識別

表13 に、データウェアハウスセンターと情報カタログ間のマッピングを示します。情報カタログにメタデータをエクスポートするときに、データウェアハウスセンターがこのマッピングを使用します。オブジェクト・タイプとオブジェクト・タイプ・プロパティのマッピングの詳細については、151ページの『付録C. メタデータのマッピング』を参照してください。

表 13. データウェアハウスセンターと情報カタログ間のオブジェクト・タイプのマッピング

データウェアハウスセンター オブジェクト・タイプ	情報カタログ・オブジェクト・タイプ
ステップ	トランスフォーメーション (表または列レベルで)
列またはフィールド	列またはフィールド

メタデータの公表および同期化

表 13. データウェアハウスセンターと情報カタログ間のオブジェクト・タイプのマッピング (続き)

データウェアハウスセンター オブジェクト・タイプ	情報カタログ・オブジェクト・タイプ
ウェアハウス・ソースまたはウェアハウス・ターゲット	データベース、ファイル、IMS™ データベース定義
主題	業務対象域
表、ファイル、またはセグメント	IMS セグメント、リレーショナル表と視点
ウェアハウス・スキーマ	スタースキーマ

メタデータの情報カタログへの公表についての詳細は、「データウェアハウスセンター メタデータの公表 (Publish Data Warehouse Center Metadata)」ノートブックのデータウェアハウスセンター・オンライン・ヘルプを参照してください。

データウェアハウスセンター メタデータが情報カタログ内に表示される方法

メタデータの系統は、ターゲット・データからソース・データへのパスを記述します。データウェアハウスセンターでは、ユーザーは、データ・ソースから処理を開始します。次に、ユーザーはデータを変換するためにステップを作成 (たとえば、SQL 論理を使用して) することができます。結果のデータは、ウェアハウス・ターゲット表またはファイルになります。エンド・ユーザーは、変換された状態でデータを処理するので、情報カタログ・マネージャーは、データウェアハウスセンターでトランスフォーメーションの最終結果 (たとえば、表またはファイル) で始まるメタデータを表示します。トランスフォーメーションに入力されたすべてのデータ・ソースを判別するために、メタデータのツリー・ビューを展開することができます。ツリー・ビューを展開する場合、ターゲットからトランスフォーメーションへ、それからデータ・ソースへというパスに従うことができます。いくつかのデータ・ソースは、トランスフォーメーションを含むこともできます。たとえば、107ページの図18 では、情報カタログに公表されるときに、データウェアハウスセンター内のメタデータがその構造と比較される方法についての概念視点を示しています。

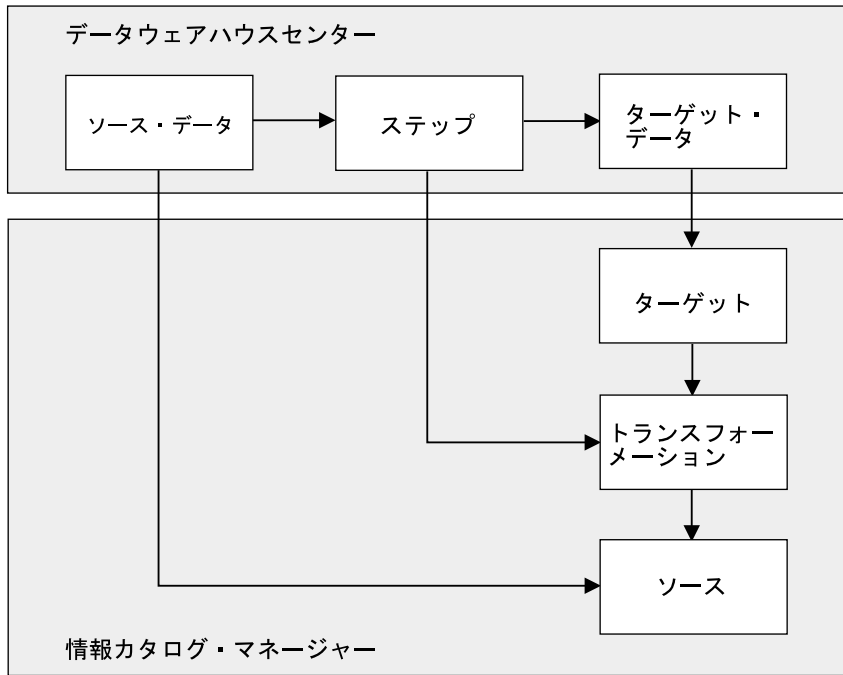


図18. データウェアハウスセンターと情報カタログ・マネージャー内でのソース・データからターゲット・データへのパス

データウェアハウスセンターでは、「プロセス・モデル (Process Model)」ウィンドウを使用して、ウェアハウス・ソースからウェアハウス・ターゲットにマップし、トランスフォーメーション (プロセスまたはステップ) を定義します。108ページの図19 は、プロセス、ソース、およびターゲットが、データウェアハウスセンターおよび情報カタログ・マネージャーのツリー・ビュー内に表示されている一例です。

メタデータの公表および同期化

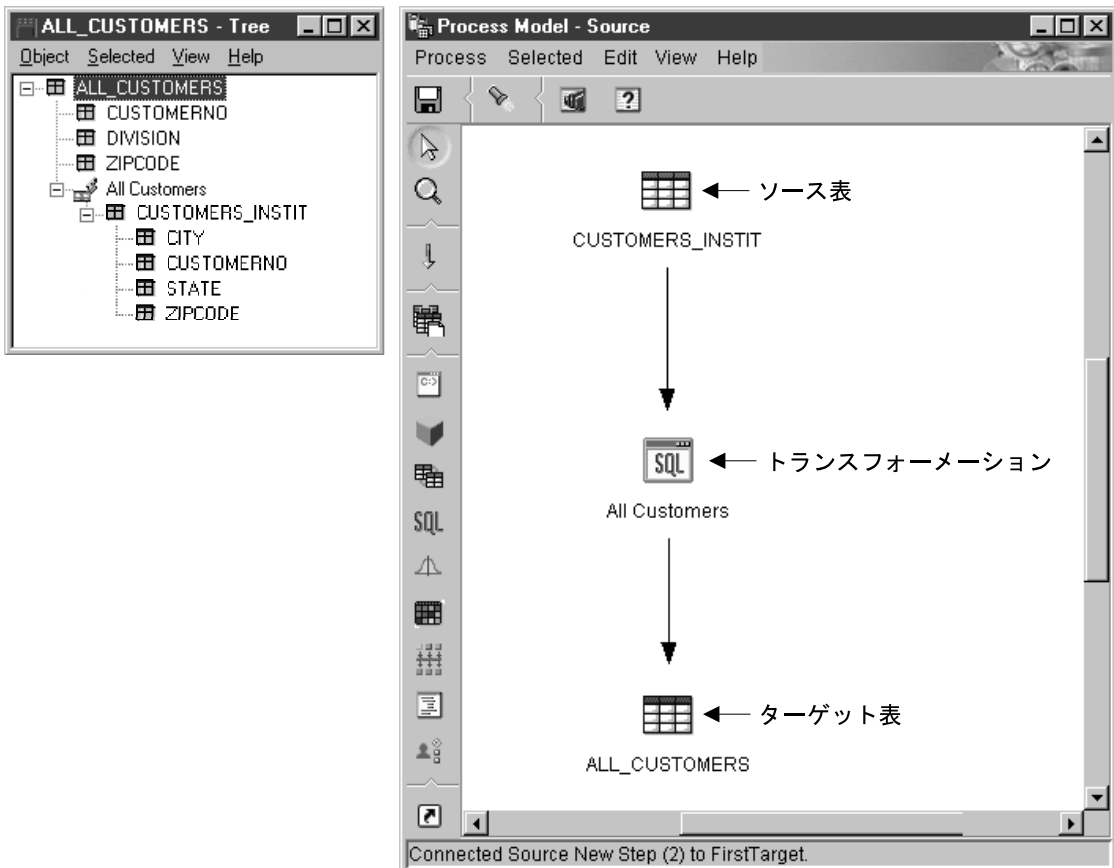


図19. 情報カタログ・マネージャーのツリー・ビューと「データウェアハウスセンター プロセス・モデル (Data Warehouse Center Process Model)」ウィンドウ

データウェアハウスセンターのソース表およびターゲット表用のメタデータを公表するとき、表レベルまたは列レベルのいずれかでトランスフォーメーションを示すことができます。図19では、表レベルでマップされるトランスフォーメーションを示しています。実際のSQLトランスフォーメーションは、トランスフォーメーション・オブジェクト用の記述ビューにも示されます。

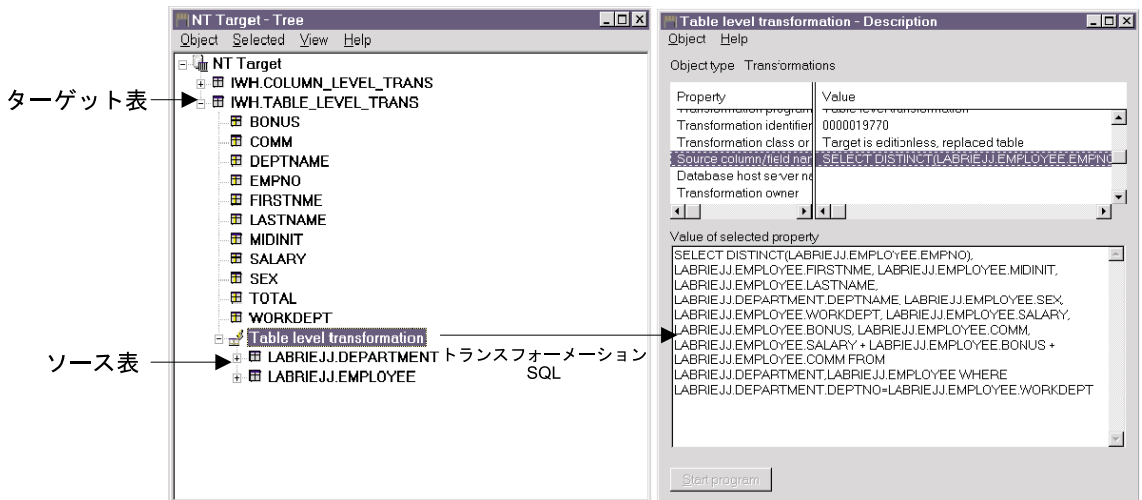


図20. 表レベルでマップされるトランスフォーメーションおよび記述ビュー

データウェアハウスセンター内での公表されたオブジェクトの保守

データウェアハウスセンターでオブジェクトを削除すると、その削除したオブジェクトの情報はウェアハウス・コントロール・データベースに保管されます。メタデータが同期プロセス中に更新されると、データウェアハウスセンターは他の変更が情報カタログにインポートされる前に、これらの削除を情報カタログに伝搬します。メタデータ同期が正常に完了すると、データウェアハウスセンターはウェアハウス・コントロール・データベースのエントリーを消去します。データウェアハウスセンターはエントリーを消去するので、データウェアハウスセンターが削除を伝搬できる情報カタログは1つだけです。2番目の情報カタログを削除する必要がある場合は、これらのアイテムを手動で削除しなければなりません。

以前に情報カタログに公表したウェアハウスのオブジェクト名を変更している場合は、もう一度そのオブジェクトを公表して情報カタログを更新する必要があります。古い名前を持つオブジェクトが上書きされないので、メタデータの同期後、両方のオブジェクトが情報カタログ内に存在します。

データウェアハウスセンター メタデータへの定期的な更新の設定とスケジューリング

データウェアハウスセンター メタデータを、前もって情報カタログに公表されたメタデータと同期化するには、データウェアハウスセンター管理インターフェースを使用して、公表を実行するためのスケジュールを作成しなければなり

メタデータの公表および同期化

ません。段階的な情報については、「メタデータの公表 (Publish Metadata)」ウィンドウのオンライン・ヘルプのタスク『Updating published metadata』を参照してください。

公表が更新されると、登録されたメタデータは、最後にメタデータが情報カタログに公表されたとき以降の更新の有無について調べられます。

はじめてデータウェアハウスセンター メタデータを情報カタログに公表する場合、2 つの公表オブジェクトが作成されます。1 つの公表オブジェクトにはコントロール・メタデータが含まれており、もう 1 つの公表オブジェクトには定義メタデータが含まれています。コントロール・メタデータは、ウェアハウス内のオブジェクトへの変更を記述するメタデータです。コントロール・メタデータの例は、表がステップのプロセスによって更新される日時です。定義メタデータは、ウェアハウス内のオブジェクトの形式、データのソース、およびデータに適用されるトランスフォーメーションについて説明するメタデータです。定義メタデータの例は、列名、表名、およびデータベース名です。はじめてメタデータを公表する場合、コントロール・メタデータと定義メタデータの両方が情報カタログ内に登録されます。メタデータを同期化するとき、コントロール・メタデータ、定義メタデータ、または両方のタイプを更新を選択することができます。

表14 に、公表の実行後、公表のタイプの処理状況をどこで調べることができるかを示します。ファイルは、VWS_LOGGING 環境変数によって指定されるディレクトリー内にあります。Windows NT 用の VWS_LOGGING 変数のデフォルト値は、¥SQLLIB¥LOGGING です (DB2 ユニバーサル・データベースをインストールしたドライブにある)。

表 14. メタデータ同期状況ファイル

公表のタイプ	処理状況ファイル	新規の処理状況がある場合
情報カタログ内のウェアハウス定義メタデータを更新する	¥SQLLIB¥LOGGING¥ICMXCHG.OUT	OUT ファイルが置き換えられる
情報カタログ内のウェアハウス・コントロール・メタデータを更新する	¥SQLLIB¥LOGGING¥ICMDWCD.OUT	既存の OUT ファイルに追加される。

他のプロダクトと MDIS 準拠メタデータを交換する

情報カタログ・マネージャーは、IBM または他社のデータウェアハウスセンター構成要素とその他の MDIS 準拠製品からのメタデータを交換できる、事前定義されたオブジェクト・タイプを含んでいます。このセクションでは、他の製品からの MDIS 準拠メタデータを情報カタログ・マネージャー・タグ言語ファイルに変換するために MDIS 変換ユーティリティを使用する方法を説明します。また、このセクションでは、情報カタログ・マネージャー・メタデータを MDIS 準拠タグ言語ファイルに変換するためのユーティリティを使用する方法についても説明します。

また、ユーザーの情報カタログと MDIS メタデータのインポート、および MDIS メタデータのエクスポートを直接行う方法も説明します。

完全なオブジェクト・タイプ定義を含むメタデータ交換仕様についての情報は、Meta Data Coalition の Web サイト <http://www.MDCinfo.com> を参照してください。

MDIS 変換ユーティリティを使用したメタデータの交換

MDISDGC コマンドを使用して、メタデータ交換仕様 (MDIS) に準拠するメタデータを情報カタログ・マネージャー・タグ言語ファイルに変換することができます。それから、88ページの『タグ言語ファイルのインポート』に説明されている方式を使用して、タグ言語ファイルを情報カタログ・マネージャーにインポートします。

89ページの『メタデータのエクスポート』に説明されているように、メタデータを情報カタログ・マネージャーからエクスポートすることができます。DGMDISC コマンドを使用して、エクスポートされたタグ言語ファイルを MDIS 準拠タグ言語ファイルに変換することができます。

MDIS 準拠メタデータをタグ言語ファイルに変換する

MS-DOS コマンド・プロンプトから MDISDGC コマンドを使用して、MDIS 準拠メタデータを情報カタログ・マネージャー・タグ言語ファイルに変換します。それからユーザーの情報カタログにインポートすることができます。

MDISDGC コマンド変数はすべて必須です。

```
MDISDGC userid password input_tagfile output_tagfile logfile
```

MDIS 準拠メタデータの交換

userid

ユーザーの Windows NT のユーザー ID。Windows NT のユーザー ID は大文字小文字の区別があります。このため、指定したとおりに正確に入力する必要があります。

password

userid のパスワード。Windows NT のパスワードは大文字小文字の区別があります。このため、指定したとおりに正確に入力する必要があります。

input_tagfile

タグ言語ファイルに変換したい MDIS 準拠タグ言語ファイルの全パスとファイル名。ファイル名のみを入力すると、情報カタログ・マネージャーはファイルが DGWPATH 環境変数によって示されるドライブとパス上にあると想定します。

output_tagfile

MDISDGC が作成したタグ言語ファイルの全パスとファイル名。ファイル名だけを入れると、情報カタログ・マネージャーはファイルを DGWPATH 環境変数によって示されるドライブとパス上に置きます。

logfile

情報カタログ・マネージャーによる変換中に生成されるメッセージの全パスとファイル名宛先。ファイル名だけを入れると、情報カタログ・マネージャーはファイルを DGWPATH 環境変数によって示されるドライブとパス上に置きます。

タグ言語ファイルを MDIS 準拠メタデータに変換する

MS-DOS コマンド・プロンプトから DGMDISC コマンドを使用して、情報カタログ・マネージャー・タグ言語ファイルを MDIS 準拠メタデータに変換します。その後、このメタデータを他の MDIS 準拠製品で使用することができます。DGMDISC コマンド変数はすべて必須です。

```
DGMDISC userid password input_tagfile output_tagfile logfile
```

userid

ユーザーの Windows NT のユーザー ID。Windows NT のユーザー ID は大文字小文字の区別があります。このため、指定したとおりに正確に入力する必要があります。

password

userid のパスワード。Windows NT のパスワードは大文字小文字の区別があります。このため、指定したとおりに正確に入力する必要があります。

input_tagfile

MDIS 準拠タグ言語ファイルに変換したいタグ言語ファイルの全パスとファイル名。ファイル名のみを入力すると、情報カタログ・マネージャーはファイルが DGWPATH 環境変数によって示されるドライブとパス上にあると想定します。

output_tagfile

DGMDISC が作成した MDIS 準拠タグ言語ファイルの全パスとファイル名。ファイル名だけを入れると、情報カタログ・マネージャーはファイルを DGWPATH 環境変数によって示されるドライブとパス上に置きます。

logfile

情報カタログ・マネージャーによる変換中に生成されるメッセージの全パスとファイル名宛先。ファイル名だけを入れると、情報カタログ・マネージャーはファイルを DGWPATH 環境変数によって示されるドライブとパス上に置きます。

MDIS 対応のタグ言語ファイルをインポートする

MDIS タグ言語ファイルを情報カタログに直接インポートするには、情報カタログ・マネージャー・コマンドを MS-DOS コマンド・プロンプトから入力します。コマンド構文に関する以下の規則を守ってください。

- 指定のないすべての部分については、大文字小文字を区別しません。
- 各キーワードの前に、スラッシュ (/) またはハイフン (-) のどちらかが必要です。
- DGUIDE コマンドに続くすべてのキーワードは必須です。 /MDIS_IMPORT キーワードに続くすべてのキーワードは必須です。
- 下線のある選択項目はデフォルトです。

```
DGUIDE /USERID userid /PASSWORD password /DGNAME dname /MDIS_IMPORT filename
/LOGFILE filename name/ADMIN
```

任意指定のキーワードは以下のとおりです。

```
/TRACE 0|1|2|3|4
```

たとえば、MDIS メタデータを情報カタログにインポートする場合、以下のコマンドをタイプします (改行は入力しません)。

```
DGUIDE /USERID longods /PASSWORD secret /DGNAME ICMSAMP /ADMIN
/MDIS_IMPORT c:%mdis.tag /LOGFILE c:%mdis.log
```

/ADMIN

管理者としてログオンすることを指定します。メタデータをインポートするためには、アドミニストレーターとしてログオンする必要があります。

MDIS 準拠メタデータの交換

/DGNAME

情報カタログ名。

情報カタログがローカルである場合、データベース名を指定します。情報カタログがリモートである場合、それがカタログ化される別名を指定します。

例:

```
/DGNAME ICMSAMP
```

/LOGFILE

このパラメーターは必須です。

情報カタログ・マネージャーが MDIS のインポートまたは MDIS のエクスポートの際に生成するメッセージを送るファイルの宛先を指定します。ドライブ、パス、およびファイル名を含めた全体を指定するのであれば、情報カタログ・マネージャーはそのファイルを DGWPATH 環境変数で指定されたパスに置きます。固定ドライブを指定しなければなりません。

例:

```
/LOGFILE d:%tagfile.log
```

/MDIS_IMPORT

指定した MDIS 対応のタグ言語ファイルをインポートします。ドライブ、パス、およびファイル名を含めた全体を指定するのであれば、情報カタログ・マネージャーはそのファイルが DGWPATH 環境変数で指定されたパスに存在すると想定します。

例:

```
/MDIS_IMPORT d:%tagfile.tag
```

MDIS メタデータをインポートする情報カタログには、有効な MDIS オブジェクト・タイプ定義が含まれていなければなりません (それ以外のものが含まれていることも可能)。

/PASSWORD

このユーザー ID に対するパスワード。

例:

```
/PASSWORD secret
```

以下のオペレーティング・システム上にあるデータベースにアクセスするためのパスワードは大文字小文字の区別をするため、指定されたとおりにタイプしなければなりません。

- AIX
- Windows NT および Windows 2000
- Solaris 実行環境版

/TRACE

情報カタログ・マネージャー・トレース・ファイルに送るトレース情報のレベル。高位のレベルには下位のレベルの機能が含まれます (たとえば、3 にはレベル 0、1、2、および 3 の機能が含まれます)。情報カタログ・マネージャーの問題を診断するために IBM Software Support を呼び出すには、高いレベルを指定しなければならない場合があります。

- 0** デフォルト。すべてのメッセージ、警告、エラー、および重大エラー状態が含まれます。
- 1** 最高レベルの情報カタログ・マネージャー機能の入り口レコードおよび出口レコードが含まれます。
- 2** 情報カタログ・マネージャー機能の入り口レコードおよび出口レコードで、一般的なものが含まれます。
- 3** 入力および出力パラメーター (入力または出力構造を除く) が含まれます。
- 4** 情報カタログ・マネージャーに渡されて使用されたすべての入力または出力構造が含まれます。

/USERID

情報カタログのユーザー ID。情報カタログがあるデータベースに必要なユーザー ID を入力します。たとえば、ユーザー ID はローカル、LAN、AS/400、AIX、または OS/390 TSO ローカルであることがあります。

例:

```
/USERID 1ongods
```

MDIS 対応のタグ言語ファイルをエクスポートする

MDIS タグ言語ファイルを情報カタログから直接エクスポートするには、DGUIDE コマンドを MS-DOS コマンド・プロンプトから入力します。コマンド構文に関する以下の規則を守ってください。

- 指定のないすべての部分については、大文字小文字を区別しません。
- 各キーワードの前に、スラッシュ (/) またはハイフン (-) のどちらかが必要です。
- DGUIDE コマンドに続くすべてのキーワードは必須です。/MDIS_EXPORT キーワードに続くすべてのキーワードは必須です。

MDIS 準拠メタデータの交換

```
DGUIDE /USERID userid /PASSWORD password /DGNAME dgname /MDIS_EXPORT filename  
/LOGFILE filename /OBJTYPE object_type /OBJECTS name
```

任意指定のキーワードは以下のとおりです。

```
/ADMIN  
/TRACE 0|1|2|3|4
```

たとえば、MDIS メタデータを情報カタログからファイルにエクスポートする場合、以下のコマンドをタイプします (改行は入力しません)。

```
DGUIDE /USERID longods /PASSWORD secret /DGNAME ICMSAMP /ADMIN  
/MDIS_EXPORT c:%mdis.tag /LOGFILE c:%mdis.log  
/OBJTYPE database /OBJECTS server01.payroll.valdezma
```

/ADMIN

管理者としてログオンすることを指定します。この任意指定のキーワードを DGUIDE コマンドに指定しない場合、ユーザーとしてログオンします。メタデータをユーザーとしてエクスポートすることは可能ですが、その場合、管理者タスクのすべてを実行することはできません。

/DGNAME

情報カタログ名。

情報カタログがローカルである場合、データベース名を指定します。情報カタログがリモートである場合、それがカタログ化される別名を指定します。

例:

```
/DGNAME ICMSAMP
```

/LOGFILE

情報カタログ・マネージャーが MDIS のインポートまたは MDIS のエクスポートの際に生成するメッセージを送るファイルの宛先を指定します。

ドライブ、パス、およびファイル名を含めた全体を指定するのであれば、情報カタログ・マネージャーはそのファイルを DGWPATH 環境変数で指定されたパスに置きます。固定ドライブを指定しなければなりません。

例:

```
/LOGFILE d:%tagfile.log
```

/MDIS_EXPORT

MDIS 対応のメタデータを指定した名前で MDIS 対応のタグ言語ファイルとしてエクスポートします。ドライブ、パス、およびファイル名を含めた全体を指定するのであれば、情報カタログ・マネージャーはそのファイルを DGWPATH 環境変数で指定されたパスに置きます。

例:

```
/MDIS_EXPORT d:%tagfile.tag
```

MDIS メタデータをエクスポートする情報カタログには、MDIS メタデータ以外のメタデータを含めることができます。しかし、/MDIS_EXPORT によってエクスポートされるのは、MDIS に準拠するメタデータだけです。

/OBJECTS

このパラメーターは必須です。

エクスポートしたいオブジェクトを指定します。/OBJTYPE キーワード上に指定したオブジェクト・タイプに応じて、*name* 値はピリオドによって区切られた 3 から 5 のプロパティ値で構成されます。

/OBJTYPE /OBJECTS

Database *ServerName.DatabaseName.OwnerName*

Dimension *ServerName.DatabaseName.OwnerName.DimensionName*

Subschema *ServerName.DatabaseName.OwnerName.SubschemaName*

Record *ServerName.DatabaseName.OwnerName.RecordName*

Element *ServerName.DatabaseName.OwnerName.RecordName.
ElementName*

このリストでは、名前の一部が MDIS 名で表されています。対応する情報カタログ名を見つけるには、データウェアハウスセンター Web サイト (<http://www.software.ibm.com/data/vw/>) で入手可能なデータウェアハウスセンター アプリケーション統合の手引き を参照してください。

/OBJTYPE

これは必須パラメーターです。

エクスポートしたい以下の MDIS オブジェクト・タイプの 1 つを指定します。

Database

Dimension

Subschema

Record

Element

オブジェクト・タイプ名は大文字小文字の区別をしません。

例:

```
/MDIS_EXPORT d:%tagfile.tag /OBJTYPE record
```

MDIS 準拠メタデータの交換

/PASSWORD

このユーザー ID に対するパスワード。

例:

```
/PASSWORD secret
```

以下のオペレーティング・システム上にあるデータベースにアクセスするためのパスワードは大文字小文字の区別をするため、指定されたとおりにタイプしなければなりません。

- AIX
- Windows NT および Windows 2000
- Solaris 実行環境版

/TRACE

情報カタログ・マネージャー・トレース・ファイルに送るトレース情報のレベル。高位のレベルには下位のレベルの機能が含まれます (たとえば、3 にはレベル 0、1、2、および 3 の機能が含まれます)。情報カタログ・マネージャーの問題を診断するために IBM Software Support を呼び出すには、高いレベルを指定しなければならない場合があります。

- 0** デフォルト。このレベルには、すべてのメッセージ、警告、エラー、および重大エラー状態が含まれます。
- 1** 最高レベルの情報カタログ・マネージャー機能の入力レコードおよび出力レコードが含まれます。
- 2** 情報カタログ・マネージャー機能の入力レコードおよび出力レコードで、一般的なものが含まれます。
- 3** 入力および出力パラメーター (入力または出力構造を除く) が含まれます。
- 4** 情報カタログ・マネージャーに渡されて使用されたすべての入力または出力構造が含まれます。

/USERID

情報カタログのユーザー ID。情報カタログがあるデータベースに必要なユーザー IDを入力します。たとえば、ユーザー ID はローカル、LAN、AS/400、AIX、または OS/390 TSO ローカルであることがあります。

例:

```
/USERID Tongods
```

第7章 情報カタログ・マネージャーの保守

情報カタログ・マネージャーの管理タスクは 2 つに分けられます。問題の予防と問題の解決です。

問題の予防

次のようにすれば、情報カタログ・マネージャーを円滑に運営してゆくことができます。

- 使用可能なディスク・スペースをモニターする。
- 情報カタログ・マネージャーにとって十分な資源が LAN 構成に常にあるようにする。
- ユーザーが情報カタログを常に並行アクセスできるようにする。
- 定期的に情報カタログ・データベースのバックアップを取り、ソフトウェアのサポートを行う。
- ユーザーに自分たちの個人ファイルのバックアップを定期的にとってもらう。

LAN またはデータベースの管理者が、これらのほとんどのタスクについて助けになります。また詳しくはデータベース資料を参照してください。

使用可能ディスク・スペースのモニター

情報カタログ・データベースを含むドライブで、使用できるスペースがどれだけあるかを定期的にモニターすれば、情報カタログの成長に伴い組織がスペース不足にならずにすみます。スペースが不足すると、情報カタログ・マネージャーは停止することがあります。その場合、ユーザーは情報カタログにアクセスすることはできません。

Windows ページング・ファイルを含むユーザーのワークステーションのドライブもモニターします。Windows NT では、次のようにして、このファイルを表示または編集できます。

1. 「コントロール パネル」をオープンする。
2. 「システム」をダブルクリックして、「システム・プロパティ」ノートブックをオープンする。
3. 「パフォーマンス」ページで「仮想メモリー」をクリックする。
4. 「総ページング・ファイル・サイズ」フィールドを編集する。

問題の予防

5. 「OK」をクリックして、「システム・プロパティ」ノートブックをクローズする。

ユーザーの情報カタログが DB2 UDB (OS/2 版) データベースに保管されている場合: DB2 UDB (OS/2 版) が実行時に作成したログ・ファイルを書き出すドライブで使用できるスペースをモニターします。ドライブにログ・ファイルのスペースが十分ないと、DB2 UDB (OS/2 版) は情報カタログ・マネージャーをクローズして停止する場合があります。このログ・ファイルの数またはサイズを増やす必要があるかもしれません。DB2 UDB (OS/2 版) ログ・ファイルについて知りたい場合、または変更したい場合は、DB2 UDB (OS/2 版) ツールを使用してください。

ユーザーの情報カタログが DB2 ユニバーサル・データベースに保管されている場合: ログ・ファイルのサイズ変更に関する情報については、DB2 ユニバーサル・データベース・コントロール・センターに関するオンライン・ヘルプを参照してください。

複数ユーザーによる情報カタログの並行アクセス

情報カタログ・マネージャーを DB2 データベースで使用する場合、情報カタログにアクセスする各ユーザーは、DB2 を使用するエージェントであるとみなされます。DB2 に保管された情報カタログの場合は、使用されていないエージェントの最大数はデフォルトの 3 より高い数でなければなりません。最大同時エージェントの数も増やす必要があります。

使用されていないエージェントと同時エージェントの現在の設定値を調べるには、DB2 コマンド行プロセッサから次のコマンドを入力します。

```
get database manager configuration
```

使用されていないエージェントの数を変更するには、DB2 コマンド行プロセッサから次のコマンドを入力します。

```
update database manager configuration use max_idleagents num
```

ここで *num* は使用されていないエージェントの新規数です。

同時エージェントの数を変更するには、DB2 コマンド行プロセッサから次のコマンドを入力します。

```
update database manager configuration use maxagents num
```

ここで *num* は同時エージェントの新規数です。

情報カタログ・データベースと構成情報のバックアップ

ハードウェアやソフトウェアの障害でデータを失うことがないように、情報カタログ・データベースと構成情報およびそれらをサポートするソフトウェアのバックアップ手順を確立してください。

これらの構成要素のバックアップをどのくらいの頻度で取るかは、情報カタログでの変更の頻度、および組織のバックアップに対する方針によって異なります。

この手順には、以下のタスクが含まれます。

- LAN サーバー・システムのバックアップを取る。
- 各情報カタログ・データベースのバックアップを取る。
 情報カタログ・データベースが DB2 UDB (OS/390 版) の場合には、情報カタログ・マネージャーは 2 つの表スペースを使ってデータを保管します。これらの表スペースに保管されたデータは相互に関連しているので、両方の表スペースのバックアップを同時に行わなければなりません。
- 情報カタログ・マネージャー構成情報のバックアップを取る。
- データのバックアップをテープに、または別の物理ドライブか LAN ドライブに、またはディスクットに取る。
- 大きな変更を行う前にデータのバックアップを行う。
- 情報カタログに対し大きな変更を行うタグ言語ファイルをインポートしたら、データのバックアップを行う。
- 変更をしばしば行う場合には、週ごとにデータのバックアップを取る。

LAN またはデータベース管理者と連携をとりながらバックアップ手順を実施してください。

情報カタログ・データベース

情報カタログ・データベースのバックアップを取ることは、データベースが不整合になったり破壊されたときに、記述データの回復を可能にするために極めて重要なことです。

次の 2 つの方法のどちらかを使って、情報カタログ・データベースのバックアップを取ることができます。

- DB2 ユニバーサル・データベースのバックアップ・ユーティリティを使う。詳しくは、DB2 データベース・システムの管理の手引きを参照してください。
- すべてのデータをタグ言語ファイルにエクスポートする。これについては、89ページの『メタデータのエクスポート』を参照してください。

情報カタログ・データベースのメンテナンスの追加のヒント: データベースの最善のパフォーマンスを維持するには、DB2 ユニバーサル・データベース RUNSTATS および REORG ユーティリティーを使用することをお勧めします。RUNSTATS ユーティリティーは、照会の最適化プロセスに助けとなる DB2 UDB システム・カタログ表内の統計を更新します。それらの統計を使用しないと、データベース管理プログラムは、SQL ステートメントのパフォーマンスに有害な影響を及ぼす決定を行うことがあります。REORG ユーティリティーを使用すると、さらに効率よく表や索引内にデータを配置するのに助けになります。詳しくは、DB2 データベース・システムの管理の手引きを参照してください。

情報カタログ・マネージャーの構成情報

情報カタログ・マネージャーは管理者のワークステーションとユーザーのワークステーションにいくつかの構成情報を作成します。保管された情報には、特定の情報カタログのための集合や保管された検索などのユーザー固有のデータが入ります。情報カタログ・マネージャー (Windows 版) はこの情報をシステム・レジストリーに保管します。

MS-DOS のプロンプトで REGEDIT を入力して、Windows のレジストリー・エディタで Windows のシステム・レジストリーを表示します。

情報カタログ・マネージャー (Windows 版) の作業ディレクトリーを見つけるには、DGWPATH 環境変数を調べてください。(Windows NT では、「コントロール パネル」の「環境変数」の下に環境変数があります。Windows 95 では、ユーザーの AUTOEXEC.BAT ファイルに環境変数があります。) それから、レジストリー・エディタで作業ディレクトリーの名前を検索します。

ユーザーがアクセスする情報カタログごとに、INI という接尾部を持つレジストリーに 1 つのブランチまたはフォルダーがあります。さらに、ワイルドカード設定、最後にログオンしたユーザー ID、および最後に使った情報カタログを持つフォルダーもあります。ユーザーの管理者フォルダーにはデフォルトのエクスポート設定値もあります。

レジストリー・エディタのオンライン・ヘルプは、選択済み分岐のインポートとエクスポート方法、またはレジストリー全体の復元方法を説明しています。

情報カタログに大きな変更または追加がある場合は常に、ご自分と全ユーザーの情報カタログ・マネージャー構成情報をバックアップしてください。

問題の解決

情報カタログ・マネージャーには、問題の解決を助けるための資源がいくつかあります。これらの資源は次のとおりです。

- オンライン情報とメッセージ
- ログオン管理者のユーザー ID をリセットするユーティリティー
- バックアップ・データを使用してユーザーの情報カタログを復元するプロシージャ
- 情報カタログ・マネージャー・トレース・ファイル

オンライン情報とメッセージの使用

情報カタログ・マネージャーでは、広範なオンライン情報とメッセージを提供して、問題の解決を援助します。メッセージを受け取ったら、まずオンライン・ヘルプを使って問題の解決にあたってください。

DB2 ユニバーサル・データベース メッセージ解説書 で、情報カタログ・マネージャー・メッセージと説明のヘルプ、および情報カタログ・マネージャー理由コードの拡張コードを調べることができます。拡張コードについては、*情報カタログ・マネージャー プログラミングの手引きおよび解説書* でも説明されています。

管理者ログオンの問題の解決

情報カタログを使っているときに、情報カタログ・マネージャーが予期せずクローズしてしまったら、問題が起きたときにログオンしていた管理者のユーザー ID はリセットが必要です。管理者の ID をリセットしないでログオンしようとする、別の管理者がすでにログオンしていることを伝えるエラー・メッセージを受け取ります。

MS-DOS コマンド・プロンプトから、次のコマンドを入力してください。

```
X:%Program Files%SQLLIB%BIN%CLEARKA
```

ここで、X は、DB2 ユニバーサル・データベースがインストールされているドライブです。

プロンプトが表示されたら、情報カタログ名、ユーザー ID、およびパスワードを空白で区切って入力します。たとえば、

```
ICMSAMP longods secret
```

次に、情報カタログを再びオープンします。

問題の解決

情報カタログが、DB2 UDB for OS/390 バージョン 4.1 データベースに保管されていて、情報カタログ・マネージャーが、データベースとの通信が失われたことを示すエラーで強制的にクローズされた場合、DB2 UDB (OS/390 版) システム・パラメーター IDTHTOIN の値を大きくする必要があるかもしれません。

情報カタログ・マネージャー構成要素とデータの回復

ハードウェアまたはソフトウェア障害があると、情報カタログ・データベース、記述データ、それに構成要素の一部が失われることがあります。必要な構成要素とデータのバックアップを取っていれば、システム、情報カタログ・マネージャー、およびデータを回復できます。

システム障害が起きたら、データベース・サーバーのハード・ディスクが回復して、ユーザーが情報カタログにアクセスする前に、以下のステップを行ってください。

1. 必要であれば、データベース管理システムを回復し、情報カタログ・マネージャーを再インストールする。
2. バックアップ・ファイルを使って情報カタログ・データベースを復元する。
 - お持ちのバックアップ・ファイルがデータベース・イメージ・コピーの場合は、
 - a. 情報カタログ・データベースの復元についての情報は、データベース管理システム用の資料を参照してください。
 - b. コマンド・プロンプトから `SQLBIND` コマンドを発行して、復元されたデータベースを情報カタログ・マネージャーにバインドします。表 15 には、復元しようとしている情報カタログ・マネージャー構成要素で使用すべきバインド・ファイルが示されています。

表 15. 情報カタログ・マネージャー バージョン 5.2 バインド・ファイル

使用プロダクト	使用すべきバインド・ファイル
情報カタログ・マネージャー (Windows 版) 管理者	FLGNJKA1.BND FLGNJKW1.BND FLGNJKX1.BND
情報カタログ・マネージャー (Windows 版) ユーザー	FLGNJKW1.BND FLGNJKX1.BND

バインド・ファイルには次のパラメーター値を指定してください。

日付形式	ISO
実行特権の付与	PUBLIC
行ブロッキング	ALL (FLGNJKA0.BND または FLGNJKA1.BND には適用されない)

- バックアップ・ファイルが、情報カタログ・マネージャーのエクスポート処理で作られた情報カタログ・マネージャー・タグ言語ファイルなら、次のようにします。
 - a. 「情報カタログの初期化 (Initialize Information Catalog)」ウィンドウを使用して、再び情報カタログを定義する。
 - b. タグ言語ファイルをインポートして、データを回復する。

問題を診断するためのトレース・ファイルの使用

情報カタログ・マネージャーは自動的にトレース・ファイル という名前のファイルを作り、それによって問題の診断を助けます。

トレース・ファイルは、情報カタログ・マネージャーにログオンするたびに作られます。それには、情報カタログ・マネージャーを始動した時間と日付、製品のバージョン、サービス・レベル、および情報カタログ・マネージャーの稼働中に起こったことについての情報などが含まれます。

情報カタログ・マネージャーは、トレース・ファイルに対して、情報カタログ・ファイルの名前に拡張子 TRC を付けた名前を指定します。情報カタログ・マネージャー (Windows 版) は、トレース・ファイルを DGWPATH 環境変数に指定されているドライブおよびパスに置きます。(Windows NT では、コントロール パネルの環境変数のもとにあります。Windows 95 では、この変数はユーザーの AUTOEXEC.BAT ファイルにあります。) たとえば、DGIVP 情報カタログを使っているなら、DGWPATH 環境変数によって指定されたドライブとパスで、DGIVP.TRC という名前のトレース・ファイルを探します。

情報カタログ・マネージャーはログオンのたびにトレース・ファイルを上書きします。

重要

情報カタログ・マネージャーが予期しないときにクローズしたら、IBM サポート・センターを呼ぶ前に、直ちにコマンド・プロンプトに進み、トレース・ファイルの名前を変更してください。これをしないと、情報カタログ・マネージャーを再始動したときに、トレース・ファイルが上書きされ、問題を説明するのに必要な記録が消去されます。

問題の解決

情報カタログ・マネージャーの活動を 5 つのレベルでトレースできます。デフォルトのレベルは 0 です。このレベルでは、情報カタログ・マネージャーは、画面に表示するエラー・メッセージだけを記録します。情報カタログ・マネージャーは、重大なエラーがあると、トレース・レベルを自動的に上げ、エラー番号とそれに関連する拡張コードを記録します。オンライン・ブック *DB2 ユニバーサル・データベース メッセージ解説書* でエラー番号といくつかの拡張コードを調べることができます。拡張コードは追加の説明コードで、特定の状況におけるエラーについてさらに情報を提供します。ただし、トレース・ファイルには、情報カタログ・マネージャーの拡張コードまたは構造化照会言語 (SQL) の拡張コードが含まれることがあります。関連するメッセージ解説書で追加情報を探す必要があるかもしれません。

IBM サポート・センターが問題を診断するためには、それより高いレベルが必要になる場合があります。診断を行うときは、コマンド・プロンプトから /TRACE オプションを使用して情報カタログ・マネージャーを始動してください。詳しくは、209ページの『タグ言語ファイルをコマンド行からインポートする』を参照してください。

図21 は、トレース・ファイルの例を示しています。

```
*****
* Information Catalog Manager Trace File
*
*   Date and Time   : Fri Jan 21 10:15:38 2000
*   Product Version : V7.1
*
*****
Starting Trace... >> PID/TID = 319 / 320"
Starting Trace Level: 0
FLGGETReg >> PID/TID = 319 / 320"
New Reason Code: 1008
-----
```

図 21. 情報カタログ・マネージャーの理由および拡張コードを示すトレース・ファイル

トレース・ファイルの使い方

1. *DB2 ユニバーサル・データベース メッセージ解説書* でエラー・メッセージを調べる。
2. その推奨アクセスに従う。
3. 拡張コードがある場合には、次の文書でそれを調べる。

SQL コードおよび情報カタログ・マネージャー拡張コードについては、*DB2 ユニバーサル・データベース メッセージ解説書* を参照してください

い。拡張コードについては、*情報カタログ・マネージャー プログラミングの手引きおよび解説書*でも説明されています。

126ページの図21 で、New Reason Code: 1008 は、FLGGETReg API がアイコン・ファイルを検索できなかったことを示します。

問題の解決

付録A. 情報カタログ・マネージャー抽出プログラム

情報カタログ・マネージャーはいくつものデータベース管理システムやデスクトップ・アプリケーションから記述データを抽出できる一連の抽出プログラムを提供します。ここでは、これらの抽出プログラムの使用を開始する方法について簡単に説明します。

情報カタログ・マネージャーが提供する抽出プログラム

次のソースの中から記述データを抽出することができます。

- BACHMAN データベース管理者
- Quattro Pro
- CorelDRAW!
- Harvard Graphics
- IBM DB2 ユニバーサル・データベース ファミリー
- IBM DataAtlas (IMS および関係定義)
- IBM DataJoiner
- Lotus 1-2-3
- Lotus Approach
- Lotus Freelance Graphics
- Microsoft Excel
- Microsoft Word
- ODBC 抽出プログラム
- Oracle
- Texas Instruments Information Engineering Facility (TI/IEF)
- WordPerfect

これらの抽出プログラムを使うには、それらが実行される特定の操作環境についてよく知っていなければなりません。

抽出プログラムの実行計画

情報カタログを移植するために、抽出プログラムを効果的に使用するには、以下の準備ステップを完了してください。

1. 抽出用に記述データを識別する。

リレーショナル・データベース用の情報カタログ・マネージャー抽出プログラムは、オブジェクトの表と列タイプ用の記述データを抽出します。

抽出プログラムの実行計画

これらのオブジェクト・タイプの記述に関しては、131ページの『付録B. 事前定義された情報カタログ・マネージャー・オブジェクト・タイプ』を参照してください。データベースの関係カタログは、これらのオブジェクトに必要なすべてのプロパティを持っていないので、抽出プログラムはカタログにあるプロパティの記述データだけを作ります。タグ言語ファイルを編集して欠落している情報を埋めることができます。タグ言語ファイルを書くための完全な情報については、165ページの『付録D. タグ言語』を参照してください。デスクトップ・アプリケーション用の抽出プログラムは、このアプリケーション特有の独自のオブジェクト・タイプを作成します。

重要:

データを抽出して、DB2 UDB (AS/400 版) 情報カタログに保管しようとする場合、このステップは特に重要です。DB2 UDB (AS/400 版) 情報カタログにオブジェクト・タイプを作成した後、これらを更新してプロパティを追加することはできません。ですから、抽出しようとするデータに適合させたいオブジェクト・タイプを正確に作成してください。抽出されたデータに特別に合わせた別のオブジェクト・タイプを作成したいことがあるかもしれませんが、たとえば、「列」というオブジェクト・タイプをすでに持っていたとしたら、抽出データに「列 2」というオブジェクト・タイプを作成することができます。

2. 適切な抽出プログラムを選択する。

抽出したい記述データが分ったら、適切な抽出プログラムを選択し、それを修正する必要があるかどうかを判断します。

IBM のリレーショナル・データベースである DB2 ファミリー用の DGWEXT プログラムに修正の必要はありません。IBM は DGWEXT プログラムをサポートし、その保守を行います。情報カタログ・マネージャーと共に提供されるその他の抽出プログラムは、単にサンプル目的のプログラムです。独自の環境とデータベースに合わせて使用するため、これらの抽出プログラムを修正する必要がある場合があります。

3. 使用したい抽出プログラムに関する資料を読む。

各抽出プログラムは、DB2 ユニバーサル・データベースがインストールされているドライブ上の ¥SQLLIB¥SAMPLES パスにある固有のサブディレクトリに存在します。各抽出プログラムの使用に関する情報およびその手順は、その抽出プログラムのサブディレクトリの README ファイルにあります。

付録B. 事前定義された情報カタログ・マネージャー・オブジェクト・タイプ

情報カタログ・マネージャーは、IBM または他社のデータウェアハウスセンター構成要素とその他の MDIS 準拠製品からのメタデータを交換できる、事前定義されたオブジェクト・タイプを含んでいます。この付録では、オブジェクト・タイプ・プロパティが MDIS オブジェクト・タイプにマップされる方法を含め、事前定義されたすべての情報カタログ・マネージャー・オブジェクト・タイプについて説明しています。完全な MDIS オブジェクト・タイプ定義を含むメタデータ交換仕様についての情報は、Meta Data Coalition の Web サイト <http://www.MDCinfo.com> を参照してください。

情報カタログ・マネージャーは、事前定義されたオブジェクト・タイプと、サンプル情報カタログ内の各タイプのサンプル・オブジェクトの両方を提供します。サンプル情報カタログは、7 つの情報カタログ・マネージャー区分のそれぞれに最低 1 つのオブジェクト・タイプを含んでいます。この付録では、サンプル情報カタログの作成方法も説明します。情報カタログ・マネージャー・オブジェクト・タイプの機能について、詳しくは 32 ページの『独自のオブジェクトを作成する』を参照してください。

情報カタログ・マネージャー・サンプル・データのアクセス

このセクションでは、事前定義されたオブジェクト・タイプとそれらのタイプのオブジェクトの両方を含むサンプル情報カタログを作成する方法と、事前定義されたオブジェクト・タイプのみをインポートする方法を説明します。

サンプル情報カタログの作成

サンプル DB2 UDB (Windows NT 版) 情報カタログを設定すると、ユーザーはそれを使用して、情報カタログ・マネージャーの使用方法を学ぶことができます。サンプル情報カタログは事前定義されたすべての情報カタログ・マネージャー・オブジェクト・タイプと、それらのタイプのオブジェクトを含んでいます。それらのオブジェクトは、業務環境に特に必要な情報を記述しています。情報カタログ・マネージャー 使用者の手引き では、CelDial 業務シナリオを使用して、このサンプル情報カタログからの例を使用することにより、情報カタログ・マネージャーを紹介しています。

サンプル情報カタログの作成

希望するプラットフォームに DB2 データベースを作成し、それから情報カタログの作成ユーティリティを使用してサンプル情報カタログを作成します。サンプル情報カタログ・ユーティリティは、新規に作成した情報カタログにサンプル・データを登録します。

サンプル情報カタログを作成する手順は次のとおりです。

1. 新規情報カタログを定義するには、ユーザーのデータベース・システムについて 1 ページの『第1章 情報カタログの設定』またはオンライン・ヘルプのステップに従う。作成時には、ユーザーのサンプル情報カタログを ICMSAMP. と名付けてください。ICMSAMP. という名前の情報カタログがすでにある場合は、新規の情報カタログに他の名前を付けることができますが、新しい名前をユーザーに必ず通知してください。
2. MS-DOS コマンド・プロンプトから、次のように入力する。

```
X:%Program Files¥SQLLIB¥SAMPLES¥SAMPDATA¥DGWDEMO
```

ここで X は DB2 ユニバーサル・データベースをインストールしたドライブです。

このコマンドに指定できる追加パラメーターについての詳細を調べるには、MS-DOS コマンド・プロンプトで DGWDEMO ? と入力してください。

3. Enter キーを押す。次の 4 つのデフォルト・オプションについて、いずれかまたはすべてを変更することができます。
 - 1 情報カタログ・マネージャー (Web 版) をインストールした Web サーバーの完全修飾されたパス (たとえば、dgntserv2.st1.ibm.com)。
 - 2 情報カタログ用の管理者のユーザー ID。
 - 3 以下のオペレーティング・システム上のデータベースにアクセスするためのパスワードは大文字小文字の区別があります。このため、指定されたとおりに入力する必要があります。
 - AIX
 - Windows NT および Windows 2000
 - Solaris 実行環境版
 - 4 サンプル・データ用に作成した情報カタログの名前。ICMSAMP という名前の既存のカタログがあって別の名を付けた場合以外、この情報カタログの名前は ICMSAMP です。

最後に Enter を押した後、ユーティリティはサンプル・データのロードに進みます。ユーティリティはサンプル・データのロードがいつ終了したかを通知します。サンプル情報カタログは使用できる状態です。

情報カタログ・マネージャー (Web 版) ユーザーへの注意:

¥SQLLIB¥SAMPLES¥SAMPDATA ディレクトリーにあるサンプル・データを情報カタログ・マネージャー (Web 版) サーバーにコピーする必要があります。このサンプル・データは、ルート・ディレクトリーの下の ICMSAMP というディレクトリーにコピーしてください。たとえば、

- Lotus Domino Go Webserver では、 WEBSERVE¥HTML¥ICMSAMPLE ディレクトリーを作成します。
- Microsoft Internet Information Server (IIS) では、INETPUB¥WWWROOT¥ICMSAMPLE ディレクトリーを作成します。
- Apache Web Server on AIX では、 /usr/local/apache/htdocs/icmsample ディレクトリーを作成します。

事前定義されたオブジェクト・タイプでユーザーの情報カタログを初期化する

ユーザーの情報カタログを作成したときに共通のオブジェクト・タイプをインポートできず、サンプル・タグ言語ファイル全体をインポートしたくない場合は、MS-DOS コマンド・プロンプトで次のコマンドを使用してオブジェクト・タイプをインポートすることができます。

X:Program Files¥SQLLIB¥SAMPLES¥SAMPDATA¥DGWDEMO /T *userid password dgname*

X DB2 ユニバーサル・データベースをインストールしたドライブ。

userid

情報カタログ用の管理者のユーザー ID。

password

userid のパスワード。

以下のオペレーティング・システム上のデータベースにアクセスするためのパスワードは大文字小文字の区別があります。このため、指定されたとおりに入力する必要があります。

- AIX
- Windows NT および Windows 2000
- Solaris 実行環境版

dgname

事前定義されたオブジェクト・タイプで初期化したい情報カタログの名前。

事前定義されたオブジェクト・タイプ・モデル

情報カタログ・マネージャーの事前定義されたオブジェクト・タイプには、図22 から図27 に示される 6 つのデータ・モデルが続きます。

図22 はリレーショナル・モデルに関係したオブジェクト・タイプを示します。

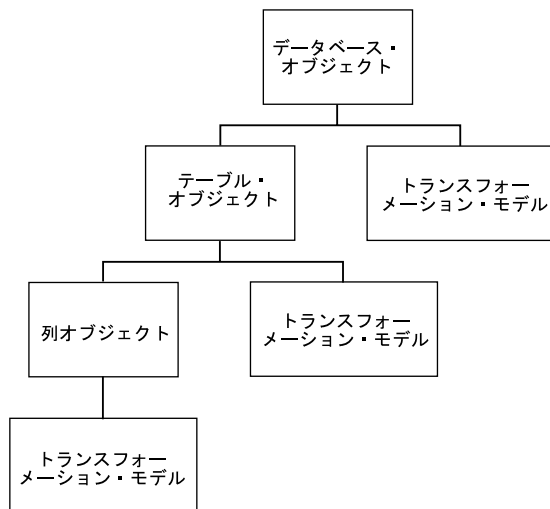


図22. リレーショナル・モデルと事前定義されたオブジェクト・タイプ

図23 は階層モデルに関係したオブジェクト・タイプを示します。

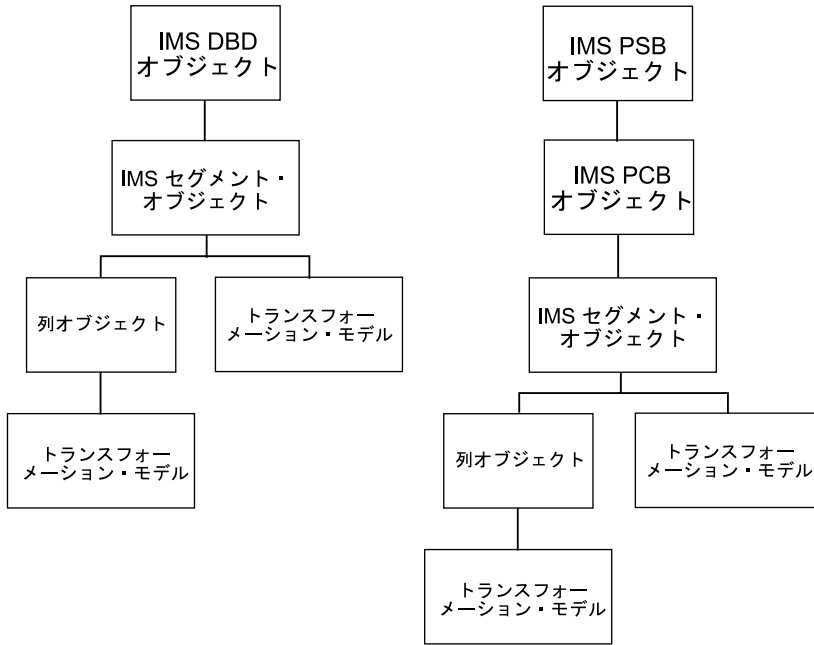


図 23. 階層モデルと事前定義されたオブジェクト・タイプ

図24 はファイル・モデルに関するオブジェクト・タイプを示します。

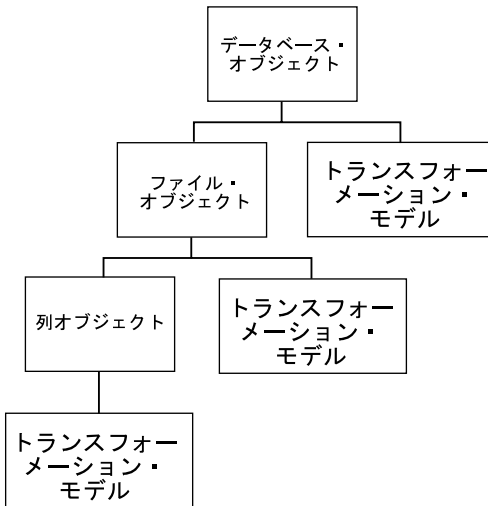


図 24. ファイル・モデルと事前定義されたオブジェクト・タイプ

事前定義されたオブジェクト・タイプ・モデル

図25 は多次元 (OLAP) モデルに関するオブジェクト・タイプを示します。

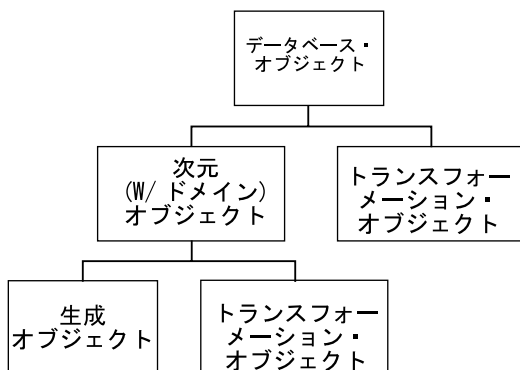


図25. 多次元モデルと事前定義されたオブジェクト・タイプ

図26 は、トランスフォーメーション・モデルに関するオブジェクト・タイプを示します。

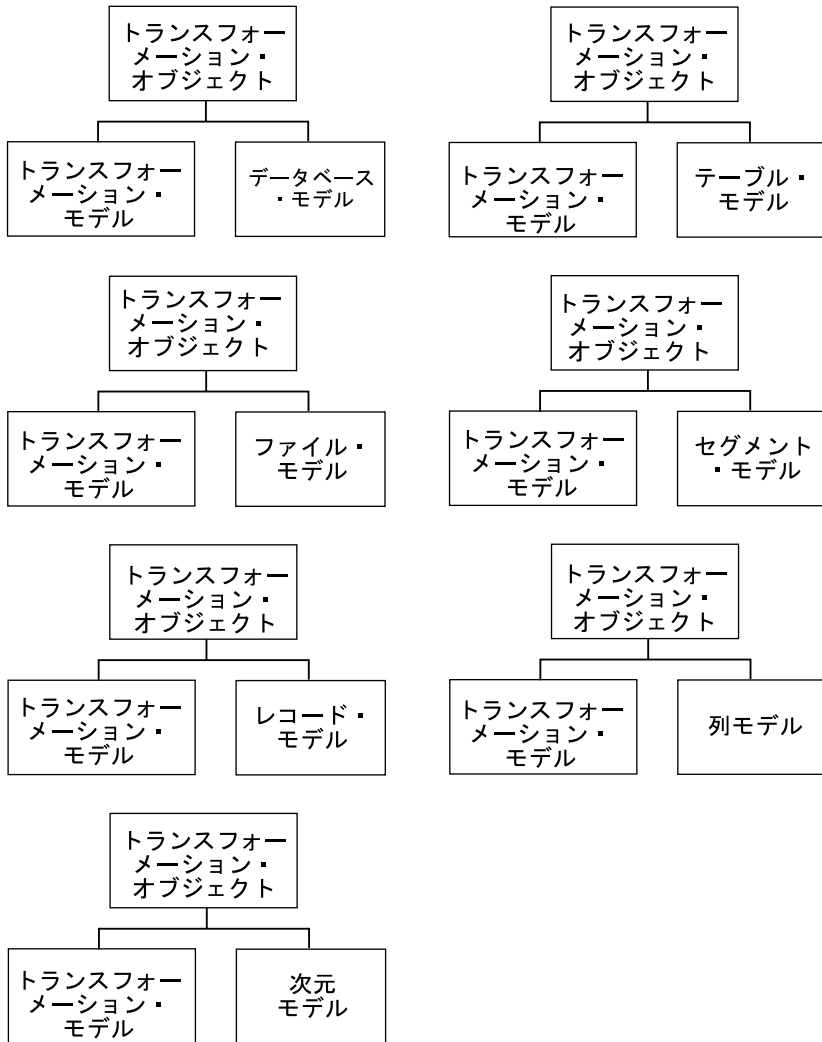


図 26. トランスフォーメーション・モデルと事前定義されたオブジェクト・タイプ

図27 は、サブジェクト・エリア・モデルに関するオブジェクト・タイプを示します。

事前定義された情報カタログ・マネージャー・オブジェクト・タイプの説明

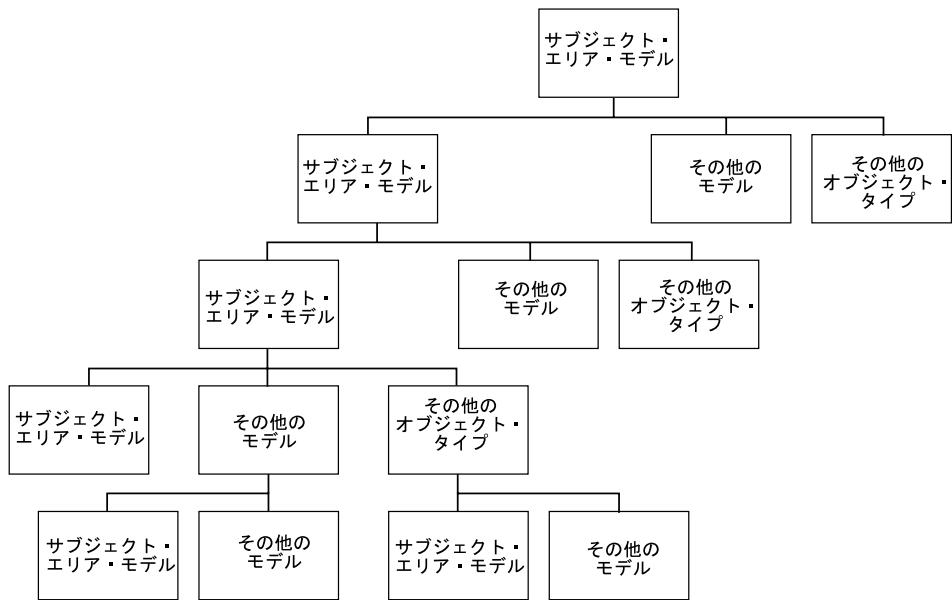


図 27. サブジェクト・エリア・モデルと事前定義されたオブジェクト・タイプ

事前定義されたオブジェクト・タイプの説明

情報カタログ・マネージャー・オブジェクト・タイプのサンプルは、139ページから区分ごとに編成して説明します。

各オブジェクト・タイプの説明とそのプロパティ仕様を包括的に説明する表が、*データウェアハウスセンター アプリケーション統合の手引き* にあります。この資料はデータウェアハウスセンター Web サイト <http://www.software.ibm.com/data/vw/> から参照できます。

以下のセクションで説明されている各オブジェクト・タイプのタグ言語ファイルは、DB2 ユニバーサル・データベースがインストールされているドライブの `¥SQLLIB¥DGWIN¥TYPES` にあります。

Grouping 区分

Grouping 区分には以下のオブジェクト・タイプが含まれます。

- アプリケーション・データ
- 業務サブジェクト・エリア
- 列またはフィールド
- データベース
- DWC (データウェアハウスセンター) プロセス

事前定義された情報カタログ・マネージャー・オブジェクト・タイプの説明

- 多次元データベース内の次元
- 要素
- ファイル
- IMS データベース定義 (DBD)
- IMS プログラム制御ブロック (PCB)
- IMS プログラム仕様ブロック (PSB)
- IMS セグメント
- 多次元データベース内のメンバー
- 多次元データベース
- レコード
- リレーショナル表と視点
- スタースキーマ
- サブ・スキーマ
- トランスフォーメーション

「アプリケーション・データ」オブジェクト・タイプ

情報カタログ・マネージャーは「アプリケーション・データ」オブジェクト・タイプをいくつかの MDIS メタデータ交換の内部で使用します。このオブジェクト・タイプのオブジェクトはユーザーの情報カタログに表示されますが、オブジェクトを作成するためにこのオブジェクト・タイプを使用することはありません。

「アプリケーション・データ」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、¥SQLLIB¥DGWIN¥TYPES ディレクトリーの FLGNYAPL.TYP ファイルにあります。

「業務サブジェクト・エリア」オブジェクト・タイプ

「業務サブジェクト・エリア」オブジェクト・タイプは、オブジェクトの論理グループ化を表します。

「業務サブジェクト・エリア」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、¥SQLLIB¥DGWIN¥TYPES ディレクトリーの FLGNYINF.TYP ファイルにあります。

「列またはフィールド」オブジェクト・タイプ

「列またはフィールド」オブジェクト・タイプはリレーショナル表、ファイル内のフィールド、または IMS セグメント内のフィールド内の列を表します。

事前定義された情報カタログ・マネージャー・オブジェクト・タイプの説明

「列またはフィールド」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、
¥SQLLIB¥DWIN¥TYPES ディレクトリーの FLGNYCOL.TYP ファイルにあります。

「データベース」オブジェクト・タイプ

「データベース」オブジェクト・タイプはリレーショナル・データベースを表します。

「データベース」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、
¥SQLLIB¥DWIN¥TYPES ディレクトリーの FLGNYDAT.TYP ファイルにあります。

「多次元データベース内の次元」オブジェクト・タイプ

「多次元データベース内の次元」オブジェクト・タイプは多次元データベース内の次元を表します。次元はメンバーで構成されます。

「多次元データベース内の次元」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、
¥SQLLIB¥DWIN¥TYPES ディレクトリーの FLGNYDIM.TYP ファイルにあります。

DWC プロセス

このオブジェクト・タイプは、データウェアハウスセンター内のプロセスを表しています。プロセスは一般にソース・データ上で操作を行い、その元の形式から、意思決定支援に貢献する形式にデータを変更します。データウェアハウスセンターでは、プロセスは一般に 1 つまたは複数のソース、1 つまたは複数のステップ、および 1 つまたは複数のターゲットから成り立っています。

「DWC」オブジェクト・タイプを定義するためのタグ言語は、
¥SQLLIB¥DWIN¥TYPES ディレクトリーの FLGNYZD02.TYP ファイルにあります。

「要素」オブジェクト・タイプ

「要素」オブジェクト・タイプは、「列またはフィールド」オブジェクト・タイプに直接マップしない MDIS 要素オブジェクトを表します。

「要素」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、
¥SQLLIB¥DWIN¥TYPES ディレクトリーの FLGNYELE.TYP ファイルにあります。

「ファイル」オブジェクト・タイプ

「ファイル」オブジェクト・タイプはファイル・システム内のファイルを表します。

「ファイル」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、
¥SQLLIB¥DGWIN¥TYPES ディレクトリーの FLGNYFIL.TYP ファイルにあり
ます。

「IMS データベース定義 (DBD)」オブジェクト・タイプ

「IMS データベース定義 (DBD)」オブジェクト・タイプは IMS データベース
定義を表します。

「IMS データベース定義 (DBD)」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語
は、 ¥SQLLIB¥DGWIN¥TYPES ディレクトリーの FLGNYDBD.TYP ファイル
にあります。

「IMS プログラム制御ブロック (PCB)」オブジェクト・タイプ

「IMS プログラム制御ブロック (PCB)」オブジェクト・タイプは IMS プログ
ラム制御ブロックを表します。

「IMS プログラム制御ブロック (PCB)」オブジェクト・タイプを定義するタグ
言語は、 ¥SQLLB¥DGWIN¥TYPES ディレクトリーの FLGNYPCB.TYP ファイ
ルにあります。

「IMS プログラム仕様ブロック (PSB)」オブジェクト・タイプ

「IMS プログラム仕様ブロック (PSB)」オブジェクト・タイプは IMS プログ
ラム仕様ブロックを表します。

「IMS プログラム仕様ブロック (PSB)」オブジェクト・タイプを定義するタグ
言語は、 ¥SQLLIB¥DGWIN¥TYPES ディレクトリーの FLGNYPSB.TYP ファ
イルにあります。

「IMS セグメント」オブジェクト・タイプ

「IMS セグメント」オブジェクト・タイプは IMS セグメントを表します。

「IMS セグメント」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、
¥SQLLIB¥DGWIN¥TYPES ディレクトリーの FLGNYSEG.TYP ファイルにあり
ます。

「多次元データベース内のメンバー」オブジェクト・タイプ

「多次元データベース内のメンバー」オブジェクト・タイプは多次元データベ
ース内のメンバーを表します。 メンバーは次元の一部で、次元は多次元データ
ベースの一部です。

事前定義された情報カタログ・マネージャー・オブジェクト・タイプの説明

「多次元データベース内のメンバー」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、`¥SQLLIB¥DGWIN¥TYPES` ディレクトリーの `FLGNYDIM.TYP` ファイルにあります。

「多次元データベース」オブジェクト・タイプ

「多次元データベース」オブジェクト・タイプは多次元データベースを表します。

「多次元データベース」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、`¥SQLLIB¥DGWIN¥TYPES` ディレクトリー内の `FLGNYOLA.TYP` ファイルにあります。

「レコード」オブジェクト・タイプ

「レコード」オブジェクト・タイプは、「ファイル」または「リレーショナル表または視点」オブジェクト・タイプに直接マップしない `MDIS` レコード・オブジェクトを表します。レコードは要素で構成されます。

「レコード」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、`¥SQLLIB¥DGWIN¥TYPES` ディレクトリーの `FLGNYREC.TYP` ファイルにあります。

「リレーショナル表と視点」オブジェクト・タイプ

「リレーショナル表と視点」オブジェクト・タイプは、リレーショナル・データベースの表または視点を表します。

「リレーショナル表と視点」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、`¥SQLLIB¥DGWIN¥TYPES` ディレクトリーの `FLGNYTAB.TYP` ファイルにあります。

スタースキーマ

このオブジェクト・タイプは、OLAP サーバー・リレーショナル・データを表しています。スタースキーマには、ファクト表および 1 つまたは複数の次元表が含まれています。

「スタースキーマ」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、`¥SQLLIB¥DGWIN¥TYPES` ディレクトリーの `FLGNYZ01.TYP` ファイルにあります。

「サブ・スキーマ」オブジェクト・タイプ

「サブ・スキーマ」オブジェクト・タイプはデータベース内の論理グループ化を表します。

事前定義された情報カタログ・マネージャー・オブジェクト・タイプの説明

「サブ・スキーマ」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、
¥SQLLIB¥DGWIN¥TYPES ディレクトリー内の FLGNYSUB.TYP ファイルにあり
ます。

「トランスフォーメーション」オブジェクト・タイプ

「トランスフォーメーション」オブジェクト・タイプは、ターゲット・データベース内のデータの列にデータを移植するために使用する式または論理を表します。トランスフォーメーション・オブジェクトはソース操作可能データをターゲット列に変換するか、またはソース・フィールドの 1 対 1 マッピングをターゲット列に変換する式のいずれかを示します。

「トランスフォーメーション」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、
¥SQLLIB¥DGWIN¥TYPES ディレクトリー内の FLGNYFLT.TYP ファイルにあり
ます。

Elemental 区分

Elemental 区分には以下のオブジェクト・タイプが含まれます。

- オーディオ・クリップ
- 図表
- 文書
- イメージまたはグラフィックス
- インターネット文書
- Lotus Approach® 照会
- プレゼンテーション
- スプレッドシート
- テキスト基本レポート
- ビデオ・クリップ

「オーディオ・クリップ」オブジェクト・タイプ

「オーディオ・クリップ」オブジェクト・タイプはオーディオ情報を含むファイルを表します。これらのオブジェクトは、電子 (AUD ファイル) またはハードコピー (たとえば、CD、テープなど) の音声情報を表します。

「オーディオ・クリップ」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、
¥SQLLIB¥DGWIN¥TYPES ディレクトリーの FLGNYAUD.TYP ファイルにあり
ます。

「図表」オブジェクト・タイプ

「図表」オブジェクト・タイプはハードコピーまたは電子図表を表します。

事前定義された情報カタログ・マネージャー・オブジェクト・タイプの説明

「図表」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、
¥SQLLIB¥DWIN¥TYPES ディレクトリーの FLGNYCHA.TYP ファイルにあります。

「文書」オブジェクト・タイプ

「文書」オブジェクト・タイプはブック、解説書、および技術資料を表します。これらの資料はローカルまたはライブラリーで、印刷されたまたは、電子的な方法で見ることができます。

「文書」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、
¥SQLLIB¥DWIN¥TYPES ディレクトリーの FLGNYDOC.TYP ファイルにあります。

「イメージまたはグラフィックス」オブジェクト・タイプ

「イメージまたはグラフィックス」オブジェクト・タイプは、ビットマップなどのグラフィックス・イメージを表します。

「イメージまたはグラフィックス」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、
¥SQLLIB¥DWIN¥TYPES ディレクトリーの FLGNYIMA.TYP ファイルにあります。

「インターネット文書」オブジェクト・タイプ

「インターネット文書」オブジェクト・タイプは、参考になるインターネット上の Web サイトとその他の文書を表します。

「インターネット文書」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、
¥SQLLIB¥DWIN¥TYPES ディレクトリーの FLGNYINT.TYP ファイルにあります。

「Lotus Approach 照会」オブジェクト・タイプ

「Lotus Approach 照会」オブジェクト・タイプは、ユーザーの組織データで使用できる Lotus Approach 照会を表します。

「Lotus Approach 照会」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、
¥SQLLIB¥DWIN¥TYPES ディレクトリーの FLGNYAPR.TYP ファイルにあります。

「プレゼンテーション」オブジェクト・タイプ

「プレゼンテーション」オブジェクト・タイプは、さまざまなハードコピーの表示方法または電子ファイルの表示方法を表します。これらのプレゼンテーションには、製品、顧客、品質、および状況のプレゼンテーションが含まれることがあります。

事前定義された情報カタログ・マネージャー・オブジェクト・タイプの説明

「プレゼンテーション」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、
¥SQLLIB¥DGWIN¥TYPES ディレクトリーの FLGNYPRE.TYP ファイルにあります。

「スプレッドシート」オブジェクト・タイプ

「スプレッドシート」オブジェクト・タイプはデスクトップ・スプレッドシート (たとえば、Lotus 1-2-3 または Microsoft Excel スプレッドシート) を表します。

「スプレッドシート」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、
¥SQLLIB¥DGWIN¥TYPES ディレクトリーの FLGNYSSH.TYP ファイルにあります。

「テキスト基本レポート」オブジェクト・タイプ

「テキスト基本レポート」オブジェクト・タイプはハードコピーまたは電子レポートを表します。

「テキスト基本レポート」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、
¥SQLLIB¥DGWIN¥TYPES ディレクトリーの FLGNYREP.TYP ファイルにあります。

「ビデオ・クリップ」オブジェクト・タイプ

「ビデオ・クリップ」オブジェクト・タイプはビデオ情報を含むファイルを表します。これらのオブジェクトは、電子 (AVI ファイル) またはハードコピー (たとえば、ビデオ・テープまたはレーザー・ディスク) のビデオ情報を表します。

「ビデオ・クリップ」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、
¥SQLLIB¥DGWIN¥TYPES ディレクトリーの FLGNYVID.TYP ファイルにあります。

Contact 区分

Contact 区分は「担当者」オブジェクト・タイプを含みます。

「担当者」オブジェクト・タイプ

「担当者」オブジェクト・タイプは、情報カタログ内の単一または複数オブジェクトを担当する人またはグループを識別します。

「担当者」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、
¥SQLLIB¥DGWIN¥TYPES ディレクトリー内の FLGNYCON.TYP ファイルにあります。

Dictionary 区分

Dictionary 区分は「用語集の記入項目」オブジェクト・タイプを含んでいません。「用語集の記入項目」オブジェクト・タイプは情報カタログで使用される用語の定義を示します。

「用語集の記入項目」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、`¥SQLLIB¥DWIN¥TYPES` ディレクトリーの `FLGNYGLO.TYP` ファイルにあります。

Support 区分

Support 区分には以下のオブジェクト・タイプが含まれます。

- 情報カタログ・ニュース
- オンライン・ニュース・サービス
- オンライン資料

「情報カタログ・マネージャー・ニュース」オブジェクト・タイプ

「情報カタログ・マネージャー・ニュース」オブジェクト・タイプは、情報カタログの変更に関する情報をエンド・ユーザーに運びます。

「情報カタログ・マネージャー・ニュース」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、`¥SQLLIB¥DWIN¥TYPES` ディレクトリーの `FLGNYDGN.TYP` ファイルにあります。

「オンライン・ニュース・サービス」オブジェクト・タイプ

「オンライン・ニュース・サービス」オブジェクト・タイプは、オンラインでアクセスできるニュースと情報サービスを表します。

「オンライン・ニュース・サービス」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、`¥SQLLIB¥DWIN¥TYPES` ディレクトリーの `FLGNYOLN.TYP` ファイルにあります。

「オンライン資料」オブジェクト・タイプ

「オンライン資料」オブジェクト・タイプは、オンライン・サービスを使用してアクセスできる資料とその他の文書を表します。

「オンライン資料」オブジェクト・タイプを定義するタグ言語は、`¥SQLLIB¥DWIN¥TYPES` ディレクトリーの `FLGNYOLP.TYP` ファイルにあります。

Program 区分

Program 区分はプログラム・オブジェクト・タイプだけを含むことができます。プログラム・オブジェクト・タイプは、情報カタログが作成されるときに作成され、特定のオブジェクト・タイプを処理するアプリケーション機能を定義するために使用されます。

サンプル情報カタログの ICMSAMP では、プログラム・オブジェクト・タイプに「情報カタログ・オブジェクトから呼び出せるプログラム」という名前が付けられます。

Attachment 区分

Attachment 区分には「コメント」オブジェクト・タイプだけが含まれます。「コメント」オブジェクト・タイプは情報カタログが作成されるときに作成されます。

コメント・オブジェクト・タイプは、情報カタログ内の他のオブジェクトにコメントを付けるために使用されます。

事前定義されたプログラム・オブジェクト

表16 に示したプログラム・オブジェクト・タイプが、サンプル情報カタログで提供されています。さらに表には、プログラムを立ち上げるときに情報カタログ・マネージャー・プログラム・オブジェクトに関連づけるために使用するプロパティの名前も示します。

表 16. サンプル情報カタログで一般的に事前定義されたプログラム・オブジェクト

情報タイプ	プログラム名	オブジェクト・タイプ	プロパティの名前
マルチメディア・ファイル	Microsoft Media Player	オーディオ・クリップ	オーディオ・クリップ・ファイル名
	Microsoft Media Player	業務サブジェクト・エリア	ファイル名
	Microsoft Media Player	プレゼンテーション	プレゼンテーション・ファイル名
	Microsoft Media Player	ビデオ・クリップ	ビデオ・クリップ・ファイル名
ビットマップ・ファイル	Microsoft Paint	イメージまたはグラフィックス	グラフィック・ファイル名
	Microsoft Paint	担当者	担当者の写真のファイル名

事前定義された情報カタログ・マネージャー・オブジェクト・タイプの説明

表 16. サンプル情報カタログで一般的に事前定義されたプログラム・オブジェクト (続き)

情報タイプ	プログラム名	オブジェクト・タイプ	プロパティの名前
スプレッドシート・ファイル	Microsoft Excel	スプレッドシート	スプレッドシート・ファイル名
	Microsoft Paint	スプレッドシート	スプレッドシート・ファイル名
	Lotus 1-2-3	スプレッドシート	スプレッドシート・ファイル名
Web ページ	Netscape Navigator	オンライン・ニュース	データにアクセスするための URL
	Netscape Navigator	オンライン資料	データにアクセスするための URL
	Microsoft Internet Explorer	インターネット文書	データにアクセスするための URL
	Microsoft Internet Explorer	オンライン・ニュース	データにアクセスするための URL
	Microsoft Internet Explorer	オンライン資料	データにアクセスするための URL

表17 には、情報カタログ・マネージャーに統合されたアプリケーションを持つ特定の IBM ビジネス・パートナーのリストを示します。この表の内容は、147ページの表16 と似ています。

表 17. サンプル情報カタログで事前定義されたプログラム・オブジェクト - IBM ビジネス・パートナー

情報タイプ	プログラム名	オブジェクト・タイプ	プロパティの名前
Lotus	Approach	Lotus Approach	アプローチ・オブジェクト・ファイル名
	Freelance Graphics	プレゼンテーション	プレゼンテーション・オブジェクト・ファイル名
Hyperion	Essbase スプレッドシート・アドイン付きの	スプレッドシート	スプレッドシート・ファイル名
	Lotus 1-2-3		
	Essbase スプレッドシート・アドイン付きの	スプレッドシート	スプレッドシート・ファイル名
Brio	Microsoft Excel		
	Brio Query	テキスト基本レポート	レポートのファイル名

事前定義された情報カタログ・マネージャー・オブジェクト・タイプの説明

表 17. サンプル情報カタログで事前定義されたプログラム・オブジェクト - IBM ビジネス・パートナー (続き)

情報タイプ	プログラム名	オブジェクト・タイプ	プロパティーの名称
	Netscape Navigator (Brio.Insights プラグイン と使用)	テキスト基本レポート	データをアクセスするた めの URL
	Microsoft Internet Explorer (Brio.Insights プ ラグインと使用)	テキスト基本レポート	データをアクセスするた めの URL
BusinessObjects	BusinessObjects	データベース	なし
	BusinessObjects	テキスト基本レポート	レポートのファイル名
	Microsoft Excel (BusinessQuery アドイン と使用)	スプレッドシート	スプレッドシート・ファ イル名
	Microsoft Internet Explorer (WebIntelligence Java アプレットへのアク セスに使用)	インターネット文書	データにアクセスするた めの URL
	Netscape Navigator (WebIntelligence Java ア プレットへのアクセスに 使用)	インターネット文書	データにアクセスするた めの URL
Cognos	PowerPlay	テキスト基本レポート	レポートのファイル名
	Impromptu	テキスト基本レポート	レポートのファイル名
	Microsoft Internet Explorer (Impromptu Web Query と使用)	インターネット文書	データにアクセスするた めの URL
	Netscape Navigator (Impromptu Web Query と使用)	インターネット文書	データにアクセスするた めの URL
	Netscape Navigator (PowerPlay Web 版 HTML ページへのアクセ スに使用)	インターネット文書	データにアクセスするた めの URL
Wired for OLAP	Wired for OLAP View	テキスト基本レポート	デフォルトのユーザー・ ログイン、および始動オ プションを構成する

事前定義された情報カタログ・マネージャー・オブジェクト・タイプの説明

表 17. サンプル情報カタログで事前定義されたプログラム・オブジェクト - IBM ビジネス・パートナー (続き)

情報タイプ	プログラム名	オブジェクト・タイプ	プロパティの名前
	Wired for OLAP Home Page (Netscape 用)	テキスト基本レポート	デフォルトのユーザー・ログイン、および始動オプションを構成する
	Wired for OLAP Home Page (Microsoft Internet Explorer 用)	テキスト基本レポート	デフォルトのユーザー・ログイン、および始動オプションを構成する
Seagate	Crystal Reports	テキスト基本レポート	レポートのファイル名
Microsoft Access	Microsoft Access	データベース	
Microsoft PowerPoint™	Microsoft PowerPoint Viewer	テキスト基本レポート	レポートのファイル名
	Microsoft PowerPoint Viewer (Netscape 用)	テキスト基本レポート	データにアクセスするための URL
	Microsoft PowerPoint Viewer (Microsoft Internet Explorer 用)	テキスト基本レポート	データにアクセスするための URL

付録C. メタデータのマッピング

この付録では、以下のメタデータ用のオブジェクト・タイプとオブジェクト・タイプ・プロパティをリストします。

- 情報カタログ・マネージャー・メタデータからデータウェアハウスセンターメタデータへのマッピング。下記の『情報カタログ・マネージャーとデータウェアハウスセンターとの間でのメタデータのマッピング』で説明されます。
- 情報カタログ・マネージャー・メタデータから OLAP サーバー・メタデータへのマッピング。162ページの『情報カタログ・マネージャーと OLAP サーバーとの間でのメタデータのマッピング』で説明されます。

情報カタログ・マネージャーとデータウェアハウスセンターとの間でのメタデータのマッピング

以下の表は、各オブジェクト・タイプごとの情報カタログ・マネージャーとデータウェアハウスセンターとの間のメタデータのマッピングを示しています。情報カタログ・マネージャー列は、オブジェクト用の記述ビューに表示されているように、オブジェクト・タイプ・プロパティを示しています。データウェアハウスセンター列は、さまざまなオブジェクト・プロパティ・ノートブック内に表示されているように、オブジェクト・プロパティの名前を示しています。いくつかの場合、データウェアハウスセンター プロパティ情報 (ステップの処理時間スタンプなど) は、「進行中の処理 (Work in Progress)」ウィンドウから入手できます。

表 18. 情報カタログ・マネージャーとデータウェアハウスセンターとの間での、データベース・オブジェクトのメタデータのマッピング

情報カタログ・マネージャー・メタデータ	データウェアハウスセンター	メタデータ
名前	ウェアハウス・ソース名またはウェアハウス・ターゲット名	
短い記述	記述	
長い記述	注	
データにアクセスするための URL	なし	
アクション	なし	
データベース名またはサブシステム名	データベース名	

表 18. 情報カタログ・マネージャーとデータウェアハウスセンターとの間での、データベース・オブジェクトのメタデータのマッピング (続き)

データベース・タイプ	このプロパティの値は、RELATIONAL または FILE のいずれかになります。 マッピングは、ウェアハウス・ソース・タイプまたはウェアハウス・ターゲット・タイプから派生します。
エージェント・タイプ	なし
データベースの位置	なし
データベース・ホスト・サーバー名	システム名
システム・コード・ページ	このメタデータは、データウェアハウスセンターの内部にあります。 ¹
データベース・サーバー・タイプおよびデータベース拡張タイプ	マッピングは、ウェアハウス・ソース・タイプまたはウェアハウス・ターゲット・タイプから派生します。 たとえば、ウェアハウス・ターゲットが DB2 ユニバーサル・データベース (Windows NT 版) データベースである場合、データベース・サーバー・タイプは DB2 ファミリーです。データベース拡張タイプは、DB2 NT です。
データベース所有者	なし
ソース定義が最後に変更されたタイム・スタンプ	データベース定義の最新の更新タイム・スタンプ このメタデータは、データウェアハウスセンターの内部にあります。 ¹
データベース状況	なし
データベース拡張タイプ	データベース・サブタイプおよびデータベース・バージョン マッピングは、ウェアハウス・ソース・タイプまたはウェアハウス・ターゲット・タイプから派生します。たとえば、ウェアハウス・ターゲットが DB2 ユニバーサル・データベース (Windows NT 版) データベースである場合、データベース拡張タイプは DB2 NT です。
ソース定義が作成されたタイム・スタンプ	なし

表 18. 情報カタログ・マネージャーとデータウェアハウスセンターとの間での、データベース・オブジェクトのメタデータのマッピング (続き)

詳細情報	管理者
注:	
1. プロパティがデータウェアハウスセンターの内部プロパティとして指定されている場合には、プロパティは表示されません。	

表 19. 情報カタログ・マネージャーとデータウェアハウスセンターとの間での、IMS DBD (データベース記述定義) オブジェクトのメタデータのマッピング

情報カタログ・マネージャー・メタデータ	データウェアハウスセンター	メタデータ
名前	ウェアハウス・ソース名	
短い記述	記述	
長い記述	注	
アクション	なし	
最後に更新されたデータベース	なし	
詳細情報	管理者	
データベース所有者	なし	
データベース・ホスト・サーバー名	システム名	
データベース・サーバー・タイプ	データベース・タイプおよびデータベース・バージョン	
	マッピングは、ウェアハウス・ソース・タイプから派生します。IMS DBD のプロパティ値は IMS です。	
データベース名またはサブシステム名	データ・ソース名	
データベース・タイプ	このプロパティは HIERARCHICAL に設定されます。	
	マッピングは、ウェアハウス・ソース・タイプから派生します。	
データベース拡張タイプ	データベース・サブタイプおよびデータベース・バージョン	
	マッピングは、ウェアハウス・ソース・タイプから派生します。IMS DBD のプロパティ値は IMS です。	
データベース状況	なし	
IMS アクセス方式	なし	

表 19. 情報カタログ・マネージャーとデータウェアハウスセンターとの間での、IMS DBD (データベース記述定義) オブジェクトのメタデータのマッピング (続き)

オペレーティング・システム・アクセス方 式	なし
共用索引名	なし
データにアクセスするための URL	なし
ソース定義が作成されたタイム・スタンプ	なし
ソース定義が最後に変更されたタイム・ス タンプ	IMS DBD の最新の更新タイム・スタンプ このメタデータは、データウェアハウスセ ンターの内部にあります。 ¹
注:	
1. プロパティがデータウェアハウスセンターの内部プロパティとして指定されて いる場合には、プロパティは表示されません。	

表 20. 情報カタログ・マネージャーとデータウェアハウスセンターとの間での、リレー
ショナル表と視点オブジェクトのメタデータのマッピング

情報カタログ・マネージャー・メタデータ	データウェアハウスセンター メタデータ
名前	表名
短い記述	記述
長い記述	なし
データにアクセスするための URL	なし
アクション	なし
カタログの注釈	なし
ローカル・データベース別名	なし
最後に更新された表データベース	ターゲット表として表を使用して実行した ステップの最終タイム・スタンプ。 この情報は、「進行中の処理 (Work in Progress)」ウィンドウ内に表示されます。
トランスフォーメーション・プログラム・ タイプ	このプロパティの値はデータウェアハウ スセンターです。 データウェアハウスセンター内にこのプロ パティに関する特定のメタデータはあり ません。
データベース名またはサブシステム名	表を含む、ウェアハウス・ソース・デー タベースまたはウェアハウス・ターゲット・ データベースのデータベース名

表 20. 情報カタログ・マネージャーとデータウェアハウスセンターとの間での、リレーショナル表と視点オブジェクトのメタデータのマッピング (続き)

表の所有者	表のスキーマ
表名	表名
ソース定義が最後に変更されたタイム・スタンプ	表定義の最新の更新タイム・スタンプ このメタデータは、データウェアハウスセンターの内部にあります。 ¹
基礎表の所有者名	なし
基礎表名	なし
トランスフォーメーション・プログラムの実行モード	なし
最後に実行されたトランスフォーメーション・プログラム	なし
トランスフォーメーション・プログラムの実行頻度	なし
部分表または表全体のコピー / 更新	なし
コピー / 更新されたデータの一貫性のある状態	なし
カタログの最新表示 / 更新の頻度	なし
最後に変更されたトランスフォーメーション・プログラム	なし
コンパイルされたトランスフォーメーション・プログラム	なし
表タイプ	マッピングは、表を含むデータベースのウェアハウス・ソース・サブタイプまたはウェアハウス・ターゲット・サブタイプから派生します。 たとえば、ウェアハウス・ソースまたはウェアハウス・ターゲットが DB2 ユニバーサル・データベース (Windows NT 版) データベースである場合、データベース拡張タイプは DB2 NT です。
視点を表す定義	なし
内部 IDS 表名	なし
次元表として使用される表	次元表

表 20. 情報カタログ・マネージャーとデータウェアハウスセンターとの間での、リレーションナル表と視点オブジェクトのメタデータのマッピング (続き)

データベース・ホスト・サーバー名	表を含む、ウェアハウス・ソース・データベースまたはウェアハウス・ターゲット・データベースのシステム名
ソース定義が作成されたタイム・スタンプ	なし
詳細情報	表を含む、ウェアハウス・ソース・データベースまたはウェアハウス・ターゲット・データベースの管理者
注:	1. プロパティがデータウェアハウスセンターの内部プロパティとして指定されている場合には、プロパティは表示されません。

表 21. 情報カタログ・マネージャーとデータウェアハウスセンターとの間での、列またはフィールド・オブジェクトのメタデータのマッピング

情報カタログ・マネージャー・メタデータ	データウェアハウスセンター メタデータ
名前	列名またはフィールド名
短い記述	記述
長い記述	なし
データにアクセスするための URL	なし
アクション	なし
カタログの注釈	なし
列またはフィールドのデータ・タイプ	データ・タイプ
1 次キーにある列またはフィールドの位置	なし
列またはフィールドの長さ	長さまたは精度 (データ・タイプによる)
列またはフィールドのスケール	スケール
ヌル可能な列またはフィールド	ヌル可能
列またはフィールドの位置	ウェアハウス・ソースまたはウェアハウス・ターゲットについて、表またはファイル・ノートブックに表示される列またはフィールドのリスト内の位置
データベース名またはサブシステム名	列を含む表を含む、ウェアハウス・ソースまたはウェアハウス・ターゲットのデータベース名
表の所有者	列を含む表の表スキーマ。
表名	列を含む表の名前。
次元を含む	なし

表 21. 情報カタログ・マネージャーとデータウェアハウスセンターとの間での、列またはフィールド・オブジェクトのメタデータのマッピング (続き)

列名またはフィールド名	列名
ファイル名	フィールドを含むファイルのファイル名 (データウェアハウスセンター ファイルのみ)
最初から列またはフィールドまでのバイト・オフセット	固定タイプのファイル内のこのフィールドのオフセット このメタデータは、データウェアハウスセンターの内部にあります。 ¹
列またはフィールドが、キーの一部かどうか	なし
列またはフィールドが、固有キーかどうか	なし
データは変更前または変更後イメージか、または計算されているか	なし
列にデータを移植するために使用されるソース列 / フィールド名または式	なし
ソース定義が最後に変更されたタイム・スタンプ	列定義の最新の更新タイム・スタンプ このメタデータは、データウェアハウスセンターの内部にあります。 ¹
ヌル値を表すために使用されるストリング	なし
日付の解決	なし
列またはフィールドの精度	なし
データがテキストかどうか	テキストかどうか このプロパティの値は Y または N です。
データベース・ホスト・サーバー名	列を含む表を含むデータベースのシステム名
最後に更新された列またはフィールド	なし
ソース定義が作成されたタイム・スタンプ	なし
詳細情報	列を含む表を含むデータベースの管理者
列の順序	なし
注:	
1. プロパティがデータウェアハウスセンターの内部プロパティとして指定されている場合には、プロパティは表示されません。	

表 22. 情報カタログ・マネージャーとデータウェアハウスセンターとの間での、ファイル・オブジェクトのメタデータのマッピング

情報カタログ・マネージャー・メタデータ	データウェアハウスセンターメタデータ
名前	このプロパティの値はファイル名から派生します。
短い記述	記述
長い記述	なし
データにアクセスするための URL	なし
アクション	なし
最後に更新された情報	ターゲット・ファイルとしてファイルを使用して実行したステップの最終タイム・スタンプ
トランスフォーメーション・プログラム・タイプ	このプロパティの値はデータウェアハウスセンターです。 データウェアハウスセンター内にこのプロパティに関する特定のメタデータはありません。
データベース・ホスト・サーバー名	ファイルを含む、ウェアハウス・ソースまたはウェアハウス・ターゲットのシステム名
データベース名またはサブシステム名	ファイルを含むウェアハウス・ソースまたはウェアハウス・ターゲットのデータベース名
ファイル所有者	なし
ファイル・パスまたはディレクトリー	ファイル・パスまたはディレクトリーのプロパティ値は、ファイル名から派生します。
ファイル名	プロパティ値はファイル名から派生します。
ファイル・クラスまたはタイプ	ファイル・タイプ
最後に変更されたソース定義	ファイル定義の最新の更新タイム・スタンプ。 このメタデータは、データウェアハウスセンターの内部にあります。 ¹
最後に実行されたトランスフォーメーション・プログラム	なし

表 22. 情報カタログ・マネージャーとデータウェアハウスセンターとの間での、ファイル・オブジェクトのメタデータのマッピング (続き)

トランスフォーメーション・プログラムの 実行頻度	なし
部分ファイルまたはファイル全体のコピー / 更新	なし
コピー / 更新されたデータの一貫性のある 状態	なし
最後に変更されたトランスフォーメーショ ン・プログラム	なし
最後にコンパイルされたトランスフォーメ ーション・プログラム	なし
ソース定義が作成されたタイム・スタンプ	なし
詳細情報	ファイルを含むウェアハウス・ソースまたは ウェアハウス・ターゲットの管理者
注:	
1. プロパティがデータウェアハウスセンターの内部プロパティとして指定されて いる場合には、プロパティは表示されません。	

表 23. 情報カタログ・マネージャーとデータウェアハウスセンターとの間での IMS セグ
メント・オブジェクトのメタデータのマッピング

情報カタログ・マネージャー・メタデータ	データウェアハウスセンター メタデータ
名前	表名
短い記述	記述
長い記述	なし
データにアクセスするための URL	なし
アクション	なし
データベース名またはサブシステム名	データ・ソース名
セグメント名	なし
セグメントの最大長	なし
セグメントの最小長	なし
実論理子セグメントのソース	なし
論理親連結キーのソース	なし
最後に実行されたトランスフォーメーショ ン・プログラム	なし

表 23. 情報カタログ・マネージャーとデータウェアハウスセンターとの間での IMS セグメント・オブジェクトのメタデータのマッピング (続き)

トランスフォーメーション・プログラムの 実行頻度	なし
ソース定義が最後に変更されたタイム・スタンプ	セグメント定義の最新の更新タイム・スタンプ このメタデータは、データウェアハウスセンターの内部にあります。 ¹
データベース・ホスト・サーバー名	IMS データベース定義 (DBD) のシステム名
セグメントの所有者	なし
最後に更新されたセグメント	なし
ソース定義が作成されたタイム・スタンプ	なし
詳細情報	セグメントを含む IMS DBD の管理者
注:	
1. プロパティがデータウェアハウスセンターの内部プロパティとして指定されている場合には、プロパティは表示されません。	

表 24. 情報カタログ・マネージャーとデータウェアハウスセンターとの間でのトランスフォーメーション・オブジェクトのメタデータのマッピング

情報カタログ・マネージャー・メタデータ	データウェアハウスセンターメタデータ
名前	ステップ名
短い記述	記述
長い記述	なし
データにアクセスするための URL	なし
アクション	なし
トランスフォーメーション識別子	トランスフォーメーションの固有 ID このメタデータは、データウェアハウスセンターの内部にあります。 ¹
トランスフォーメーション・プログラム名	プログラム名
トランスフォーメーション・クラスまたはタイプ	プログラム・タイプ
ソース列/フィールド名、式、またはパラメーター	SQL ステップの場合、このプロパティの値は SQL statement です。SQL ステップ以外の場合、値は、そのステップのパラメーター値の連結です。

表 24. 情報カタログ・マネージャーとデータウェアハウスセンターとの間でのトランスフォーメーション・オブジェクトのメタデータのマッピング (続き)

最後に変更されたソース定義	ステップ定義の最新の更新タイム・スタンプ このメタデータは、データウェアハウスセンターの内部にあります。 ¹
データベース・ホスト・サーバー名	ターゲット・データベース・システム名
トランスフォーメーションの所有者	なし
ソース順序列	なし
トランスフォーメーションの順序	なし
トランスフォーメーションの両方向性	なし
ソース定義が作成されたタイム・スタンプ	なし
詳細情報	管理者
注:	
1. プロパティがデータウェアハウスセンターの内部プロパティとして指定されている場合には、プロパティは表示されません。	

表 25. 情報カタログ・マネージャーとデータウェアハウスセンターとの間でのビジネス・サブジェクト・エリア・オブジェクトのメタデータのマッピング

情報カタログ・マネージャー・メタデータ	データウェアハウスセンター メタデータ
名前	サブジェクト・エリア名
短い記述	記述
長い記述	注
アクション	なし
データの更新頻度	なし
データにアクセスするための URL	なし
ファイル名	なし
詳細情報	管理者

表 26. 情報カタログ・マネージャーとデータウェアハウスセンターとの間でのスタースキーマ・オブジェクトのメタデータのマッピング

情報カタログ・マネージャー・メタデータ	データウェアハウスセンター メタデータ
名前	ウェアハウス・スキーマ名
短い記述	記述
長い記述	注

表 26. 情報カタログ・マネージャーとデータウェアハウスセンターとの間でのスタースキーマ・オブジェクトのメタデータのマッピング (続き)

アクション	なし
詳細情報	管理者
データにアクセスするための URL	なし
ソース定義が最後に変更されたタイム・スタンプ	ウェアハウス・スキーマ定義の最新の更新タイム・スタンプ このメタデータは、データウェアハウスセンターの内部にあります。 ¹
注:	1. プロパティがデータウェアハウスセンターの内部プロパティとして指定されている場合には、プロパティは表示されません。

表 27. 情報カタログ・マネージャーとデータウェアハウスセンターとの間でのデータウェアハウスセンターのプロセス・オブジェクトのメタデータのマッピング

情報カタログ・マネージャー・メタデータ	データウェアハウスセンターメタデータ
名前	プロセス名
短い記述	記述
長い記述	プロセスに関する注
アクション	なし
詳細情報	管理者
データにアクセスするための URL	なし
ソース定義が最後に変更されたタイム・スタンプ	プロセス定義の最新の更新タイム・スタンプ このメタデータは、データウェアハウスセンターの内部にあります。 ¹
注:	1. プロパティがデータウェアハウスセンターの内部プロパティとして指定されている場合には、プロパティは表示されません。

情報カタログ・マネージャーと OLAP サーバーとの間でのメタデータのマッピング

163ページの表28 では、OLAP サーバー・メタデータと情報カタログ・マネージャー共通オブジェクト・タイプとのマッピングを示しています。 OLAP サーバー・メタデータは、DB2 OLAP Server、DB2 OLAP Integration Server、または Hyperion Essbase Server 用のメタデータを表しています。

DB2 OLAP Integration Server メタデータを公表するとき、情報カタログ内の「多次元データベース内の次元」オブジェクト・タイプと DB2 OLAP Integration Server 内の表オブジェクトとの間でリンク関係が作成されます。

表の左側の列は、Essbase API 構造の名前を示しています。右側の列は、情報カタログ・マネージャー・オブジェクトとオブジェクト・タイプ・プロパティを示しています。

表 28. OLAP サーバー・メタデータと情報カタログ・マネージャー共通オブジェクト・タイプとのマッピング

OLAP サーバー・メタデータ	情報カタログ・マネージャー・メタデータ
アウトライン	多次元データベース
server.application.database.outline の形式で示される OLAP オブジェクトの 4 つの部分名。	名前
幅および縦の長さの制限を示すメッセージ	長い記述
OLAP サーバー (名前の第 1 部分)	データベース・ホスト・サーバー名
OLAP データベース (名前の第 3 部分)	データベース名またはサブシステム名
なし	データベース・タイプ このプロパティの値は MULTIDIMENSIONAL です。
ESB_OUTLINEINFO_T 内の usOutlineType	データベース拡張タイプ このプロパティの値は NORMAL または CURRENCY になります。
なし	データベース状況 このプロパティの値は PRODUCTION です。
アウトライン内の次元	多次元データベース内の次元
EssOtlGetMemberAlias からの次元別名または名前	名前
OLAP サーバー	データベース・ホスト・サーバー名
OLAP データベース	データベース名またはサブシステム名
OLAP アプリケーション	アプリケーション名の使用
次元名	次元名
ESS_MBRINFO_T 内の usCategory	次元クラスまたはタイプ
次元内のメンバー	多次元データベース内のメンバー

表 28. OLAP サーバー・メタデータと情報カタログ・マネージャー共通オブジェクト・タイプとのマッピング (続き)

EssOtlGetMemberAlias からのメンバー別名または名前	名前
OLAP サーバー	データベース・ホスト・サーバー名
OLAP データベース	データベース名またはサブシステム名
OLAP アプリケーション	アプリケーション名の使用
次元名	次元名
メンバー名	メンバー名
最後の calc スtring または EssGetMemberCalc からの calc スtring	派生元
ESS_MBRINFO_T 内の usShare	このプロパティは、共用メンバー (複数の親を持つメンバー) として扱われます。

付録D. タグ言語

情報カタログ・マネージャーのタグ言語を使用すると、記述データを情報カタログにインポートできるように、フォーマットを設定することができます。タグ言語は、情報カタログ・マネージャーに、それがインポートする記述データに対して行うべきことを指示します。また、情報カタログ・マネージャーは、ユーザーが情報カタログをバックアップしたり、ある情報カタログから別の情報カタログにデータを転送したりすることができるように、記述データをタグ言語ファイルにエクスポートします。

タグ言語を使用して記述データのフォーマットを設定することによって、ある情報カタログから別の情報カタログに記述データを移動したり、情報カタログ・マネージャー・オブジェクト・タイプおよびオブジェクトを定義したりすることができます。また、独自の抽出プログラムを作成して、他のソース (リレーショナル・データベース・カタログなど) から記述データを抽出し、情報カタログにインポートすることもできます。表29 では、タグ言語のタグと、これらのタグによって実行されるアクションを示します。

表29. 情報カタログ・マネージャー・タグ

作業	タグ名	参照先
ディスクットのシーケンスを記録する	DISKCNTRL	183 ページ
入力データに対して行われるアクションを識別する	ACTION.OBJINST	169 ページ
	ACTION.OBJTYPE	175 ページ
	ACTION.RELATION	179 ページ
情報カタログにデータを記述する	OBJECT	190 ページ
	PROPERTY	197 ページ
	INSTANCE	184 ページ
	RELYTYPE	200 ページ
変更がコミットされた時点と、チェックポイントが発生した場所を識別する	COMMIT	181 ページ
ユーザーのコメントを識別する	COMMENT	181 ページ
データのフォーマットを設定する	NL	190 ページ
	TAB	202 ページ

タグ言語ファイルの作成に関する規則

この節で説明されている規則は、すべてのタグ言語ファイルに適用されます。

- それぞれのタグ名は、コロンで始まり、ピリオドで終わらなければなりません。コロンとタグ名の間、あるいはタグ名とピリオドの間にスペースを入れないでください。たとえば、次のようにします。

```
:ACTION.OBJINST.
```

タグ名は、165ページの表29 でリストされているタグ名のいずれかでなければなりません。

- COMMENT、NL、または TAB を除くすべてのタグでは、少なくとも 1 つのキーワードを組み込んでください。
- キーワードとその値は、次のように書いてください。

```
keyword(value)
```

- キーワードは、どのような順序で指定しても構いません。唯一の例外は、INSTANCE タグの SOURCEKEY キーワードが最初のキーワードでなければならないことです。
- キーワードを分離するには、ブランクを使用します。
- キーワードの値は、括弧で囲んでください。値に括弧が含まれる場合は、括弧をアポストロフィの対で囲みます。たとえば、次のようにします。

```
keyword(value>('1'))
```

- PROPERTY または INSTANCE タグで、OBJTYPID、 INSTIDNT、 UPDATIME、または UPDATEBY をプロパティ短縮名 (*short_name*) として使用しないでください。
- 以下のプロパティ名は、情報カタログ・マネージャーによって予約されています。

```
OBJTYPID  
INSTIDNT  
NAME  
UPDATIME  
UPDATEBY
```

ACTION.OBJTYPE(ADD) または ACTION.OBJTYPE(MERGE) の使用時に、NAME をオブジェクト・タイプの UII プロパティとして識別する場合は、次のように、PROPERTY タグで NAME を *short_name* として指定することができます。

```
:PROPERTY.SHRTNAME(NAME) UIISEQ(1)
```

情報カタログ・マネージャーがタグ言語ファイルを読み取る方法

タグ言語ファイルをコーディングする際には、情報カタログ・マネージャーがタグ言語ファイルを読み取る方法を考慮に入れてください。

- 情報カタログ・マネージャーは、タグ言語ファイル全体を連続したデータ・ストリームとして読み取ります。
- 情報カタログ・マネージャーは、X'20' より下の 16 進値を持つ文字（プロパティ値の中で指定されたタブおよび改行文字タグを除く）を制御文字として扱い、その文字を無視します。
- 情報カタログ・マネージャーが、あるタグが完結したとみなすのは、タグ言語ファイルの中で次のタグを検出したときです。
- タグおよびキーワードは、各国語に翻訳されません。
- 2 バイト文字セット (DBCS) サポートで使用可能なのは、表30 のキーワードの値のみです。

表 30. DBCS が使用可能なキーワード値

タグ名	キーワード	可変値
OBJECT	EXTNAME	<i>ext_name</i>
	ICWFILE	<i>Windows_ICON_file_name</i>
PROPERTY	EXTNAME	<i>ext_name</i>
COMMIT	CHKPID	<i>checkpoint_id</i>
INSTANCE	<i>UUI_short_name</i>	<i>UUI_property_value</i>
	または	または
	<i>short_name</i>	<i>property_value</i>

すべてのユーザー定義プロパティ値では、DBCS 文字を使用することができます。

- 情報カタログ・マネージャーは、表31 で示されているキーワード値でのみ DBCS ブランクを受け入れます。タグ言語ファイル内のほかの場所に DBCS ブランクがあると、エラーが発生する可能性があります。

表 31. DBCS ブランク文字が使用可能なキーワード値

タグ名	キーワード
ACTION	OBJTYPE
	OBJINST
	RELATION
OBJECT	すべてのキーワード
PROPERTY	すべてのキーワード
RELTYPE	すべてのキーワード

表 31. DBCS ブランク文字が使用可能なキーワード値 (続き)

タグ名	キーワード
COMMIT	CHKPID
INSTANCE	<i>UII_short_name</i> または <i>short_name</i>

情報カタログ・マネージャーの記述データについて有効なデータ・タイプ

表32 では、情報カタログ・マネージャーの記述データについて有効なデータ・タイプを示します。

表 32. 情報カタログ・マネージャーの記述データについて有効なデータ・タイプ

データ・タイプ	説明
CHAR	固定長文字ストリング (1 ~ 254 バイト)。 値がプロパティについて定義されているデータ長よりも短い場合は、値の右側を末尾ブランクで埋めてください。
TIMESTAMP	次の形式の 26 文字のタイム・スタンプ: <i>yyyy-mm-dd-hh.mm.ss.nnnnnn</i>
LONG VARCHAR	長い可変長文字ストリング (1 ~ 32 700 バイト)。 データ・タイプが LONG VARCHAR のプロパティを UII プロパティとして指定することはできません。
VARCHAR	可変長文字ストリング (1 ~ 4 000 バイト)。

情報カタログ・マネージャーは、要求を妥当性検査し、受け入れる前に、自動的に可変値から末尾ブランクを除去し、値の長さを適宜に調整します。

必須の値が指定されていないか、または全体がブランクの場合、情報カタログ・マネージャーは、表33 で示されている値を挿入します。

表 33. 情報カタログ・マネージャーによって提供される値

データ・タイプ	提供される値
CHAR	先頭文字としての非適用記号と、定義された長さを埋めるための末尾ブランク。
TIMESTAMP	9999-12-31-24.00.00.000000
LONG VARCHAR	非適用記号
VARCHAR	非適用記号

タグ言語の構文図の読み方

タグおよびキーワードは、テキストで示されているとおりに正確にコーディングしてください。タグおよびキーワードは、次のように示されています。

:tagname.keyword() keyword()

変数を置換できる有効な値は、キーワード・リストの中で説明されています。値は、次のように示されています: *variable*

タグの説明で、キーワードまたは値のそれぞれの対の中にある縦線は、対のいずれかをタグに組み込まなければならないことを意味します。たとえば、PROPERTY タグの構文には、NULLS キーワードの値として NULLS(Y|N) が組み込まれています。NULLS(Y) または NULLS(N) のいずれかをコーディングしなければなりません。

ACTION.OBJINST

ACTION タグに続くタグで記述されているオブジェクトに対して実行されるアクションを識別します。

コンテキスト

ACTION.OBJINST は、情報カタログ・マネージャー・オブジェクトの作成、削除、または保守に使用されます。

ACTION.OBJINST の後には、アクションの対象となるオブジェクトを定義する 1 つまたは複数の OBJECT および INSTANCE タグが続きます。

構文

:ACTION.OBJINST(*option*)

オプション

ACTION.OBJINST では、以下のオプションが有効です。

ADD
DELETE
DELETE_TREE_ALL
DELETE_TREE_REL
MERGE
UPDATE

ACTION.OBJINST

ACTION.OBJINST(ADD)

オブジェクトを追加します。

コンテキスト:

```
:ACTION.OBJINST(ADD)
:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.short_name()
:INSTANCE.short_name()

:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.short_name()
:INSTANCE.short_name()
```

図 28. オブジェクトの追加時の ACTION.OBJINST タグの使用

規則:

- オブジェクトはすでに存在していなければなりません。
- ACTION.OBJINST(ADD) タグの後には、OBJECT と INSTANCE の両方のタグを続けなければなりません。
 - OBJECT タグは、新規のオブジェクトのオブジェクト・タイプを識別します。
 - INSTANCE タグは、新規のオブジェクトのプロパティ値を指定します。
- 1 つの OBJECT の後には、1 つまたは複数の INSTANCE タグを続けることができます (オブジェクトが同じオブジェクト・タイプのものであれば)。
- ACTION.OBJINST(ADD) の後に OBJECT タグ (INSTANCE タグを伴う) の複数のセットを続けると、追加する別々のオブジェクト・タイプのオブジェクトを記述することができます。

ACTION.OBJINST(DELETE)

オブジェクトを削除します。

コンテキスト:

```
:ACTION.OBJINST(DELETE)
:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.SOURCEKEY(UUI_short_name())...
```

```
:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.SOURCEKEY(UUI_short_name())...
```

図 29. オブジェクトの削除時の ACTION.OBJINST タグの使用

規則:

- 指定するオブジェクトはすでに存在していなければなりません。
- ACTION.OBJINST(DELETE) タグの後には、OBJECT と INSTANCE の両方のタグを続けなければなりません。
 - OBJECT タグは、削除されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを識別します。
 - INSTANCE タグは、削除されるオブジェクトの UUI プロパティ値を指定します。
- 1 つの OBJECT の後には、1 つまたは複数の INSTANCE タグを続けることができます (オブジェクトが同じオブジェクト・タイプのものであれば)。
- ACTION.OBJINST(DELETE) の後に OBJECT タグ (INSTANCE タグを伴う) の複数のセットを続けると、削除する別々のオブジェクト・タイプのオブジェクトを記述することができます。
- 削除するオブジェクトが Grouping オブジェクトである場合は、それに別のオブジェクトが含まれてはなりません。別のオブジェクトが含まれていると、削除は失敗します。この場合は、代わりに ACTION.OBJINST(DELETE_TREE_ALL) を使用してください。

ACTION.OBJINST(DELETE_TREE_ALL)

Grouping 区分のオブジェクト、それに付加されているすべてのコメント・オブジェクト、およびそれが参加しているすべての ATTACHMENT、CONTACT、および LINK 関係を削除します。さらに、Grouping 区分のオブジェクトに含まれるすべてのオブジェクト、それらに付加されているすべてのコメント・オブジェクト、およびそれらが参加しているすべての ATTACHMENT、CONTACT、および LINK 関係を削除します。

ACTION.OBJINST

コンテキスト:

```
:ACTION.OBJINST(DELETE_TREE_ALL)
:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.SOURCEKEY(UII_short_name()...)

:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.SOURCEKEY(UII_short_name()...)
```

図 30. Grouping 区分のオブジェクトと、それに含まれるオブジェクトの削除時の ACTION.OBJINST タグの使用

規則:

- 指定するオブジェクトはすでに存在していなければならず、 Grouping 区分のオブジェクトでなければなりません。
- ACTION.OBJINST(DELETE_TREE_ALL) タグの後には、 OBJECT と INSTANCE の両方のタグを続けなければなりません。
 - OBJECT タグは、削除されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを識別します。
 - INSTANCE タグは、削除されるオブジェクトの UII プロパティ値を指定します。
- 1 つの OBJECT の後には、1 つまたは複数の INSTANCE タグを続けることができます (オブジェクトが同じオブジェクト・タイプのものであれば)。
- ACTION.OBJINST(DELETE_TREE_ALL) の後に OBJECT タグ (INSTANCE タグを伴う) の複数のセットを続けると、削除する別々のオブジェクト・タイプのオブジェクトを記述することができます。

ACTION.OBJINST(DELETE_TREE_REL)

Grouping 区分のオブジェクト、それに付加されているすべてのコメント・オブジェクト、およびそれが参加しているすべての ATTACHMENT、CONTACT、CONTAIN、および LINK 関係を削除します。

コンテキスト:

```
:ACTION.OBJINST(DELETE_TREE_REL)
:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.SOURCEKEY(UII_short_name()...)

:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.SOURCEKEY(UII_short_name()...)
```

図 31. Grouping 区分のオブジェクトと関係の削除時の ACTION.OBJINST タグの使用

規則:

- 指定するオブジェクトはすでに存在していなければならず、 Grouping 区分のオブジェクトでなければなりません。
- ACTION.OBJINST(DELETE_TREE_REL) タグの後には、 OBJECT と INSTANCE の両方のタグを続けなければなりません。
 - OBJECT タグは、削除されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを識別します。
 - INSTANCE タグは、削除されるオブジェクトの UII プロパティ値を指定します。
- 1 つの OBJECT の後には、1 つまたは複数の INSTANCE タグを続けることができます (オブジェクトが同じオブジェクト・タイプのものであれば)。
- ACTION.OBJINST(DELETE_TREE_REL) の後に OBJECT タグ (INSTANCE タグを伴う) の複数のセットを続けると、削除する別々のオブジェクト・タイプのオブジェクトを記述することができます。

ACTION.OBJINST(MERGE)

入力オブジェクトが存在するかどうかを調べるために、情報カタログ内で入力オブジェクトの UII を検索します。

オブジェクトが存在する場合、情報カタログ・マネージャーは情報カタログ内のオブジェクトのプロパティ値を更新します。オブジェクトが存在しない場合、情報カタログ・マネージャーは新規のオブジェクトを作成します。

コンテキスト:

```
:ACTION.OBJTYPE(MERGE)
:OBJECT.TYPE() CATEGORY() EXTNAME() PHYNAME() ICOFILE() ICWFILE()
:PROPERTY.EXTNAME() DT() DL() SHRTNAME() NULLS() UIISEQ()
```

```
:ACTION.OBJINST(MERGE)
:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.short_name()
```

図 32. オブジェクトの組み合わせ時の ACTION.OBJINST タグの使用

規則:

- オブジェクトが存在する場合、情報カタログ・マネージャーは情報カタログ内のオブジェクトのプロパティ値を更新します。オブジェクトが存在しない場合、情報カタログ・マネージャーは新規のオブジェクトを作成します。
- ACTION.OBJINST(MERGE) タグの後には、OBJECT と INSTANCE の両方のタグを続けなければなりません。

ACTION.OBJINST

- OBJECT タグは、組み合わせられるオブジェクトのオブジェクト・タイプを識別します。
- INSTANCE タグは、組み合わせられるオブジェクトのプロパティ値を指定します。
- タグ言語ファイルの中で、ある特定のオブジェクト・タイプに対する ACTION.OBJTYPE(MERGE) タグは、同じオブジェクト・タイプに対する ACTION.OBJINST(MERGE) タグよりも先に指定しなければなりません。これにより、インポート先の情報カタログにそのオブジェクト・タイプが存在するように保証されるため、情報カタログ・マネージャーがオブジェクトを追加または更新(組み合わせ)できるようになります。

新規のプログラムまたは Attachment オブジェクト・タイプを作成することはできないため、Program または Attachment 区分に属するオブジェクト・タイプに対して ACTION.OBJTYPE(MERGE) を使用することはできません。ただし、ACTION.OBJTYPE(MERGE) を最初に指定せずに、プログラム・オブジェクトに対して ACTION.OBJINST(MERGE) を使用することはできます。

ACTION.OBJINST(UPDATE)

オブジェクトの値を更新します。

コンテキスト:

```
:ACTION.OBJINST(UPDATE)
:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.SOURCEKEY(UII_short_name())... short_name()
```

図 33. オブジェクトの更新時の ACTION.OBJINST タグの使用

規則:

- 指定するオブジェクトはすでに存在していなければなりません。
- ACTION.OBJINST(UPDATE) タグの後には、OBJECT と INSTANCE の両方のタグを続けなければなりません。
 - OBJECT タグは、更新されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを識別します。
 - INSTANCE タグは、更新されるオブジェクトを識別する UII プロパティ値と、更新されるプロパティ値を指定します。

INSTANCE タグで指定したプロパティ値のみが更新されます。

ACTION.OBJTYPE

ACTION.OBJTYPE タグに続くタグで記述されているオブジェクトに対して実行されるアクションを識別します。

コンテキスト

ACTION.OBJTYPE は、情報カタログ・マネージャー・オブジェクト・タイプの作成、削除、または保守に使用されます。

ACTION.OBJTYPE の後には、アクションの対象となるオブジェクト・タイプを定義する 1 つまたは複数の OBJECT および PROPERTY タグが続きます。

構文

```
:ACTION.OBJTYPE(option)
```

オプション

ACTION.OBJTYPE では、以下のオプションが有効です。

```
ADD
APPEND
DELETE
DELETE_EXT
MERGE
UPDATE
```

ACTION.OBJTYPE(ADD)

オブジェクト・タイプを作成します。

コンテキスト:

```
:ACTION.OBJTYPE(ADD)
:OBJECT.TYPE() CATEGORY() EXTNAME() PHYNAME() ICOFILE() ICWFILE()
:PROPERTY.EXTNAME() DT() DL() SHRTNAME() NULLS() UUISEQ()
:PROPERTY.EXTNAME() DT() DL() SHRTNAME() NULLS() UUISEQ()
```

図 34. オブジェクト・タイプの追加時の ACTION.OBJTYPE タグの使用

規則:

- オブジェクト・タイプが存在してはなりません。

ACTION.OBJTYPE

- ACTION.OBJTYPE(ADD) タグの直後には、 OBJECT タグとそれに関連する PROPERTY タグを続けなければなりません。
 - OBJECT タグは、新規のオブジェクト・タイプの属性を定義します。
 - PROPERTY タグは、新規のオブジェクト・タイプに属するプロパティを定義します。情報カタログ・マネージャーは、それぞれのオブジェクト・タイプについて、次の必須プロパティを自動的に定義します。
OBJTYPID
INSTIDNT
NAME
UPDATIME
UPDATEBY
- Program または Attachment 区分に属するオブジェクト・タイプを追加することはできません。

ACTION.OBJTYPE(APPEND)

既存のオブジェクト・タイプにプロパティを追加します。

コンテキスト:

```
:ACTION.OBJTYPE(APPEND)  
:OBJECT.TYPE()  
:PROPERTY.EXTNAME() DT() DL() SHRTNAME() NULLS() UISEQ()
```

図 35. オブジェクト・タイプへのプロパティの追加時の ACTION.OBJTYPE タグの使用

規則:

- オブジェクト・タイプは存在していなければなりません。
- 追加するプロパティが存在してはなりません。
- プロパティに 0 (デフォルト) 以外の UISEQ 値を割り当てないでください。追加するプロパティは、NULLS(Y) のオプションでなければならず、UII の一部にすることはできません。
- ACTION.OBJTYPE(APPEND) タグの直後には、 OBJECT タグとそれに関連する PROPERTY タグを続けなければなりません。
 - OBJECT タグは、追加先のオブジェクト・タイプを識別します。
 - それぞれの PROPERTY タグは、追加されるプロパティを定義します。
- Attachment 区分に属するオブジェクト・タイプへの追加を行うことはできません。

ACTION.OBJTYPE(DELETE)

オブジェクト・タイプを削除します。

コンテキスト:

```
:ACTION.OBJTYPE(DELETE)
:OBJECT.TYPE()
```

図 36. オブジェクト・タイプの削除時の ACTION.OBJTYPE タグの使用

規則:

- オブジェクト・タイプは存在していなければなりません。そのオブジェクト・タイプのオブジェクトが存在してはなりません。
- ACTION.OBJTYPE(DELETE) タグの後には、1 つまたは複数の OBJECT タグを続けなければなりません。それぞれの OBJECT タグは、削除されるオブジェクト・タイプを識別します。
- Program または Attachment 区分に属するオブジェクト・タイプを削除することはできません。

ACTION.OBJTYPE(DELETE_EXT)

オブジェクト・タイプと、そのオブジェクト・タイプのオブジェクトを削除します。

コンテキスト:

```
:ACTION.OBJTYPE(DELETE_EXT)
:OBJECT.TYPE()
```

図 37. オブジェクト・タイプと、そのタイプのすべてのオブジェクトの削除時の ACTION.OBJTYPE タグの使用

規則:

- オブジェクト・タイプは存在していなければなりません。
- オブジェクトに、異なるオブジェクト・タイプのオブジェクトを含めることはできません。
- ACTION.OBJTYPE(DELETE) タグの後には、1 つまたは複数の OBJECT タグを続けなければなりません。それぞれの OBJECT タグは、削除されるオブジェクト・タイプを識別します。
- Program または Attachment 区分に属するオブジェクト・タイプを削除することはできません。

ACTION.OBJTYPE

ACTION.OBJTYPE(MERGE)

入力オブジェクト・タイプ名が存在するかどうかを調べるために、情報カタログをチェックします。

オブジェクト・タイプが存在する場合、情報カタログ・マネージャーは、入力オブジェクト・タイプのプロパティを保管済みのオブジェクト・タイプのプロパティと比較します。プロパティが一致した場合、オブジェクト・タイプは同一として扱われ、一致しない場合、入力オブジェクト・タイプは無効です。

オブジェクト・タイプが存在しない場合、情報カタログ・マネージャーは新規のオブジェクト・タイプを作成します。

コンテキスト:

```
:ACTION.OBJTYPE(MERGE)
:OBJECT.TYPE() CATEGORY() EXTNAME() PHYNAME() ICOFILE() ICWFILE()
:PROPERTY.EXTNAME() DT() DL() SHRTNAME() NULLS() UISEQ()

:ACTION.OBJINST(MERGE)
:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.short_name()
```

図 38. オブジェクト・タイプの組み合わせ時の ACTION.OBJTYPE タグの使用

規則:

- ACTION.OBJTYPE(MERGE) タグの直後には、OBJECT タグとそれに関連する PROPERTY タグを続けなければなりません。
 - OBJECT タグは、組み合わせられるオブジェクト・タイプを識別します。
 - それぞれの PROPERTY タグは、そのオブジェクト・タイプに属するプロパティを定義します。
- オブジェクトを組み合わせるには、事前にオブジェクト・タイプを組み合わせることによって、ターゲット情報カタログに有効なオブジェクト・タイプが存在するように保証しなければなりません。したがって、タグ言語ファイルの中で、ACTION.OBJTYPE(MERGE) タグは ACTION.OBJINST(MERGE) タグの前に指定しなければなりません。
- Program または Attachment 区分に属するオブジェクト・タイプを組み合わせることはできません。

ACTION.OBJTYPE(UPDATE)

オブジェクト・タイプの外部名および ICON ファイル情報を変更します。

コンテキスト:

```
:ACTION.OBJTYPE(UPDATE)
:OBJECT.TYPE() EXTNAME() ICOFILE() ICWFILE()
```

図 39. オブジェクト・タイプの更新時の ACTION.OBJTYPE タグの使用

規則:

- オブジェクト・タイプはすでに存在していなければなりません。
- ACTION タグの後には、1 つまたは複数の OBJECT タグを続けなければなりません。

ACTION.RELATION

ACTION.RELATION タグに続くタグで記述されている関係に対して実行されるアクションを識別します。

コンテキスト

ACTION.RELATION は、情報カタログの関係を作成または削除するために使用されます。

ACTION.RELATION の後には、アクションの対象となる関係を定義する 1 つまたは複数の RELTYPE および INSTANCE タグが続きます。

構文

```
:ACTION.RELATION(option)
```

オプション

ACTION.RELATION では、以下のオプションが有効です。

```
ADD
DELETE
```

ACTION.RELATION(ADD)

ATTACHMENT、CONTACT、CONTAIN、または LINK 関係を定義します。

ACTION.RELATION

コンテキスト:

```
:ACTION.RELATION(ADD)  
:RELTYPE.TYPE() SOURCETYPE() TARGETTYPE()  
:INSTANCE.SOURCEKEY(UII_short_name()...) TARGETKEY(UII_short_name()...)
```

図 40. 関係の追加時の ACTION.RELATION タグの使用

規則:

- 指定した関係が存在しない場合は、関係が追加されます。指定した関係が存在する場合は、情報カタログ・マネージャーによって通知メッセージが書き込まれ、処理が継続されます。
- ACTION.RELATION(ADD) タグの直後には、RELTYPE タグと 1 つまたは複数の INSTANCE タグを続けなければなりません。
 - RELTYPE タグは、追加される関係のタイプを定義し、関連付けられるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。
 - それぞれの INSTANCE タグは、関連付けられる 2 つのオブジェクトを識別する UII プロパティ値を指定します。

ACTION.RELATION(DELETE)

関係を削除します。

コンテキスト:

```
:ACTION.RELATION(DELETE)  
:RELTYPE.TYPE() SOURCETYPE() TARGETTYPE()  
:INSTANCE.SOURCEKEY(UII_short_name()...) TARGETKEY(UII_short_name()...)
```

図 41. 関係の削除時の ACTION.RELATION タグの使用

規則:

- 関係が存在する場合は、それが削除されます。それ以外の場合は、情報カタログ・マネージャーによって通知メッセージが書き込まれ、処理が継続されます。
- ACTION.RELATION(DELETE) タグの直後には、RELTYPE タグと 1 つまたは複数の INSTANCE タグを続けなければなりません。
 - RELTYPE タグは、削除される関係のタイプを定義し、関連付けられたオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。
 - それぞれの INSTANCE タグは、2 つの関連付けられたオブジェクトを識別する UII プロパティ値を指定します。

COMMENT

タグ言語ファイル内のコメントを識別します。このタグは、ファイル内の完結したタグ指定の間に置いてください。

情報カタログ・マネージャーは、タグ言語ファイルのインポート時にコメントを無視します。

構文

```
:COMMENT.your comments
```

```
:COMMENT.This is the text of a comment.
```

図 42. COMMENT タグの例

規則

- COMMENT タグは、別のタグとそのキーワードの間、あるいはキーワードの間に置くことはできません。
- それぞれのタグは、ファイルの終わり、または次の有効なタグの始まりで終わるため、コメント・テキストに情報カタログ・マネージャー・タグ (たとえば、:ACTION.) を含めることはできません。

COMMIT

コミット・ポイントを識別します。情報カタログ・マネージャーに、データベースに対する現行の変更をコミットするよう要求します。

情報カタログ・マネージャーは、タグ言語ファイルのインポート中にエラーを検出すると、変更が最後にコミットされた時点から情報カタログに対して行われたすべての変更をロールバックします。

情報カタログ・マネージャーのタグ言語ファイルをより効率的にインポートするために、COMMIT を一定の間隔で組み込んでください。

オブジェクト・タイプ、オブジェクトのセット、および関係のセットを定義または削除する前後に COMMIT チェックポイントを組み込むと、記述データの保全性を維持するのに役立ちます。

COMMIT

定期的な COMMIT チェックポイントにより、情報カタログ・マネージャーが情報カタログをロールバックする際に取り消される変更の数が制限されます。

頻繁に COMMIT チェックポイントを組み込むと、タグ言語ファイルにエラーがある場合に、エコー・ファイルがより読みやすくなります。COMMIT タグが正常に処理されると、情報カタログ・マネージャーは、COMMIT タグの前に処理されたタグのエコー・ファイルをクリアします。そのため、エコー・ファイルには、コミットされていない変更を記述するタグのみが含まれます。

コンテキスト

このタグは、1 つまたは複数の完結したアクション指定 (ACTION、OBJECT、RELTYPE、および INSTANCE タグのセット) の後に置いてください。

構文

```
:COMMIT.CHKPID(checkpt_id)
```

```
:COMMIT.CHKPID(Added_relationships)
```

図 43. COMMIT タグの例

キーワード

CHKPID

必須キーワード。

checkpt_id

情報カタログ・マネージャーが COMMIT タグの処理時に保管する ID。

COMMIT タグが正常に処理された後でタグ言語ファイルのインポートが失敗した場合は、最後のチェックポイントからタグ言語ファイルの残りの部分をインポートしなければなりません。このオプションは、インポート・ファンクションで使用することができます。情報カタログ・マネージャーは、保管された *checkpt_id* を使用して、適切な COMMIT タグを見付けます。

checkpt_id の値は、それぞれのタグ言語ファイルの中で固有でなければなりません。そうでなければ、再開処理の結果は予測不能です。

checkpt_id の最大長は 26 文字です。

ckpt_id は、大文字小文字が区別されません。

規則

COMMIT タグは、データに整合性があるときに指定してください。

ターゲット情報カタログのトランザクション・ログが満杯になるのを防ぐために、タグ言語ファイル内で COMMIT タグを一定の間隔で指定してください。

同じタグ言語ファイル内の追加のデータを処理する必要がある場合は、COMMIT タグの後に ACTION タグを続けなければなりません。

DISKCNTL

タグ言語ファイルが 1 つまたは複数のディスクセットに保管されている場合に、ディスクセットのシーケンス番号を識別します。

コンテキスト

タグ言語ファイルが 1 つまたは複数のディスクセットに保管されている場合、DISKCNTL は各ディスクセットの最初のタグになります。

構文

```
:DISKCNTL.SEQUENCE(nn, + | -)
```

```
:DISKCNTL.SEQUENCE(01,+)
```

図 44. 一連のディスクセットの始まりを表す DISKCNTL タグの例

キーワード

SEQUENCE

必須キーワード。

nn 一連のディスクセットの番号を示す 1 桁または 2 桁の番号。

一連のディスクセットの最初の番号は、1 または 01 でなければなりません。この値は、後続のディスクセットについて 1 ずつ増加します。3 つのディスクセットのセットを表す番号は、1、2、3、あるいは 01、02、03 です。

DISKCNTRL

- + このディスクットの後に、タグ言語ファイルを含む追加のディスクットが続きます。
- タグ言語ファイルを含む最後または唯一のディスクット。

規則

このタグを指定する場合は、各タグ言語ファイルの最初のタグにしなければなりません。このタグが欠落しており、タグ言語ファイルがディスクットに入っている場合、インポート・プログラムは、タグ言語ファイルが 1 つのディスクットに含まれているものとみなします。

タグ言語ファイルがハード・ディスクに保管されている場合、このタグは適用不能です。このタグが存在する場合は、無視されます。

INSTANCE

アクションの対象となるオブジェクトまたは関係を定義または識別します。

コンテキスト

このタグは、次のタグの後に続けることが必要です。

:ACTION.OBJINST INSTANCE タグは、OBJECT タグの後に続きます。

:ACTION.RELATION INSTANCE タグは、RELTYPE タグの後に続きます。

構文

INSTANCE タグには、ACTION タグの形式に応じて、4 つの形式があります。

ACTION.OBJINST(ADD) または ACTION.OBJINST(MERGE)

オブジェクトの追加または組み合わせ

:INSTANCE.short_name (property_value) . . .

コンテキスト:

```
:ACTION.OBJINST(ADD)
:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.short_name()
```

図 45. オブジェクトの追加時の INSTANCE タグの使用

```
:ACTION.OBJINST(MERGE)
:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.short_name()
:short_name()
:short_name()
```

図 46. オブジェクトの組み合わせ時の INSTANCE タグの使用

キーワード:*short_name*

それぞれのプロパティをその 8 文字の短縮名によって識別します。この値は、大文字小文字が区別されないため、大文字または小文字を使用して指定することができます。INSTANCE タグに複数の短縮名を関連付ける場合は、図 46 で示されているように、1 つの INSTANCE タグのみを使用し、それに短縮名を続けてください。

property_value

特定のオブジェクトについてのプロパティの値を指定します。この値は、大文字小文字が区別されます。

規則:

- オブジェクトの追加時:
 - すべての UI 値、NAME プロパティの値、および必須として定義されているその他のすべてのプロパティの値を指定しなければなりません。
 - 追加される値がないプロパティは INSTANCE タグから省略することができます。ただし、省略したプロパティが CHAR、VARCHAR、または LONG VARCHAR データ・タイプの必須プロパティである場合には、非適用記号が生成され、情報カタログに保管されます。省略した必須プロパティのデータ・タイプが TIMESTAMP である場合は、情報カタログ・マネージャーによって値 9999-12-31-24.00.00.000000 が生成され、保管されます。
- オブジェクトの組み合わせ時:

INSTANCE

- すべての UUI 値を指定して、突き合わせられるオブジェクトが識別できるように保証しなければなりません。
- 追加または更新される値がないプロパティは省略することができます。ただし、定義したオブジェクトが存在せず、省略したプロパティが必須である場合には、非適用記号が生成され、情報カタログに保管されます。

ACTION.OBJINST(DELETE)、ACTION.OBJINST(DELETE_TREE_ALL)、または ACTION.OBJINST(DELETE_TREE_REL)

オブジェクトの削除

```
:INSTANCE.SOURCEKEY(UUI_short_name (UUI_property_value) . . . )
```

コンテキスト:

```
:ACTION.OBJINST(DELETE)  
:OBJECT.TYPE()  
:INSTANCE.SOURCEKEY(UUI_short_name()...)
```

図 47. オブジェクトの削除時の *INSTANCE* タグの使用

```
:ACTION.OBJINST(DELETE_TREE_ALL)  
:OBJECT.TYPE()  
:INSTANCE.SOURCEKEY(UUI_short_name()...)
```

図 48. *Grouping* 区分のオブジェクトと、それに含まれるオブジェクトの削除時の *INSTANCE* タグの使用

```
:ACTION.OBJINST(DELETE_TREE_REL)  
:OBJECT.TYPE()  
:INSTANCE.SOURCEKEY(UUI_short_name()...)
```

図 49. *Grouping* 区分のオブジェクトと関係の削除時の *INSTANCE* タグの使用

キーワード:

SOURCEKEY

ある特定のオブジェクトを識別する UUI プロパティ値。

SOURCEKEY は、INSTANCE タグの最初のキーワードでなければなりません。

UUI_short_name

UUI 名をその 8 文字の短縮名によって識別します。

UII_short_name(UII_property_value) のすべての組み合わせを指定してください。 *UII_short_name* は、大文字小文字が区別されないため、大文字または小文字を使用して指定することができます。

UII_property_value

特定のオブジェクトについての UII プロパティの値を指定します。この値は、大文字小文字が区別されます。

規則: オブジェクト・タイプの UII プロパティとして定義されているプロパティごとに、1 つの *UII_short_name(value)* の組み合わせを指定しなければなりません。それぞれのオブジェクト・タイプには、UII プロパティとして定義された 1 つまたは複数のプロパティがあります。これらのプロパティは、情報カタログの中でオブジェクトを固有に識別します。

ACTION.OBJINST(UPDATE)

オブジェクトについてのプロパティ値の更新

```
:INSTANCE.SOURCEKEY(UII_short_name (UII_property_value) . . .)
                        short_name (property_value) . . .
```

コンテキスト:

```
:ACTION.OBJINST(UPDATE)
:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.SOURCEKEY(UII_short_name()...) short_name()
```

図 50. オブジェクトの更新時の INSTANCE タグの使用

キーワード:

SOURCEKEY

ある特定のオブジェクトを識別する UII プロパティ値。

SOURCEKEY は、INSTANCE タグの最初のキーワードでなければなりません。

UII_short_name

UII プロパティをその 8 文字の短縮名によって識別します。

UII_short_name は、大文字小文字が区別されないため、大文字または小文字を使用して指定することができます。

UII_property_value

この値は、大文字小文字が区別されます。 *UII_short_name* とともに、特定のオブジェクトについての UII プロパティの値を指定します。

INSTANCE

short_name

更新されるプロパティをその 8 文字の短縮名によって識別します。

short_name は、大文字小文字が区別されないため、大文字または小文字を使用して指定することができます。

次のプロパティは更新不能であるため、これらのプロパティ短縮名を指定することはできません: OBJTYPID、INSTIDNT、UPDATIME、UPDATEBY。

property_value

short_name とともに、特定のオブジェクトについてのプロパティの新しい値を指定します。この値は、大文字小文字が区別されます。

規則: オブジェクト・タイプの UI プロパティとして定義されているプロパティごとに、1 つの *UI_short_name(value)* の組み合わせを指定しなければなりません。それぞれのオブジェクト・タイプには、UI プロパティとして定義された 1 つまたは複数のプロパティがあります。これらのプロパティは、情報カタログの中でオブジェクトを固有に識別します。

プロパティ値を指定すると、情報カタログ内でその値が更新されます。プロパティ値を指定しないと、その値は更新されません。

ACTION.RELATION(ADD) または ACTION.RELATION(DELETE)

関係の追加または削除

```
:INSTANCE.SOURCEKEY(UI_short_name (UI_property_value)...)
    TARGETKEY(UI_short_name (UI_property_value)...)
```

コンテキスト:

```
:ACTION.RELATION(ADD)
:RELTYPE.TYPE() SOURCETYPE() TARGETTYPE()
:INSTANCE.SOURCEKEY(UI_short_name()...) TARGETKEY(UI_short_name()...)
```

図 51. 関係の追加時の *INSTANCE* タグの使用

```
:ACTION.RELATION(DELETE)
:RELTYPE.TYPE() SOURCETYPE() TARGETTYPE()
:INSTANCE.SOURCEKEY(UI_short_name()...) TARGETKEY(UI_short_name()...)
```

図 52. 関係の削除時の *INSTANCE* タグの使用

キーワード:

SOURCEKEY

関係における最初のオブジェクトを識別する UUI プロパティ値。

関係:	SOURCEKEY が識別するオブジェクト:
包含	Grouping 区別のオブジェクト
Contact	接点の対象であるオブジェクト
Attachment	コメントの対象であるオブジェクト
リンク	リンクするオブジェクトのいずれか一方

SOURCEKEY は、INSTANCE タグの最初のキーワードでなければなりません。

TARGETKEY

関係における 2 番目のオブジェクトを識別する UUI プロパティ値。

関係:	TARGETKEY が識別するオブジェクト:
包含	Elemental 区別のオブジェクト
Contact	Contact 区別のオブジェクト
Attachment	Attachment 区別のオブジェクト
リンク	リンクするオブジェクトのいずれか一方

TARGETKEY は、INSTANCE タグの 2 番目のキーワードでなければなりません。

UUI_short_name

UUI 名をその 8 文字の短縮名によって識別します。この値は、大文字小文字が区別されないため、大文字または小文字を使用して指定することができます。

UUI_property_value

特定のオブジェクトについての UUI プロパティの値を指定します。この値は、大文字小文字が区別されます。

規則: それぞれのオブジェクトについて、オブジェクト・タイプの UUI プロパティとして定義されているプロパティごとに、1 つの *UUI_short_name(value)* の組み合わせを指定しなければなりません。それぞれのオブジェクト・タイプには、UUI プロパティとして定義された 1 つまたは複数のプロパティがあります。これらのプロパティは、情報カタログの中でオブジェクトを固有に識別します。

INSTANCE

図53 で示されているように、 *UUI_short_name(value)* と *short_name(value)* のそれぞれの対は、空白で分離しなければなりません。

```
:INSTANCE.SOURCEKEY(UUIname1(value1) UUIname2(value2)) sname3(value3) sname4(value4)
```

図 53. 複数の短縮名を伴う *INSTANCE* タグの例

ある値を囲む括弧の間に組み込まれた先行空白はその値の一部となり、末尾空白は除去されます。情報カタログ・マネージャーは、値の長さが有効かどうかを判別する際に、これらの空白をデータ長の一部として数えます。値全体が許容される最大長よりも長くなるような、余分な先行空白または末尾空白を組み込むと、エラーが発生します。

NL

プロパティ値の中で改行を指定します。

情報カタログ・マネージャーは、非 UUI プロパティ値の中で指定された NL タグのみを読み取り、それ以外はすべて無視します。

構文

```
:NL.
```

規則

NL タグは、*INSTANCE* タグの *property_values* の指定の中でのみ使用してください。

OBJECT

オブジェクト・タイプの属性を定義するか、またはオブジェクト・タイプを識別します。

コンテキスト

このタグは、次のタグの直後に続けることが必要です。

```
ACTION.OBJTYPE
```

```
ACTION.OBJINST
```

構文

```
:OBJECT.TYPE(type) CATEGORY(category) EXTNAME(ext_name)
      PHYNAME(table_name) ICOFILE( )
      ICWFILE(Windows_ICON_file_name)
```

OBJECT タグの前に指定する ACTION タグのタイプによって、OBJECT タグの必須または有効キーワードは異なります。

ACTION.OBJTYPE(ADD) または ACTION.OBJTYPE(MERGE)

オブジェクト・タイプの追加または組み合わせ

コンテキスト:

```
:ACTION.OBJTYPE(ADD)
:OBJECT.TYPE() CATEGORY() EXTNAME() PHYNAME() ICOFILE() ICWFILE()
:PROPERTY.EXTNAME() DT() DL() SHRTNAME() NULLS() UUISEQ()
```

図 54. オブジェクト・タイプの追加時の OBJECT タグの使用

```
:ACTION.OBJTYPE(MERGE)
:OBJECT.TYPE() CATEGORY() EXTNAME() PHYNAME() ICOFILE() ICWFILE()
:PROPERTY.EXTNAME() DT() DL() SHRTNAME() NULLS() UUISEQ()
```

図 55. オブジェクト・タイプの組み合わせ時の OBJECT タグの使用

キーワード:**TYPE**

オブジェクト・タイプの名前を指定します。

必須キーワード。

type

特定のオブジェクト・タイプを表す短縮名を定義または識別します。

type の値は、あるオブジェクト・タイプを含むすべての関連する情報カタログにわたって、そのオブジェクト・タイプに固有でなければなりません。これにより、このオブジェクト・タイプのオブジェクトが、関連する情報カタログの間で共用できるようになります。 *type* の値がすでに存在する場合、それは検索引き数として使用されます。

OBJECT

値の最大長は 8 文字です。値は大文字で保管されます。この値は、文字 A ~ Z、@、#、または \$ で始まり、これらの文字と、0 ~ 9 および _ を含むことができます。先行ブランクまたは組み込みブランクは許可されません。

オブジェクト・タイプを作成した後で、*type* の値を変更することはできません。

CATEGORY

このオブジェクト・タイプが属する区分を指定します。

必須キーワード。

category

情報カタログ・マネージャー・オブジェクトの区分を指定します。この値は、次のいずれかにすることができます。

GROUPING
ELEMENTAL
SUPPORT
CONTACT
DICTIONARY

PROGRAM または ATTACHMENT を新規のオブジェクト・タイプの区分として指定することはできません。

オブジェクト・タイプが定義された後で、このキーワードの情報を変更することはできません。

EXTNAME

オブジェクト・タイプの長い記述名を指定します。必須キーワード。

ext_name

オブジェクト・タイプの長い記述名を指定します。*ext_name* の最大長は 80 文字です。

この名前は、関連する情報カタログの中で固有でなければなりません。

ext_name の値は大文字小文字混合で保管されます。

オブジェクト・タイプが定義された後で、このキーワードの情報を変更することができます。

PHYNAME

このオブジェクト・タイプに関する情報を含むデータベース表の作成時に使用する名前を指定します。

オプション・キーワード。

table_name

オブジェクト・タイプの情報を含むデータベース表の作成時に使用する名前を指定します。

名前の最大長は、情報カタログ・マネージャーのインストール時に定義されます。 *table_name* の値は、情報カタログの中で固有でなければならず、SQL 予約語を含むことはできません。

table_name は、デフォルトでは、 **TYPE** キーワードに指定された *type* です。この値は、大文字小文字が区別されないため、大文字または小文字を使用して指定することができます。

この値は、文字 A ~ Z、@、#、または \$ で始まり、これらの文字と、0 ~ 9 および _ を含むことができます。先行ブランクまたは組み込みブランクは許可されません。この値は、情報カタログに関して使用されるデータベースを表す SQL 予約語にすることはできません。

表が作成された後で、その名前を変更することはできません。

ICWFILE

オブジェクト・タイプに関連付けられる Windows アイコンを含むファイルを指定します。

オプション・キーワード。

Windows_ICON_file_name

オブジェクト・タイプに関連付ける Windows アイコン・ファイルの名前を指定します。 *Windows_ICON_file_name* の最大長は 254 文字です。ただし、この名前とアイコン・パス (ICOPATH) の組み合わせの最大長が 259 であるため、実際の最大長はアイコン・パスの長さによって異なります。このファイルには、任意の拡張子を付けることができます。この値は、大文字小文字が区別されないため、大文字または小文字を使用して指定することができます。

このキーワードを使用して、アイコン・ファイルが存在する場所を識別するドライブおよびパス情報を指定することはできません。この情報は、FLGImport API 呼び出し (情報カタログ・マネージャー プログラミングの手引きおよび解説書を参照)、ユーザー・インターフェースのインポート・ファンクション (209ページの『タグ言語ファイルをコマンド行からインポートする』を参照)、または DGUIDE コマンドの IMPORT オプション (209ページの『タグ言語ファイルをコマンド行からインポートする』を参照) への入力パラメーターとして指定しなければなりません。

この値は、ACTION.OBJTYPE(UPDATE) によってオブジェクト・タイプが作成された後で変更することができます。あるオブジェクト・タイプに関

OBJECT

連付けるアイコン・ファイルを指定した後で、関連付けられたアイコンを変更することはできますが、そのオブジェクト・タイプは常にアイコンに関連付けられていなければなりません。

ACTION.OBJTYPE(APPEND)

コンテキスト:

```
:ACTION.OBJTYPE(APPEND)
:OBJECT.TYPE()
:PROPERTY.EXTNAME() DT() DL() SHRTNAME() NULLS() UUISEQ()
```

図 56. オブジェクト・タイプへのプロパティの追加時の *OBJECT* タグの使用

キーワード:

TYPE

オブジェクト・タイプの名前 (*type*) を指定します。

必須キーワード。

type

特定のオブジェクト・タイプをその 8 文字の短縮名によって識別します。

ACTION.OBJTYPE(DELETE) または ACTION.OBJTYPE(DELETE_EXT)

既存のオブジェクト・タイプの削除

コンテキスト:

```
:ACTION.OBJTYPE(DELETE)
:OBJECT.TYPE()
```

図 57. オブジェクト・タイプの削除時の *OBJECT* タグの使用

```
:ACTION.OBJTYPE(DELETE_EXT)
:OBJECT.TYPE()
```

図 58. オブジェクト・タイプと、そのタイプのすべてのオブジェクトの削除時の *OBJECT* タグの使用

キーワード:

TYPE

オブジェクト・タイプの名前 (*type*) を指定します。

必須キーワード。

type

特定のオブジェクト・タイプをその 8 文字の短縮名によって識別します。

ACTION.OBJTYPE(UPDATE)

オブジェクト・タイプの情報の更新

コンテキスト:

```
:ACTION.OBJTYPE(UPDATE)
:OBJECT.TYPE() EXTNAME() ICOFILE() ICWFILE()
```

図 59. オブジェクト・タイプの更新時の *OBJECT* タグの使用

キーワード:

TYPE

オブジェクト・タイプの名前 (*type*) を指定します。

必須キーワード。

type

特定のオブジェクト・タイプをその 8 文字の短縮名によって識別します。
この値を更新することはできません。

EXTNAME

オブジェクト・タイプの記述名を指定します。オプション・キーワード。

ext_name

オブジェクト・タイプの長い記述名を指定します。 *ext_name* の最大長は 80 文字です。

この値は更新することができます。

この名前は、関連する情報カタログの中で固有でなければなりません。

ext_name の値は大文字小文字混合で保管されます。

ICWFILE

オブジェクト・タイプに関連付けられる Windows アイコンを含むファイルを指定します。

オプション・キーワード。

Windows_ICON_file_name

オブジェクト・タイプに関連付ける Windows アイコン・ファイルの名前を指定します。

この値は更新することができます。

OBJECT

Windows_ICON_file_name の最大長は 254 文字です。このキーワードを使用して、アイコン・ファイルが存在する場所を識別するドライブおよびパス情報を指定することはできません。この情報は、FLGImport API 呼び出し、ユーザー・インターフェースのインポート・ファンクション、または情報カタログ・マネージャー・コマンドの **IMPORT** オプションへの入力パラメーターとして指定しなければなりません。

ACTION.OBJINST

オブジェクトの追加、更新、削除、または組み合わせ

コンテキスト:

```
:ACTION.OBJINST(ADD)
:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.short_name()
```

図 60. オブジェクトの追加時の *OBJECT* タグの使用

```
:ACTION.OBJINST(MERGE)
:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.short_name()
```

図 61. オブジェクトの組み合わせ時の *OBJECT* タグの使用

```
:ACTION.OBJINST(UPDATE)
:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.SOURCEKEY(UII_short_name()...) short_name()
```

図 62. オブジェクトの更新時の *OBJECT* タグの使用

```
:ACTION.OBJINST(DELETE)
:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.SOURCEKEY(UII_short_name()...)
```

図 63. オブジェクトの削除時の *OBJECT* タグの使用

キーワード:

TYPE

オブジェクト・タイプの名前 (*type*) を指定します。

必須キーワード。

type

特定のオブジェクト・タイプをその 8 文字の短縮名によって識別します。

PROPERTY

オブジェクト・タイプに属するプロパティを定義します。

このタグは、次の ACTION タグの後に続けることが必要です。

```
:ACTION.OBJTYPE(ADD)
:ACTION.OBJTYPE(MERGE)
:ACTION.OBJTYPE(APPEND)
```

構文

```
:PROPERTY.EXTNAME(ext_name) DT(data_type) DL(data_length)
SHRTNAME(short_name) NULLS(Y | N) UUISEQ(UUI_number)
```

コンテキスト

```
:ACTION.OBJTYPE(ADD)
:OBJECT.TYPE() CATEGORY() EXTNAME() PHYNAME() ICOFILE() ICWFILE()
:PROPERTY.EXTNAME() DT() DL() SHRTNAME() NULLS() UUISEQ()
```

図 64. オブジェクト・タイプの追加時の *PROPERTY* タグの使用

```
:ACTION.OBJTYPE(MERGE)
:OBJECT.TYPE() CATEGORY() EXTNAME() PHYNAME() ICOFILE() ICWFILE()
:PROPERTY.EXTNAME() DT() DL() SHRTNAME() NULLS() UUISEQ()
```

図 65. オブジェクト・タイプの組み合わせ時の *PROPERTY* タグの使用

```
:ACTION.OBJTYPE(APPEND)
:OBJECT.TYPE()
:PROPERTY.EXTNAME() DT() DL() SHRTNAME() NULLS() UUISEQ()
```

図 66. オブジェクト・タイプへのプロパティの追加時の *PROPERTY* タグの使用

PROPERTY

キーワード

EXTNAME

プロパティの記述名を指定します。

必須キーワード。

ext_name

長い記述名を指定します。

ext_name の最大長は 80 文字です。 *ext_name* は、オブジェクト・タイプの中で固有でなければなりません。 *ext_name* は大文字小文字混合で保管されます。

DT

プロパティのデータ・タイプを指定します。

必須キーワード。

data_type

プロパティのデータ・タイプ。この値は、大文字または小文字で指定することができます。有効な値は、以下のとおりです。

C	CHAR
V	VARCHAR
L	LONG VARCHAR
T	TIMESTAMP

DL

プロパティのデータ長または最大データ長を指定します。

必須キーワード。

data_length

プロパティのデータ長または最大データ長。 *data_length* の有効な値は、このプロパティについて定義される *data_type* によって異なります。

data_type	data_length の最大値
C (CHAR)	最大長は 254
V (VARCHAR)	最大長は 4000
L (LONG VARCHAR)	最大長は 32700
T (TIMESTAMP)	常に 26 文字

SHRTNAME

プロパティ短縮名を指定します。

必須キーワード。

short_name

プロパティの短縮名。 *short_name* の値は、8 文字までの長さにすることができます。この値には、SBCS 文字だけを含めることができます。

この値は、大文字として保管され、小文字は大文字に変換されます。

この値は、文字 A ~ Z、@、#、または \$ で始まり、これらの文字と、0 ~ 9 および _ を含むことができます。先行空白または組み込み空白は許可されません。

この値は、情報カタログに関して使用されるデータベースを表す SQL 予約語にすることはできません。それぞれの情報カタログ・マネージャー・オブジェクト・タイプについて、次の必須プロパティのプロパティ短縮名は指定しないでください: OBJTYPID、INSTIDNT、UPDATIME、または UPDATEBY。

NULLS

それぞれのオブジェクトについてプロパティの値が必須であるかどうかを指定します。この値は、大文字または小文字で指定することができます。

必須キーワード。

Y は、この値がヌル可能であることを示します。

ACTION.OBJTYPE(APPEND) タグを使用して新規のプロパティを追加する際には、NULLS(Y) を指定しなければなりません。これは、追加するプロパティがオプションでなければならないためです。

N は、このプロパティの値が必須であることを示します。情報カタログへのオブジェクトの追加時に、必須プロパティにデータが存在しない場合、データ・タイプが CHAR、VARCHAR、および LONG VARCHAR の必須値については、非適用記号が入力されます。必須値のデータ・タイプが TIMESTAMP の場合は、次の値が入力されます:

```
9999-12-31-24.00.00.000000
```

UISEQ

UII で使用されるプロパティを識別します。

オプション・キーワード。デフォルト値は 0 です。UISEQ キーワードは、UII の一部ではないプロパティについてはオプションです。UII は、それぞれのオブジェクトを固有に識別するキーとして、管理者によって定義されるプロパティのセットです。

UII_number

UII シーケンスにおけるプロパティの位置を指定します。有効な値は

PROPERTY

0、1、2、3、4、および 5 です。値 0 は、プロパティが UUI の一部ではないことを意味します。 *UUI_number* の非ゼロ値は、プロパティが UUI の一部であることを示します。

タグ言語ファイルで定義されるすべてのオブジェクト・タイプは、UUI の一部であるプロパティを少なくとも 1 つ持たなければなりません。UUI は、最大 5 つのプロパティから構成することができます。

少なくとも 1 つのプロパティを UUI の一部として定義しなければなりません。

複数のプロパティに *UUI_number* 値を割り当てる際には、UUI プロパティの番号は、1 から UUI プロパティの数までの範囲でなければなりません。たとえば、3 つのプロパティが UUI の一部として定義される場合、*UUI_number* 値は 1、2、および 3 でなければなりません。シーケンス内の番号をスキップすることはできません。*UUI_number* 値は、プロパティを指定するのと同じ順序にする必要はありません。

規則

- 新規のオブジェクト・タイプを追加するか、またはオブジェクト・タイプを組み合わせる際には、予約済みのプロパティ *NAME* を UUI の一部として定義することができます。図 67 では、*NAME* を UUI プロパティとして識別するための一般的な構文を示します。

```
:ACTION.OBJTYPE(ADD)  
:OBJECT.TYPE() CATEGORY() EXTNAME() PHYNAME() ICOFILE() ICWFILE()  
:PROPERTY.SHRTNAME(NAME) UUISEQ()
```

図 67. *NAME* プロパティを UUI の一部として指定する例

この図にある空の括弧は、タグ言語ファイルの中でユーザーが指定しなければならない値を示しています。

- UUI フィールドの最大長は 254 バイトです。

RELTYPE

追加または削除される関係のタイプと、関係に参加するオブジェクトのオブジェクト・タイプを識別します。

このタグは、次のタグの直後に続けることが必要です。

```
:ACTION.RELATION(ADD)  
:ACTION.RELATION(DELETE)
```

構文

```
:RELTYPE.TYPE(CONTAIN | CONTACT | ATTACHMENT | LINK)
SOURCETYPE(source_type) TARGETTYPE(target_type)
```

コンテキスト

```
:ACTION.RELATION(ADD)
:RELTYPE.TYPE() SOURCETYPE() TARGETTYPE()
:INSTANCE.SOURCEKEY(UII_short_name()...) TARGETKEY(UII_short_name()...)
```

図 68. 関係の追加時の *RELTYPE* タグの使用

```
:ACTION.RELATION(DELETE)
:RELTYPE.TYPE() SOURCETYPE() TARGETTYPE()
:INSTANCE.SOURCEKEY(UII_short_name()...) TARGETKEY(UII_short_name()...)
```

図 69. 関係の削除時の *RELTYPE* タグの使用

キーワード

TYPE

関係のタイプを指定します。

必須キーワード。

有効な値は、以下のとおりです。

ATTACHMENT

Attachment 関係: ターゲット・オブジェクトがソース・オブジェクトに付加されます。

CONTACT

Contact 関係: ソース・オブジェクトがターゲットの Contact オブジェクトに関連付けられます。

CONTAIN

包含関係: ソース・オブジェクトがターゲット・オブジェクトを含みます。

LINK

リンク関係: ソース・オブジェクトがターゲット・オブジェクトにリンクされます。

RELTYPE

SOURCETYPE

ソース・オブジェクト・タイプを識別します。

必須キーワード。

source_type

ソース・オブジェクト・タイプ名 *source_type* は、OBJECT タグの TYPE キーワードの *type* 値と一致します。 *source_type* の最大長は 8 文字です。この値は、大文字小文字が区別されないため、大文字または小文字を使用して指定することができます。

Attachment 関係の場合、*source_type* は Attachment 以外のオブジェクト・タイプ名です。

包含関係の場合、*source_type* はコンテナ・オブジェクト・タイプ名です。

Contact またはリンク関係の場合、*source_type* は Grouping または Elemental オブジェクト・タイプ名です。

TARGETTYPE

ターゲット・オブジェクト・タイプを識別します。

必須キーワード。

target_type

ターゲット・オブジェクト・タイプ名。 *target_type* は、OBJECT タグの TYPE キーワードの *type* 値と一致します。 *target_type* の最大長は 8 文字です。この値は、大文字小文字が区別されないため、大文字または小文字を使用して指定することができます。

Attachment 関係の場合、*target_type* は Attachment オブジェクト・タイプ名です。

包含関係の場合、*target_type* は包含されるオブジェクト・タイプ名です。

Contact 関係の場合、*target_type* は Contact オブジェクト・タイプ名です。

リンク関係の場合、*target_type* は Grouping または Elemental オブジェクト・タイプ名です。

TAB

プロパティ値の中でタブを指定します。

情報カタログ・マネージャーは、非 UI プロパティ値の中で指定された TAB タグのみを読み取り、それ以外はすべて無視します。

構文

:TAB.

規則

TAB タグは、INSTANCE タグの *property_values* の指定の中でのみ使用してください。

TAB

付録E. タグ言語ファイルの使い方

タグを使用すると、オブジェクト・タイプとオブジェクトを追加、削除、および更新することができます。情報カタログ・マネージャー・タグはコンテキストに依存するため、行いたいことに応じてさまざまな組み合わせでタグを指定します。

タグ言語ファイルの DISKCNTL からの開始

ファイルが取り外し可能ディスク (ディスケットなど) にある場合は、タグ言語ファイルを DISKCNTL タグで開始してください。たとえば、次のようになります。

```
:DISKCNTL.SEQUENCE(01,+)
```

タグ言語ファイルが複数のディスケットに入っている場合は、各ディスケット上のタグ言語ファイルのそれぞれのセクションで、DISKCNTL を最初のタグにしなければなりません。タグ言語ファイルがハード・ディスクにある場合、DISKCNTL は無視されます。

追加、変更、および削除の定義

タグ言語では、アクションと、それらのアクションのオブジェクトを定義します。

行うことの定義

ACTION タグは、行うべきことを情報カタログ・マネージャーに指示するために使用します。キーワードでは、保守する情報の種類を指定し、オプションでは、実行するタスクを指定します。

```
:ACTION.OBJINST(option)
```

オブジェクトの保守。

```
:ACTION.OBJTYPE(option)
```

オブジェクト・タイプの保守。

```
:ACTION.RELTYPE(option)
```

オブジェクトの関係の保守。

情報の定義

行いたいことを指定した後、追加、変更、または削除する情報を正確に定義することが必要です。

定義する情報:

既存のオブジェクト・タイプ
組み合わせられるオブジェクト・タイプ
新規のオブジェクト・タイプ
オブジェクト・タイプについての新規のプロパティ
新規または既存のオブジェクト
オブジェクトの新規または既存の関係

使用するタグ:

OBJECT
OBJECT および PROPERTY
OBJECT および PROPERTY
OBJECT および PROPERTY
OBJECT および INSTANCE
RELTYPE および INSTANCE

タグの組み立て

OBJECT、INSTANCE、および PROPERTY タグに必要なキーワードと値は、それらのタグで追加、変更、または削除するために識別するものによって異なります。それぞれの ACTION タグの中でのタグの順序は、以下のとおりです。

:ACTION.OBJINST(*option*)

```
:ACTION.OBJINST(ADD)
:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.short_name() ...

:ACTION.OBJINST(DELETE)
:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.SOURCEKEY(UII_short_name()...)

:ACTION.OBJINST(DELETE_TREE_ALL)
:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.SOURCEKEY(UII_short_name()...)

:ACTION.OBJINST(DELETE_TREE_REL)
:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.SOURCEKEY(UII_short_name()...)

:ACTION.OBJINST(MERGE)
:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.short_name() ...

:ACTION.OBJINST(UPDATE)
:OBJECT.TYPE()
:INSTANCE.SOURCEKEY(UII_short_name()...) short_name()
```

:ACTION.OBJTYPE(*option*)

```
:ACTION.OBJTYPE(ADD)
:OBJECT.TYPE() CATEGORY() EXTNAME() PHYNAME() ICOFILE()
:PROPERTY.EXTNAME() DT() DL() SHRTNAME() NULLS() UIISEQ()
```

```

:ACTION.OBJTYPE(APPEND)
:OBJECT.TYPE()
:PROPERTY.EXTNAME() DT() DL() SHRTNAME() NULLS() UUISEQ()

:ACTION.OBJTYPE(DELETE)
:OBJECT.TYPE()

:ACTION.OBJTYPE(DELETE_EXT)
:OBJECT.TYPE()

:ACTION.OBJTYPE(MERGE)
:OBJECT.TYPE() CATEGORY() EXTNAME() PHYNAME() ICOFILE() ICWFILE()
:PROPERTY.EXTNAME() DT() DL() SHRTNAME() NULLS() UUISEQ()

:ACTION.OBJTYPE(UPDATE)
:OBJECT.TYPE() EXTNAME() ICOFILE() ICWFILE()

```

:ACTION.RELATION(*option*)

```

:ACTION.RELATION(ADD)
:RELTTYPE.TYPE(CONTAIN | CONTACT | ATTACHMENT | LINK) SOURCETYPE(type)
TARGETTYPE(type)
:INSTANCE.SOURCEKEY(UUI_short_name()...) TARGETKEY(UUI_short_name()...)

:ACTION.RELATION(DELETE)
:RELTTYPE.TYPE(CONTAIN | CONTACT | ATTACHMENT | LINK) SOURCETYPE(type)
TARGETTYPE(type)
:INSTANCE.SOURCEKEY(UUI_short_name()...) TARGETKEY(UUI_short_name()...)

```

INSTANCE、OBJECT、および PROPERTY タグの形式に関する具体的な情報については、184ページの『INSTANCE』、190ページの『OBJECT』、または197ページの『PROPERTY』を参照してください。

データベースへの変更のコミット

COMMIT タグは、情報カタログ・データベースへの変更をコミットします。COMMIT タグが処理されると、次のタグのセットの処理が開始される前に、エコー・ファイルが空にされます。これにより、エコー・ファイルには、コミットされていない変更を記述するタグのみが含まれるようになります。

情報カタログ・マネージャーは、エラーを検出すると、最後にコミットされたチェックポイントまでデータベースをロールバックします。データの整合性を維持し、データベースのロールバック時に取り消される変更の数を制限するために、ファイルに COMMIT タグを挿入してください。

COMMIT タグは、あるアクションを定義するタグの完結したセットの後に挿入することができます。ある ACTION タグと、その ACTION タグに関連するデータを定義する最後のタグの間に、COMMIT タグを挿入しないでください。

```

:COMMIT.CHKPT(20)

```

タグ言語ファイルへのコメントの書き込み

COMMENT タグを使用すると、情報カタログにインポートしたくない情報（注釈やラベルなど）をタグ言語ファイルに書き込むことができます。

```
:COMMENT.Updating the LASTDATE property
```

付録F. コマンド行から情報カタログ・マネージャー機能を実行する

MS-DOS コマンド・プロンプトからいくつかの情報カタログ・マネージャー機能を実行することができます。

目的:	参照:
情報カタログをオープンする	『コマンド行から情報カタログ・マネージャーを呼び出す』
情報カタログにタグ言語ファイルをインポートする	『タグ言語ファイルをコマンド行からインポートする』
メタデータを情報カタログからエクスポートする	213ページの『メタデータを情報カタログからエクスポートする』
MDIS メタデータをユーザーの情報カタログにインポートする	113ページの『MDIS 対応のタグ言語ファイルをインポートする』
MDIS メタデータをユーザーの情報カタログからエクスポートする	115ページの『MDIS 対応のタグ言語ファイルをエクスポートする』
情報カタログを作成する	215ページの『コマンド行から情報カタログを作成する』

コマンド行から情報カタログ・マネージャーを呼び出す

MS-DOS コマンド行から情報カタログをオープンするには、DGUIDE コマンドを入力します。タグ言語ファイルをインポートまたはエクスポートするために、コマンドにパラメーターを追加することができます。『タグ言語ファイルをコマンド行からインポートする』および 213ページの『メタデータを情報カタログからエクスポートする』は、DGUIDE コマンドに追加できるパラメーターについて説明しています。

タグ言語ファイルをコマンド行からインポートする

MS-DOS コマンド・プロンプトから DGUIDE コマンドを使用して、情報カタログをオープンし、タグ言語ファイルをインポートすることができます。DGUIDE コマンドを使用するとき、コマンド構文に関する以下の規則に注意してください。

- 指定のないすべての部分については、大文字小文字を区別しません。

- 各キーワードの前にはスラッシュ (/) またはハイフン (-) 文字のいずれかを付けます。
- インポートを選択する場合、図70 に示されているように /IMPORT に続くすべてのキーワードは必須です。
- 下線のある選択項目はデフォルトです。

DGUIDE /USERID *userid* /PASSWORD *password* /DGNAME *dgname*

任意指定のキーワードは以下のとおりです。

/ADMIN
/TRACE 0|1|2|3|4
/IMPORT *filename* /LOGFILE *filename* /RESTART B|C

任意指定のインポート・キーワードは以下のとおりです。

/ICOPATH *iconpath*

図 70. 情報カタログをオープンしてメタデータをインポートするための **DGUIDE** コマンド・パラメーター

以下の例は、サンプルの情報カタログを管理者としてオープンするための必須パラメーターを示しています。

DGUIDE /USERID longods /PASSWORD secret /DGNAME ICMSAMP /ADMIN

以下のリストは、**DGUIDE** コマンドに追加するパラメーターを示しています。タグ言語ファイルをインポートするための任意指定または必須キーワードについては、注記されています。

/ADMIN

管理者としてログオンすることを指定します。この任意指定のキーワードを **DGUIDE** コマンドに指定しない場合、ユーザーとしてログオンします。その場合、管理者タスクを実行することはできません。

/DGNAME

情報カタログ名。

情報カタログがローカルである場合、データベース名を指定します。情報カタログがリモートである場合、それがカタログ化される別名を指定します。

例:

/DGNAME ICMSAMP

/ICOPATH

/IMPORT; がある場合にのみ有効、任意指定。

アイコンをインポートすることを示し、インポート・ファンクションが使用するアイコン・パスを指定します。ドライブおよびパスの全体を指定しない場合、情報カタログ・マネージャーはパスが情報カタログ・マネージャーをインストールしたパスと同じであると想定します。固定ドライブを指定しなければなりません。

例:

```
/ICOPATH d:¥icons¥
```

/IMPORT

指定したタグ言語ファイルをインポートします。ドライブ、パス、およびファイル名を含めた全体を指定するのでなければ、情報カタログ・マネージャーはそのファイルが `DGWPATH` 環境変数で指定されたパスに存在すると想定します。

例:

```
/IMPORT d:¥tagfile.tag
```

このキーワードは情報カタログ・マネージャー・ユーザー・インターフェースをう回して、インポート・ファンクションをバッチ処理として実行します。

/LOGFILE

`/IMPORT`; がある場合にのみ有効、`/IMPORT` がある場合には必須。

情報カタログ・マネージャーがインポートの際に生成するメッセージを送るファイルの宛先を指定します。ドライブ、パス、およびファイル名を含めた全体を指定するのでなければ、情報カタログ・マネージャーはそのファイルを `DGWPATH` 環境変数で指定されたパスに置きます。固定ドライブを指定しなければなりません。

例:

```
/LOGFILE d:¥tagfile.log
```

/PASSWORD

このユーザー ID に対するパスワード。

例:

```
/PASSWORD secret
```

以下のオペレーティング・システム上にあるデータベースにアクセスするためのパスワードは大文字小文字の区別をするため、指定されたとおりにタイプしなければなりません。

- AIX

- Windows NT および Windows 2000
- Solaris 実行環境版

/RESTART

/IMPORT; がある場合にのみ有効、/IMPORT がある場合には必須。

インポート・ファンクションが使用するオプションを示します。有効なオプションは以下のとおりです。

- B** タグ言語ファイルを最初からインポートします。
- C** デフォルト。タグ言語ファイルを、最後に情報カタログ・マネージャーが情報カタログへの変更を正常にコミットした箇所からインポートします。

/TRACE

トレース・ファイルに送るトレース情報のレベル。高位のレベルには下位のレベルの機能が含まれます (3 にはレベル 0、1、2、および 3 の機能が含まれます)。情報カタログ・マネージャーの問題を診断するために IBM Software Support を呼び出すには、高いレベルを指定しなければならない場合があります。

- 0** デフォルト。すべてのメッセージ、警告、エラー、および重大エラー状態が含まれます。
- 1** 最高レベルの情報カタログ・マネージャー機能の入り口レコードおよび出口レコードが含まれます。
- 2** 情報カタログ・マネージャー機能の入り口レコードおよび出口レコードで、一般的なものが含まれます。
- 3** 入力および出力パラメーター (入力または出力構造を除く) が含まれます。
- 4** 情報カタログ・マネージャーに渡されて使用されたすべての入力または出力構造が含まれます。

/USERID

情報カタログのユーザー ID。オープンしている情報カタログのデータベース位置に応じて、データベースのために必要なユーザー ID をタイプします。たとえば、ユーザー ID はローカル、LAN、AS/400、AIX、または OS/390 TSO ローカルであることがあります。

例:

```
/USERID longods
```


メタデータを情報カタログからエクスポートする

別の情報カタログにインポートできるタグ言語ファイルにメタデータをエクスポートするには、`DGUIDE` コマンドを入力します。

メタデータをエクスポートするために `DGUIDE` コマンドを使用する際には、コマンド構文について、次の点に注意してください。

- 指定した部分を除いて、大文字小文字の区別はありません。
- キーワードは、それぞれスラッシュ (/) またはハイフン (-) 文字で区切る必要があります。
- 図71 に示されているように `/EXPORT` の後ろのキーワードはすべて必須です。
- 下線のついた選択項目はデフォルトです。

```
DGUIDE /DGNAME ic_name /USERID userid /PASSWORD password /ADMIN  
/EXPORT filename /LOGFILE filename /OBJTYPE  
object_type /OBJECTS name
```

オプションのキーワード:

```
/ADMIN  
/A /C /L /T
```

図71. メタデータをエクスポートするための `DGUIDE` コマンド・パラメーター

/ADMIN

情報カタログ管理者としてログオン中であることを指定します。 `DGUIDE` コマンドのこのオプションのキーワードを指定しないと、ユーザーとしてログオンします。情報カタログ管理者によって権限が与えられた場合、ユーザーとしてもメタデータのエクスポートはできますが、管理者のすべてのタスクを実行することはできません。

このキーワードは任意選択です。

/A エクスポートされるオブジェクトと関連のあるすべてのコメントをエクスポートすることを指定します。

このキーワードは任意選択です。

/C エクスポートされるオブジェクト内に含まれているすべてのオブジェクトをエクスポートすることを指定します。

このキーワードは任意選択です。

/DGNAME

エクスポートしたい情報カタログの名前。

情報カタログがローカルの場合は、データベース名を指定します。情報カタログがリモートの場合は、カタログされた別名を指定します。

例:

```
/DGNAME ICMSAMP
```

/EXPORT

指定するタグ言語ファイルにオブジェクトをエクスポートします。完全なドライブ、パス、およびファイル名を指定しない限り、情報カタログ・マネージャーはファイルが `DGWPATH` 環境変数上に指定されるパス内にあると仮定します。

例:

```
/EXPORT d:%tagfile.tag
```

/L エクスポートされるオブジェクトとリンク関係にあるすべてのオブジェクトをエクスポートすることを指定します。

このキーワードは任意選択です。

/LOGFILE

エクスポート・プロセス中に情報カタログ・マネージャーが生成するメッセージのファイル宛先を指定します。完全なドライブ、パス、およびファイル名を指定しない限り、情報カタログ・マネージャーはファイルを `DGWPATH` 環境変数によって示されるパスに置きます。ハード・ディスク・ドライブは指定しなければなりません。

例:

```
/LOGFILE d:%tagfile.log
```

/OBJECTS

エクスポートするオブジェクトごとに汎用固有 ID (UUI) を指定します。最大 5 つまでの UUI 値をピリオドで区切り、引用符で囲んで指定することができます。

例:

```
/OBJECTS "DWCTARGET.DWCADMIN.CUSTOMER"
```

/OBJTYPE

エクスポートするオブジェクトの DP NAME (短縮名) を指定します。

例:

```
/OBJTYPE TABLES
```

/PASSWORD

このユーザー ID に対するパスワード。

例:

```
/PASSWORD secret
```

以下のオペレーティング・システム上のデータベースにアクセスするためのパスワードは大文字小文字の区別があります。このため、指定されたとおりに入力する必要があります。

- AIX
- Windows NT および Windows 2000
- Solaris 実行環境版

/T エクスポートされるオブジェクトと関連のあるすべての連絡先をエクスポートすることを指定します。

このキーワードは任意選択です。

/USERID

情報カタログのユーザー ID。オープンしている情報カタログのデータベースの位置に従って、そのデータベースに必要なユーザー ID を入力してください。たとえば、ユーザー ID は、ローカル、LAN、AS/400、AIX、または OS/390® TSO のユーザー ID です。

例:

```
/USERID hchan
```

以下の例では、管理者 hchan は、ICMSAMP 情報カタログから、DBNAME(DWCARGET) OWNER(DWCADMIN) TABLES(CUSTOMER) という UI を持つリレーショナル表オブジェクトをエクスポートします。表オブジェクトおよびオブジェクトと関連のあるすべての列に加えて、すべての連絡先オブジェクトおよび表オブジェクトとのリンク関係を持つオブジェクトもエクスポートされます。エクスポートされるオブジェクト用のメタデータは、x:%mypath%tagfile.tag というファイルに書き込まれます。

```
DGUIDE /DGNAME ICMSAMP /USERID hchan /PASSWORD mypass /ADMIN /EXPORT  
x:%mypath%tagfile.tag /LOGFILE x:%mypath%tagfile.log  
/OBJTYPE TABLES /OBJECTS "DWCARGET.DWCADMIN.CUSTOMER" /c /t /I
```

コマンド行から情報カタログを作成する

MS-DOS コマンド・プロンプトから情報カタログを作成するには、CREATEIC コマンドを入力します。コマンド構文について、次の点に注意してください。

- 指定した部分を除いて、大文字小文字の区別はありません。
- キーワードは、それぞれスラッシュ (/) またはハイフン (-) 文字で区切る必要があります。

- 図72 に示されているように、CREATEIC の後ろのキーワードはすべて必須です。
- 情報カタログを DB2 UDB (OS/390 版) データベースに保管する場合は、必須の OS/390 キーワードを組み込まなければなりません。
- 下線のついた選択項目はデフォルトです。

```
CREATEIC /DBTYPE dbtype /DGNAME dgname /USERID userid /PASSWORD
password /KA1 primary_admin
```

オプションのキーワード:

```
/NAS -|symbol
/KA2 backup_admin
/MVSDB dbname /TSTORGP table_stor /XSTORGP index_stor
```

オプションの OS/390 キーワード:

```
/MVSUPPER Y|N
```

図 72. DGUIDE コマンドを使った情報カタログの作成方法の例

たとえば、情報カタログをリモートの DB2 UDB (Windows NT 版) データベースに作成するには、次のように入力します。

```
CREATEIC /DBTYPE DB2NT /DGNAME ICMSAMP /USERID longods /PASSWORD secret /KA1 longods
```

/DBTYPE

ユーザーの情報カタログの保管先としたい DB2 データベースのタイプを指定します。有効な値は以下のとおりです。

- | | |
|---------------|--|
| DB22 | DB2 UDB (OS/2 版) データベースを指定します。 |
| DB2 | DB2 UDB (OS/390 版) または DB2 (OS/390 版) データベースを指定します。DB2 UDB (OS/390 版) を使用するためには、DB2 コネクト製品をユーザーのワークステーションにインストールする必要があります。 |
| DB2400 | DB2 UDB (AS/400 版) データベースを指定します。DB2 UDB (AS/400 版) を使用するためには、DB2 コネクト製品をユーザーのワークステーションにインストールする必要があります。 |
| DB2NT | DB2 UDB (Windows NT 版) データベースまたは DB2 UDB (Windows 2000 版) データベースを指定します。リモート・データベースを使用するためには、TCP/IP または NetBIOS をインストールする必要があります。 |

DB2 Family その他のオペレーティング・システム上に DB2 UDB データベースを指定します。たとえば、

- DB2 UDB (AIX 版) または DB2 UDB (Solaris 実行環境版)
リモート・データベースを使用するためには、ユーザーのワークステーションに TCP/IP をインストールする必要があります。
- DB2 UDB EEE
データベースが常駐するオペレーティング・システムの要件に従ってください。

/DGNAME

データベース名を指定します。データベースがローカルの場合は、データベース名を指定します。データベースがリモートの場合は、ユーザーのローカル・ワークステーションにカタログされたリモート・データベースの別名を指定します。

/USERID

情報カタログを格納しているデータベースに必要なユーザー ID を次のように指定します。

DB2 UDB (OS/2 版) (ローカル)

ローカル・ユーザー ID (ワークステーションの UPM で指定したもの)

DB2 UDB (OS/2 版) (リモート)

LAN ユーザー ID (リモート・ワークステーションの UPM で指定したもの)

DB2 UDB (OS/390 版)

RACF ユーザー ID

DB2 UDB (AS/400 版)

AS/400 ユーザー ID

DB2 UDB (AIX 版)

AIX ユーザー ID

DB2 UDB EEE

データベースが常駐するオペレーティング・システムに必要なユーザー ID を使用します。

**DB2 UDB (Windows NT 版) または DB2 UDB (Windows 2000 版)
(ローカル)**

Windows NT のユーザー ID

**DB2 UDB (Windows NT 版) または DB2 UDB (Windows 2000 版)
(リモート)**

LAN ユーザー ID (リモート・ワークステーションのユーザー・マネージャーで指定したもの)

/PASSWORD

/USERID キーワードに入力したユーザー ID のパスワードを指定します。

以下のオペレーティング・システム上のデータベースにアクセスするためのパスワードは大文字小文字の区別があります。このため、指定されたとおりに入力する必要があります。

- AIX
- Windows NT および Windows 2000
- Solaris 実行環境版

/NAS

不適当なプロパティ値を示すために使用したい文字を指定します。次の特殊文字から選択することができます。

!	;	#	\$	%	*	(
)	+	,	-	.	/	:
{	}	=	?	@	[]
-						

デフォルトはハイフン (-) です。

/KA1

情報カタログ・マネージャーの管理者となる人のユーザー ID を指定します。このユーザー ID には SYSADM 権限 (ユーザーの情報カタログが DB2 UDB (AS/400 版) データベースに保管されている場合は ALLOBJ 権限) が必要です。

/KA2

管理者をバックアップする人のユーザー ID を指定します。このユーザー ID には、データベース管理者権限が必要です。

/MVSDB

/DBTYPE DB2 とともに使用する場合のみ有効。/DBTYPE DB2 では必須。

DB2 UDB (OS/390 版) データベースの名前を指定します。

/TSTORGP

/DBTYPE DB2 とともに使用する場合のみ有効。/DBTYPE DB2 では必須。

表に使用する記憶域グループの名前を指定します。

/XSTORGP

/DBTYPE DB2 とともに使用する場合のみ有効。/DBTYPE DB2 では必須。

索引に使用する記憶域グループの名前を指定します。

/MVSUPPER

/DBTYPE DB2 とともに使用する場合のみ有効。/DBTYPE DB2 では任意選択。

各オブジェクトのプロパティ値を大文字で保管したいかどうかを指定します。

Y デフォルト。値を大文字で OS/390 データベースに保管することを指定しますが、その値を検索するときには値を小文字で入力できます。

N 値を入力したとおりに OS/390 データベースに保管すること、および情報カタログ検索のすべてに大文字小文字の区別があることを指定します。

共通オブジェクト・タイプを情報カタログにインポートする

情報カタログを作成した後、他の規格合致製品とメタデータを交換するために使用できる共通オブジェクト・タイプをインポートするためには、**DGUIDE** コマンドを使用することができます。

共通オブジェクト・タイプをインポートする前に、まず、すべての情報カタログ・マネージャー共通オブジェクト・タイプをタグ言語ファイルに追加しなければなりません。DB2 ユニバーサル・データベースがインストールされているドライブ上にある **¥SQLLIB¥DGWIN¥TYPES** ディレクトリーから、**MS-DOS** コマンド・プロンプトで以下のコピー・コマンドを入力してください。

```
copy *.typ + *.app mytag.tag
```

共通オブジェクト用のメタデータは、**mytag.tag** にコピーされます。次に、以下の例にあるように、**DGUIDE** コマンドを使用して、**mytag.tag** を情報カタログにインポートしてください (途中で改行を入れないでください)。

```
DGUIDE /USERID valdezma /PASSWORD secret /DGNAME ICMSAMP /IMPORT  
d:¥Program Files¥sqllib¥dgwin¥types¥mytag.tag /LOGFILE  
d:¥Program Files¥sqllib¥dgwin¥mytag.log  
/ICOPATH d:¥Program Files¥sqllib¥dgwin¥types /RESTART B
```


特記事項

本書において、日本では発表されていない IBM 製品 (機械およびプログラム)、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのような IBM 製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBM ライセンス・プログラムまたは他の IBM 製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない機能的に同等な他社のプログラム、製品またはサービスを使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼働の評価および検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBM および他社は、本書で説明する主題に関する特許権 (特許出願を含む)、商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用権等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用権等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木 3 丁目 2-31

AP 事業所

IBM World Trade Asia Corporation

Intellectual Property Law & Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

本書に含まれる情報には、技術的に不正確なもの、または誤植が含まれる場合があります。これらに対する変更は、定期的に行われます。これらの変更は、資料の改訂版に含まれます。IBM は、本書で説明している製品、プログラムに対して、予告なく改良、変更を加える場合があります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するもので

はありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様になんら義務も負わせない適切な方法で、使用もしくは配布することがあります。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Canada Limited
Office of the Lab Director
1150 Eglinton Ave. East
North York, Ontario
M3C 1H7
CANADA

本プログラムに関する上記の情報は、適切な条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

本書に含まれるパフォーマンス・データは、制御された環境下で決定されています。したがって、その他の稼働環境で得られる結果とは、かなり異なる可能性もあります。一部の測定値は、開発中のシステムを使用している場合があり、これらの測定値が一般的に提供可能なシステムで同様の数値になることを保証するものではありません。さらに、一部の測定値が推定されたものもあります。実測値と異なる場合があります。本書のユーザーは、使用される特定の環境での該当データを確認してください。

IBM 以外の製品については、当該製品の提供者から直接、出版されている資料または一般公開されている情報から入手しました。IBM は、これらの製品についてはテストを行っておらず、これらの IBM 以外の製品に関する性能、互換性またはその他の主張について確認することはできません。IBM 以外の製品の機能に対する質問は、それぞれの製品提供者にお問い合わせください。

IBM の将来の方向性または意図については、予告なしに変更または中止する場合があります。IBM の目的および目標のみを示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれていますが、これは説明に具体性を与えるために記載されたものであり、それらの例には、個人、企業、ブランドの、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。それらの名前はすべて架空のものであり、また名称や住所が類似する企業が実在しても、それは偶然に過ぎません。

著作権：

本書に含まれる情報には、サンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語の形式で含まれており、様々な、オペレーティング・プラットフォームでのプログラミング技法を示しています。お客様は、これらのサンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームでアプリケーション・プログラミング・インターフェースが実行可能となるためのアプリケーション・プログラムを開発、使用、販売または配布もしくは転送する目的のためだけに、サンプル・プログラムを、IBM に対する別途料金を支払うことなく、複製、変更、配布または転送することができます。これらのサンプルは、すべての条件下で十分にテストを行っていません。したがって、IBM は、これらのプログラムの信頼性、実用性または機能について、いかなる保証も負いません。

サンプル・プログラムまたはその改変版の複製物には、全部複製か部分複製かを問わず、次の著作権表示を必ず行うものとします。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年_. All rights reserved.

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

ACF/VTAM	IBM
AISPO	IMS
AIX	IMS/ESA
AIX/6000	LAN DistanceMVS
AIXwindows	MVS/ESA
AnyNet	MVS/XA
APPN	Net.Data
AS/400	OS/2
BookManager	OS/390
CICS	OS/400
C Set++	PowerPC
C/370	QBIC
DATABASE 2	QMF
DataHub	RACF
DataJoiner	RISC System/6000
DataPropagator	RS/6000
DataRefresher	S/370
DB2	SP
DB2 Connect	SQL/DS
DB2 Extenders	SQL/400
DB2 OLAP Server	System/370
DB2 Universal Database	System/390
Distributed Relational Database Architecture	SystemView VisualAge
DRDA	VM/ESA
eNetwork	VSE/ESA
Extended Services	VTAM
FFST	WebExplorer
First Failure Support Technology	WIN-OS/2

次のものは、他社の商標または登録商標です。

Tivoli および NetView は、米国およびその他の国における Tivoli Systems Inc. の商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT、および Windows ロゴは Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group がライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

用語集

A

管理者 (administrator). 情報カタログ・マネージャーの内容および使用について管理する責任のある人。

アンカー (anchor). 別のオブジェクトを含むが、他の Grouping オブジェクトには含まれない Grouping オブジェクト。

Attachment. 別の情報カタログ・マネージャー・オブジェクトに追加情報を付加するのに使用されるオブジェクト・タイプの区分。たとえば、ユーザーはオブジェクトにコメントを付加することができる。

B

ブラウズ (browse). 主題ごとにグループ化された情報カタログ・オブジェクトを表示すること。探索 (*search*) と対比。

C

カタログ (catalog). 情報カタログ (*information catalog*) およびデータベース・カタログ (*database catalog*) を参照。

区分 (category). 情報カタログ・マネージャー・オブジェクト・タイプの種別。区分は次のことを示す。

- オブジェクト・タイプが使用することのできるアクションのタイプ
- 同一または別の区分に属するオブジェクト・タイプ間で受け入れられる関係

オブジェクト・タイプは、次のいずれかの区分に属する。

Attachment

Contact
Dictionary
Elemental
Grouping
Program
Support

CeIDial サンプル・データ (CeIDial sample data). 情報カタログ・マネージャーをインストールするときに使用できるサンプルの情報カタログ (ICMSAMP)で、インストール検査で使用できる。このサンプル情報カタログは、情報カタログ・マネージャー 使用者の手引き の練習でも使用される。

集合 (collection). オブジェクトのコンテナ。集合を使用して関心のあるオブジェクトを集め、アクセスしやすくすることができる。

コメント (Comments). オブジェクトの種別で、情報カタログ・マネージャーの別のオブジェクトに注釈をする。たとえば、図表データについてのメモを含む図表オブジェクトに、コメント・オブジェクトを付加したい場合がある。

コメント・オブジェクト・タイプは情報カタログ・マネージャーと一緒に出荷される。プロパティを追加することはできない。

コミット (commit). 情報カタログ データベースに対して行われた変更を永続的なものにする。ロールバック (*roll back*) と対比。

連絡先 (contact). オブジェクトの詳細についての参照先。詳しい情報の中には、オブジェクトが示す情報を作成した人物や、情報保守の責任を持つ部門が記述されている可能性がある。

Contact. 「Contact」オブジェクト・タイプと、連絡担当者を識別するその他のオブジェクト・タイプの区分。

Contact オブジェクト・タイプ (Contact object type). 連絡先を識別するオブジェクトの種別。

D

データベース・カタログ (database catalog). 表、視点、索引などのデータベース・オブジェクトの記述を含む、表の集り。

DBCS. 2 バイト文字セット (double-byte character set)。

意思決定支援システム (decision-support system). ユーザーの意思決定を援助するアプリケーションからなるシステム。ユーザーは、この種のシステムを使用することにより、スプレッドシート、図表、報告書などのような意味のある方法で提示された情報を利用することができる。

削除履歴 (delete history). 削除活動の記録。情報カタログ・マネージャー管理者によってオンおよびオフされるキャプチャー。ログはタグ言語ファイルに転送できる。

派生データ (derived data). 操作可能なデータ・ソースからのコピーまたは (データの要約などにより) 強化されて情報データベースに入れられたデータ。

記述データ (descriptive data). 表の名前、スプレッドシートの場所、文書の作成者などのような、オブジェクトを識別および記述するデータ。メタデータとも呼ばれる。

記述ビュー (Description view). あるオブジェクトのプロパティおよびプロパティ値をリストするビュー。

Dictionary. 用語を定義するのに使用するオブジェクト・タイプの区分 (たとえば、サンプル情報カタログ内の「用語集の記入項目」オブジェクト・タイプ)。

辞書機能 (dictionary facility). 情報カタログで使用する業務用語の定義または同義語の集合。作成後は、保管された検索アイコンとしてすべてのユーザー・カタログ・ウィンドウに辞書機能が表示される。

2 バイト文字セット (double-byte character set (DBCS)). 各文字が 2 バイトで表現される文字のセット。日本語、中国語、および韓国語のように、256 のコード点では表現しきれない数の記号を含む言語には、2 バイト文字セットが必要となる。1 バイト文字セット (*single-byte character set*) と対比。

DP NAME. インポート操作のためにオブジェクト・タイプを固有に識別する、オブジェクト・タイプの識別子。オブジェクト・タイプの短縮名とも呼ばれる。

E

エコー・ファイル (echo file). タグ言語ファイルをインポートする際に情報カタログ・マネージャーが作成するファイル。このファイルには、タグ言語ファイルの先頭から、または最後の COMMIT タグが処理されたあとで処理されたすべてのタグが収められる。

Elemental. 他の情報カタログ・マネージャー・オブジェクト・タイプの基本要素である Grouping オブジェクト・タイプ以外の区分。Elemental オブジェクト・タイプは、オブジェクト・タイプ階層の最下位に位置する。「リレーショナル表の列」、「表示 {電子形態およびハードコピー}」、および「グラフィックスおよびイメージ」は、すべて、Elemental オブジェクト・タイプの例である。

エクスポート (export). 情報カタログ・マネージャーからメタデータをコピーし、そのメタデータをタグ言語に変換し、あとでインポート操作を行うときのためにこの出力をタグ言語ファイルに収めること。

外部名 (external name). オブジェクト・タイプを表す 80 バイトの名前。オブジェクト・タイプ名とも呼ばれる。

抽出制御ファイル (extract control file). 抽出ユーティリティー・プログラムの操作を制御するステートメントを含むファイル。

抽出プログラム (extract program). RDBMS カタログなどのメタデータ・ソースからのコピーを行い、そのメタデータをタグ言語に変換し、この出力をタグ言語ファイルに収めるユーティリティー。

F

FAT. ファイル割り振りテーブル (file allocation table)。ファイル用のスペースをディスク上で割り振るため、およびそのファイルの位置を探すために使用されるテーブル。

FLGID. オブジェクト識別子 (*object identifier*) を参照。

G

Grouping. 他のオブジェクト・タイプを含むことのできる、オブジェクト・タイプの区分。情報カタログ・マネージャーとともに出荷されるサンプル情報カタログで利用できる Grouping オブジェクト・タイプの例は次のとおり。Elemental オブジェクト・タイプの「リレーショナル表の列」を「リレーショナル・データベースの表または視点」、および他の Grouping オブジェクト・タイプの「次元」を含む「多次元モデル」。

H

HPFS. ハイ・パフォーマンス・ファイル・システム (High-performance file system)。OS/2 において、キャッシュと呼ばれる高速バッファ記憶装置を使用して大規模なディスク・ボリュームに高速でアクセスする、インストール可能なファイル・システム。HPFS では、254 文字までのファイル名を使用することができる。

I

インポート (import). タグ言語ファイルの内容を情報カタログ・マネージャーに適用して、情報カタログを初期移植したり、情報カタログの内容を変更したり、別の情報カタログの内容を情報カタログにコピーしたりすること。

情報カタログ (information catalog). 組織内でユーザーが使用することのできるデータや情報の識別および検出を行いやすくするための記述データが入った、情報カタログ・マネージャーによって管理されるデータベース。

情報カタログ・マネージャー・アプリケーション・プログラム・インターフェース (Information Catalog Manager application program interface (API)). 情報カタログ・マネージャーの一部であって、情報カタログ・マネージャーのサービスおよび機能に関するアプリケーション・プログラム要求を処理する部分。

情報源 (information source). 情報カタログ・マネージャー・オブジェクトによって表現される、表や図表などのデータまたは情報の項目。

情報アプリケーション (informational application). ユーザーがデータを検索および分析するために使用される、プログラムまたはシステム。

情報データベース (informational database). 派生データを含む、ビジネス上の意思決定に使用するためのデータベース。

入力構造 (input structure). 情報カタログ・マネージャー・アプリケーション・プログラム・インターフェースにデータを実行依頼するために使用される、自己定義データ構造。

インスタンス (instance). オブジェクト (*object*) を参照。

インスタンス識別子 (instance identifier). 情報カタログ・マネージャーによって生成される、各オブジェクトを表す 10 桁の数字による識別子。この識別子は特定のオブジェクト・タイプ内ではそのオブジェクトに固有であり (別のオブジェクト・タイプのオブジェクトと同じ識別子を使用してもよい)、また特定の情報カタログ・データベース内でも固有である (別の情報カタログ・データベース内のオブジェクトと同じ識別子を使用してもよい)。

入出力構造 (I/O structure). 入力構造 (*input structure*) および出力構造 (*output structure*) を参照。

K

キーワード (keyword). 情報カタログとの間でインポートまたはエクスポートされるデータ値の意味を識別する、情報カタログ・マネージャー・タグ言語の要素。

キーワード探索 (keyword search). 探索 (*search*) を参照。

L

リンク (link). リンク関係にある複数のオブジェクト間の接続。

リンク関係 (linked relationship). 情報カタログ内のオブジェクト相互間の関係。リンク関係のオブジェクトは対等であり、一方が他方の基本オブジェクトになっているのではない。

たとえば、情報カタログ・マネージャーとともに出荷されるサンプル情報カタログでは、 **CelDial**

売上情報というオブジェクトは、その年の CelDial の広告を記述する各種オブジェクトにリンクされている。

ログ・ファイル (log file). タグ言語ファイルをインポートするとき、または情報カタログにオブジェクトをエクスポートするときに情報カタログ・マネージャーが作成するファイル。このファイルには、インポートまたはエクスポートが開始または終了した日付と時刻、およびその処理に関するエラー情報が記録される。

M

メタデータ (metadata). 情報源に関するデータ。記述データ (*descriptive data*) を参照。

複数文字のワイルドカード (multiple character wildcard). 任意の長さの一連の文字を表すために使用される文字。デフォルトでは、アスタリスク (*) が複数文字ワイルドカード。ワイルドカード (*wildcard*) および 1 文字のワイルドカード (*single character wildcard*) も参照。

N

非適用記号 (not-applicable symbol). オブジェクトの作成時に必須プロパティの値が提供されなかったことを示す文字。デフォルトでは非適用記号はハイフン (-) だが、情報カタログを作成したときに別のシンボルを識別することができる。

O

オブジェクト (object). 情報の単位または個別のグループ化を表す項目。各情報カタログ・マネージャー・オブジェクトは情報を識別し、記述するが、実際の情報は含まれない。たとえば、あるオブジェクトで報告書の名前を指定し、その作成日付を示し、その目的を記述することができる。

オブジェクト識別子 (object identifier). 6 桁のオブジェクト・タイプ識別子と、10 桁のインスタンス識別子からなる、オブジェクトを表す 16 桁の識別子で、いくつかの API 呼び出しで使用される。オブジェクト・タイプ識別子 (*object type identifier*) およびインスタンス識別子 (*instance identifier*) を参照。

オブジェクト・タイプ (object type). オブジェクトの種別。オブジェクト・タイプは、表、報告書、またはイメージなどのビジネス情報のタイプを表すために使用される。

情報カタログ・マネージャーは、修正可能な一連のオブジェクト・タイプを提供する。追加のオブジェクト・タイプを作成し、ユーザーの編成要件に合わせることもできる。

オブジェクト・タイプ識別子 (object type identifier). 情報カタログ・マネージャーによって生成される、各オブジェクト・タイプを表す 6 桁の数字による識別子。この識別子は、情報カタログ内で固有である。

オブジェクト・タイプ登録 (object type registration). 情報カタログ・マネージャー・アプリケーション・プログラム・インターフェースでは、オブジェクト・タイプに関する基本的な情報のことで、そのオブジェクト・タイプのプロパティを定義する前に情報カタログ・マネージャー内で定義しておく必要がある。これらの情報には、区分、名前、アイコン、およびオブジェクト情報を含む表の名前が含まれる。

操作可能なデータ (operational data). ある組織の日常業務を行うために使用されるデータ。

オプション (option). 情報カタログ・マネージャー・タグ言語では、タグ言語ファイルのインポート時に情報カタログ・データベース内のオブジェクトまたはオブジェクト・タイプに関して実行すべきアクションを定義する、ACTION タグのパラメーター。

出力構造 (output structure). 情報カタログ・マネージャー API 呼び出しによって作成されたデータを戻す際に情報カタログ・マネージャーが作成する自己定義データ構造。

P

物理タイプ名 (physical type name). 情報カタログ・データベースにおける、特定オブジェクト・タイプのインスタンスに関するメタデータが入っている表の名前。

移植 (populate). 情報カタログ・マネージャーにオブジェクト・タイプ、オブジェクト、またはメタデータを追加すること。

Program 区分 (Program category). プログラム・オブジェクト・タイプの区分。

プログラム・オブジェクト・タイプ (Program object type). 情報カタログ・マネージャー・オブジェクトによって書かれた実際の情報を処理できるアプリケーションを識別し、説明するオブジェクトの識別。

プログラム・オブジェクト・タイプは情報カタログ・マネージャーと一緒に出荷される。

プロパティ (property). 情報の単位を記述する特徴または属性。各オブジェクト・タイプには、関連するプロパティのセットがある。たとえば、サンプルの情報カタログにある「グラフィックスおよびイメージ」オブジェクト・タイプには、以下のプロパティが含まれている。

- 名前
- 記述
- イメージ・タイプ
- イメージ・ファイル名

各オブジェクトごとに、一連の値がプロパティに割り当てられる。

プロパティ名 (property name). 情報カタログ・マネージャー・ユーザー・インターフェース

で表示されるプロパティを記述する 80 バイトの名前。プロパティ短縮名 (*property short name*) と対比。

プロパティ短縮名 (property short name). オブジェクトまたはオブジェクト・タイプのプロパティを固有に識別するために情報カタログ・マネージャーによって使用される 8 文字の名前。

プロパティ値 (property value). プロパティの値。

PT NAME. 物理タイプ名 (*physical type name*) を参照。

R

RDBMS. リレーショナル・データベース管理システム (*relational database management system*)。

RDBMS カタログ (RDBMS catalog). 表、視点、および索引などの、RDBMS によって維持される SQL オブジェクトの記述を含む表の集り。

リレーショナル・データベース管理システム (relational database management system). リレーショナル・データを管理または保管する、DB2 UDB (OS/2 版) などのソフトウェア・システム。

登録 (registration). オブジェクト・タイプ登録 (*object type registration*) を参照。

ロールバック (roll back). 情報カタログ・データベースに対するまだコミットされていない変更の除去。コミット (*commit*) と対比。

S

保管済み探索 (saved search). 後で使用するために保管された探索基準。「カタログ (Catalog)」ウィンドウにアイコンとして表示される。

SBCS. 1 バイト文字セット (*single-byte character set*)。

探索 (search). 特定の基準を満たす情報カタログ・マネージャー・オブジェクトを表示するように要求すること。

主題で探索 (search by subject). ブラウズ (*browse*) を参照。

用語で探索 (search by term). 探索 (*search*) を参照。

探索基準 (search criteria). 探索の実施方法を指定するために使用されるオプションおよび文字列。これには、オブジェクト・タイプ名、プロパティ値、完全に一致するものを探索するのか、大文字・小文字を区別して探索するのか、などの情報を含めることができる。

1 バイト文字セット (single-byte character set (SBCS)). 各文字が 1 バイトコードで表現される文字セット。2 バイト文字セット (*double-byte character set*) と対比。

1 文字のワイルドカード (single character wildcard). なんらかの単一文字を表すために使用される文字。デフォルトでは、疑問符 (?) が単一文字ワイルドカード。ワイルドカード (*wildcard*) および複数文字のワイルドカード (*multiple character wildcard*) も参照。

主題探索 (subject search). ブラウズ (*browse*) を参照。

Support. 情報カタログまたは企業についての追加の情報を提供する、オブジェクト・タイプの区分 (たとえば、サンプルの情報カタログ内の「情報カタログ・マネージャー・ニュース」オブジェクト・タイプ)。

サポート機能 (support facility). 情報カタログの使用者に役立つ情報の集合。情報カタログへの変更または更新の通知など。作成後は、保管される。

た検索アイコンとしてすべてのユーザー・カタログ・ウィンドウにサポート機能が表示される。

T

タグ (tag). タグ言語の要素の 1 つ。タグでは、タグ言語ファイルが情報カタログにインポートされるときに取られるアクションが示される。

タグ言語 (tag language). データウェアハウスセンター内の、または情報カタログ内のオブジェクト・タイプおよびオブジェクト、ならびにそれらのオブジェクト・タイプおよびオブジェクトに対して取られる処置を定義するための形式。

タグ言語ファイル (tag language file). タグ言語に含まれるファイルで、ファイルのインポート時に、データウェアハウスセンターまたは情報カタログに追加、更新、または削除されたオブジェクトおよびオブジェクト・タイプを記述する。タグ言語ファイルは、データウェアハウスセンターまたは情報カタログ・マネージャーからオブジェクトをエクスポートすることによって生成される。

情報カタログ・マネージャーでは、タグ言語ファイルは、次のようにして生成されることもある。

- 削除履歴ログの転送
- 抽出プログラムを使用して記述データを他のデータベース・システムから抽出する

ツリー・ビュー (Tree view). あるオブジェクトとそれに含まれるオブジェクトを階層的に表示するビュー。

U

作業単位 (unit of work). あるアプリケーション・プロセスにおける回復可能な一連の操作。作業単位は、データベースを矛盾のない状態にするためにデータベース管理システムが使用する基本構築ブロックである。作業単位は、データベースに対する変更がコミットまたはロールバックされたときに終了する。

汎用固有 ID (universal unique identifier (UUI)). オブジェクトのキー。このキーは最大 5 つまでのプロパティからなり、これらのプロパティが指定された順序で連結されることにより、インポート機能とエクスポート機能を行うときにオブジェクトを固有に識別する。

ユーザー (user). 管理者ではないが、情報カタログで使用可能な情報にアクセスする人。

権限が与えられている場合は、いくつかの情報カタログ・マネージャー・ユーザーは、管理者が通常実行するオブジェクト管理作業を実行できる。

W

ワイルドカード (wildcard). 探索でプロパティ値を指定する際に変数として使用する特殊文字。1 文字のワイルドカード (*single character wildcard*) および複数文字のワイルドカード (*multiple character wildcard*) も参照。

参考文献

ここに示す資料の入手、あるいは特定ライブラリーに関する詳しい説明を希望される場合には、IBM 営業担当員にご連絡ください。

データウェアハウスセンター関連資料:

DB2 ウェアハウス・マネージャー インストールの手引き (GC88-8572)

データ・ウェアハウス・センター 管理の手引き (SC88-8545)

情報カタログ・マネージャー プログラミングの手引きおよび解説書 (SC88-8549)

情報カタログ・マネージャー 使用者の手引き (SC88-8548-00)

データウェアハウスセンター アプリケーション統合の手引き (SC88-8546-00)

IBM OLAP サーバー製品については、*OLAP Setup and User's Guide (SC27-0702-00)* を参照してください。

情報カタログ・マネージャーのメッセージおよび理由コードの広範囲にわたる解説が、*DB2 ユニバーサル・データベース メッセージ解説書 (GC88-8543、GC88-8544)* にあります。さらに、メッセージの説明については、情報カタログ・マネージャーのオンライン・ヘルプを参照してください。

参考文献

索引

日本語、数字、英字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アプリケーション・データ・サンプル・オブジェクト・タイプ 139
移行、情報カタログの 16
イメージまたはグラフィックス・オブジェクト・タイプ 144
インスタンス識別子特性 35
インストール、抽出プログラムの 80
インターネット文書サンプル・オブジェクト・タイプ 144
インポート
削除履歴 88
タグ言語ファイル 88
チェックポイントからの再始動 94
問題の解決 92, 93
エクスポート
オプション
エクスポート中の指定 89
設定ノートブックのデフォルト 89
情報カタログからのアイコン・ファイル 89
情報カタログからのメタデータ 89
問題の解決 93
エコー (ECH) ファイル 92, 207
インポートの問題の解決 92
定義 92
問題の診断 125
読み取り 92
例 93

オーディオ・クリップ・サンプル・オブジェクト・タイプ 143
オブジェクト
インポート 88
エクスポート 89
関係
包含 59
リンク 62
Attachment 69
Contact 64
更新
「情報カタログ・マネージャ」ウィンドウを使用するステップ 52
情報カタログ・マネージャ
ー・タグ言語を使用するステップ 53
コピーのステップ 52
コメントの切り離し 69
コメントの接続 69
削除
「情報カタログ・マネージャ」ウィンドウを使用するステップ 54
情報カタログ・マネージャ
ー・タグ言語を使用するステップ 55
作成 82
「情報カタログ・マネージャ」ウィンドウを使用するステップ 49
情報カタログ・マネージャ
ー・タグ言語を使用するステップ 51
他のオブジェクトとのグループ化準備 57
「情報カタログ・マネージャ」ウィンドウを使用するステップ 58

オブジェクト (続き)
他のオブジェクトとのグループ化 (続き)
情報カタログ・マネージャ
ー・タグ言語を使用するステップ 59
他のオブジェクトとのリンク
「情報カタログ・マネージャ」ウィンドウを使用するステップ 61
情報カタログ・マネージャ
ー・タグ言語を使用するステップ 62
他の情報カタログとのオブジェクトの交換 79
他の情報カタログへの追加 79
定義 49
特性 82
連絡先の削除
「情報カタログ・マネージャ」ウィンドウを使用するステップ 63
情報カタログ・マネージャ
ー・タグ言語を使用するステップ 64
連絡先の追加
「情報カタログ・マネージャ」ウィンドウを使用するステップ 63
情報カタログ・マネージャ
ー・タグ言語を使用するステップ 64
オブジェクト・タイプ
アイコン表示
識別 35
変更 44
OS/2 用の変更 43
Windows 用の変更 43
エクスポート 89
関係 31
Program の削除 77

索引

オブジェクト・タイプ (続き)

Program の追加 73
共通、コマンド行からインポートする 219
区分
定義 30
更新
「情報カタログ・マネージャ」ウィンドウを使用するステップ 43
タグ言語を使用するステップ 45
削除
「情報カタログ・マネージャ」ウィンドウを使用するステップ 47
タグ言語を使用するステップ 48
作成
準備 32
「情報カタログ・マネージャ」ウィンドウを使用するステップ 33
タグ言語を使用するステップ 40
情報カタログでの確立 31
情報カタログの制限 32
対応するプログラム
準備 70
「情報カタログ・マネージャ」ウィンドウを使用するステップ 70
情報カタログ・マネージャ・タグ言語を使用するステップ 73
短縮名、指定規則 34
抽出のための記述データの識別 129
定義 29
特性
許可される LONG VARCHAR 特性の最大 37
更新中の追加 43
「情報カタログ・マネージャ」ウィンドウを使用する、追加ステップ 36

オブジェクト・タイプ (続き)

特性 (続き)
情報カタログ・マネージャが定義する 5 つの共通特性 35
情報カタログ・マネージャ・タグ言語を使用する追加ステップ 41
追加 35
データ・タイプ 37
UII の一部 38
UII の規則 39
UII の最大推奨値 39
名前 (外部名)、指定規則 34
プログラムの関連の更新
「情報カタログ・マネージャ」ウィンドウを使用するステップ 75
プログラムの関連のコピー 74
プログラムの切り離し
「情報カタログ・マネージャ」ウィンドウを使用するステップ 76
情報カタログ・マネージャ・タグ言語を使用するステップ 77
ほかの情報カタログに追加しやすくするための組み合わせ 84
Attachment 区分
定義済みコメント・オブジェクト・タイプ 147
Comments
更新 67
コピー 66
削除 68
作成 66
Contact 区分
サンプル情報カタログで提供される担当者 145
提供されたサンプル情報カタログ 145
Dictionary 区分
サンプル情報カタログで提供される用語集の記入項目 146
辞書機能の作成 77

オブジェクト・タイプ (続き)

Dictionary 区分 (続き)
提供されたサンプル情報カタログ 146
Elemental 区分
サンプル情報カタログで提供される Lotus Approach 照会 144
サンプル情報カタログで提供されるイメージまたはグラフィックス 144
サンプル情報カタログで提供されるインターネット文書 144
サンプル情報カタログで提供されるオーディオ・クリップ 143
サンプル情報カタログで提供される図表 143
サンプル情報カタログで提供されるスプレッドシート 145
サンプル情報カタログで提供されるテキスト基本レポート 145
サンプル情報カタログで提供されるビデオ・クリップ 145
サンプル情報カタログで提供されるプレゼンテーション 144
サンプル情報カタログで提供される文書 144
提供されたサンプル情報カタログ 143
Grouping 区分
サンプル情報カタログが提供する多次元データベース内のメンバー 141
サンプル情報カタログが提供する IMS プログラム仕様ブロック (PSB) 141
サンプル情報カタログが提供する IMS プログラム制御ブロック (PCB) 141

オブジェクト・タイプ (続き)

- サンプル情報カタログが提供する多次元データベース内の次元 140
- サンプル情報カタログで提供される IMS セグメント 141
- サンプル情報カタログで提供される IMS データベース定義 (DBD) 141
- サンプル情報カタログで提供されるアプリケーション・データ 139
- サンプル情報カタログで提供される業務サブジェクト・エリア 139
- サンプル情報カタログで提供されるサブスキーマ 142
- サンプル情報カタログで提供される多次元データベース 142
- サンプル情報カタログで提供されるデータベース 140
- サンプル情報カタログで提供されるトランスフォーメーション 143
- サンプル情報カタログで提供されるファイル 140
- サンプル情報カタログで提供される要素 140
- サンプル情報カタログで提供されるリレーショナル表と視点 142
- サンプル情報カタログで提供される列またはフィールド 139
- サンプル情報カタログで提供されるレコード 142
- 提供されたサンプル情報カタログ 138
- Program 区分、定義されたプログラム・オブジェクト・タイプ 147
- Support 区分
 - サポート機能の作成 78

オブジェクト・タイプ (続き)

- Support 区分 (続き)
 - サンプル情報カタログで提供されるオンライン資料 146
 - サンプル情報カタログで提供されるオンライン・ニュース・サービス 146
 - サンプル情報カタログで提供される情報カタログ・マネージャー・ニュース 146
 - 提供されたサンプル情報カタログ 146
- オブジェクト・タイプ識別子特性 35
- オブジェクト・タイプ特性の CHAR データ・タイプ 37
- オブジェクト・タイプ特性の LONG VARCHAR データ・タイプ 37
- オブジェクト・タイプ特性の TIMESTAMP データ・タイプ 37
- オブジェクト・タイプ特性の VARCHAR データ・タイプ 37
- オブジェクト・タイプを表すアイコン
 - エクスポート 89
 - 識別 35
 - 変更 44
 - OS/2 用の変更 43
 - Windows 用の変更 43
- オプション
 - ACTION.RELATION 188
 - ADD
 - ACTION.OBJINST 170
 - ACTION.OBJTYPE 175, 191
 - ACTION.RELATION 179, 188
 - APPEND 176
 - DELETE 188
 - ACTION.OBJINST 170
 - ACTION.OBJTYPE 177
 - ACTION.RELATION 180
 - OBJINST の 186
 - DELETE_EXT 177
 - DELETE_TREE_ALL
 - ACTION.OBJINST 171
 - OBJINST の 186

オプション (続き)

- DELETE_TREE_REL
 - ACTION.OBJINST 172
 - OBJINST の 186
- MERGE
 - ACTION.OBJINST 173
 - ACTION.OBJTYPE 178, 191
- UPDATE
 - ACTION.OBJINST 174, 187
 - ACTION.OBJTYPE 178
- オンライン情報とメッセージ 123
- オンライン資料サンプル・オブジェクト・タイプ 146
- オンライン・ニュース・サービス・サンプル・オブジェクト・タイプ 146

[力行]

外部名

- オブジェクト・タイプ 41
- オブジェクト・タイプ特性 42
- 特性の指定規則 37
- 外部名 (external name)
 - オブジェクト・タイプ用の指定規則 34
 - 変更 45
- 外部名特性 35
- 回復、データの 124
- 書き込み、カスタマイズした抽出プログラムの 80
- 拡張コード、意味を調べる 94
- 隠れたシステム生成特性 35
- カスタマイズした抽出プログラム 80
- 括弧の使用 60, 65
- 各国語サポート (NLS) 167
- 可変値 168
- 可変長文字データ・タイプ
 - 任意指定特性 47
 - DLの特性 41
- 関係
 - オブジェクト間の変更
 - 包含 59
 - リンクされた 62
 - Attachment 69
 - Contact 64

索引

関係 (続き)

- オブジェクト・タイプ間 31
- タグ言語による削除 59
- タグ言語による追加 59

管理者

- ログオンの問題の解決 123
- CLEARKA コマンドを使用したり
セット 123

関連資料 235

キーワード

- 各国語についてサポートされない
167
- コンテキストに依存した 206
- ATTACHMENT 201
- CATEGORY 41, 191
- CHKPID 182
- CONTACT 201
- CONTAIN 201
- DL
 - 特性の定義 41
 - 任意指定特性の定義 47
- DL、タグ言語リファレンス 198
- DT
 - 特性の定義 41
 - 任意指定特性の定義 47
- DT、タグ言語リファレンス 198
- EXTNAME 47
 - オブジェクト・タイプの更新
45
 - オブジェクト・タイプの作成
41, 42
- OBJECT タグの 191, 195
- PROPERTY タグの 198
- HANDLES 73
- ICOFIELD 41
 - オブジェクト・タイプの更新
45, 46
- ICOFIELD、OBJECT のオプション・
キーワード 191, 195
- ICWFIELD
 - オブジェクト・タイプの更新
45, 46
 - オブジェクト・タイプの作成
41
- ICWFIELD、OBJECT のオプション・
キーワード 191, 195

キーワード (続き)

- LINK 201
- NAME 73
- NULLS 42
- OBJTYPE 175
- PARMLIST 73
- PHYNAME 40, 191
- RELATION 179
- RELTYPE 200, 202
- SEQUENCE 183
- SHRTDESC 73
- SHRTNAME
 - オブジェクト・タイプの作成
41
 - 特性として 51
 - 任意指定特性 46
- SOURCEKEY 186
 - オブジェクトの削除 77
 - 括弧の使用 60
 - 連絡先の関連づけ 65
- ACTION.OBJINST(DELETE) 187
- ACTION.RELATION 188
- SOURCETYPE 201
 - グループ化の定義 60
 - リンク関係の定義 62
 - 連絡先の関連づけ 65
- STARTCMD 73
- TARGETKEY 188
 - 括弧の使用 60
 - 連絡先の関連づけ 65
- TARGETTYPE 201
 - グループ化の定義 60
 - リンク関係の定義 62
 - 連絡先の関連づけ 65
- TYPE
 - オブジェクトの削除 55
 - オブジェクトの作成 51
 - オブジェクト・タイプの更新
45
 - オブジェクト・タイプの削除
48
 - オブジェクト・タイプの作成
40
 - 任意指定特性の作成 46
- OBJTYPE(ADD) 191
- OBJTYPE(APPEND) 194

キーワード (続き)

- TYPE (続き)
 - OBJTYPE(DELETE) 194, 196
 - OBJTYPE(MERGE) 191
 - OBJTYPE(UPDATE) 195, 196
 - RELTYPE 201
 - UUICLASS 73
 - UUIIDENT 73
 - UUIQUAL1, 2, 3 73
 - UUISEQ 42, 198
 - UUI_short_name 60, 62, 65
- 記述データの抽出 80
- 業務サブジェクト・エリアのサンプル・
オブジェクト・タイプ 139
- 共通オブジェクト・タイプ
 - コマンド行からインポートする
219
- 区分
 - 定義 30
- Attachment
 - コピー、コメントの 66
 - コメントの更新 67
 - コメントの削除 68
 - コメントの作成 66
 - 他の区分との関係 31
 - 定義 31
 - 定義済みコメント・オブジェ
クト・タイプ 147
- Contact
 - サンプル情報カタログ内の担
当者オブジェクト・タイプ
145
 - サンプル情報カタログのオブ
ジェクト・タイプ 145
 - 他の区分との関係 31
 - 定義 30
- Dictionary
 - サンプル情報カタログ内の用
語集の記入項目オブジェ
クト・タイプ 146
 - サンプル情報カタログのオブ
ジェクト・タイプ 146
 - 辞書機能の作成 77
 - 他の区分との関係 31
 - 定義 30

区分 (続き)

Elemental

- サンプル情報カタログ内の Lotus Approach 照会オブジェクト・タイプ 144
- サンプル情報カタログ内のイメージまたはグラフィックス・オブジェクト・タイプ 144
- サンプル情報カタログ内のインターネット文書オブジェクト・タイプ 144
- サンプル情報カタログ内のオブジェクト・タイプ 143
- サンプル情報カタログ内の図表オブジェクト・タイプ 143
- サンプル情報カタログ内のスプレッドシート・オブジェクト・タイプ 145
- サンプル情報カタログ内のテキスト基本レポート・オブジェクト・タイプ 145
- サンプル情報カタログ内のプレゼンテーション・オブジェクト・タイプ 144
- サンプル情報カタログ内の文書オブジェクト・タイプ 144
- サンプル情報カタログのオーディオ・クリップ・オブジェクト・タイプ 143
- サンプル情報カタログのビデオ・クリップ・オブジェクト・タイプ 145
- 他の区分との関係 31
- 定義 30

Grouping

- サンプル情報カタログ内の IMS セグメント・オブジェクト・タイプ 141
- サンプル情報カタログ内の IMS データベース定義 (DBD) オブジェクト・タイプ 141

区分 (続き)

Grouping (続き)

- サンプル情報カタログ内の IMS プログラム仕様ブロック (PSB)オブジェクト・タイプ 141
- サンプル情報カタログ内の IMS プログラム制御ブロック (PCB) オブジェクト・タイプ 141
- サンプル情報カタログ内のオブジェクト・タイプ 138
- サンプル情報カタログ内のサブ・スキーマ・オブジェクト・タイプ 142
- サンプル情報カタログ内の多次元データベース・オブジェクト・タイプ内の次元 140
- サンプル情報カタログ内の多次元データベース・オブジェクト・タイプ内のメンバー 141
- サンプル情報カタログ内の次元データベース・オブジェクト・タイプ 142
- サンプル情報カタログ内のトランスフォーメーション・オブジェクト・タイプ 143
- サンプル情報カタログ内の列またはフィールド・オブジェクト・タイプ 139
- サンプル情報カタログ内のレコード・オブジェクト・タイプ 142
- サンプル情報カタログのアプリケーション・データ・オブジェクト・タイプ 139
- サンプル情報カタログの業務サブジェクト・エリア・オブジェクト・タイプ 139
- サンプル情報カタログのデータベース・オブジェクト・タイプ 140
- サンプル情報カタログのファイル・オブジェクト・タイプ 140

区分 (続き)

Grouping (続き)

- サンプル情報カタログの要素オブジェクト・タイプ 140
- サンプル情報カタログのリレージョナル表と視点オブジェクト・タイプ 142
- 他の区分との関係 31
- 定義 30
- Program
 - 他の区分との関係 31
 - 定義 30
- Program、定義されたプログラム・オブジェクト・タイプ 147
- Support
 - サポート機能の作成 78
 - サンプル情報カタログ内のオブジェクト・タイプ 146
 - サンプル情報カタログ内のオンライン資料オブジェクト・タイプ 146
 - サンプル情報カタログ内のオンライン・ニュース・オブジェクト・タイプ 146
 - サンプル情報カタログ内の情報カタログ・マネージャー・ニュース・オブジェクト・タイプ 146
 - 他の区分との関係 31
 - 定義 30
- クリア、エコー・ファイルのグループ化、主題によるオブジェクトの 57
- 形式化、タグ言語 ファイルのコード
 - 拡張、意味を調べる 94
 - 理由、意味を調べる 94
- 構文図 169
- コマンド
 - サンプル DB2 UDB (Windows NT 版) 情報カタログを作成する DGWDEMO 131
 - ALTERKA、情報カタログ・マネージャー管理者の変更用 25
 - CLEARKA、ログオン・管理者のユーザー ID 123

索引

コマンド (続き)

- DGUIDE、情報カタログのオープン 209
- IMPORT 41, 46
- コミット、データベースへの 85
- コミット・コール 85
- コミット・チェックポイント 94, 181
- コメント
 - オブジェクトからの切り離し 69
 - オブジェクトの削除 68
 - オブジェクトのための更新 67
 - オブジェクトのためのコピー 66
 - オブジェクトへの接続 69
 - オブジェクト用の作成 66
- コメント状況リスト
 - 「コメントの作成 (Create Comment)」ウィンドウで示す 26
 - ユーザーの値の設定 26
- コメント・オブジェクト・タイプ 147

[サ行]

- 最終変更者 35
- 最終変更日付および時刻特性 35
- 最大
 - オブジェクト・タイプに関する特性 35
 - オブジェクト・タイプの LONG VARCHAR 特性 37
 - 情報カタログ のオブジェクト・タイプ 32
 - UI の推奨値 39
- 削除履歴
 - インポート 88
 - 作成 86
- 作成、タグ言語ファイルの 166
- サブ・スキーマ・サンプル・オブジェクト・タイプ 142
- サポート機能の作成 78
- サポートされないタグおよびキーワード 167
- サンプル情報カタログ
 - 事前定義されたプログラム・オブジェクト 147

サンプル情報カタログ (続き)

- 定義されたオブジェクト・タイプ 138
- サンプル情報カタログの作成 131
- 辞書機能の作成 77
- システム管理 2
- システム障害からの回復 124
- システム生成特性、隠れた 35
- 管理者、識別 25
- 出力、カスタマイズした抽出プログラムからの 81
- 障害追及、情報カタログ・マネージャーの 119, 127
- 状況リスト、コメント 26
- 症状
 - 失われたファイル 121
 - 情報カタログ・マネージャーの停止 119
 - 破壊データ 121
 - 不整合データ 121
 - ユーザーが情報カタログにアクセスできない 120
 - 予期せずにクローズする 125
- 情報カタログ
 - 移行 16
 - インポート
 - 削除履歴タグ言語ファイル 88
 - 削除履歴のタグ言語ファイル 86
 - タグ言語ファイル 88
 - チェックポイントからの再始動 94
 - エクスポート
 - オブジェクトのアイコン・ファイル 89
 - メタデータ 89
 - オブジェクト
 - コピー 52
 - 情報カタログ・マネージャー・ウィンドウを使用した更新 52
 - 情報カタログ・マネージャー・ウィンドウを使用した削除 54

情報カタログ (続き)

- オブジェクト (続き)
 - 情報カタログ・マネージャー・ウィンドウを使用した作成 49
 - 情報カタログ・マネージャー・タグ言語を使用した更新 53
 - 情報カタログ・マネージャー・タグ言語を使用した削除 55
 - 情報カタログ・マネージャー・タグ言語を使用した作成 51
- オブジェクトを移植する 49
- オブジェクト・タイプで許可される最大値 32
- オブジェクト・タイプの確立 31
- 計画 29
- コマンド行からのオープン 209
- コマンド行を使用してメタデータをエクスポートする 213
- 情報カタログ・マネージャーが提供するサンプル
 - 作成 131
 - 事前定義されたプログラム・オブジェクト 147
 - 定義されたオブジェクト・タイプ 138
- 設定 1, 29
- 他の情報カタログとの結合
 - タグ言語ファイルを使用する 79
 - 前にオブジェクト・タイプを組み合わせる 84
- データの破壊、対処法 121
- データの不整合、対処法 121
- 定義 3
- 登録用の抽出プログラム 129
- 入力 80
- ユーザーがアクセスできない、対処法 120
- ユーザー・インターフェースからのオープン 21
- リフレッシュ 80
- リモート側の登録 17

情報カタログ (続き)

- ローカル側の登録 17
- DB2 UDB (AIX 版)、定義 11
- DB2 UDB (AS/400 版)、定義 9
- DB2 UDB (OS/2 版)、定義 4
- DB2 UDB (OS/390 版)、定義 6
- DB2 ユニバーサル・データベース (Windows 2000 版)、定義 13
- DB2 ユニバーサル・データベース (Windows NT 版)、定義 13
- MDIS メタデータのインポート 113, 115
- MDIS メタデータのエクスポート 113, 115
- 情報カタログへのアクセス、ユーザーができない 120
- 情報カタログへの埋め込み 49
- 情報カタログへのデータ移植 49
- 情報カタログ・オブジェクトから呼び出せるプログラム 147
- 情報カタログ・マネージャー
 - 情報カタログをコマンド行からオープンする 209
 - ユーザー・インターフェースからの情報カタログのオープン 21
- 情報カタログ・マネージャー 使用者の手引き、サンプル・データの作成 131
- 情報カタログ・マネージャー (Windows 版) のためのシステム登録情報 122
- 情報カタログ・マネージャー管理者
 - 「情報カタログ・マネージャー・ユーザーの管理 (Manage 情報カタログ・マネージャー Users)」ウィンドウでの変更 25
 - ALTERKA コマンドを使用した変更 25
- 情報カタログ・マネージャーへのログオン
 - コマンド行から 209
 - ユーザー・インターフェースからの 21

- 情報カタログ・マネージャー・ニュース・サンプル・オブジェクト・タイプ 146
- 図表サンプル・オブジェクト・タイプ 143
- スプレッドシート・サンプル・オブジェクト・タイプ 145
- スペース、モニターの 119
- 制限、抽出プログラムの 86
- 設定、情報カタログの 1, 29

[タ行]

- タイム・スタンプ・データ・タイプ
 - 任意指定特性 47
 - DLの特性 41
- タグ
 - 各国語についてサポートされない 167
 - コンテキストに依存した使用 205
 - 情報を定義するための 206
- ACTION
 - 順序 206
 - タグ言語リファレンス 169, 181
 - 抽出プログラムの計画 81
 - ヒント 205
 - OBJINST キーワード 186
- COMMENT
 - タグ言語リファレンス 181
 - 抽出プログラムの計画 81
 - ヒント 208
- COMMIT
 - インポート時の 85
 - タグ言語リファレンス 181, 183
 - 抽出プログラムの計画 81
 - ヒント 207
- DISKCNTRL
 - タグ言語リファレンス 183
 - 抽出プログラム 81
 - ヒント 205
- INSTANCE 81, 184, 190
- NL 190
 - 抽出プログラムの計画 81
- NULLS 198

タグ (続き)

- OBJECT 81
- PROPERTY 81, 197, 200
- RELTYPE 81
- TAB 202
 - 抽出プログラムの計画 81
- タグ言語
 - オブジェクト・タイプの組み合わせ 84
 - オブジェクト・タイプの更新 45
 - オブジェクト・タイプの削除 48
 - オブジェクト・タイプの作成 40, 82
 - オンラインで提供される切り貼り用のテンプレート x
 - 概要 165
 - 構文規則 166
 - 情報カタログ・マネージャー作業を実行する ix
 - 情報の定義 206
 - 生成のための抽出プログラム
 - カスタマイズされた書き込み 80
 - 情報カタログ・マネージャーで提供される 129
 - ファイル
 - 切り貼り用オンライン・テンプレート x
 - 形式化 81
 - 情報カタログにインポート 88
 - 情報カタログ・マネージャーが読み取る方法 167
 - MDIS からの変換 111
 - MDIS 対応の、インポートおよびエクスポート 113, 115
 - MDIS への変換 112
 - リファレンス 165, 202
 - ワード・プロセッサを使った編集 80
 - タグ言語の構文規則 166
 - 多次元データベース・オブジェクト・タイプ内の次元 140
 - 多次元データベース・オブジェクト・タイプ内のメンバー 141

索引

多次元データベース・サンプル・オブジェクト・タイプ 142
短縮名 53
 オブジェクト・タイプ 40
 オブジェクト・タイプ特性 41
 オブジェクト・タイプ用の指定規則 34
 特性の指定規則 37
担当者サンプル・オブジェクト・タイプ 145
チェックポイントのコミット 94
チェックポイント・タグ 85
抽出、記述データの 80
抽出プログラム
 新しいオブジェクトの作成 82
 カスタマイズした 86
 カスタマイズした 80
 デスクトップ・アプリケーション 129
 入力と出力 81
 ファイルのインストール 80
 README ファイルに記載された実行のためのステップ 129
長可変長文字データ・タイプ
 任意指定特性 47
 DLの特性 41
データ
 回復 124
 破壊、対処法 121
 不整合、対処法 121
データウェアハウスセンター
 メタデータ
 更新のスケジューリング 109
 公表するための識別 106
 情報カタログ内に表示 106
データベース
 情報カタログ・マネージャーがサポートする 3
 バックアップ 121
 別名 17
 メンテナンスのヒント 121
 リモート側の登録 17
 ローカル側の登録 17
 ロールバック 207
データベース・サンプル・オブジェクト・タイプ 140

データ・タイプ 168, 198
 C (CHAR) 41, 47
 L (LONG VARCHAR) 41, 47
 T (TIMESTAMP) 41, 47
 V (VARCHAR) 41, 47
ディスク・スペースのモニター 119
テキスト基本サンプル・オブジェクト・タイプ 145
デスクトップ・アプリケーション、抽出プログラムの 129
登録
 サーバー・ノード
 DB2 コントロール・センターの使用 17
 情報カタログ 17
特性
 インスタンス識別子 (INSTIDNT) 35
 オブジェクト 82
 オブジェクト・タイプ識別子 (OBJTYPID) 35
 外部名 (NAME) 35
 最終変更者 (UPDATEBY) 35
 最終変更日付および時刻 (UPDATIME) 35
 情報カタログ・マネージャーが定義する 5 つの共通特性
 インスタンス識別子 35
 オブジェクト・タイプ識別子 35
 隠す 35
 最終変更者 35
 最終変更日付および時刻 35
 短縮名、指定規則 37
追加
 概説 35
 「情報カタログ・マネージャー」ウィンドウを使用するステップ 36
 情報カタログ・マネージャー・タグ言語を使用するステップ 41
データ・タイプ
 CHAR 37
 LONG VARCHAR 37
 TIMESTAMP 37

特性 (続き)
 データ・タイプ (続き)
 VARCHAR 37
 定義 29
 名前 42
 名前 (外部) の指定規則 37
 任意指定 46
 プログラム・オブジェクト、必須の
 クラス 72
 識別子 72
 修飾子 1, 2, 3 72
 UIの一部 38
 UIの規則 39
 UIの最大推奨値 39
トランスフォーメーション・サンプル・オブジェクト・タイプ 143
トレース (TRC) ファイル
 位置 125
 解釈 126
 情報カタログ・マネージャーが予期せずにクローズされてからの名前変更 125
 定義 125
 例 126

[ナ行]

名前
 外部
 オブジェクト・タイプ 41
 オブジェクト・タイプ特性 42
 指定のための規則
 オブジェクト・タイプ (外部) 名 34
 短縮、特性の 37
 特性名 37
 短い、オブジェクト・タイプ 34
 短縮
 オブジェクト・タイプ 40
 オブジェクト・タイプ特性 41
入力、カスタマイズした抽出プログラムへの 81

ノートブックの設定
 指定したデフォルトのエクスポート・オプション 89
 5 つの共通特性を表示するかどうかの指定 35

【ハ行】

バックアップ、情報カタログ・マネージャー・データベースの 121
 パラメーター、呼び出し
 プログラムの推奨値 72
 「呼び出しパラメーター」ウィンドウをオープンして指定 70
 汎用固有 ID
 プロパティ値 187
 汎用固有 ID (UUI)
 オブジェクト・タイプ要件 38
 定義 38
 特性の値 39
 特性の位置 82
 特性のための規則 39
 部分 39
 UUI_short_name
 グループ化の定義の際の指定 60
 リンク関係の定義時の指定 62
 連絡先の関連づけの際の指定 65
 ビデオ・クリップ・サンプル・オブジェクト・タイプ 145
 非適用記号
 情報カタログを作成するときに識別する 39
 デフォルト値 39
 DB2 UDB (AIX 版) 情報カタログのための選択 12
 DB2 UDB (AS/400 版) 情報カタログのための選択 10
 DB2 UDB (OS/2 版) 情報カタログのための選択 5
 DB2 UDB (OS/390 版) 情報カタログのための選択 8
 DB2 UDB (Windows 2000 版)、情報カタログのための選択 15

非適用記号 (続き)
 DB2 UDB (Windows NT 版) 情報カタログのための選択 15
 MDIS エクスポートの際に指定する 117
 ファイル
 エコー 92
 トレース 125
 目的に不十分なスペース 119
 目的の喪失 121
 ログ 93
 ファイル・サンプル・オブジェクト・タイプ 140
 副管理者、識別 25
 ブランク、可変値から除去される 168
 プレゼンテーション・サンプル・オブジェクト・タイプ 144
 プログラム
 オブジェクト・タイプからの開始、呼び出しパラメーター 72
 オブジェクト・タイプの切り離し
 情報カタログ・マネージャー・ウィンドウの使用 76
 情報カタログ・マネージャー・タグ言語の使用 77
 情報カタログ・マネージャー・ウィンドウを使用してオブジェクト・タイプの関連を更新する 75
 対応するオブジェクト・タイプ
 情報カタログ・マネージャー・ウィンドウの使用 70
 情報カタログ・マネージャー・タグ言語の使用 73
 対応するオブジェクト・タイプのコピー 74
 プログラム、情報カタログ・マネージャーから開始 22
 プログラム、抽出
 実行準備のステップ 129
 情報カタログ・マネージャー Web サイトから使用できる 129
 情報カタログ・マネージャーで提供される 129

プログラム、抽出 (続き)
 README ファイルに記載された実行のためのステップ 129
 プログラム・オブジェクト・タイプ 147
 プロパティ 139
 文書サンプル・オブジェクト・タイプ 144
 並行アクセス 120
 ホーム・ページ、情報カタログ・マネージャーの URL 129
 包含関係の変更 59

【マ行】

メタデータ
 公表
 データウェアハウスセンター 97
 データウェアハウスセンターでメタデータを公表するための識別 106
 OLAP サーバー 97
 公表および他の製品との交換 97
 公表および同期化
 環境の確立 98
 情報カタログに公表する
 データウェアハウスセンターでのスケジューリング 109
 OLAP オブジェクトの識別 99
 情報カタログ・マネージャー、他の情報カタログとの交換 79
 情報カタログ・マネージャーからのエクスポート 89
 情報カタログ・マネージャーと OLAP サーバーとのマッピング 162
 他のプロダクトからの抽出 80
 データウェアハウスセンターでの同期化 105
 データウェアハウスセンターと情報カタログ・マネージャーとのマッピング 151
 ほかの製品との交換
 非 IBM、MDIS 準拠製品 111

索引

メタデータ (続き)

MDIS 111

タグ言語ファイル、MDIS からの変換 111

タグ言語ファイル、MDIS への変換 112

OLAP サーバーで公表する 99

メタデータ交換仕様 111

メッセージの使用 123

文字データ・タイプ

任意指定特性 47

DLの特性 41

問題、情報カタログ・マネージャーでの

解決 119, 127

解決のツール 123

システム障害からの回復 124

予期せずにクローズする 125

予防 119

【ヤ行】

ユーザー ID

情報カタログ・マネージャー

(Windows 版)への許可 3

ALTERKA コマンドを使用した情報カタログ・マネージャー管理者の変更 25

CLEARKA コマンドを使用したログオン・管理者のリセット 123

ユーザー構成ファイル 121

ユーザー・インターフェース (EUI)、情報カタログ・マネージャー作業を実行する ix

要素サンプル・オブジェクト・タイプ 140

用語集の記入項目サンプル・オブジェクト・タイプ 146

呼び出しパラメーター

プログラムの推奨値 72

「呼び出しパラメーター」ウィンドウをオープンして指定 70

読み方、構文図の 169

予約語 166

【ラ行】

リスト、コメント状況 26

リレーショナル表と視点サンプル・オブジェクト・タイプ 142

履歴の削除 88

リンク関係の作成 62

列またはフィールドのサンプル・オブジェクト・タイプ 139

例

エコー・ファイル 92, 93

タグ言語ファイル 42

特性 82

トレース・ファイル 126

プログラム・オブジェクト、必須の

クラス 72

識別子 72

修飾子 1、2、3 72

名前 (Name) 72

理由コードを持つメッセージの使用 94

ログ・ファイル 93, 94

2つの情報カタログの結合 84

UI 83

レコード・サンプル・オブジェクト・タイプ 142

ロールバック、データの 207

ログ (LOG) ファイル

位置 93

インポートの問題の解決 93

エクスポートの問題の解決 93

情報カタログ・マネージャー

119

定義 92

読み取り 93

例 94

DB2 UDB (OS/2 版) 119

【数字】

2バイト文字セット (DBCS) 167

A

ACTION タグ

順序 206

ACTION タグ (続き)

タグ言語リファレンス 169, 181

抽出プログラムの計画 81

ヒント 205

OBJINST キーワード 169, 186

OBJTYPE キーワード 175

RELATION キーワード 179

ADD オプション

ACTION.OBJINST 170

ACTION.OBJTYPE 175, 191

ACTION.RELATION 179

ALTERKA コマンド、情報カタログ

・マネージャー管理者の変更 25

APPEND オプション 176

ASCII テキスト 80

ATTACHMENT キーワード 201

Attachment 区分

関係

変更 69

要約 31

定義 31

定義済みコメント・オブジェクト・タイプ 147

C

C (CHAR) 41

CATEGORY キーワード 41, 191

CelDial 業務シナリオ

オブジェクト・タイプ・プロパティ仕様 147

事前定義されたオブジェクト・タイプの説明 138

情報カタログ・マネージャーが提供するサンプル情報カタログの作成 131

CHAR データ・タイプ、PROPERTY タグ 198

checkpoint_id 識別子 182

CHKPID キーワード 182

CLEARKA コマンド、ログオン・管理者のユーザー ID のリセット 123

COMMENT タグ

タグ言語リファレンス 181

抽出プログラムの計画 81

- COMMENT タグ (続き)
 ヒント 208
- COMMIT タグ
 タグ言語リファレンス 181, 183
 抽出プログラムの計画 81
 ヒント 207
- CONTACT キーワード 201
- Contact 区分
 オブジェクト・タイプ
 サンプル情報カタログで提供される担当者 145
 提供されたサンプル情報カタログ 145
- 関係
 変更 64
 要約 31
 Attachment の削除 69
 Attachment の追加 69
 Program の削除 77
 Program の追加 73
 定義 30
- CONTAIN キーワード 201
- ## D
- DB2 UDB (AIX 版) 情報カタログ、定義 11
- DB2 UDB (AS/400 版) 情報カタログ、定義 9
- DB2 UDB EEE 情報カタログ 3
- DB2 UDB (OS/2 版) 3
 情報カタログ、定義 4
 ディレクトリー・ツール 17
 ログ・ファイル 119
- DB2 UDB (OS/390 版) 情報カタログ、定義 6
- DB2 UDB (Solaris 実行環境版) の Solaris 情報カタログ、定義 11
- DB2 コネクト 3
- DB2 ユニバーサル・データベース エンタープライズ拡張エディション 情報カタログ 3
- DB2 ユニバーサル・データベース (Windows 2000 版) 情報カタログ、定義 13
- DB2 ユニバーサル・データベース (Windows NT 版) 情報カタログ、定義 13
- DBCS 167
- DELETE オプション
 ACTION.OBJINST 170
 ACTION.OBJTYPE 177
 ACTION.RELATION 180
 OBJINST キーワード 186
- DELETE_EXT オプション、ACTION.OBJTYPE の 177
- DELETE_TREE_ALL オプション
 ACTION.OBJINST 171
 OBJINST キーワード 186
- DELETE_TREE_REL オプション
 ACTION.OBJINST 172
 OBJINST キーワード 186
- DGMDISC コマンド、情報カタログ・マネージャー・タグ言語から MDIS メタデータへの変換
 構文 112
 指定 113
 出力 MDIS ファイルの指定 113
 データベース ユーザー ID の指定 112
 入力情報カタログ・マネージャー・タグ言語ファイルの指定 112
 パスワードの指定 112
- DGUIDE コマンド
 ADMIN キーワード 210
 DGNAME キーワード、情報カタログを指定するための 210
 IMPORT キーワード
 ICOPATH 210
 LOGFILE 211
 RESTART 212
 PASSWORD キーワード 211
 TRACE キーワード 212
 USERID キーワード 212
- DGUIDE コマンド、情報カタログ・マネージャーを起動するための 113, 115
 ADMIN キーワード 113, 116
- DGUIDE コマンド、情報カタログ・マネージャーを起動するための 113, 115 (続き)
 DGNAME キーワード、情報カタログを指定するための 113, 116
 LOGFILE、MDIS_IMPORT キーワード 114, 116
 MDIS_EXPORT キーワード
 LOGFILE 114, 116
 OBJECT 117
 OBJTYPE 117
 PASSWORD キーワード 114, 118
 TRACE キーワード 115, 118
 USERID キーワード 115, 118
- Dictionary 区分
 オブジェクト・タイプ
 サンプル情報カタログで提供される用語集の記入項目 146
 提供されたサンプル情報カタログ 146
- 関係
 要約 31
 Attachment の削除 69
 Attachment の追加 69
 Program の削除 77
 Program の追加 73
 辞書機能の作成 77
 定義 30
- DISKCNTRL タグ
 タグ言語リファレンス 183
 抽出プログラム 81
 ヒント 205
- DL キーワード 198
 特性の定義 41
 任意指定特性の定義 47
- DT キーワード 198
 特性の定義 41
 任意指定特性の定義 47

索引

E

Elemental 区分

オブジェクト・タイプ

サンプル情報カタログで提供される Lotus Approach 照会 144

サンプル情報カタログで提供されるイメージまたはグラフィックス 144

サンプル情報カタログで提供されるインターネット文書 144

サンプル情報カタログで提供されるオーディオ・クリップ 143

サンプル情報カタログで提供される図表 143

サンプル情報カタログで提供されるスプレッドシート 145

サンプル情報カタログで提供されるテキスト基本レポート 145

サンプル情報カタログで提供されるビデオ・クリップ 145

サンプル情報カタログで提供されるプレゼンテーション 144

サンプル情報カタログで提供される文書 144
提供されたサンプル情報カタログ 143

関係

包含の除去 59

包含の追加 59

要約 31

リンクの削除 62

リンクの追加 62

Attachment の削除 69

Attachment の追加 69

Contact の削除 64

Contact の追加 64

Program の削除 77

Program の追加 73

Elemental 区分 (続き)

定義 30

EUI ix

EXTNAME キーワード

オブジェクト・タイプの更新 45

オブジェクト・タイプの作成 41, 42

任意指定特性 47

OBJECT タグの 191, 195

PROPERTY タグの 198

G

Grouping 区分

オブジェクト・タイプ

サンプル情報カタログが提供する多次元データベース内のメンバー 141

サンプル情報カタログが提供する IMS プログラム仕様ブロック (PSB) 141

サンプル情報カタログが提供する IMS プログラム制御ブロック (PCB) 141

サンプル情報カタログが提供する多次元データベース内の次元 140

サンプル情報カタログで提供される IMS セグメント 141

サンプル情報カタログで提供される IMS データベース定義 (DBD) 141

サンプル情報カタログで提供されるアプリケーション・データ 139

サンプル情報カタログで提供される業務サブジェクト・エリア 139

サンプル情報カタログで提供されるサブスキーマ 142

サンプル情報カタログで提供される多次元データベース 142

サンプル情報カタログで提供されるデータベース 140

Grouping 区分 (続き)

オブジェクト・タイプ (続き)

サンプル情報カタログで提供されるトランスフォーメーション 143

サンプル情報カタログで提供されるファイル 140

サンプル情報カタログで提供される要素 140

サンプル情報カタログで提供されるリレーショナル表と視点 142

サンプル情報カタログで提供される列またはフィールド 139

サンプル情報カタログで提供されるレコード 142
提供されたサンプル情報カタログ 138

関係

包含の除去 59

包含の追加 59

要約 31

リンクの削除 62

リンクの追加 62

Attachment の削除 69

Attachment の追加 69

Contact の削除 64

Contact の追加 64

Program の削除 77

Program の追加 73

定義 30

H

HANDLES キーワード 73

I

ICMSAMP サンプル情報カタログ
定義されたオブジェクト・タイプ 138

ICMSAMP サンプル情報カタログの
作成 131

ICOFIELD キーワード 191
オブジェクト・タイプの更新 45, 46

- ICOFIELD キーワード 191 (続き)
 オブジェクト・タイプの作成 41
 タグ言語リファレンス 195
- ICWFILE キーワード 191
 オブジェクト・タイプの更新 45, 46
 オブジェクト・タイプの作成 41
 タグ言語リファレンス 195
- IMPORT コマンド 41, 46
- IMS セグメント・サンプル・オブジェクト・タイプ 141
- IMS データベース定義 (DBD) サンプル・オブジェクト・タイプ 141
- IMS プログラム仕様ブロック (PSB) サンプル・オブジェクト・タイプ 141
- IMS プログラム制御ブロック (PCB) サンプル・オブジェクト・タイプ 141
- INSTANCE タグ
 タグ言語リファレンス 184, 190
 抽出プログラムの計画 81
 ACTION.OBJINST(ADD) 184
 ACTION.OBJINST(DELETE) 186
 ACTION.OBJINST(DELETE_TREE_ALL) 186
 ACTION.OBJINST(DELETE_TREE_REL) 186 (PCB) 141
 ACTION.OBJINST(MERGE) 184
 ACTION.OBJINST(UPDATE) 187
 ACTION.RELATION(ADD) 188
 ACTION.RELATION(DELETE) 188
- INSTIDNT 特性 35
- L**
- L (LONG VARCHAR) 41
- LINK キーワード 201
- LONG VARCHAR データ・タイプ、PROPERTY タグ 198
- Lotus Approach 照会サンプル・オブジェクト・タイプ 144
- M**
- MDIS
 説明 111
 タグ言語ファイル、インポート 113
- MDIS (続き)
 タグ言語ファイル、エクスポート 115
 マップする事前定義されたオブジェクト・タイプ 131
 サブ・スキーマ 142
 多次元データベース 142
 多次元データベース内の次元 140
 多次元データベース内のメンバー 141
 データベース 140
 トランスフォーメーション 143
 ファイル 140
 要素 140
 リレーショナル表と視点 142
 列またはフィールド 139
 レコード 142
- IMS セグメント 141
- IMS データベース定義 (DBD) 141
- IMS プログラム仕様ブロック (PSB) 141
- IMS プログラム制御ブロック (PCB) 141
- IMS プログラム仕様ブロック Web サイトの URL 111
- MDISDGC コマンド、MDIS メタデータを情報カタログ・マネージャー・タグ言語に変換
 構文 111
 出力情報カタログ・マネージャー・タグ言語ファイルの指定 112
 データベース ユーザー ID の指定 112
 入力 MDIS ファイルの指定 112
 パスワードの指定 112
 ログ・ファイルの指定 112
- MERGE オプション
 ACTION.OBJINST 173
 ACTION.OBJTYPE 178, 191
- N**
- NAME キーワード 73
- NAME 特性 35
- NetBIOS
 ノード 17
- NL タグ 190
 抽出プログラムの計画 81
- NULLS キーワード 42, 198
- O**
- OBJECT タグ
 タグ言語リファレンス 190, 197
 抽出プログラムの計画 81
 ACTION.OBJTYPE(ADD) 191
 ACTION.OBJTYPE(APPEND) 194
 ACTION.OBJTYPE(DELETE) 194
 ACTION.OBJTYPE(DELETE_EXT) 194
 ACTION.OBJTYPE(MERGE) 191
 ACTION.OBJTYPE(UPDATE) 195
- OBJTYPID 特性 35
- OLAP サーバー
 情報カタログ・マネージャーとのメタデータのマッピング 162
 メタデータ
 更新のスケジューリング 104
 公表するための識別 99
- P**
- PARMLIST キーワード 73
- PHYNAME キーワード 40, 191
- Program 区分
 関係
 要約 31
 Attachment の削除 69
 Attachment の追加 69
 定義 30
- Program 区分、定義されたプログラム・オブジェクト・タイプ 147
- PROPERTY タグ 81, 197, 200
- R**
- RELTYPE タグ 81, 200, 202

索引

S

SEQUENCE キーワード 183
SHRTDESC キーワード 73
SHRTNAME キーワード 198
 オブジェクト・タイプの作成 41
 特性として 51
 任意指定特性 46
SOURCEKEY キーワード
 オブジェクトの削除 77
 括弧の使用 60
 タグ言語リファレンス 186
 連絡先の関連づけ 65
ACTION.OBJINST(DELETE) 187
ACTION.RELATION 188
SOURCETYPE キーワード 201
 グループ化の定義 60
 リンク関係の定義 62
 連絡先の関連づけ 65
STARTCMD キーワード 73
Support 区分
 オブジェクト・タイプ
 サンプル情報カタログで提供
 されるオンライン資料 146
 サンプル情報カタログで提供
 されるオンライン・ニュー
 ス・サービス 146
 サンプル情報カタログで提供
 される情報カタログ・マネー
 ジャー・ニュース 146
 提供されたサンプル情報カタ
 ログ 146
関係
 要約 31
 Attachment の削除 69
 Attachment の追加 69
 Program の削除 77
 Program の追加 73
 サポート機能の作成 78
 定義 30

T

T (TIMESTAMP) 41, 47
TAB タグ 202
 抽出プログラムの計画 81

TARGETKEY キーワード 188
 括弧の使用 60
 連絡先の関連づけ 65
TARGETYPE キーワード 201
 グループ化の定義 60
 リンク関係の定義 62
 連絡先の関連づけ 65
TIMESTAMP データ・タイプ、
 PROPERTY タグ 198
TYPE キーワード
 オブジェクトの削除 55
 オブジェクト・タイプの更新 45
 オブジェクト・タイプの削除 48
 作成
 オブジェクト 51
 オブジェクト・タイプ 40
 任意指定特性 46
OBJTYPE(ADD) 191
OBJTYPE(APPEND) 194
OBJTYPE(DELETE) 194, 196
OBJTYPE(MERGE) 191
OBJTYPE(UPDATE) 195, 196
RELTYPE 201

U

UPDATE オプション
 ACTION.OBJINST 174, 187
 ACTION.OBJTYPE 178
UPDATEBY 特性 35
UPDATIME 特性 35
URL、情報カタログ・マネージャ
 ー・ホーム・ページ 129
UII
 オブジェクト・タイプ要件 38
 短縮名 53
 定義 38
 特性の値 39
 特性の位置 82
 特性のための規則 39
 部分 39
 プロパティ値 187
 UII_short_name
 グループ化の定義の際の指定
 60

UII (続き)

 UII_short_name (続き)
 リンク関係の定義時の指定
 62
 連絡先の関連づけの際の指定
 65
UIICLASS キーワード 73
UIIDENT キーワード 73
UIQUAL1, 2, 3 キーワード 73
UISEQ オプション 82
UISEQ キーワード 42, 198
UII_property_value 186
UII_short_name キーワード 65
UII_short_name の値 186

V

V (VARCHAR) 41
VARCHAR データ・タイプ、
 PROPERTY タグ 198

W

Web サイト、情報カタログ・マネー
 ジャーの URL 129

IBM と連絡をとる

技術上の問題がある場合は、時間をとって「問題判別の手引き」に定義されている処置を検討し、それらの提案を実行した後で、DB2 顧客サービスに連絡をとってください。この資料には、DB2 顧客サービスがお客さまを支援するために必要とする情報が説明されています。

製品情報

以下の情報は英語で提供されます。内容は英語版製品に関する情報です。

<http://www.ibm.com/software/data/>

DB2 World Wide Web ページには、ニュース、製品説明、研修スケジュールなどの DB2 に関する最新情報が提供されています。ただし提供されている情報は英語です。

<http://www.ibm.com/software/data/db2/library/>

「DB2 Product and Service Technical Library」では、よくされる質問 (FAQ)、修正内容、資料、および最新の DB2 技術情報などの情報へのアクセスが提供されています。

注: この情報のご提供は英語のみとなりますのでご注意ください。

<http://www.elink.ibm.com/pbl/pbl/>

「International Publications」注文用 Web サイトでは、マニュアルの注文方法についての情報を提供しています。ただし、提供されている情報は英語です。

<http://www.ibm.com/education/certify/>

IBM の「Professional Certification Program」Web サイトでは、DB2 を含むさまざまな IBM 製品の認証テストの情報を提供しています。ただし、提供されている情報は英語です。

<ftp.software.ibm.com>

匿名でログオンしてください。ディレクトリー /ps/products/db2 には、DB2 および多数の他製品に関連したデモ、修正プログラム、情報、およびツールがあります。ただし、提供されている情報は英語です。

comp.databases.ibm-db2, bit.listserv.db2-l

これらのインターネット・ニュースグループは、ユーザーが DB2 製品に関する自分の経験について話し合うために利用できます。ただし、提供されている情報は英語です。

CompuServe: GO IBMDB2

このコマンドを入力すると、IBM DB2 Family forum にアクセスできます。すべての DB2 製品が、このフォーラムでサポートされています。ただし、提供されている情報は英語です。

米国以外の国で IBM に連絡する方法については、*IBM Software Support Handbook* の Appendix A を参照してください。この資料にアクセスするには、Web ページ: <http://www.ibm.com/support/> にアクセスし、ページの最下部にある「IBM Software Support Handbook」リンク・ボタンを選択します。

注: 国によっては、IBM が承認している販売業者が、IBM サポート・センターの代わりにそれら販売業者のサポート・センターに連絡する場合があります。



部品番号: CT60MJA

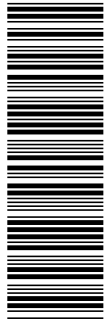
Printed in Japan

SC88-8547-00



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12

CT60MJA



Spine information:



DB2[®] ウェアハウス・マネージャ
情報カタログ・マネージャ 管理の手引

バージョン 7